

# 経済学科

開設科目	ミクロ経済学Ⅰ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	石田成則				

●**授業の概要** ミクロ経済学の基礎的な理論とその応用について講義します。わたしたちの身の回りの経済現象を経済学の分析道具を使って解明していきます。はじめは難しそうな経済学独自の用語や概念がでてくると思いますが、しっかり出席して学習しましょう。

●**授業の一般目標** 個別経済主体の意思決定理論とその相互作用を理解し、現実社会を経済学的思考で把握する能力を涵養する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：限界原理・均衡概念そしてパレート最適性などの理解。 **関心・意欲の観点**：現実経済を経済学的思考で把握する。

●**授業の計画（全体）** テキストに従って授業します。前半は需要と供給の理論を中心に学び、市場の働きを理解します。理解度をみるため、中間試験を行います（配点30点）。後半は市場がうまく働かない場合（市場の失敗）を中心に学びます。最後に期末試験を行います（配点70点）。出席は毎回とりますが、点数にはなりません。ただし、出席回数が授業全体の8割未満に人は、期末試験を受けられませんので注意しましょう。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ミクロ経済学で学ぶこと
- 第 2 回 項目 需要の理論
- 第 3 回 項目 需要の理論の背景にあるもの
- 第 4 回 項目 供給の理論
- 第 5 回 項目 需給曲線と弾性値
- 第 6 回 項目 市場の理論
- 第 7 回 項目 中間試験
- 第 8 回 項目 需要と供給で解く経済問題
- 第 9 回 項目 余剰分析で解く経済問題
- 第 10 回 項目 外部効果と公共財
- 第 11 回 項目 情報の非対称性
- 第 12 回 項目 独占
- 第 13 回 項目 不確実性のもとでの選択行動
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 前期末試験

●**成績評価方法（総合）** 中間・定期試験

●**教科書・参考書** 教科書：基礎からわかるミクロ経済学, 家森信善・小川光, 中央経済社, 2003 年

●**メッセージ** ミクロ経済学は、経済学の基礎であり重要な科目ですが、体系的に組み立てられているので、途中を抜かしてはその後が分からなくなります。その意味で、欠席しないこと・遅刻しないことが大事です。

開設科目	ミクロ経済学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	寺地伸二				

●**授業の概要** ミクロ経済学の基本的な理論とその応用について講義をします。わたしたちの身の回りの経済現象を経済学の分析道具を使って解明していきます。はじめは難しそうな経済学独自の用語や概念がでてくると思いますが、しっかり出席して学習しましょう。

●**授業の一般目標** 経済学の用語の意味を理解する。経済学的思考ができるようになる。

●**授業の計画（全体）** 下記のテキストに従って授業をします。前半は需要と供給の理論を中心に学び、市場の働きを理解します。理解度をみるため、中間試験を行います（配点 30 点）。後半は市場がうまく働かない場合（市場の失敗）を中心に学びます。最後に期末試験を行います（配点 70 点）。出席は毎回とりませんが、点数にはなりません。ただし、出席回数が授業全体の 8 割未満の人は、期末試験を受けられませんので注意しましょう。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ミクロ経済学で学ぶこと
- 第 2 回 項目 需要の理論
- 第 3 回 項目 需要の理論の背景にあるもの
- 第 4 回 項目 供給の理論
- 第 5 回 項目 需給曲線と弾力性
- 第 6 回 項目 市場の理論
- 第 7 回 項目 中間試験
- 第 8 回 項目 需要と供給で解く経済問題
- 第 9 回 項目 余剰分析で解く経済問題
- 第 10 回 項目 外部効果と公共財
- 第 11 回 項目 情報の非対称性
- 第 12 回 項目 独占
- 第 13 回 項目 不確実性のもとでの選択行動
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 前期末試験

●**成績評価方法（総合）** 中間試験（配点 30 点）と期末試験（配点 70 点）。出席は授業全体の 8 割以上必要（ただし、点数には加えない）。

●**教科書・参考書** 教科書：基礎からわかるミクロ経済学，家森信善・小川光，中央経済社，2003 年

●**メッセージ** 授業の内容で分からないことがあれば、必ず質問しましょう。

開設科目	ミクロ経済学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	権純珍				

●**授業の概要** ミクロ経済学の基礎理論を講義します。理論の理解を深めるために、具体的な事例を取り上げて説明します。そのうえで、現実の経済問題への応用ができるよう講義を展開します。また、ゲーム理論の考え方も取り入れます。／**検索キーワード** ミクロ経済学

●**授業の一般目標** ミクロ経済学の基礎的な理論体系を理解し、市場経済を構成する各主体の最適化行動について分析する能力を身につけます。

●**授業の計画（全体）** 授業は、基本的にはミクロ経済学の基礎理論を解説する形で進行します。必要に応じて資料を配付します。基礎理論の理解と、現実の経済問題への応用ができるよう、身近な具体的事例を取り上げます。応用に際してはゲーム理論の考え方も取り入れます。学生の理解を深めるためにディスカッションの形式で授業を進めます。授業中にレポート、宿題を課します。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ミクロ経済学について（授業の進め方、ミクロ経済学とは何か、ミクロ経済学の考え方、分析枠組） 授業記録 配布資料
- 第 2 回 項目 市場、需要と供給 授業記録 配布資料
- 第 3 回 項目 消費者行動の理論 I(効用関数、消費者の最適化行動) 授業記録 配布資料
- 第 4 回 項目 消費者行動の理論 II(消費者の需要曲線) 授業記録 配布資料
- 第 5 回 項目 企業行動の理論 I(生産関数と利潤最大化) 授業記録 配布資料
- 第 6 回 項目 企業行動の理論 II(費用関数と利潤最大化、費用曲線(短期・長期)) 授業記録 配布資料
- 第 7 回 項目 中間テスト I
- 第 8 回 項目 完全競争市場 授業記録 配布資料
- 第 9 回 項目 不完全競争市場(独占市場、寡占市場、生産要素市場) 授業記録 配布資料
- 第 10 回 項目 市場の失敗(最適資源配分、パレート効率性) 授業記録 配布資料
- 第 11 回 項目 外部性と公共財 授業記録 配布資料
- 第 12 回 項目 中間テスト II
- 第 13 回 項目 ゲーム理論とミクロ経済学 I 授業記録 配布資料
- 第 14 回 項目 ゲーム理論とミクロ経済学 II 授業記録 配布資料
- 第 15 回 項目 最終テスト

●**成績評価方法（総合）** (1) 授業の中で小テストを実施する。(2) レポートを作成し提出する。(3) 宿題を提出する。(4) 定期試験を実施する。以上を下記の観点・割合で評価します。なお、出席が所定の回数に満たさない者には単位を与えない。

●**教科書・参考書** 教科書：特に指定しません。必要に応じてプリントを配布します。／参考書：特に指定しませんが、次のテキストを参考のために挙げておきます。(1) 幸村 千佳良、1998 年『はじめて学ぶミクロ経済学』実務教育出版、(2) その他は各自見つけて下さい。

●**メッセージ** ミクロ経済学はマクロ経済学と同様に経済学の基礎教科です。この講義を理解するためには、毎週の出席が前提で、熱心に講義内容を予習・復習をすることが大事です。授業に関する質問や意見は歓迎します。

●**連絡先・オフィスアワー** kwon@hagi.ac.jp

開設科目	マクロ経済学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	馬田哲次				

●**授業の概要** マクロ経済学は、我々の経済活動を巨視的（マクロ的）視点で捉えながら国民経済を分析する学問です。我々の経済はどのように計測されるのか、また、国民経済の構成要素に影響を与えるものは何か、好況・不況はなぜ生じるのかなど、分析ツールを利用しながら理論的に理解することで経済学の基本的なフレームワークが身に付くようになっていきます。／**検索キーワード** マクロ経済学 景気循環 経済政策

●**授業の一般目標** 1. マクロ経済学に関する統計データを正しく把握する力を身に付ける。 2. 短期的な経済変動のメカニズムを理解する。 3. 経済の国際的な依存関係を正確に知るために、開放マクロ経済学の基本を身につける。 4. マクロ経済の基本的なメカニズムを理解し、経済政策の効果を理論的に理解する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 国民経済計算
- 第 3 回 項目 消費関数
- 第 4 回 項目 4 5 度線モデル
- 第 5 回 項目 投資関数
- 第 6 回 項目 貨幣市場
- 第 7 回 項目 IS-LM 分析 1
- 第 8 回 項目 IS-LM 分析 2
- 第 9 回 項目 中間テスト
- 第 10 回 項目 国際マクロ 1
- 第 11 回 項目 国際マクロ 2
- 第 12 回 項目 労働市場
- 第 13 回 項目 総需要・総供給分析
- 第 14 回 項目 総需要・総供給分析
- 第 15 回 項目 予備

●**成績評価方法（総合）** 定期試験（中間・期末）および出席で判定する。中間試験 40 %、期末試験 60 %、出席は欠格条件。

●**教科書・参考書** 教科書：「マクロ経済学講義 2004 年度版」、馬田、自費出版、2003 年

●**メッセージ** ミクロ経済学と同様に経済学の基礎となる学問ですから、少しずつ理解を積み上げていくことが大切です。

●**連絡先・オフィスアワー** umada@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	マクロ経済学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	山田正雄				

●**授業の概要** マクロ経済学は、我々の経済活動を巨視的（マクロ的）視点で捉えながら国民経済を分析する学問です。我々の経済はどのように計測されているのか、また、国民経済の構成要素に影響を与えるものは何か、好況・不況はなぜ生じるのかなど、分析ツールを利用しながら理論的に理解することで経済学の基本的なフレームワークが身に付くようになっていきます。／**検索キーワード** マクロ経済学 景気循環 経済政策

●**授業の一般目標** 1. マクロ経済学に関する統計データを正しく把握する力を身につける。 2. 短期的な経済変動のメカニズムを理解する。 3. 経済の国際的な依存関係を正確に知るために開放マクロ経済学の基本を理解する。 4. マクロ経済の基本的なメカニズムを理解し、経済政策の効果を理論的に理解する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 国民経済計算
- 第 3 回 項目 消費関数
- 第 4 回 項目 45 度線モデル
- 第 5 回 項目 投資関数
- 第 6 回 項目 貨幣市場
- 第 7 回 項目 IS-LM 分析 1
- 第 8 回 項目 IS-LM 分析 2
- 第 9 回 項目 中間テスト
- 第 10 回 項目 国際マクロ 1
- 第 11 回 項目 国際マクロ 2
- 第 12 回 項目 労働市場
- 第 13 回 項目 総需要・総供給分析 1
- 第 14 回 項目 総需要・総供給分析 2
- 第 15 回 項目 予備

●**成績評価方法（総合）** 定期試験（中間・期末）および出席で判定する。中間試験 40 %、期末試験 60 %。出席は欠格条件で、2/3 以上出席で本講義を受講したと認める。

●**メッセージ** ミクロ経済学と同様に経済学の基礎となる学問ですから、少しずつ理解を積み上げていくことが大切です。

開設科目	マクロ経済学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	古谷京一				

●**授業の概要** 近代経済学（マクロ経済学）の基本的な考え方を理解する。（1）近代経済学とは何か？何のために近代経済学を学ぶのか？（2）経済分析として様々な財サービスの需要と供給の基本的な枠組みを理解する。（3）一国経済全体の活動の結果を相対的に分析する「マクロ経済学」の理論的な枠組みを理解する。／**検索キーワード** マクロ経済学 国民所得 景気 経済政策 基盤科目

●**授業の一般目標**（1）一般的な社会生活において様々な経済問題・経済的事象を把握するために、そのような問題などに関して深い興味を持ち、自ら考える姿勢を身に付ける。（2）そのような問題がどのような背景で発生したかを考え、発生の原因を探るための基本的な考え方を理解する。

●**授業の計画（全体）** マクロ経済学の基礎 1. マクロ経済学とはどのようなものか？ 2. 経済循環と国民所得勘定 3. 国民所得決定の基礎理論（1）有効需要の原理（2）乗数理論 4. 財（生産物）市場と金融市場（1）IS-LM分析（2）財政政策・金融政策の効果 5. 物価と所得水準の決定（1）総需要・総供給（AD-AS）分析（2）政策効果の再論（3）失業とインフレ問題（フィリップス曲線） 6. 国際マクロ経済学（1）為替レート所得水準の同時決定（2）開放体系における政策効果

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 国民経済計算（1）
- 第 2 回 項目 国民経済計算（2）
- 第 3 回 項目 国内総生産と物 価の決定（1）
- 第 4 回 項目 国内総生産と物 価の決定（2）
- 第 5 回 項目 乗数モデル（1）
- 第 6 回 項目 乗数モデル（2）
- 第 7 回 項目 投資の決定
- 第 8 回 項目 利子率の決定
- 第 9 回 項目 IS-LM分析（1）
- 第 10 回 項目 IS-LM分析（2）
- 第 11 回 項目 物価変化の影響
- 第 12 回 項目 賃金調整と失業 問題
- 第 13 回 項目 経常収支の決定（1）
- 第 14 回 項目 経常収支の決定（2）
- 第 15 回 項目 予備

●**成績評価方法（総合）** 基本的には試験によって評価（90％程度）します。ただし、出席状況を考慮する場合（10％程度）もあります。

●**教科書・参考書** 教科書：『基礎コースマクロ経済学』, 岩田規久男, 新世社, 1997 年 / 参考書：『入門マクロ経済学』（第 4 版）, 中谷巖, 日本評論社, 2000 年 『入門マクロ経済学』, 井堀利宏, 新世社, 1995 年 『マクロ経済学の基礎理論』, 武隈慎一, 新世社, 1998 年

●**メッセージ** 今後の経済学学習の基礎になる科目なのでしっかり勉強して下さい。

開設科目	政治経済学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中尾訓生				

●**授業の概要** 政治経済学 (マルクス経済学) の原理の骨格を理解すること、および経済体制としての資本主義の歴史の変遷と現代的な種々の問題について基礎的な点を理解することを課題にする。マルクスの経済学は現代の主流派経済学とは違ったやり方で経済活動を解明しようとするもので、資本主義の歴史的变化を捉えようとする視点とそれに適した分析用具をもつことが、特徴である。古くなつたとはいえ、資本主義の発展段階や経済的变化、さらに不況などの経済変動を捉えることを得意とする。この授業では、こうしたマルクス経済学の特徴を理解する。

●**授業の一般目標** 社会科学方法論に説き及ぶであろう。ヴェーバーと比較しながら社会科学における価値観を取り上げる。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 1. 政治経済学とは何か / 2-1. 資本主義のシステム
- 第 2 回 項目 2-2. 資本
- 第 3 回 項目 2-3. 労働・価値・剰余価値
- 第 4 回 項目 2-4. 技術革新
- 第 5 回 項目 2-5. 資本蓄積 (1)
- 第 6 回 項目 2-5. 資本蓄積 (2) 生態系破壊
- 第 7 回 項目 3-1. 近代化と社会変動
- 第 8 回 項目 3-2. 重商主義から工業化の時代へ
- 第 9 回 項目 3-3. 生態系破壊の緊要性
- 第 10 回 項目 3-4. 大企業と組織された資本主義 (1)
- 第 11 回 項目 3-4. 大企業と組織された資本主義 (2)
- 第 12 回 項目 3-5. グローバル資本主義
- 第 13 回 項目 3-6. 資本主義の行方
- 第 14 回 項目 (予備日)
- 第 15 回 項目 定期試験

●**メッセージ** 内容は難しい訳ではありませんが、理論なので最初は馴染みにくいと思いますが、少し慣れてくると分かってきますので、最初はガマンしてん勉強してください。



開設科目	政治経済学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中尾訓生				

●**授業の概要** 政治経済学 (マルクス経済学) の原理の骨格を理解すること、および経済体制としての資本主義の歴史の変遷と現代的な種々の問題について基礎的な点を理解することを課題にする。マルクスの経済学は現代の主流派経済学とは違ったやり方で経済活動を解明しようとするもので、資本主義の歴史的变化を捉えようとする視点とそれに適した分析用具をもつことが、特徴である。古くなつたとはいえ、資本主義の発展段階や経済的变化、さらに不況などの経済変動を捉えることを得意とする。この授業では、こうしたマルクス経済学の特徴を理解するととも

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 1. 政治経済学とは何か / 2-1. 資本主義のシステム
- 第 2 回 項目 2-2. 資本 内容 レポート 1 回目
- 第 3 回 項目 2-3. 労働・価値・剰余価値
- 第 4 回 項目 2-4. 技術革新 内容 レポート 2 回目
- 第 5 回 項目 2-5. 資本蓄積 (1)
- 第 6 回 項目 2-5. 資本蓄積 (2) 内容 レポート 3 回目
- 第 7 回 項目 3-1. 近代化と社会変動
- 第 8 回 項目 3-2. 重商主義から工業化の時代へ
- 第 9 回 項目 3-3. 近代国家と世界経済 内容 レポート 4 回目
- 第 10 回 項目 3-4. 大企業と組織された資本主義 (1)
- 第 11 回 項目 3-4. 大企業と組織された資本主義 (2) 内容 レポート 5 回目
- 第 12 回 項目 3-5. グローバル資本主義
- 第 13 回 項目 3-6. 資本主義の行方 内容 レポート 6 回目
- 第 14 回 項目 (予備日)
- 第 15 回 項目 定期試験

●**メッセージ** 内容は難しい訳ではありませんが、理論なので最初は馴染みにくいと思いますが、少し慣れてくると分かってきますので、最初はガマンしてん勉強してください。

開設科目	政治経済学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	河野眞治				

- 授業の概要** マルクス経済学について基礎となり、最も枢要と思われる部分を、資本論の内容を中心にポイントを押さえて概説する。現代の諸問題とマルクスの理論の関係について検討する。／**検索キーワード** マルクス経済学
- 授業の一般目標** 資本論の基礎的部分を理解する。現代経済の抱えている諸問題を理解する。
- 授業の計画（全体）** 毎回の授業で小レポートを書くことによって、理解度をチェックする。 1 価値と使用価値 2 貨幣 3 剰余価値 4 絶対的剰余価値と相対的剰余価値 5 賃金 6 資本の蓄積過程 7 単純再生産 8 拡大再生産 9 恐慌と景気循環 10 銀行と信用 11 現代の貧困 12 市場万能主義と規制緩和 13 地球環境問題
- 成績評価方法（総合）** 毎回の小レポート：60%、期末試験：40%、で評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：なし／参考書：カール・マルクス『資本論』（第1－3巻）（各種翻訳あり）

開設科目	ミクロ経済学 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	寺地伸二				

●**授業の概要** ミクロ経済学の戦略的アプローチ。わたしたちは日常生活においても、他人の行動を考慮に入れながら、戦略的に行動しなければならない。この戦略的な行動をするために必要となる分析道具がゲーム理論である。ここでは、さまざまな問題を例にしながら、ゲーム理論の基礎を学ぶ。

●**授業の一般目標** ゲーム理論の考え方を身につける。日々の生活においても、ゲーム理論を実践する。

●**授業の計画（全体）** ゲーム理論の初歩を学ぶ。特定の教科書は指定しない。單元ごとに練習問題を配るので、必ず自分で解くように。期末試験を行う。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ゲーム理論を学ぶ
- 第 2 回 項目 展開型ゲーム
- 第 3 回 項目 戦略型ゲーム
- 第 4 回 項目 ナッシュ均衡 その一
- 第 5 回 項目 ナッシュ均衡 その二
- 第 6 回 項目 混合戦略
- 第 7 回 項目 交渉
- 第 8 回 項目 情報の経済学
- 第 9 回 項目 非完備情報ゲーム
- 第 10 回 項目 契約
- 第 11 回 項目 オークション
- 第 12 回 項目 繰り返しゲーム
- 第 13 回 項目 進化ゲーム
- 第 14 回 項目 行動ゲーム理論
- 第 15 回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** 期末試験を行う。

●**教科書・参考書** 参考書：ミクロ経済学 戦略的アプローチ、梶井厚志・松井彰彦、日本評論社、2000 年

●**メッセージ** 授業の内容で分からないことがあれば、必ず質問しましょう。

開設科目	マクロ経済学 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山田正雄				

●**授業の概要** 基本的なマクロ経済学の理解をもとに、マクロ経済学の進んだトピックを学ぶ。

●**授業の一般目標** 国際マクロ経済学と経済成長理論の基礎を理解する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 IS-LM モデルの復習（その 1）
- 第 2 回 項目 IS-LM モデルの復習（その 2）
- 第 3 回 項目 マンデル＝フレミング・モデル –固定相場制の場合–（その 1）
- 第 4 回 項目 マンデル＝フレミング・モデル –固定相場制の場合–（その 2）
- 第 5 回 項目 マンデル＝フレミング・モデル –固定相場制の場合–（その 3）
- 第 6 回 項目 マンデル＝フレミング・モデル –変動相場制の場合–（その 1）
- 第 7 回 項目 マンデル＝フレミング・モデル –変動相場制の場合–（その 2）
- 第 8 回 項目 マンデル＝フレミング・モデル –変動相場制の場合–（その 3）
- 第 9 回 項目 集計的生産関数
- 第 10 回 項目 新古典派成長モデル
- 第 11 回 項目 貯蓄率の変化
- 第 12 回 項目 黄金律
- 第 13 回 項目 黄金律と動学的非効率性
- 第 14 回 項目 技術進歩
- 第 15 回 項目 予備

●**成績評価方法（総合）** 期末試験と出席で判定する。期末試験 90 %以上、出席 10 %未満。

開設科目	マクロ経済学 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中村 保				

●**授業の概要** 1. マクロ経済の長期的な発展を特徴付ける主要な要因である経済成長について学習する。  
2. 短期のマクロ経済に関する政策論争を学習することを通して現実のマクロ経済問題への理解を深める。  
3. マクロ経済学の基礎となっているミクロ経済学の理解を通してマクロとミクロの関係とそれぞれの有用性を確認する。／**検索キーワード** 経済成長、景気循環、財政・金融政策

●**授業の一般目標** 1. (初歩的ではあるが) 数学という分析ツールを使ってより厳密にマクロ経済現象を分析できるようになる。  
2. マクロ経済分析に必要なミクロ経済学の基礎を身に付ける。  
3. 現実の経済政策について経済学の基礎理論にしっかりと立脚した議論できるようになる。

●**授業の計画 (全体)** 最初に経済の長期的な動きを理解するために不可欠な経済成長の問題について勉強します。そのためにまず成長会計の基礎を学び、それをを用いて日本をはじめとした先進国の経済成長の実態を紹介します。それから、経済成長の理論をソローの新古典派成長モデルを中心に学習します。次に、短期的なマクロ経済政策の問題を議論します。政府による経済安定化政策の是非及びそれに伴う財政赤字及び政府の負債の問題について考えます。最後に、マクロ経済学の基礎になっているミクロ経済学について少し詳しく見ていきます。マクロ経済で重要な役割を演じる消費需要、投資需要、及び信用創造の問題について、より厳密なミクロ経済学観点から再度考察し、最後にミクロ的基礎に基づいた景気循環理論を取り上げます。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 ・経済成長会計
- 第 2 回 項目 新古典派成長モデル 1 内容 ・投資と資本蓄積
- 第 3 回 項目 新古典派成長モデル 2 内容 ・人口成長の影響
- 第 4 回 項目 新古典派成長モデル 3 内容 ・技術進歩と成長
- 第 5 回 項目 経済安定化政策
- 第 6 回 項目 政府負債の問題
- 第 7 回 項目 消費関数の理論 1 内容 ・ケインズ派理論
- 第 8 回 項目 消費関数の理論 2 内容 ・ミクロ的基礎
- 第 9 回 項目 投資関数の理論 1 内容 ・設備投資の理論
- 第 10 回 項目 投資関数の理論 2 内容 ・住宅及び在庫投資
- 第 11 回 項目 貨幣供給
- 第 12 回 項目 貨幣需要
- 第 13 回 項目 リアルビジネス サイクルの理論 1
- 第 14 回 項目 リアルビジネス サイクルの理論 2 ・まとめ
- 第 15 回 項目 期末試験

●**成績評価方法 (総合)** 学期末試験・宿題・小テスト等を総合して成績を評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：書名：「マクロ経済学 II・第 2 版」 著者名：N.G. マンキュー著 (足立・地主・中谷・柳川訳) 出版社名：東洋経済新報社 出版年：2004 年 3 月 (刊行予定)

●**メッセージ** 現実のマクロ経済政策に関する議論を十分に理解するためには、この授業のレベルのマクロ経済学の知識は必要不可欠です。

●**連絡先・オフィスアワー** 連絡先：nakamura@econ.kobe-u.ac.jp

開設科目	政治経済学 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	植村高久				
<p>●<b>授業の概要</b> 「政治経済学 II」は、「マルクス経済学」を中心とした経済理論を学ぶ授業である。授業の狙いは、「政治経済学 I」の内容を基礎にして、市場経済というシステムがどのような性格を持ち、どのような働きを持っているのかを理解することにある。／<b>検索キーワード</b> 市場、貨幣、情報、限定合理性</p> <p>●<b>授業の一般目標</b> 資本主義のシステムの挙動が概略説明できる。</p> <p>●<b>授業の到達目標</b>／<b>知識・理解の観点</b>：基本的なタームについて説明できる。<b>思考・判断の観点</b>：資本主義の動作原理を念頭において、現実の経済現象をある程度推論できる。<b>関心・意欲の観点</b>：経済現象を経済理論を用いて説明してみようとする意欲がある。<b>態度の観点</b>：通常の経済理論の説明に対し、いつでも違った説明がありうるとする批判的な立場を理解できる。</p> <p>●<b>授業計画（授業単位）</b>／<b>内容・項目等</b>／<b>授業外学習の指示等</b></p> <p>第 1 回 <b>項目 1. 政治経済学の 枠組み 内容</b> 政治経済学の特質を歴史性、社会関係の特質、経済的利益優先という見地から理解する。</p> <p>第 2 回 <b>項目 2. 市場の理論 内容</b> 乏しい情報と弱い情報処理能力という当事者の特質から、貨幣を用いた交換と売買という制度を説明する。</p> <p>第 3 回 <b>項目 3. 貨幣と商品流通 内容</b> 貨幣交換媒介物としての意義と実際の市場の仕組みを説明する。</p> <p>第 4 回 <b>項目 4. 消費と貨幣に対する合理性 内容</b> 貨幣に関連し、際限のない消費をどう考えるかを検討する。<b>授業外指示</b> レポート第 1 回</p> <p>第 5 回 <b>項目 5. 貨幣の権力 内容</b> 貨幣を通じた人間の支配など貨幣が社会的力を帯びることを理解する。</p> <p>第 6 回 <b>項目 6. 資本とは何か 内容</b> 資本(営利企業)の一般的特質を「利潤を得る」という点から説明する。</p> <p>第 7 回 <b>項目 7. 利潤率均等化とその障害 内容</b> 営利という資本の特質は、利潤率の高低に応じた規則的な動きを引き起こす。この原理と結果を明らかにするとともに、実際にはこの原理が動作困難であることを理解する。</p> <p>第 8 回 <b>項目 8. 商人と商業資本 内容</b> 資本の最も基本的な形である商人とその現代的な形である商業資本、及び商業資本が作り出す市場構造と競争の特質を説明する。</p> <p>第 9 回 <b>項目 9. 利子つき資本 内容</b> 金貸しも古くからある資本であるが、利潤ではなく「利子」を得る。この「利子」の意味を示し、金貸しの特質を明らかにする。<b>授業外指示</b> レポート第 2 回</p> <p>第 10 回 <b>項目 10. 近代的信用制度 内容</b> 現代の銀行は利子つき資本(金貸し)と根本的に異なったものであり、決済制度と「信用」に基づくものである。この特質を示す。</p> <p>第 11 回 <b>項目 11. 産業資本 内容</b> 製造業や農業を担う資本を産業資本と呼ぶ。その動作原理や生存の条件を示し、資本主義の基本的な特性を検討する。</p> <p>第 12 回 <b>項目 12. 資本による生産 内容</b> 資本による生産は、著しい特質を持つ。この特質を資本の動作原理から説明する。</p> <p>第 13 回 <b>項目 13. 調整と再生産 内容</b> 資本による生産が実際に需要と供給の関係を通じて、どのように調整されるか、あるいはそれが維持され続けるかを説明する。</p> <p>第 14 回 <b>項目 14. 資本蓄積 内容</b> 利潤の再投資による資本の膨張を資本蓄積というが、資本蓄積が労働供給との間に持つ緊張関係を説明する。</p> <p>第 15 回 <b>項目 15. 競争と技術変化 内容</b> 技術変化は資本蓄積、物価・景気に影響を与える。ここでは、そうした影響が全体としての資本主義の状況に与える影響を考察する。<b>授業外指示</b> レポート第 3 回</p> <p>●<b>成績評価方法(総合)</b> 出席を質問票でチェックしています。欠席は 3 回までとします。評価は定期試験中心(70%)程度。レポート(宿題)30%で、質問票を読んだ人は 1 回 2.5 点を加点します。試験の形式は論述式です。</p>					

- 教科書・参考書 教科書：プリントを授業時に配布します。
- メッセージ 内容は経済理論としては平易な方だと思います。しっかり授業に出ていれば、誰でも理解できます。
- 連絡先・オフィスアワー Phone:083-933-5593 e-mail:uemura@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	経済理論史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	植村高久				

- 授業の概要** 現代社会を分析するにあたって経済学説史の果たしている役割を講義する。特に従来、経済理論が無視してきた生態系論を取り上げる。ケネーの自然把握、マルサス、リカード、マルクスの自然把握を比較しながら、現代が求めている自然把握の構築を考えていく。特に学生諸君の意見を聞いていく。



開設科目	経済統計学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	野村淳一				

●**授業の概要** 統計学は大きく統計的記述と統計的推測により構成されている。本講義では統計的記述と統計的推測の基礎をできるだけ具体例を用いて解説する。本講義のねらいは統計学の基本的な分析道具について直感的な理解を与え、現実には統計学が応用されている文献を読みこなす基礎を与えることである。したがって、数学的に厳密な解説や証明は行わない。また直感的な理解を優先するので、説明において厳密には不正確な場合が存在する。統計的記述は本来実際のデータを用いてコンピュータにより実習を重ねる必要があるが、本講義では時間的・空間的制約のためコンピュータ実習は行わない。ただし各自が自習できるように資料を用意する予定である。

●**授業の一般目標** 統計学の基礎的な理論を修得し、統計学の見方・考え方を理解する。統計的手法を現実の経済データに応用し、得られた結果を正しく解釈・考察できるようにする。

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：基本的な統計学の理論を理解している。 **思考・判断の観点**：統計学的手法を正しく適用し、結果を判断できる。 **態度の観点**：分からないところを積極的に質問する。

●**授業の計画（全体）** 1. 統計的記述 2. 統計的推測

●**授業計画（授業単位）** / **内容・項目等** / **授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 データの整理 (1) 内容 度数分布表、分布の中心と散らばり

第 2 回 項目 データの整理 (2) 内容 標準化、変動係数、季節変動調整

第 3 回 項目 データの整理 (3) 内容 散布図、相関係数

第 4 回 項目 相関と単回帰 (1) 内容 最小 2 乗法

第 5 回 項目 相関と単回帰 (2) 内容 決定係数

第 6 回 項目 確率 (1) 内容 確率変数、確率分布

第 7 回 項目 確率 (2) 内容 母集団、期待値

第 8 回 項目 確率 (3) 内容 標本抽出、標本分布

第 9 回 項目 確率 (4) 内容 中心極限定理、正規分布、t 分布

第 10 回 項目 パラメータの推定 (1) 内容 推定量の性質

第 11 回 項目 パラメータの推定 (2) 内容 点推定、区間推定

第 12 回 項目 仮説の検定 (1) 内容 母平均の検定

第 13 回 項目 仮説の検定 (2) 内容 さまざまな検定（母比率の検定、母分散の検定、母平均の差の検定など）

第 14 回 項目 仮説の検定 (3) 内容 単回帰（t 値、F 値）

第 15 回 項目 予備 内容 予備

●**成績評価方法（総合）** 期末試験によって判定する。ただし、講義毎の質問書、レポート提出などによる加点を考慮する。評価割合は期末試験 80 %、質問書・レポート 20 %。

●**教科書・参考書** 教科書：入門統計学、木下宗七、有斐閣ブックス、1996 年

●**メッセージ** ルートの計算ができる電卓を用意すること。

●**連絡先・オフィスアワー** nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 2 回、1 時間 30 分程度設ける（講義中に指示）

開設科目	経済情報処理概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤井美和子				

●**授業の概要** 情報処理の基礎的な概念を解説し、コンピュータを情報処理の道具として、活用できることを目的として表計算（Excel）の授業を行ないます。／**検索キーワード** 表計算、データ処理、グラフ、関数、データベース

●**授業の一般目標** 各種データの表作成や集計、計算、グラフ作成およびデータベースの機能を備えた表計算ソフト（Excel）の使い方をマスターすることによって、データの処理、分析ができることを目指します。

●**授業の計画（全体）** Excel のグラフの作成、関数の使い方などを説明後、演習問題を解いていただきます。演習問題の理解状況により多少、授業内容・項目が変更となることがあります。演習問題のうち 10 問程度をレポート提出していただきます。レポートはその都度指示します。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 表計算ソフト（Excel）の基本操作、文字の入力練習、表作成から保存
- 第 2 回 項目 表の編集、グラフ作成と印刷 以下、3 回目から 14 回目まで演習問題を行う
- 第 3 回 項目 統計関数（AVERAGE、MAX、MIN）、書式設定、グラフ作成
- 第 4 回 項目 規則的データの入力、絶対セルの利用
- 第 5 回 項目 順位付け、数学/三角関数
- 第 6 回 項目 並べ替え
- 第 7 回 項目 論理関数
- 第 8 回 項目 検索行列関数
- 第 9 回 項目 データベース関数
- 第 10 回 項目 複数シートの利用、各種関数の利用
- 第 11 回 項目 分析ツールの利用
- 第 12 回 項目 ABC 分析、近似曲線の利用
- 第 13 回 項目 回帰分析、ゴールシークの利用
- 第 14 回 項目 ソルバーの利用
- 第 15 回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** レポート内容等で評価します。指示されたレポートは全部提出してください。また欠席が多い場合は単位が出ません。

●**教科書・参考書** 教科書：使用します。第一回目の授業時に指示します。／参考書：Windows 関係の入門書、Excel の本等

●**メッセージ** レポート提出は E-mail で行います。また、授業時間中にできなかった質問については E-mail で行なってください。実習が中心ですので、欠席した場合は必ず進んだ所まで友達に聞いて補っておいってください。遅刻をしないようにしてください。毎回出欠席のチェックを行ないます。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail : fujii@ube-c.ac.jp

開設科目	経済情報処理概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤井美知子				

●**授業の概要** 情報処理の基礎的な概念を解説し、コンピュータを情報処理の道具として、活用できることを目的として表計算（Excel）の授業を行ないます。／**検索キーワード** 表計算、データ処理、グラフ、関数、データベース

●**授業の一般目標** 各種データの表作成や集計、計算、グラフ作成およびデータベースの機能を備えた表計算ソフト（Excel）の使い方をマスターすることによって、データの処理、分析ができることを目指します。

●**授業の計画（全体）** Excel のグラフの作成、関数の使い方などを説明後、演習問題を解いていただきます。演習問題の理解状況により多少、授業内容・項目が変更となることがあります。演習問題のうち 10 問程度をレポート提出していただきます。レポートはその都度指示します。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 表計算ソフト (Excel) の基本 操作、文字の入 力練習、表作成 から保存
- 第 2 回 項目 表の編集、グ ラフ作成と印刷 以下、3 回目から 14 回目まで演 習問題を行う。
- 第 3 回 項目 統計関数（AVERAGE、MAX、MIN）、書 式設定、グラフ 作成
- 第 4 回 項目 規則的データの 入力、絶対セル の利用
- 第 5 回 項目 順位付け、数 学/三角関数
- 第 6 回 項目 並べ替え
- 第 7 回 項目 論理関数
- 第 8 回 項目 検索行列関数
- 第 9 回 項目 データベース関 数
- 第 10 回 項目 複数シートの利 用、各種関数の 利用
- 第 11 回 項目 分析ツールの利 用
- 第 12 回 項目 ABC 分析、近似 曲線の利用
- 第 13 回 項目 回帰分析、ゴー ルシークの利用
- 第 14 回 項目 ソルバーの利用
- 第 15 回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** レポート内容等で評価します。指示されたレポートは全部提出してください。また 欠席 が多い場合は単位が出ません。

●**教科書・参考書** 教科書： 使用します。第一回目の授業時に指示します。／ 参考書： Windows 関係の入 門書、Excel の本等

●**メッセージ** レポート提出は E-mail で行います。また、授業時間中にできなかった質問については E-mail で行なってください。 実習が中心ですので、欠席した場合は必ず進んだ所まで友達に聞いて補って おい てください。遅刻をしないようにしてください。毎回出欠席のチェック を行ないます。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail : fujii@ube-c.ac.jp

開設科目	経済数学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柏木芳美				
<p>●<b>授業の概要</b> この講義の目的はマイクロ経済学で使われている数学の概説である。具体的には多変数関数の取り扱いに慣れ、最大化問題・最小化問題及び効用最大化問題・支出最小化問題を解くことである。極一部ではあるが、国家公務員 I 種試験の関連問題も解説する予定である。内容は必ずしも易しくない。また、1 年次共通教育の数学概論程度の予備知識は必要である。この講義を取るにより自分の経済学の幅が広がる。チャレンジする気持ちを忘れないこと。</p> <p>●<b>授業の一般目標</b> ミクロ経済学の理解に必要な数学を身につけること。</p> <p>●<b>授業の到達目標</b> / <b>知識・理解の観点</b>：1. 具体的な関数の偏導関数が計算できる。2. 行列式の計算、特にヘッセ行列式と縁付きヘッセ行列式の計算ができる。3. 限界代替率を求めることができる。4. 効用最大化問題・支出最小化問題を解くことができる。 <b>思考・判断の観点</b>：1. 経済現象を数学を使って考えることができる。 <b>関心・意欲の観点</b>：1. 日常生活の中の経済現象に関心を持つ。</p> <p>●<b>授業の計画（全体）</b> 最初に 1 変数関数の微分を復習し、次に多変数関数の微分（偏微分）の計算練習をする。次に、行列式の計算方法を説明する。道具としてはこれでそろう。次に最大化問題・最小化問題とその解法を説明する。次に、陰関数定理を応用としてマイクロ経済学で最も基本的である無差別曲線と限界代替率という概念を導く。以上の準備の下で効用最大化問題・支出最小化問題の解法（ラグランジュの未定乗数法と呼ばれる）とこれらの解のマイクロ経済学における意味を説明する。最後に時間の許す範囲内で国家公務員 I 種試験の関連問題の解説をする予定である。尚、小テストは予算の関係ですべてできない可能性がある。</p> <p>●<b>授業計画（授業単位）</b> / <b>内容・項目等</b> / <b>授業外学習の指示等</b></p> <p>第 1 回 <b>項目</b> 1 変数関数の微分 <b>その 1 内容</b> 基本的関数の導関数。小テスト</p> <p>第 2 回 <b>項目</b> 1 変数関数の微分 <b>その 2 内容</b> 合成関数の微分の練習。小テスト</p> <p>第 3 回 <b>項目</b> 多変数関数、偏微分 <b>内容</b> 小テスト</p> <p>第 4 回 <b>項目</b> 全微分、Chain rule <b>内容</b> 小テスト</p> <p>第 5 回 <b>項目</b> オイラーの同次関数の公式とその応用 <b>内容</b> 小テスト</p> <p>第 6 回 <b>項目</b> 行列式 <b>その 1 内容</b> 行列式の定義、基本的性質、簡単な計算。小テスト</p> <p>第 7 回 <b>項目</b> 行列式 <b>その 2 内容</b> ヘッセ行列、縁付きヘッセ行列の行列式。小テスト</p> <p>第 8 回 <b>項目</b> 中間試験</p> <p>第 9 回 <b>項目</b> 条件のない最大・最小問題 <b>その 1 内容</b> 最大・最小の必要条件。小テスト</p> <p>第 10 回 <b>項目</b> 条件のない最大・最小問題 <b>その 2 内容</b> 最大・最小の十分条件、ヘッセ行列。小テスト</p> <p>第 11 回 <b>項目</b> 陰関数定理、無差別曲線、限界代替率 <b>内容</b> 小テスト</p> <p>第 12 回 <b>項目</b> 特別な形の連立方程式 <b>内容</b> 小テスト</p> <p>第 13 回 <b>項目</b> 効用最大化問題 <b>内容</b> 1 階の条件、2 階の条件。小テスト</p> <p>第 14 回 <b>項目</b> 支出最小化問題 <b>内容</b> 小テスト</p> <p>第 15 回 <b>項目</b> 期末試験</p> <p>●<b>成績評価方法（総合）</b> 中間試験と期末試験の平均が 60 点以上が合格。当然の事ながら毎回出す演習問題を自分で解かねば合格点は取れない。解けない問題は授業又はオフィスアワーで質問すること。小テストは、テストという名前を付けているが実際には周りの人と相談してもよく、授業内容の理解の確認である。遅刻・欠席をしないように心懸けること。テキストの誤植指摘に最大 20 点与える。</p> <p>●<b>教科書・参考書</b> 教科書：経済数学 I 第 3 版、柏木 芳美、, 2004 年；生協で販売する。</p> <p>●<b>メッセージ</b> 演習問題を着実に解くこと。分からないことは質問すること。遅刻・欠席をしないこと。</p> <p>●<b>連絡先・オフィスアワー</b> E-mail:kashi@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp, 電話:933-5595, 研究室:C213。オフィスアワーは授業開始時点に伝える。</p>					

開設科目	経済数学 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柏木芳美				

●**授業の概要** 線形計画法，産業連関論などで用いられる線型代数について概説する。内容は，連立 1 次方程式の掃き出し法による解法，行列，行列式，固有値などである。予備知識は高等学校の数学 I 程度の知識があればよい。線型代数と微積分は数学的に書かれたものを読むときには仮定されることが多いのでしっかり身につけるように。

●**授業の一般目標** 経済学の理解に必要な程度の線型代数の基礎知識を身につけること。

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：1. 連立 1 次方程式を掃き出し法で解くことができる。2. 行列の基本的な演算ができる。3. 行列式の基本的な性質を理解し計算ができる。4. 固有値，固有ベクトルを求めることができる。 **思考・判断の観点**：1. 経済現象を数学を使って考えることができる。 **関心・意欲の観点**：1. 日常生活の中の経済現象に関心を持つ。

●**授業の計画（全体）** 連立 1 次方程式の 3 種類の解及び掃き出し法による解法を説明する。次に，行列の四則演算を説明する。特に割り算（逆行列）は注意を要する。次に，行列式の定義とその計算方法を説明する。応用としてクラメールの公式を利用した連立 1 次方程式の解法を説明する。最後に，固有値と固有ベクトルという産業連関論などで必要となる概念について簡単に説明する。

●**授業計画（授業単位）** / **内容・項目等** / **授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 連立 1 次方程式の解法 その 1 内容 簡単な連立 1 次方程式，3 種類の解。小テスト
- 第 2 回 項目 連立 1 次方程式の解法 その 2 内容 掃き出し法，ランク。小テスト
- 第 3 回 項目 行列の演算（和，差，スカラー倍） 内容 小テスト
- 第 4 回 項目 行列の積，巾 内容 小テスト
- 第 5 回 項目 基本変形 内容 小テスト
- 第 6 回 項目 正則行列，逆行列（行列の割り算） その 1 内容 逆行列と正則行列の定義。小テスト
- 第 7 回 項目 正則行列，逆行列（行列の割り算） その 2 内容 逆行列の求め方，正則行列の性質。小テスト
- 第 8 回 項目 中間試験
- 第 9 回 項目 行列式の定義 内容 小テスト
- 第 10 回 項目 行列式の基本性質 その 1 内容 行列式の定義，基本的性質。小テスト
- 第 11 回 項目 行列式の基本性質 その 2 内容 よく使う行列式の性質。小テスト
- 第 12 回 項目 行列式の計算 内容 小テスト
- 第 13 回 項目 クラメールの公式 内容 小テスト
- 第 14 回 項目 固有値と固有ベクトル 内容 小テスト
- 第 15 回 項目 期末試験

●**成績評価方法（総合）** 中間試験と期末試験の平均が 60 点以上が合格。当然の事ながら毎回出す演習問題を自分で解かねば合格点は取れない。解けない問題は授業又はオフィスアワーで質問すること。小テストは，テストという名前を付けているが実際には周りの人と相談してもよく，授業内容の理解の確認である。遅刻・欠席をしないように心懸けること。テキストの誤植指摘に最大 20 点与える。

●**教科書・参考書** 教科書：授業開始時点に知らせる。

●**メッセージ** 演習問題を着実に解くこと。分からないことは質問すること。遅刻・欠席をしないこと。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail:kashi@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp, 電話:933-5595, 研究室:C213。オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	数理経済学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吹春俊隆				

●**授業の概要** 不確実性は現代社会を特徴付ける重要なキーワードである。この概念は数学では確率論として基礎付けられているが、最近では経済学においてファイナンスの理論に応用されて著しい進歩をもたらした。金融界でその有用性が高く評価されている。そのため、この分野からノーベル経済学受賞者を出すまでになってきた。本授業はこの確率論に立脚したファイナンスの理論を講義し、学生諸君のパソコンによる実習を指導する。

●**授業の一般目標** 恐らく確率論とは「文系の学生」が最も苦手とする分野の一つであるように見受けられる。この授業では高校におけるような「うまい解き方の練習」は行わず、計算はすべてパソコンソフト Mathematica に行わせる。(受講生のコンピューターに関する予備知識としては Word で文章が書けることを前提とする。)更にファイナンスの理論でも微分・積分、行列の概念が用いられるが、これもすべて Mathematica に行わせることにより「数学嫌い」の払拭を目指す。すなわち数理経済学を情報処理科目として位置付け、学生諸君が Mathematica に習熟しながらファイナンスの理論を理解し、証券アナリストに必要な手法を獲得することを目指す。

●**授業の計画 (全体)** 授業はすべて計算機室による実習形式で行ない、各受講者は教官の指導のもとにパソコンを操作する。本授業は集中講義であるが、毎日、授業時間とは別に1コマ、各自の復習の時間を設け、質問を受け付ける。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 Mathematica の操作練習
- 第 2 回 項目 コンピューターによる確率の計算 (1)
- 第 3 回 項目 コンピューターによる確率の計算 (2)
- 第 4 回 項目 コンピューターによる確率の計算 (3)
- 第 5 回 項目 コンピューターによる確率分布の計算 (1)
- 第 6 回 項目 コンピューターによる確率分布の計算 (2)
- 第 7 回 項目 ポートフォリオの理論; 期待値の応用
- 第 8 回 項目 ポートフォリオの理論; 分散の応用
- 第 9 回 項目 ポートフォリオの理論; 共分散の応用
- 第 10 回 項目 マーコウィッツのポートフォリオ理論; 期待効用 (1)
- 第 11 回 項目 マーコウィッツのポートフォリオ理論; 期待効用 (2)
- 第 12 回 項目 マーコウィッツのポートフォリオ理論; 期待効用 (3)
- 第 13 回 項目 二項定理とオプション価格 (1)
- 第 14 回 項目 二項定理とオプション価格 (2)
- 第 15 回 項目 試験

●**成績評価方法 (総合)** 毎日、2 回ほど小テストを行い、ファイルをフロッピーで提出してもらう。これは出席点の意味を持つ。(各自、前もって2枚のフロッピー・ディスクを準備しておくこと。)最後に試験を行ない、授業中の実習態度をも加味しながら総合的に評価する。

●**教科書・参考書** 教科書: 吹春俊隆『Mathematica による経済数学入門』牧野書店 / 参考書: 『証券投資論 (第3版)』, 日本証券アナリスト協会 (編), 日本経済新聞社

●**備考** 集中授業

開設科目	数理経済学 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	吹春俊隆				

●**授業の概要** 不確実性は現代社会を特徴付ける重要なキーワードである。この概念は数学では確率論として基礎付けられているが、最近では経済学においてファイナンスの理論に応用されて著しい進歩をもたらした。金融界でその有用性が高く評価されている。そのため、この分野からノーベル経済学受賞者を出すまでになってきた。本授業はこの確率論に立脚したファイナンスの理論を講義し、学生諸君のパソコンによる実習を指導する。

●**授業の一般目標** 恐らく確率論とは「文系の学生」が最も苦手とする分野の一つであるように見受けられる。この授業では高校におけるような「うまい解き方の練習」は行わず、計算はすべてパソコンソフト Mathematica に行わせる。(受講生のコンピューターに関する予備知識としては Word で文章が書けることを前提とする。) 更にファイナンスの理論でも微分・積分、行列の概念が用いられるが、これもすべて Mathematica に行わせることにより「数学嫌い」の払拭を目指す。すなわち数理経済学を情報処理科目として位置付け、学生諸君が Mathematica に習熟しながらファイナンスの理論を理解し、証券アナリストに必要な手法を獲得することを目指す。

●**授業の計画 (全体)** 授業はすべて計算機室による実習形式で行ない、各受講者は教官の指導のもとにパソコンを操作する。本授業は集中講義であるが、毎日、授業時間とは別に 1 コマ、各自の復習の時間を設け、質問を受け付ける。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 Mathematica の操作練習
- 第 2 回 項目 連続複利とフォワード価格; 数列の収束 (1)
- 第 3 回 項目 連続複利とフォワード価格; 数列の収束 (2)
- 第 4 回 項目 最適ポートフォリオ; 分散の最小化: 二変数 (1)
- 第 5 回 項目 最適ポートフォリオ; 分散の最小化: 二変数 (2)
- 第 6 回 項目 最適ポートフォリオ; 分散の最小化: 三変数 (1)
- 第 7 回 項目 最適ポートフォリオ; 分散の最小化: 三変数 (2)
- 第 8 回 項目 デュレーションとコンベクシティ; テイラー展開 (1)
- 第 9 回 項目 デュレーションとコンベクシティ; テイラー展開 (2)
- 第 10 回 項目 将来株値の予想; 正規分布の応用 (1)
- 第 11 回 項目 将来株値の予想; 正規分布の応用 (2)
- 第 12 回 項目 将来株値の予想; 正規分布の応用 (3)
- 第 13 回 項目 将来株値の予想; 正規分布の応用 (4)
- 第 14 回 項目 資本資産評価モデル; 線形計画法
- 第 15 回 項目 試験

●**成績評価方法 (総合)** 毎日、2 回ほど小テストを行い、ファイルをフロッピーで提出してもらう。これは出席点の意味を持つ。(各自、前もって 2 枚のフロッピー・ディスクを準備しておくこと。) 最後に試験を行ない、授業中の実習態度をも加味しながら総合的に評価する。

●**教科書・参考書** 教科書: 吹春俊隆『Mathematica による経済数学入門』牧野書店 / 参考書: 『証券投資論 (第 3 版)』, 日本証券アナリスト協会 (編), 日本経済新聞社

●**備考** 集中授業

開設科目	産業連関論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中谷孝久				

●**授業の概要** 企業は他の企業などと様々な取引を行っている。これらの企業間の取引を産業別にグループ化し、産業間の取引を核として経済全体の分析を行う方法が産業連関分析である。講義では、産業連関表を初めとして産業連関分析の基本的事項について説明する。／**検索キーワード** 産業連関表、投入・産出分析、レオンティエフ

●**授業の一般目標** 産業間の取引を核として経済活動全体を記述したものが「産業連関表」である。まず、産業連関表の構造や役割を理解する。次に、基本的な産業連関モデルを理解し、産業連関表を利用した基本的な産業連関分析を理解する。このような理解を通じてさらに経済活動の構造や仕組み全体に関する理解を深める。

●**授業の計画（全体）** 講義項目を次の基本的事項について行う。・産業連関表・産業連関分析・地域産業連関分析 産業連関分析では、理論的な側面と実証的な側面とを併せ持つ。この講義では、実証的な側面に重点を置き、可能であれば、PCによる実習も一部に取り入れる。講義の最初の段階では、基本的事項を丁寧に解説する。講義の理解を助けるプリントを配布し、理解を確認する小テストを随時行う。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 経済活動と産業 連関
- 第 2 回 項目 投入・産出関係
- 第 3 回 項目 産業連関表
- 第 4 回 項目 産業連関表の構造
- 第 5 回 項目 投入構造と販路 構造
- 第 6 回 項目 付加価値構造と 最終需要構造
- 第 7 回 項目 産業連関データ
- 第 8 回 項目 中間テスト
- 第 9 回 項目 産業連関モデル
- 第 10 回 項目 生産誘発モデル
- 第 11 回 項目 波及効果分析
- 第 12 回 項目 Excel 演習
- 第 13 回 項目 地域産業連関モ デル
- 第 14 回 項目 地域波及効果分 析
- 第 15 回 項目 定期試験

●**成績評価方法（総合）** 出席（講義態度を含めて）、小テスト、定期試験などを総合的に判断して、単位認定・成績評価を行う。

●**教科書・参考書** 教科書：特に指定しない。講義でプリントを配布する。／参考書：産業連関分析入門、宮沢健一、日本経済新聞社（日経文庫 227）、1995 年；参考書は下記以外にも講義中に紹介する。

●**メッセージ** 必ずしも必須ではないが、PC と Excel の基本的操作はマスターしておくことが望ましい。

●**連絡先・オフィスアワー** 質問があれば、講義の終わった後、時間を取ります。



開設科目	現代経済英語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	武本ティモシー				

- 授業の概要** 国際の金融や情報の流れの中で、国家や社会や家族など我々が生活するあらゆる場面が多く変動しつつある。鎖国の歴史のあり、民族意識の強い日本人にとって、グローバル化は特に重要な意味をもっている。この授業ではイギリスの著名な学者が BBC 放送で発表したグローバル化についての論書を授業外で読み理解し、授業内で同テーマについて議論しあいます。／**検索キーワード** globalization, risk, 家族、現代社会、現代経済
- 授業の一般目標** グローバル化に伴う社会変動を理解し、それについて英語で議論できるようになることを目標にします。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1) グローバル化に伴う社会変動を議論するための単語・表現を覚えること。 2) グローバル化の意味とそれについての著者の論説を理解すること **態度の観点**： 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。 **技能・表現の観点**： 上述したテーマについて英語で議論する技能を身につくこと。
- 授業の計画（全体）** テキストの各章の話題（下記）に沿ってそれぞれ3週間ずつ 1) グローバル化の紹介 2) グローバル化に伴うリスクの増大と変化 3) 伝統が崩れる中、リストから免れるためおの原理主義と依存症 4) グローバル化に伴う家族の変動 5) グローバル化の中の民主主義
- 成績評価方法（総合）** 成績評価の方法：テキストの理解をオンライン解読テストによって評価する（33％）授業中の参加・コミュニケーション能力を特典カードによって評価する。（33％）筆記及び選択肢的学期末試験（33％）
- 教科書・参考書** 教科書： Runaway World, Anthony Giddens, Routledge, 2000 年； 下記教科書はインターネットからダウンロードできますので、買う必要はありません。
- メッセージ** 皆様は相当高い英語能力を身につけているということを前提にしますので、イギリスの新聞と同じくらい難しい資料を使うことになっています。下記の HP において <http://news.bbc.co.uk/hi/english/static/events/reith.99/> テキストのレベルを自分で確かめておいてください。
- 連絡先・オフィスアワー** tim@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：経済4階玄関上 山口大学 HP の「ニュース」のメニューの中の「オンライン英語教育」HP <http://www.eigodaigaku.com> でのウェブカムを見てチャットルームも訪問してください。

開設科目	文法（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	宮崎 充保				

●**授業の概要** “文法を知らなくても単語を並べれば通じる”というのは、ちょっとした観光や買い物などなら言えるかも知れませんが、英語を使ってきちんとした仕事をしたり、人間関係を築こうとしたら、文法の力は必ず必要です。しかし、基本をしっかりと押さえておけばよいと言えます。この授業は、英文法の基礎を単に知識としてではなく、英語を実際の場で使えるものとするために学ぶ授業です。文法は基本レベルでは決してむずかしいものではありません。しかし、文法を文法だけとして知識の羅列のように考えると、嫌気がさし、頭に入りません。実践をしながら、そこから理解して行くのがいちばん楽なのです。授業は、グループを作って、みんなで話し合いながら、お互いに知恵を出し合って理解する、そして、担当者がその後にとまとめるという形をとります。／**検索キーワード** コミュニケーションのための英文法

●**授業の一般目標** 1. 英語を話したり、聞いたり、読んだり、書いたりするための基礎文法を知識にする。  
2. 知識にした基礎文法を、「使う」場面で思い起こして活用することが出来るようになる。（「使う」というのは4つのスキル：話す、聞く、読む、書くのことを言う。） 3. お互いに知識や知恵を出し合って、対処しなければならない問題に接する。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： コミュニケーションに使うための基本的な文法を知識として身に付けるために、英語の構造の理解をする。英語の構造を作っている要素に関しての知識を身に付け、それについて説明ができる。 **思考・判断の観点**： 知識として得た文法知識が、実際の場（読む、聞く、話す、書く）で応用できる。 **関心・意欲の観点**： 基本文法だけでよいので、それを正しく使って、自分（自分の考えること、観察したことなど、自分で形成した内容）を英語で発信（話す・書く）することができる。

●**授業の計画（全体）** ・教科書の項目にしたがって進めます。ただし、文法は項目として切り離していますが、さまざまな項目と関連しているので、教科書のレッスンを一律に週単位で割って進度を決めるわけには行きません。これには、グループでの学習と担当者の説明やフィードバックが必要なときに自由に入れて、理解を深めることを授業の最重点課題とするからです。 ・したがって、学期終わりには進んだところまでになるのですが、しなかったレッスンが、まったくしなかったことにはならないのです。 ・自習課題を重要視します。

●**成績評価方法（総合）** ・授業中の作業（in-class activities）での得点 ・自習課題での得点 ・折々に出してもらったレポートでの得点 \*欠席は公欠・病欠（就職活動など）を含めて3回までは評価の対象とする。上の3点からの総得点を総配点で割って、100を掛けたものを評価点とする。また、下の評価割合は一応の「目安」です。

●**教科書・参考書** 教科書： Basic Grammar for College Students, Hidehiko Konaka, Seibido, 2002 年

●**メッセージ** 本気で取り組んでください。わかるところ、わからないところを授業ではっきり言ってください。また、それを自分ではっきりさせるようにしてください。辞書を丹念に引いてください（授業に持ち込む）。

●**連絡先・オフィスアワー** 経済 A323 e-mail: mmiy@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	時事英語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	鴨川 啓信				

- 授業の概要** 英米の新聞・雑誌社が公開している web サイトから、ニュース記事を取り上げ読んでいく。その際、事件・事故・政治・経済のニュース記事だけでなく、様々なコラムや書評・映画評等も取り上げる。
- 授業の一般目標** 素早く情報を得るための技術を身に付ける。また、その基礎となる英語速読の能力向上を目指す。様々な題材の記事・コラムを読むことで、教養や視野を広げる。
- 授業の計画（全体）** 初回の授業で、英字新聞等を読む上での注意事項を解説する。2 回目以降はそれぞれの週の最新記事を実際に読んでいく。授業時間内には、小テストや質疑応答により受講生に多くの英文に触れてもらう。また、授業時間は限られているので、時間外の課題を出すことにする。
- 成績評価方法（総合）** 授業時の発表 (1)、課題提出 (1)、小テスト (2)、定期試験 (6) に基づき成績評価を下す。尚、( ) 内の数字はおおよその割合を示している。
- 教科書・参考書** 教科書：教材は授業時にプリントで配布する。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室: 経済 A207 / e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	時事英語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古賀 武陽				

- 授業の概要** 2004年度は、時事英語に対する知識と能力を高め、あわせて国際的視野を広げる。／**検索キーワード** 時事英語、時事問題、国際問題、メディア
- 授業の一般目標** 英字新聞、英文雑誌などからタイムリーな記事を選び、政治・経済・社会など種類のニュース記事の構造、特性、語彙などを学習することにより、時事問題への関心と理解を高める。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：見出しの文法、用語などを学び、英字紙誌を正確に読めるようになる。**思考・判断の観点**：英語発想の特徴をつかむ。**関心・意欲の観点**：時事問題、国際問題などに対する関心を高める。**態度の観点**：英字紙に教材として親しむことにより日本語新聞を読む習慣を身につけたい。**技能・表現の観点**：独特な記事表現を理解できるようにする。
- 授業の計画（全体）** などの各種記事を読む。英語としての解釈にとどまらず、それぞれの時事問題の内容について理解するために、記事を要約できるようにトレーニングする。また、授業ではグループ毎に分かれてテーマに関して意見交換を行なう。
- 成績評価方法（総合）** 英文記事を正しく理解し、内容を確実に自分のものにできているかどうかの評価のポイントになる。
- 教科書・参考書** 教科書：適宜プリントを配布する。／参考書：日本語新聞をよく読み、時事問題の基本を理解しておくこと。
- メッセージ** 新聞を日常的に読む習慣をつけること。
- 連絡先・オフィスアワー** kogatake@c-able.ne.jp

開設科目	原書講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	satoshi masamune				

- 授業の概要** 現代思想、哲学の領域において、特に「時間」の問題を扱った書物を精読する。精読とは言え、それなりの分量を読んでいく予定である。／**検索キーワード** 「時間」
- 授業の一般目標** 大学の英語教育がコミュニケーション英語に中心が置かれている現在、専門的な書物を読むことを通じて、そうした書物で使われている英語の重要性を理解する。
- 授業の計画（全体）** 次回、学習する範囲を前もって知らせるので、受講者は必ず予習してくる。授業の前半、講師が試訳をした上で、授業の後半、受講者の抱いたさまざまな質問を基に、より深く内容を吟味する。
- 成績評価方法（総合）** 期末試験を中心として評価する。
- 教科書・参考書** 教科書： 使用テキストのコピーを配布する。／ 参考書： 適宜、紹介する。
- メッセージ** しっかり勉強して欲しい。
- 連絡先・オフィスアワー** 未定

開設科目	経済政策総論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	塚田広人				

●**授業の概要** 授業のねらい及び概要 今、日本と世界の経済とそれを取り巻く社会は大きく変わりつつあります。(たとえば、1990年前後の冷戦体制の終了、1980年代以降の世界の急速なボーダーレス化などを想起してください。)この変化の過程では政府の行う経済政策が大きな役割を果たしています。それは国民の望む社会を実現するための強力な手段となります。その使い方次第で、私たちの社会は大きく変わっていきます。なかでも今、先進工業化諸国では、これまで試みられてきた政府の政策のあり方が強い関心を持って問い直されています。(たとえば政府の財政赤字の拡大傾向、公共事業に対する批判、郵政事業民営化、国立大学の法人化などの動きを想起してください。)これらの問題を考えるための第一歩として、この講義では政府の経済政策とはそもそも何か。なぜ生まれてきたのか。何を対象とするのか。何を目指すべきなのか。どのような手段があるのか。どのような問題が残されているのか、などの基本的な問題について考えます。／**検索キーワード** 社会システム、市場経済、効率性、公正性、慈恵性

●**授業の一般目標** 概要に示した基本的論点について考えることで、日本を含む先進工業化諸国が今後進んでいくべき道を考える手がかりを得ることを目指します。

●**授業の計画(全体)** 次の順で考えていきます。○経済の基本的仕組みは生産と分配である。では、今、そこで何が問題となっているのか? ○そこでは分配ルールが特に重要となっているがそれはなぜか? ○分配ルールはどんな風に、誰によって作られるのか? ○分配ルールは何を目指して作られるのか? ○分配ルールは誰のためのものなのか? ○自然資源はどのように分けたいのか? ○労働成果はどのように分けたいのか? まずは働いている人の中でどのように?(公正性を基準として考えます。) ○労働成果は、働けない人にどのように分けたいのか?(慈恵性を基準として考えます。) 加えて、余裕があれば、こうした検討を元に、現在の日本で問題となっている経済政策上の課題について触れてみたいと思います。(日本経済の不況脱出策、空洞化対策、新しい国際的協力政策などがトピックとなります。)

●**授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 1・2 回 経済体制と政策目的
- 第 2 回 項目 3・4 回 市場経済体制と政策目的の体系
- 第 3 回 項目 5・6 回 分配ルールの決定主体
- 第 4 回 項目 7・8 回 分配ルールの目的主体
- 第 5 回 項目 9・10 回 分配ルールと政策判定基準
- 第 6 回 項目 11・12 回 分配政策 1 (資源分配ルール)
- 第 7 回 項目 13・14 回 分配政策 2 (成果分配ルール (1))
- 第 8 回 項目 15・16 回 分配政策 2 (成果分配ルール (1))
- 第 9 回 項目 17・18 回 分配政策 3 (成果分配ルール (3))
- 第 10 回 項目 19・20 回 分配政策 3 (成果分配ルール (3))
- 第 11 回 項目 21・22 回 資源分配ルール・事例研究(土地)
- 第 12 回 項目 23・24 回 資源分配ルール・事例研究(教育費)
- 第 13 回 項目 予備
- 第 14 回 項目 予備
- 第 15 回 項目 予備

●**成績評価方法(総合)** 定期試験(中間試験と期末試験) = 60 点 宿題 / 授業外レポート = 20 点 出席 = 20 点

●**教科書・参考書** 教科書: 社会システムとしての市場経済, 塚田広人, 成文堂, 1998 年; 『社会システムとしての市場経済』, 塚田広人, 成文堂, 1998 年 授業料に関する論文は次の HP の「研究業績」から読むことができる。研究室の HP : <http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ht/mypage2.htm>

●**メッセージ** 基本的な思考方法、勉強方法とは、先行者の考えに接し（本を読み）、ノートを取り、それについて考え、その結果を文章にすることです。こうして積み重ねた結果が自分の世界観、社会観、人間観となっていきます。がんばってください。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail ht@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5558, 研究室 A424, オフィスアワー 水：1時半-3時 参考：研究室のHP：<http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ht/mypage2.htm>

開設科目	現代日本経済論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中村 保				

●**授業の概要** 1. 戦後の日本の経済発展とその過程での経済政策を概観し、それらが現代の日本経済に与えた影響を考える。 2. 最も身近な経済である「日本経済」をテーマにして、具体的な経済問題とそれらへの経済学（特にマクロ経済学）的アプローチについて勉強する。 3. 現実の日本経済についての理解を深めるとともに、「歴史」と「現実」を十分に認識した上で、「理論」を現実経済を分析するためのツールとして用いることの大切さを勉強していく。 4. 可能であれば、現代の日本経済がかかえているさまざまな問題についての解決策についても考察する。／**検索キーワード** 二重経済、護送船団方式、失われた10年

●**授業の一般目標** 1. まず、日本の経済学部の学生として最低限必要な日本及び日本経済に関する知識を身につける。 2. 「印象」「雰囲気」あるいは「噂」といったものではなくて、具体的なデータやその分析に基づいた実体経済の見方を身につける。 3. 経済理論によって現実を説明できるかどうかを考え、理論の有用性と同時にその限界についてもきちんと把握した上で、現実経済について議論するための基礎を固める。

●**授業の計画（全体）** 最初に、日本経済の現状・特徴を他の先進諸国との比較を通して明らかにしていきます。次に、現在の日本経済の構造（制度的特徴）や政策のあり方に大きな影響を与えた「戦後」の経済発展及びその過程での経済政策について少し詳しく取り上げます。最後に、日本が現在直面しているさまざまな問題をいくつか取り上げて具体的に考察したいと考えています。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 インTRODクシ ョン ・ 国際比較から みた日本経済
- 第 2 回 項目 戦後占領期の日本経済
- 第 3 回 項目 高度経済成長
- 第 4 回 項目 低成長期の日本 経済
- 第 5 回 項目 バブル経済から 「失われた10年」へ
- 第 6 回 項目 高貯蓄率の光
- 第 7 回 項目 高貯蓄率の影
- 第 8 回 項目 産業政策の特徴
- 第 9 回 項目 財政投融资と公 社・公団の役割
- 第 10 回 項目 金融政策の光と 影
- 第 11 回 項目 護送船団方式
- 第 12 回 項目 二重経済とは何か？
- 第 13 回 項目 歪んだ二重経済
- 第 14 回 項目 日本経済の将来
- 第 15 回 項目 期末試験

●**成績評価方法（総合）** 学期末試験・レポート・出席等を総合して成績を評価する。

●**教科書・参考書** 教科書： 特になし／参考書： 1. 宮崎 勇・本庄 真 著『日本経済図説 第三版』（岩波新書） 2. 宮崎 勇・田谷 禎三 著『世界経済図説 第二版』（岩波新書）

●**メッセージ** 日本のGDPは？一人当たりGDPは？経済成長率は？国民負担率は？等々、日本経済に関する基礎的なことを聞かれて答えられないのは、経済学部の学生として恥ずかしいことだと思いませんか？一緒に勉強しましょう。

●**連絡先・オフィスアワー** 連絡先：nakamura@econ.kobe-u.ac.jp



開設科目	産業組織論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	箱田昌平				

●**授業の概要** 本授業は、価格理論（ミクロ経済学）の応用分野である産業組織論を通じて、産業と企業について理論的・実証的に理解することが目的である。企業の戦略と企業間競争を通じて、ミクロとマクロの間にある産業のダイナミズムを明らかにしてゆきたい。／**検索キーワード** 企業、産業、企業間競争、効率性

●**授業の一般目標** 伝統的な産業組織論から新しい産業組織論を理解して、日本の産業組織の特色を解明する。この日本の経済システムと日本の競争力及びその変化すべき方向について明らかにする。

●**授業の計画（全体）** 授業中に小テストを何回か行う。小テストの理解の程度を見ながら、授業の方向を変更することもある。この授業を受講したいと思っている人は、4月から「企業」「産業」に関する新聞記事のスクラップをつくっておくと理解が容易である。なお、自動車産業について具体的例示が多い。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 計画と市場機能
- 第 2 回 項目 s-c-p パラダイム
- 第 3 回 項目 諸学派の系譜
- 第 4 回 項目 市場集中と一般集中
- 第 5 回 項目 寡占と価格
- 第 6 回 項目 参入と戦略
- 第 7 回 項目 利潤と市場成果
- 第 8 回 項目 広告と非価格競争
- 第 9 回 項目 RPM と流通系列化
- 第 10 回 項目 再販品と流通問題
- 第 11 回 項目 コングロマリットと多角化
- 第 12 回 項目 独占と社会的費用
- 第 13 回 項目 日本の独禁政策
- 第 14 回 項目 新産業創出とクラスター計画
- 第 15 回 項目 テスト（記述式）

●**成績評価方法（総合）** 小テストと最終テストで評価する。なお、最終テストはユニークな提案、指摘を高く評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：新庄浩二『産業組織論』新版、有斐閣

●**メッセージ** 授業中に新聞のスクラップをもとに質問・議論が欲しい。

●**備考** 集中授業

開設科目	金融経済論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	兵藤 隆				

●**授業の概要** この講義では、初めて金融論を学ぶ学生諸君を対象にして、現実の金融現象を理解するために必要な基礎的な学力を育成することを目標としています。よって、できるかぎり「なぜこの理論を学ばなければならないのか」、あるいは、「理論がどのように現実を説明しうるのか」がよくわかるような解説を心がけたいと考えています。もちろん、金融に関する理論ですから、その土台となるマクロ経済学やミクロ経済学の知識および数学的分析手法を避けて通ることはできません。よって、それらのツールを用いることに抵抗感がある学生にはお薦めすることはできません。さらに、自発的・積極的に取り組むことを強く要求します。できるだけ平易に説明をする予定ですし、随時、Eメールでも質問を受け付けていますのでどんどん利用してください。「金融理論」に触れることによって、金融システム改革のあるべき姿および21世紀に来るべき未来の社会が少しずつ見えてくるのではないのでしょうか。／**検索キーワード** 金融, 貨幣, 銀行

●**授業の一般目標** 毎日の新聞を読みながら、これからの金融システムの動向について自らのビジョンを構築することができるようになることを目標とします。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 中央銀行と金融機関
- 第 3 回 項目 日本の金融構造と自由化・国際化
- 第 4 回 項目 金利・資産価格と金融市場
- 第 5 回 項目 ファイナンス理論
- 第 6 回 項目 貨幣需要
- 第 7 回 項目 貨幣供給
- 第 8 回 項目 中間テスト1
- 第 9 回 項目 マクロ経済と金融政策
- 第 10 回 項目 合理的期待と政策の有効性
- 第 11 回 項目 国際マクロ経済と国際収支・為替レート
- 第 12 回 項目 国際通貨制度と国際経済政策
- 第 13 回 項目 総まとめ
- 第 14 回 項目 中間テスト2
- 第 15 回 項目 予備

●**成績評価方法（総合）** 中間試験 [30 %] 学期末試験 [70 %] 質問などによる講義参加意欲 [+α] 全体で60 %以上のポイントを獲得した学生に単位を認定します。

●**教科書・参考書** 教科書：現代経済学のコア 金融, 内田滋・西脇廣治編, 勁草書房, 2002年

●**メッセージ** この講義用のメーリングリストを運営します。質問や要望など遠慮なく寄せてください。

●**連絡先・オフィスアワー** thyodo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	金融システム論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	貞木展生				

●**授業の概要** わが国では、「金融革新」が主張され、「金融制度」が大幅に変革してきている。たとえば、銀行業と証券業の間に存在していた「垣根」が徐々に除去されてきている。また、郵便局が郵政公社へと変革し、更には、保険業の他の分野との境界線が薄れて、金融関連業界は「相互乗り入れ」をして、「金融の自由化」が形式的に完成の域へ到達しようとしている。それではわが国の金融システムはどこへ行くのだろうか。「間接金融方式」の金融システムを特徴とするわが国の金融システムはどのようなものだろうか。「直接金融方式」への転換はどのようなものだろうか。「金融政策」による効果をどのようにして評価すればよいのだろうか。戦後のわが国の金融システムの推移を「資金循環勘定」を通じて実証的に検討するとともに、金融システムの変革が金融政策の効果へどのような影響をもたらすだろうかという理論的な検討をする。

●**授業の一般目標** マクロ経済学の一般的な理解の下に、LM 曲線の意義を再検討する。「直接金融方式」の下での LM 曲線と「間接金融方式」の下での LM 曲線は異なるのだろうか、それとも同種と考えてよいのだろうか。この検討をするために、「資金循環勘定」の説明を通じて、金融システムの実証的分析を展開する。それは戦後の日本経済の展開過程の説明になるであろう。すなわち、高度経済成長期、ニクソンショックとオイルショックによる低迷期、バブル経済の展開と崩壊、それに伴うデフレ経済の進行、これらの典型的な事態を金融の側面から検討する。特に 80 年代以降の「金融革新の進行」には特別な注目が必要であろう。「所得倍増計画」、「人為的低金利政策」、「総需要管理政策」、「所得政策」、「インフレターゲット論」等々、さまざまな経済政策が提示され、そして実施されてきた。すべてについて講義はできないが、必要に応じて理論的・実証的に説明したい。

●**授業の計画（全体）** (1) マクロ経済学の復習:特に IS-LM 分析について (2) 「貨幣供給の外生性」と財政収支 (3) 「所得循環」と「資金循環」の意義 (4) 「資金循環勘定」の説明 (5) 資金循環の実証的分析:金融システムの実体 (6) 「金融政策」のあり方 (7) 日本経済の将来展望 これらの項目を講義する予定です。学生諸君の理解度に応じて講義の進捗速度は不定です。ノート講義をするので、しっかりメモをしてください。

●**成績評価方法（総合）** 主として、期末テストにより評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：『所得循環と資金循環』, 貞木展生, 日本経済評論社, 1999 年; 在庫が存在しない場合は、教科書を指定せず。

●**メッセージ** マクロ経済学についての知識があることを前提に講義をします。「資金循環勘定」のデータは、日本銀行の HP から入手できます。インターネットで確認してください。

開設科目	財政学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	藤井大司郎				

●**授業の概要** 現代の財政学は公共部門＝政府の経済学と呼んでよいほどの広範な体系をもっている。財政学（総論）はその体系の導入部、基礎的分野を論ずるものである。用意した講義ノートに基づき、板書及びスライドを用いて講じてゆく。まとまった小単元が終わる度に「復習問題」を提示することで、授業のポイントとなることを示唆するとともに、復習の手助けにする。また、大きな単元が終わる度に「目次」ノートを配付する予定。財政の理論を習得しようとする者は、公共政策論をこの財政学の必ずあとに履修することで体系的学習が完結しよう。

●**授業の計画（全体）** 第1章 財政とは何か 第2章 国民経済と財政 第3章 公共財と資源配分 第4章 租税と所得分配 第5章 財政手段の政策効果

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第1回	項目	第1章	財政とは何か	授業外指示	復習問題の提示
第2回	項目	第1章	財政とは何か	授業外指示	復習問題の提示
第3回	項目	第2章	国民経済と財政	授業外指示	復習問題の提示
第4回	項目	第2章	国民経済と財政	授業外指示	復習問題の提示
第5回	項目	第3章	公共財と資源配分	授業外指示	復習問題の提示
第6回	項目	第3章	公共財と資源配分	授業外指示	復習問題の提示
第7回	項目	第3章	公共財と資源配分		
第8回	項目	第3章	公共財と資源配分	授業外指示	復習問題の提示
第9回	項目	第4章	租税と所得分配		
第10回	項目	第4章	租税と所得分配	授業外指示	復習問題の提示
第11回	項目	第4章	租税と所得分配		
第12回	項目	第4章	租税と所得分配	授業外指示	復習問題の提示
第13回	項目	第5章	財政手段の政策効果		
第14回	項目	第5章	財政手段の政策効果	授業外指示	復習問題の提示
第15回	項目	第5章	財政手段の政策効果	授業外指示	復習問題の提示

●**成績評価方法（総合）** 期末試験の結果により評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：定まったテキストは用いず、講師の講義ノートに沿って板書、配布プリント、スライド表示を行う。／参考書：公共経済学 第2版（上・下）、J. E. スティグリッツ、東洋経済新報社、2003年；政府経済学、砂川良和、八千代出版、1996年；ミクロ経済学 第2版、西村和雄、岩波書店、2001年；平成16年度版 図説日本の財政、(未定)、東洋経済新報社、2004年

●**メッセージ** 財政学の体系自体は経済学全体系の中では、ミクロ・マクロの経済学理論を踏まえた政策論的応用分野であるから、これらの理論分野を先に学んでおく必要がある。出来るだけ厚生経済学の基礎理論にまで通じておくべきである。他の授業科目の中では、とくにミクロ経済学の事前履修を強く求める。

開設科目	公共政策論A	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	仲間瑞樹				

●**授業の概要** なぜ政府は市場介入を繰り返すのだろうか？どこの国でも大なり小なり、政府は私たちの暮らし、企業行動に首を突っ込んでいる。政府が市場に介入する正当性は何だろうか？この講義では、政府の市場介入の正当性について、ミクロ経済学を踏まえつつ説明してゆく。／**検索キーワード** 市場の不完全性、独占、寡占、複占、独占的競争、余剰、経済成長モデル、厚生

●**授業の一般目標** ミクロ経済学を利用し、政府の市場介入の理由を理解すること。そしてこの講義で学んだ考え方を利用し、現実の経済問題を自身の頭で考えられるようにすること。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：ミクロ経済学の基本的知識を身につけている、または身につけること。**思考・判断の観点**：ミクロ経済学を利用した政府の市場介入理由を、現実の経済問題にも適用できること。

●**授業の計画（全体）** 講義では以下の事柄を実施する。まずミクロ経済理論を利用した政府の市場介入の妥当性の説明。そして講義内で演習問題を解いてもらう。この二本立てで講義を進める。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- |        |    |                     |    |                   |
|--------|----|---------------------|----|-------------------|
| 第 1 回  | 項目 | オリエンテーション           | 内容 | 講義説明              |
| 第 2 回  | 項目 | 政府の市場介入・市場の不完全性     | 内容 | 独占の基本的説明・独占モデルの説明 |
| 第 3 回  | 項目 | 政府の市場介入・市場の不完全性     | 内容 | 独占モデルの説明・独占の経済効果  |
| 第 4 回  | 項目 | 政府の市場介入・市場の不完全性     | 内容 | 独占の経済効果           |
| 第 5 回  | 項目 | 政府の市場介入・市場の不完全性     | 内容 | 独占の経済効果・独占と公共政策   |
| 第 6 回  | 項目 | 政府の市場介入・市場の不完全性     | 内容 | 独占のまとめ            |
| 第 7 回  | 項目 | 政府の市場介入・課税          | 内容 | 需給曲線と課税           |
| 第 8 回  | 項目 | 政府の市場介入・課税          | 内容 | 需給曲線と課税           |
| 第 9 回  | 項目 | 政府の市場介入・課税          | 内容 | 経済成長と課税           |
| 第 10 回 | 項目 | 政府の市場介入・課税          | 内容 | 経済成長と課税           |
| 第 11 回 | 項目 | 政府の市場介入・課税          | 内容 | 関税                |
| 第 12 回 | 項目 | 政府の市場介入・課税          | 内容 | 関税                |
| 第 13 回 | 項目 | 「政府 VS 市場」経済政策の観点から | 内容 | 完全競争と市場介入の妥当性     |
| 第 14 回 | 項目 | 「政府 VS 市場」経済政策の観点から | 内容 | 完全競争と市場介入の妥当性     |
| 第 15 回 | 項目 | 予備日                 |    |                   |

●**成績評価方法（総合）** 出席は全く考慮しません。期末試験のみで評価します。

●**教科書・参考書** 参考書：ミクロ経済学 第2版、西村和雄、岩波書店、2002年；公共経済学 第2版（上・下）、スティグリッツ、東洋経済新報社、2004年

●**メッセージ** この科目は各論1の科目です。従って単位認定のためには、財政学の単位を修得済みであることが条件です。またミクロ経済学1、マクロ経済学1と2、経済数学の知識を前提とします。経済理論の好きな方は、面白い科目となるでしょう。こちらとしては徹底的に講義、そして視覚教材や講義ノートを利用して説明します。ただし単なる単位取得目的での履修では、単位取得は困難です。やる気ある学生の参加をお待ちしています。

●**連絡先・オフィスアワー** mnnakama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	地域経済論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	吉村弘				

●**授業の概要** 問題意識を育て、出来るだけ具体的な作業を通じて「地域経済」を実感として把握し、地域経済を見る目を養う。したがって、問題提起を行うが、さらに自分で問題を見いだす訓練、また、身近なデータを自分で直接に扱うことによって、問題を理解し、他人に自分の理解を説明することに資する授業としたい。自分の古里を考えるきっかけにしたい。／**検索キーワード** 地域経済、都市経済、古里、地域活性化

●**授業の一般目標** 問題意識を育てる。自分で調べる実証性を身につける。自分の考えを形成する。自分の考えを他人に理解してもらう訓練をする。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：地域経済についての考え方を学ぶ。**思考・判断の観点**：自分の考えを形成する。**関心・意欲の観点**：問題意識を育てる。**態度の観点**：自分で調べる実証精神を養う。**技能・表現の観点**：自分の考えを、人前で発表して、理解してもらう。**その他の観点**：何事にも、積極的に取り組む。

●**授業の計画（全体）** シラバスにそって、講義を行う。適宜、レポートを求める。新聞切り抜き帳を作る。レポートおよび新聞切り抜きについて、人の前で、発表する。発表について、ディスカッションする。新聞切り抜きとレポートを提出しておけば、自然に最終レポートができるようにしてあるので、日頃の作業をよくしておけば、楽しんでいるうちに、地域経済へのアプローチの仕方が身に付く。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目 1.** はじめに（講義のねらい、概要、注意事項など）、持続的経済発展における都市と産業の現代的意義 **授業外指示** 新聞切り抜きについて、注意事項を説明する。レポート提出について、その仕方及び予定を説明する。

第 2 回 **項目 2.** 地域経済発展の実態と背景（その 1）

第 3 回 **項目 3.** 地域経済発展の実態と背景（その 2）

第 4 回 **項目 4.** 地域経済と付加価値生産性（その 1）

第 5 回 **項目 5.** 地域経済と付加価値生産性（その 2）

第 6 回 **項目 6.** 経済発展と産業構造の傾向性（その 1）

第 7 回 **項目 7.** 経済発展と産業構造の傾向性（その 2）

第 8 回 **項目 8.** 地域における経済発展と産業構造（その 1）

第 9 回 **項目 9.** 地域における経済発展と産業構造（その 2）

第 10 回 **項目 10.** 経済発展・サービス経済化・都市（その 1）

第 11 回 **項目 11.** 経済発展・サービス経済化・都市（その 2）

第 12 回 **項目 12.** サービス経済化と都市集積の経済性（その 1）

第 13 回 **項目 13.** サービス経済化と都市集積の経済性（その 2）

第 14 回 **項目 14.** サービス経済化と都市集積の経済性（その 3）

第 15 回 **項目 15.** おわりに（地域経済と地域政策についての展望、残された課題）

●**成績評価方法（総合）** 出席、レポート、新聞切り抜き帳、発表、ディスカッションなど日常の状況を重視する。いわゆる中間試験・期末試験は行わず、最終レポートに代える。出席が一定水準を満たさないものは、単位を認定しない。最終レポートを提出しないものは、単位を認定しない。成績評価について、詳しくは授業中に文書を配布する。

●**教科書・参考書** 教科書：資料は多量となるが、授業のとき配布する。／参考書：参考書は必要に応じて、示す。

●**メッセージ** レポートなど、データ収集処理の具体的な作業を通じて、地域経済への勘を養う。したがって、パソコンで作図作表をすることを、是非実行して欲しい。新聞等によって、問題意識を養って欲しい。レポートによって、授業外の作業を十分してもらおう予定である。このような作業を重視する。また、図表資料を沢山配布するが、授業に欠席すると、これら図表を見ても理解できない。以前に「資料が理解できない」という学生がいたので、面接してみると、出席が半分程度であった。これでは理解できない。きめられた作業をしておれば、授業が終わったときには、きっと、何か、今まで無かったものを得ているでしょう。しかし、その作業をしない人は得るところはないでしょう。日常の作業を重視します。

●**連絡先・オフィスアワー** e-mail : yosimura@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 10 : 20 - 11 : 50

開設科目	地方財政論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤井大司郎				

●**授業の概要** わが国の地方財政に関し、主として法制度論の立場から、その仕組み、機能、歴史を論じる。授業は、特定のテキストは定めず、あらかじめ準備した講義ノートに沿って講じてゆくので、ノートを丹念にとることを勧める。講義の小単元(項単位)終了ごとに復習問題を掲げ、大単元(章単位)ごとに講義概要を配布し、諸君の復習の一助とする。

●**授業の一般目標** わが国の地方財政の仕組みを学び、その現状と問題点を明らかにする。

●**授業の計画(全体)** 第1章 地方公共団体 都道府県と市町村、特殊な地方公共団体、地方公共団体の連携  
第2章 地方の予算と会計 予算制度、会計の区分、第3章 収入と支出の構造 地方財政収入の概要、地方財政支出の概要、国と地方の財政関係

●**授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 第1章 地方公共団体
- 第2回 項目 第1章 地方公共団体
- 第3回 項目 第1章 地方公共団体 授業外指示 復習問題の提示
- 第4回 項目 第1章 地方公共団体
- 第5回 項目 第1章 地方公共団体 授業外指示 復習問題の提示
- 第6回 項目 第2章 地方の予算と会計
- 第7回 項目 第2章 地方の予算と会計 授業外指示 復習問題の提示
- 第8回 項目 第2章 地方の予算と会計 授業外指示 復習問題の提示
- 第9回 項目 第2章 地方の予算と会計
- 第10回 項目 第2章 地方の予算と会計 授業外指示 復習問題の提示
- 第11回 項目 第3章 収入と支出の構造
- 第12回 項目 第3章 収入と支出の構造 授業外指示 復習問題の提示
- 第13回 項目 第3章 収入と支出の構造
- 第14回 項目 第3章 収入と支出の構造 授業外指示 復習問題の提示
- 第15回 項目 第3章 収入と支出の構造 授業外指示 復習問題の提示

●**教科書・参考書** 教科書：定まったテキストは用いず、講師の用意した講義ノートに沿って板書により進める。／参考書：地方財政読本, 佐藤進・林健久, 東洋経済新報社；現代の地方財政(有斐閣ブックス), 和田八束・野呂昭朗, 有斐閣；地方財政白書, 総務省, 印刷局, 2004年



開設科目	都市経済論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	櫛本功				

●**授業の概要** 経済史はかつてありし日の姿を、経済理論は経済運行のメカニズムを、経済政策は経済をいかにすべきであるかを研究する。都市経済論は経済政策論の一環として、われわれの経済社会をいかに良くするかという視点から展開される。題材は北海道から沖縄に至る我が国全市である。その発展と停滞の要因を考察する。

●**授業の計画（全体）** 1, 戦後におけるわが国経済の変貌 2, 発展する都市と発展する産業 3, 3大都市圏の発展とその要因 4, 地方中枢都市（札幌・仙台・福岡）の発展とその要因 5, 中国・四国地方の諸都市の発展と停滞 6, 九州その他地方の諸都市の発展と停滞 7, 支援する都市と依存する都市 8, 製造業の発展と停滞 9, サービス業の発展 10, 雇用放出産業と雇用吸収産業

●**成績評価方法（総合）** 試験による。

●**教科書・参考書** 教科書：テキストは使用せず、プリントを配布する。

●**備考** 集中授業

開設科目	ジェンダー論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	鍋山祥子				

●**授業の概要** ジェンダー (gender) とは、生物学的な性差を意味するセックス (sex) とは異なり、社会・文化的な性差を意味するもの。私たちは何故、身体的な性差によって当たり前のように、男なら「男らしく」、女なら「女らしく」振る舞っているのだろうか。そこに必然性はあるのか。また、広く社会における男女関係を規定している「性別役割分業」という考え方に、私たちの生き方はどこまでしぼられているのだろうか。本講義では、生活の様々な場面に織り込まれているジェンダー構造を可視的にすることを試み、ジェンダーが私たちの生活や選択に与える影響とその帰結を考察する。／**検索キーワード** ジェンダー、性別役割分業

●**授業の一般目標** ジェンダー概念についての知識を修得する。現代社会においてジェンダー構造が与える影響について理解する。ひとりひとりが授業内容を自分の問題として、日々の生活に引きつけて考える思考技能を修得する。

●**授業の計画 (全体)** まず、「ジェンダー」とは何か? という基本的な問題意識を共有することから始める。そして、私たちが日常生活をおくっている社会のあらゆる場面に潜んでいる「ジェンダー」について明らかにし、その現状や問題点を自分自身の事柄として考えていく。また、ジェンダー視点を取り入れることで、具体的な日々の社会的経験が、さまざまな領域での「学問」として体系的に研究されてるということをよりリアルに感じてもらいたい。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ジェンダーとは何か?
- 第 2 回 項目 自分らしさ
- 第 3 回 項目 ジェンダー・アイデンティティ
- 第 4 回 項目 性別役割分業
- 第 5 回 項目 ジェンダーの内面化過程
- 第 6 回 項目 家族とジェンダー
- 第 7 回 項目 家族=愛情という神話
- 第 8 回 項目 育児とジェンダー
- 第 9 回 項目 近代化と主婦の誕生
- 第 10 回 項目 労働とジェンダー
- 第 11 回 項目 男性学と男らしさとDV
- 第 12 回 項目 社会政策とジェンダー
- 第 13 回 項目 高齢社会とジェンダー
- 第 14 回 項目 予備
- 第 15 回 項目 予備

●**成績評価方法 (総合)** 出席 (授業内容の確認レポートを毎回提出) と課題提出、学期末試験 (論述中心・持ち込み不可) による総合評価。テキストを使用しない講義のため、出席を欠格条件とする。配点は、授業内レポート 15 %・授業外レポート 15 %・定期試験 70 %とする。

●**教科書・参考書** 教科書：特定のテキストは使用せず、必要なデータ・資料等についてはコピーを配布する。／参考書：授業テーマに沿って、理解を深めるのに適した参考文献については適宜提示する。

●**メッセージ** 本講義は女性学と男性学両方の視点を含むものです。「当たり前」とされていることを「疑う」ことができる社会学的思考を基礎としています。

●**連絡先・オフィスアワー** ご相談等ある場合は、まずメールにて来室予定をお知らせください。 e-mail nabeyama@yamaguchi-u.ac.jp URL <http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/nabeyama/>

開設科目	日本経済史 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	平沢照雄				

●**授業の概要** 1. 本授業では、今日と同じく不況が長期化するなかで、経済の構造改革が問題とされ、同時に社会安定のために必要な新たな経済制度・政策についての関心が高まっていた 1930 年代の日本経済にスポットをあてる。2. なかでも、同時代に社会安定のための仕組みがどのように形成されたのかについて、(1) 政府と産業・企業、(2) 日本本国と植民地および(3) 欧米先進国との関係に目をむけながら多角的に検討する。3. こうした考察を通じて、今日の日本経済を歴史的に考えるうえで必要な基礎知識の修得をはかる。／**検索キーワード** 日本経済、1930 年代、経済統制、セーフティネット、二重構造、貿易摩擦、工業化

●**授業の一般目標** 1. 明治維新から今日までの日本経済の発展過程のなかで、1930 年代がどのような歴史的転換点にあったのかについて理解する。2. 1930 年代の長期不況下で登場する経済統制の歴史的役割を学ぶことを通じて、現代の経済社会におけるセーフティネット（経済社会安定のための制度）の重要性を理解する。3. 単に日本国内の問題のみに視野を限定することなく、植民地を含めた「帝国としての日本」が、直面する諸問題にどのように対応しようとしたのかについて学ぶことを通じて、戦後日本およびアジア諸国の経済をみるうえで重要な歴史的前提を理解する。

●**授業の計画（全体）** 上記の授業目標にそって、本授業では以下の内容を取り上げる予定である。1. 1930 年代の大不況と日本経済の行詰り 2. 日本における経済統制法の成立過程 3. 大工業分野における経済統制の展開 4. 中小工業分野における経済統制の展開 5. 日本の経済統制と植民地・対外関係 6. 1930 年代の歴史的教訓 - 1930 年代と現在の日本経済 -

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** イントロダクション:授業の課題と視点 **内容** 1. 明治維新から 今日までの日本 経済の歩み (概観) 2. 本授業で 1930 年代に着目する 理由 **授業外指示** シラバスの授業 概要、授業目標 を読んでおくこと **授業記録** 1. レジュメ 1 と 参考資料の配布 2. 教科書、参考 文献の指示
- 第 2 回 **項目** 1930 年代の大不況と日本経済 (1) **内容** 1. 世界恐慌の影響 2. 日本企業の不況対策 **授業記録** レジュメ 2 と参考資料の配布
- 第 3 回 **項目** 1930 年代の大不況と日経済 (2) **内容** 1. 「市場の失敗」と社会不安の深刻化 2. 社会・経済政策の課題 **授業外指示** 1. レジュメ 2 と 参考資料を読んでおくこと 2. ビデオを見た 感想をまとめておくこと **授業記録** 当時の社会・経済状況を記録したビデオを見る
- 第 4 回 **項目** 経済統制法の成立過程 (1) **内容** 1. 統制法案の特徴: 多数決主義 2. 統制法案の特徴: 公益規定 **授業外指示** 教科書第 1 章を読んでおくこと **授業記録** レジュメ 3 と参考資料の配布
- 第 5 回 **項目** 経済統制法の成立過程 (2) **内容** 1. 経済統制法の特徴 2. 小括: 経済統制法とセーフティネット **授業外指示** 教科書第 1 章を読んでおくこと
- 第 6 回 **項目** 大工業分野における経済統制の構造と展開 (1) **内容** 1. 鉄鋼業における経済統制の展開 2. 化学工業における経済統制の展開 **授業外指示** 教科書第 2 章を読んでおくこと **授業記録** レジュメ 4 と参考資料の配布
- 第 7 回 **項目** 大工業分野における経済統制の構造と展開 (2) **内容** 1. 綿工業における経済統制の展開 2. 小括: 大工業 統制の特徴とセーフティネット **授業外指示** 1. 教科書第 2 章 を読んでおくこと 2. ビデオを見た 感想をまとめて おくこと **授業記録** 1930 年代から戦時にかけて展開された経済統制に関連するビデオを見る
- 第 8 回 **項目** 中小工業分野における経済統制の構造と展開 (1) **内容** 1. 中小工業に対する政策スタンスの変化 2. 国内市場向け 中小工業と経済 統制 3. 工業組合と大 企業との利害調整 **授業外指示** 教科書第 3 章 を読んでおくこと **授業記録** レジュメ 5 と参考資料の配布
- 第 9 回 **項目** 中小工業分野における経済統制の構造と展開 (2) **内容** 1. 日本の景気回復と輸出中小工業の役割 2. 「貿易摩擦」の発生と輸出統制の展開 **授業外指示** 教科書第 4 章 を読んでおくこと

- 第10回 **項目** 中小工業分野における経済統制の構造と展開 (3) **内容** 1. 輸出統制の問題と下請による組織的活動 2. 小括：中小工業統制の特徴とセーフティネット **授業外指示** 教科書第4章を読んでおくこと
- 第11回 **項目** 「帝国としての日本」からみた経済統制の展開 (1) **内容** 1. 大恐慌と植民地経済の行き詰まり 2. 朝鮮工業化の展開とその特徴 **授業外指示** 教科書序章第4節を読んでおくこと **授業記録** 1. レジュメ6と参考資料の配布 2. 当時の植民地朝鮮の経済に関連するビデオを見る
- 第12回 **項目** 「帝国としての日本」からみた経済統制の展開 (2) **内容** 1. 大工業統制と植民地：朝鮮におけるセメント統制問題 2. 朝鮮工業化とセメント統制の構造 **授業外指示** 教科書第5章を読んでおくこと
- 第13回 **項目** 「帝国としての日本」からみた経済統制の展開 (3) **内容** 1. 中小工業統制と植民地：朝鮮における電球統制問題 2. 朝鮮工業化と電球統制の構造 **授業外指示** 教科書第6章を読んでおくこと
- 第14回 **項目** 授業の総括：1930年代の歴史的教訓 **内容** 1. 「1930年代統制」と社会安定 2. 「1930年代統制」の重層的構造と戦後経済との関連 3. 現在の日本経済への示唆 **授業外指示** 教科書終章を読んでおくこと **授業記録** レジュメ7と参考資料の配布
- 第15回 **項目** 試験 **授業外指示** 試験に関する情報(持ち込み等)は、予め授業で知らせます

●**成績評価方法(総合)** 本授業は4日間の集中講義なので、それを考慮して、以下の3点から総合的な評価を行う。1. 毎日1回(計4回)出席をとる。2. 1～3日には、講義内容の理解をより深めるのに役立つビデオをみたらうえて、その感想文(分量は任意)を翌日提出する。3. 最後に試験を実施する。

●**教科書・参考書** 教科書：大恐慌期日本の経済統制, 平沢照雄, 日本経済評論社, 2001年 / 参考書：セーフティネットの政治経済学, 金子勝, ちくま新書, 1999年; その他の参考文献、関連する小説などについては授業中に言及する予定です。

●**メッセージ** 1. 日本経済の現状や歴史あるいは現代の社会・経済制度に興味のある学生諸君の受講を期待しています。2. 本授業では、色々な図表や映像を参照しながら、より具体的に多面的なイメージをもってもらうことに重きをおいています。3. その場合、これらの図表をすべて資料として配布するのは困難なため教科書を利用し、それを補うレジュメと資料を配布します。またビデオも講義の理解を深める目的から活用する予定です。4. 教科書ほかに関しては改めて掲示などを行う予定ですので、受講希望者は掲示に注意してください。

●**連絡先・オフィスアワー** 非常勤講師。問い合わせ等は経済学部の木部和昭(内線5566)まで。

●**備考** 集中授業

開設科目	西洋経済史B	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	古賀大介				

●**授業の概要** 新興工業国の発展とそれに伴う生産拠点の移動・技術者の流出、産業の空洞化、高付加価値製品生産への傾斜、国家主導による産業再編の試み…これらは、今まさに日本が直面している問題であるが、実は過去、このすべてを経験した国があった。かつて「世界の工場」と呼ばれたイギリスである。注目すべきは、このすべてを経験したイギリス製造業のほとんどが、国際的な競争力を失い、現存しないということである。「老大国」イギリスの歴史は現代日本に何をもの語るのか。これから生きる皆さんと一緒に考えてみたい。／**検索キーワード** イギリス 産業衰退 グローバル経済 「世界の銀行」

●**授業の一般目標** (1) イギリスの産業（製造業）の発展と衰退にみられる特徴を学ぶ (2) イギリス経済史の教訓から、今後、日本がどうあるべきかを考える (3) 異時代・異地域比較の意義と限界について学ぶ

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 日本人にとってのイギリス史
- 第3回 項目 イギリスにおける工業発展
- 第4回 項目 「世界の工場」としての繁栄と「大不況」
- 第5回 項目 基幹産業にみる 発展と衰退 一綿業と鉄鋼業
- 第6回 項目 イギリス経済にとっての植民地の意義
- 第7回 項目 中間テスト
- 第8回 項目 「世界の工場」から「世界の銀行」へ
- 第9回 項目 産業衰退の諸要因—文化的背景と金融機関の責任
- 第10回 項目 産業構造の転換とその限界
- 第11回 項目 製造業の消滅と現代イギリス
- 第12回 項目 アジアの工業化とイギリス
- 第13回 項目 まとめ—イギリス経済史の教訓
- 第14回 項目 予備
- 第15回 項目 期末テスト

●**教科書・参考書** 参考書：湯沢威編『イギリス経済史 盛衰のプロセス』有斐閣、1996年。

●**メッセージ** 授業の計画には若干の変更があるかもしれません。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室に電気がついている時は、いつでも気軽にどうぞ（内線5516）

開設科目	社会政策論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	濱島清史				

●**授業の概要** 現在、就職問題と少子高齢化社会が焦眉の課題となっているが、社会政策論では次のような内容をやることにより、それらの問題を考えていく。社会政策論は労働政策と社会保障からなる。労働政策には労働基準政策、失業政策、雇用能力開発政策、労使関係政策などが含まれ、社会保障には社会保険、社会福祉、生活保護などがある。なお労働基準政策では男女雇用機会均等法、解雇権濫用法理、社会保険には年金、健康保険、介護保険などの問題を扱うことになる。／**検索キーワード** 社会政策、労働政策、社会保障、労働基準政策、失業政策、雇用能力開発政策、労使関係政策、社会保険、社会福祉、生活保護、男女雇用機会均等法、解雇権濫用法理、年金、健康保険、介護保険。

●**授業の一般目標** 社会政策とは何かを理解し、失業問題や少子高齢化社会に労働政策と社会保障について基礎的かつ社会に出てから有益な知識を身につける。授業の到達目標 労働政策と社会政策に関して、自ら主体的に調べて、認識を深めて知識を定着させることを目標とする。したがって、課題は各自に考えさせて、模擬試験をやらせて、全員に添削して返却し、それに基づいて本試験を受けさせる方式を用いる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：基本的な用語の理解を求める。具体的には、雇用のミスマッチ、ワークシェアリング、整理解雇の四要件、年金の種類、要介護(要支援)の認定基準などを試験で答えさせよう。**思考・判断の観点**：失業を減らすにはどうすればよいか、少子高齢化社会に対してどのように乗り切っていくか、社会通念やマスコミに流されるのではなく、正しい姿を客観的な資料から分析する視覚を養いたい。**関心・意欲の観点**：労働政策と社会保障に関して、主体的な問題意識を養いたいので、テキストの内容理解を前提に、さらに自己の問題意識に基づいて他の文献を参考にしながら、深く追求していくようにしたい。そのために、試験において自分で調べ上げている答案をより高く評価するだろう。**態度の観点**：講義に出れば学ぶことは大であろう。だが、ただ漫然と受けるだけでは却ってマイナスなところもある。よって出席を毎回取ることによって講義に出るように促し、それだけでなく、質問・意見票によって自己の問題意識を涵養する。さらに講義中に教室を見回るようにして講義への傾聴を促し、何人かに当てるようにして講義への参画を促そう。**技能・表現の観点**：大講義なので、それほど表現＝プレゼンテーションには重きを置かない。ただ、質問は随時講義時間中に質問表以外にも受け付けるようにする。**その他の観点**：社会に出てから有益な知識と思考力を養いたい。ただ、学生はまだ社会に出ていないからそれがわかりにくいかもしれない。できるだけ現場を認識させるために、数回ビデオ上映を実施して、視覚的に訴えるようにしたい。

●**授業の計画(全体)** 前半で労働政策、後半で社会保障を行なう。社会政策には労働政策も含むということをよく認識していない者が多いので、注意してもらいたい。各内容については別記する。

●**成績評価方法(総合)** 出席(質問・意見票の提出)で平常点をみながら、模擬試験で中間評定を行ない、最終の本試験を最も重視する。出題は基本的に模擬試験と本試験で同じ。模擬試験は添削して事前に返却する予定。労働政策と社会保障から一題ずつ各自自分で課題を考えて、深く追求していくことを期待する。いささかハードだが、高得点が期待できよう。定期試験50%、模擬試験20%、出席20%、その他10%。成績評価方法(観点別)知識・理解の観点からは基本的な用語を課し、思考・判断能力の面では模擬答案→本試験と論理的思考能力と文章表現力を磨き、関心・意欲の点からは自分で主体的に調べたことを評価し、態度の観点からは出席と質問・意見票の提出を重視する。

●**教科書・参考書** 教科書：新版 社会政策を学ぶ人のために、玉井金五／大森真紀，世界思想社，2000年／参考書：適宜指示する。

●**メッセージ** 社会に出てから有益な知識を！生きた現場を重視せよ！

●**連絡先・オフィスアワー** Eメール・アドレス：hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp

# 経営学科

開設科目	経営学総論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	長谷川光圀				

●**授業の概要** この講義は、企業の経営活動について包括的分析、即ち経営史と経営学史、会社形態、トップ組織と戦略決定、共同決定法、中間組織と管理決定、労務システム、生産システム、財務システム、販売システム、日米生産システムの比較、現場組織等の分析を試み、現代の我が国の企業が直面する問題について解析しうる能力を養うことにある。／**検索キーワード** 基礎知識の重視、会社形態、戦略とトップ組織、規模の経済、範囲の経済、情報の経済、社会的責任、

●**授業の一般目標** 経営学の基礎理論レベルの徹底的理解を重点目標にする。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 経営学の基礎理論の理解に重点をおく。 **思考・判断の観点**： 基礎理論に沿って、問題を正しく分析し、説明できる。 **態度の観点**： 出席を100パーセントとし、質問を提出する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 経営学とは何か
- 第 2 回 項目 経営史の概説
- 第 3 回 項目 経営学史の概説：独・米・日の関係
- 第 4 回 項目 会社形態：合名会社の特質と限界
- 第 5 回 項目 会社形態：合資会社の特質と限界
- 第 6 回 項目 会社形態：有限会社の特質と課題
- 第 7 回 項目 会社形態：株式会社の特質と課題
- 第 8 回 項目 トップ組織と意思決定
- 第 9 回 項目 独のトップ組織と共同決定
- 第 10 回 項目 米のトップ組織と戦略決定
- 第 11 回 項目 日のトップ組織と戦略決定
- 第 12 回 項目 労務システム
- 第 13 回 項目 生産システム
- 第 14 回 項目 財務システム
- 第 15 回 項目 マーケティング論

●**教科書・参考書** 教科書： 特に、指定しない。,, / 参考書： その都度、紹介する。,,

●**メッセージ** この講義は、出席を重視し、課題の対する学習を義務とし、基礎知識の習得を学生のテーマとする。



開設科目	経営史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	古川澄明				

●**授業の概要** 歴史に学ばない者は、また現在を知らない。周知の名言です。いま私たちがどのようなビジネス社会に暮らしているかを認識することは、将来の就職先を選ぶ上でも、またビジネスの世界に身を置いて活躍する上でも、非常に重要なことでしょう。現代の企業社会の目まぐるしい変化が、身近には雇用構造の変化に伴う求人態様の変化となって現れています。そうした激変の波に飲み込まれて自分の進むべき進路を見失わないためにも、経営史、つまりビジネス・ヒストリー (Business History) に学ぶ意義は小さくないでしょう。アメリカのハーバード大学で20世紀中葉にビジネス・ヒストリーの教育研究体制が確立された背景には、そうした理由もあるように思います。半世紀を経て、国際ビジネスはますます全世界を巻き込み、各国間の時間・情報・移動の距離を縮め、生態系環境を激変させ、伝来の社会を席卷するなかにあつて、みなさんが自分の進路を見失わないためにも、それに学ぶ意義は、よりいっそう大きくなっています。現在の世界経済を動かし社会の変化に大きな影響力を及ぼしている国際ビジネスの世界では、何が起きているのでしょうか。現在の国際ビジネスの実状に目を向け、その特徴を概観するなかで、国際ビジネスの進化のプロセスを歴史的視点から見つめ直すのが、この講義のテーマです。日本をはじめとする世界の企業・経営システムには、何が起きているのか。何が変化しつつあるのか。そもそも国際ビジネスを展開する企業は、いかなる状況下で歴史的に変貌してきたのか。またどこへ向かって更なる変貌を遂げようとしているのか。現代企業は、大企業だけでなく、中小企業を含めて、どのような方向へ歩もうとしているのか。そうした疑問を解き明かすために、企業と経営の歴史を遡り、現代企業・経営システムを生み出してきた歴史的プロセスを検討することにします。そして、国際ビジネスの更なる進化への方向を展望してみたいと思います。具体的な事例も、とくに自動車産業を中心に上げます。／**検索キーワード** 国際ビジネスの進化、現代企業の系譜

●**授業の一般目標** (1) 現代国際ビジネスを展開する企業の事業展開や戦略について、何が問題になっているかを知る。(2) 現代企業が歴史的にどのようなプロセスを経て進化・発展してきたのかについて、理解する。(3) 現代企業の経営戦略と組織がどのようにして進化・発展してきたかについて、理解する。(4) 現代企業のサバイバル競争とマネジメントの粗問題について、理解する。

●**授業の計画 (全体)** 授業は、一応、以下のような内容を取り扱う予定ですが、状況に応じて、新しい話題やビデオ等を活用した情報等も提供しますので、若干の変更もあり得ます。1. 現代企業と国際ビジネス (1) 国際ビジネスの実状と歴史的進化のプロセス (2) 現代国際ビジネスと企業をどのように理解すべきか 2. 現代企業の誕生と進化の歴史的プロセス (3) 現代企業誕生への遡源 (4) 現代企業誕生と市場拡大 (5) 新産業の出現と新ビジネス (6) 巨大企業の出現と企業システムの変化 (7) 経営学と経営者 (8) 戦争、革命、恐慌、体制転換と企業 (9) イノベーションとビジネス (10) イノベーションとビッグ・ビジネス誕生 (11) 科学技術と企業 (12) 特許と大企業 (13) 企業の組織的研究開発 (14) 国際技術移転 3. 経営戦略の進化と組織 4. 市場とマーケティング 5. 経営組織の形成と進化 6. 労務管理の発達と進化 7. 財務管理の発達と進化 8. 経営理念と企業カルチャー

●**成績評価方法 (総合)** 期末試験実施 (自筆ノートのみ持ち込み可)。成績には、出席度合いを反映させます。またその都度の小テストやレポートを課すことがある場合、それらも同様に成績評価に反映させます。

●**教科書・参考書** 教科書：とくに指定しない。受講ノートを取る。／参考書：その都度、授業の中で、支持する。

●**メッセージ** グローバル・ビジネスの現状とヒストリーに関心を持ち、自分がかかるビジネス社会にどのように関わっていくのかを考えてほしい。

●**連絡先・オフィスアワー** 事前アポにて、随時。

開設科目	新事業創造論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	井上芳郎				

●**授業の概要** ベンチャー企業や新規事業を経営するうえで必要不可欠なビジネス・プランを作成する 為に必要な知識を講義と実習を通して紹介する。具体的には1. ビジネス・プラン作成に必要な経営理論の講義、2. ビジネス・プラン作成実習、3. 生徒によるビジネス・プランのプレゼンテーションと評価、を行います。／**検索キーワード** 創業、ベンチャー、新事業、事業計画、ビジネス・プラン

●**授業の一般目標** 1. ビジネス・プラン作成に必要な経営理論を理解する。 2. 経営理論を使いながら、自ら考えたアイデアをもとにビジネス・プランを作成するとともに、その内容を第3者に発表して理解させることができる。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 経営理論の概要を知る。 **思考・判断の観点**： 経営理論からビジネス・プランを作成できる。 **関心・意欲の観点**： 社会環境の変化からビジネス・チャンスを見つげられる。 **態度の観点**： 自らの考えを主張できる。 **技能・表現の観点**： コンピュータ等のツールで自らの考えを表現できる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 経営理論 (1)
- 第 3 回 項目 経営理論 (2)
- 第 4 回 項目 ビジネス・アイデアの考え方
- 第 5 回 項目 ビジネス・アイデアの発表 (1) **授業外指示** 事前にアイデア を考えておくこと。
- 第 6 回 項目 ビジネス・アイデアの発表 (2)
- 第 7 回 項目 ビジネス・プラン作成方法
- 第 8 回 項目 ケース・スタディと実習 (1) **内容** 原則 グループ 単位でプランを 考える
- 第 9 回 項目 ケース・スタディと実習 (2) **内容** 原則 グループ 単位でプランを 考える
- 第 10 回 項目 ビジネス・プランのプレゼンテーション (1) **内容** グループ単位で 発表
- 第 11 回 項目 ビジネス・プランのプレゼンテーション (2) **内容** グループ単位で 発表
- 第 12 回 項目 ビジネス・プランの修正 (1)
- 第 13 回 項目 ビジネス・プランの修正 (2)
- 第 14 回 項目 最終プレゼンテーション
- 第 15 回 項目 まとめ講義

●**成績評価方法（総合）** 1. 出席 2. 授業での発表・質問 3. ビジネス・アイデアの内容 4. ビジネス・プランの内容

●**教科書・参考書** 教科書： 小さな会社のビジネス・プラン／ 参考書： 戦略

●**メッセージ** この授業では、自分でビジネスアイデアを考え、それを計画にまとめる作業を行います。したがって、皆さん自身の「やる気」がないと、授業についてこれません。欠席はもちろんのこと、授業時間以外の努力を惜しんだり、授業中の議論に参加しない学生には、単位を出しません。その点を十分に踏まえた上で、履修するか否かを判断してください。

開設科目	経営管理論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	長谷川光圀				

●**授業の概要** 企業活動の合理化を課題とする経営管理の諸問題を、経営管理の構造と関連させながら考察することによって、経営管理の基礎概念を理解させる。／**検索キーワード** 最近の経営問題に、注目すること

●**授業の一般目標** 経営管理について、発展史的に取上げ、合理的側面と、非合理的側面の融合する組織構造と過程を体系的に取上げ、理解させる。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 管理の基礎的知識を習得し、活用できる。 **思考・判断の観点**： 管理の問題について、正当な理解と思考を養い、主張できる。 **態度の観点**： 出席を100パーセントにし、意欲的の質問する。

●**授業の計画（全体）** 経営管理論は、基礎理論的理解と現実の実践的理解の両面について理解が求められる。この講義も、その点を目標にしながら、展開される。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 経営管理の原点 **内容** 成り行き管理
- 第 2 回 **項目** 経営管理の原点 **内容** 科学的管理法
- 第 3 回 **項目** 経営管理の原点 **内容** 科学的管理法とファヨール
- 第 4 回 **項目** 経営管理の組織構造 **内容** 管理組織の構造－ウエーバー
- 第 5 回 **項目** 経営管理の組織構造 **内容** 管理組織の構造の一進化
- 第 6 回 **項目** 経営管理の組織構造 **内容** 管理組織の構造一進化
- 第 7 回 **項目** 経営管理の組織構造の形態 **内容** 職能別組織
- 第 8 回 **項目** 経営管理の組織構造の形態 **内容** 事業部制
- 第 9 回 **項目** 経営管理の組織構造の形態 **内容** マトリックス組織
- 第 10 回 **項目** 経営管理の非合理的問題 **内容** 人間関係論
- 第 11 回 **項目** 経営管理の非合理的問題の対応 **内容** リーダーシップ論
- 第 12 回 **項目** 経営管理の非合理的問題の対応 **内容** リーダーシップ論
- 第 13 回 **項目** 管理組織による非合理的問題の組織的調整 **内容** リッカートの組織的調整
- 第 14 回 **項目** 経営管理のナレッジ論 **内容** 組織の再生とナレッジ
- 第 15 回 **項目** 経営管理のナレッジ論 **内容** 新しいナレッジの創造

●**教科書・参考書** 教科書： 特に、指定しない、, / 参考書： その都度、紹介する。,,

●**メッセージ** 出席は100パーセントであること

●**連絡先・オフィスアワー** 電話5542 研究室長谷川 オフィスアワー（水曜日）

開設科目	労務管理論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	庄村長				

●**授業の概要** 一般に企業や組織体はヒト・モノ・カネから構成されるが、ヒトのみが事業活動を自発的、能動的に展開することができる。労務管理論は、企業や組織体がこのヒトすなわち労働力=人的資源をどのように雇用し、活用して、事業活動を行い、組織目標を達成するか、そしてその過程を通して労働者の欲求はどのように満たされるか、こうしたヒトに関わる人事労務の基本問題を日本の実情にふれつつ考察する。

●**授業の一般目標** 講義内容を通して、人事労務管理・人的資源管理の基礎知識の習得、及び、日本の人事労務管理の実際とそこでの問題について理解を深めることを基本目標とする。

●**授業の計画（全体）** 全体の授業計画としては、前半を基本的には「人事労務管理の総論部分」として、後半の「各論部分」の前提となるような基本事項を取り上げ、後半で「人事労務管理の各論部分（個別の問題領域）」を取り上げる予定。なお、最初の授業時間に本年度の講義のアウトライン（講義の目的、構成、進め方、テキスト・参考書、試験等）について説明する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 1. 人事労務の概念
- 第 2 回 項目 1. 人事労務の概念（続）
- 第 3 回 項目 2. 人事労務の発展
- 第 4 回 項目 3. 日本の企業と経営者（1）民間大企業と経営者
- 第 5 回 項目 3. 日本の企業と経営者（2）中小企業（3）公共部門
- 第 6 回 項目 4. 日本の労働者と労働組合
- 第 7 回 項目 5. 人事労務の組織
- 第 8 回 項目 6. 人事労務の基本問題（I）（1）採用管理
- 第 9 回 項目 6. 人事労務の基本問題（I）（1）採用管理（続）
- 第 10 回 項目 6. 人事労務の基本問題（I）（2）労働時間の管理
- 第 11 回 項目 6. 人事労務の基本問題（I）（3）雇用調整
- 第 12 回 項目 7. 人事労務の基本問題（II）（1）賃金額（2）形態
- 第 13 回 項目 7. 人事労務の基本問題（II）（3）賃金体系の管理
- 第 14 回 項目 7. 人事労務の基本問題（II）（4）付加給付の管理
- 第 15 回 項目 7. 人事労務の基本問題（II）（5）人事考課

●**成績評価方法（総合）** 中間試験 25%、期末試験 60%、小テスト（出席を兼ねる）15%

●**教科書・参考書** 教科書：次の書を基本参考書としてテキストなみに活用・参照する予定です。『現代日本の労務管理（第2版）』、白井泰四郎、東洋経済新報社、1992年。／参考書：新しい人事労務管理（新版）、佐藤博樹・他、有斐閣、2003年；人事管理入門、今野浩一郎・他、日本経済新聞社、2002年

●**メッセージ** 本年度の授業では、最初の何回かをまず「採用管理」の問題にあて、近年の企業の採用活動や就職活動の動向について、基本的なところを紹介・説明する予定です。

●**連絡先・オフィスアワー** 電話（研究室）933-5582、研究室C223、オフィスアワーは最初の授業時間に示します。

開設科目	財務管理論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	城下賢吾				

- 授業の概要** 最新の財務理論を取り入れた財務管理の基礎の習得を目標とします。具体的には資金運用が中心になります。／**検索キーワード** 資金運用、市場の効率性、行動ファイナンス現在価値、財務分析、資産価格
- 授業の一般目標** 財務に関する財務分析、時間の価値、リスク、財務と心理の関連性を理解することを目標とする。財務は常に証券市場と関連しているため、株式投資ゲームも平行して行う。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：基礎理論の習得 **思考・判断の観点**：理論が実際の実証をどの程度説明できるか。 **関心・意欲の観点**：社会に対する関心がいかにあるか **技能・表現の観点**：レポートを以下に独自の視点で書いているか。
- 授業の計画（全体）** 財務管理の概要を説明した後、財務分析、将来価値、現在価値、投資決定、行動ファイナンス、ポートフォリオ理論などを講義する。ただし、この講義は企業の財務だけではなく個人の財務についても講義を行う。
- 教科書・参考書** 教科書：市場のアノマリーと行動ファイナンス、城下賢吾、千倉書房、2002年
- メッセージ** 講義はテキストとプリントを併用して行います。
- 連絡先・オフィスアワー** sirosita@yamaguchi-u.ac.jp 授業に関することであれば、メールか講義の前後でも OK です。研究室にいるときはいつでもどうぞ

開設科目	生産管理論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	森正紀				

●**授業の概要** 授業はすべて文系学生のための、卒業後に役立つ実用的な内容である。文系出身者は自分で物を造ることはないが、商品企画の仕事や部品を買ってくる仕事、さらには労働者の管理や製品の営業などの仕事をする。そしていずれは管理職や社長となって、工場や会社の経営をすることにもなる。これらの仕事の内容を説明するのがこの授業の概要である。したがって、生産の話だけでなく、もっと広く、製造業の会社全体の話をする。キーワード：生産管理、工業経営

●**授業の一般目標** 文系学生でもかなりの者が製造業に就職する。ソニーやホンダといった企業は学生のあこがれの企業にさえなっている。たとえそうした企業で営業（販売）の仕事につくとしても、製造生産の基礎知識がないと、決していい仕事はできない。例えば、苦勞してやっと契約をとってきたのに、工場の人から怒られてしまったりすることもある。こんなことがないよう、そして少しでもいい仕事ができるように、今のうちから勉強しておいた方がよい。これがこの授業の目標であり、学んだ後は、まちがいなく、人より一歩有能な人材になっているはずである。 ●**授業の到達目標／知識・理解の観点**：物づくり企業の基本的な仕事の流れを理解できる。思考・判断の観点：いい会社とそうでない会社を見分けることができる。関心・意欲の観点：CMや広告にも、今までとちがった見方ができるようになる。態度の観点：現実の会社の事例をたくさんあげるので、話を聞くようになる。

●**授業の計画（全体）** 授業はテキストに忠実に進めていく予定。むしろテキストは授業内容をそのままとめたものになっている。したがって講義ノートそのものであると考えてもよい。黒板にはさらに分かりやすく書く予定。できるかぎり図示をして整理しやすくもする予定である。またテキストにあるさまざまな知識について、できるかぎり現実の会社や製品の事例をあげる。例えば、「技術の壁」という言葉がテキストに出てくるが、これは開発の苦勞のことであり、マツダのロータリーエンジンの話や百円ライターの話などの事例を挙げ、単に知識の丸暗記ではなく、深く理解できるように工夫する予定である。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 学ぶ目的・会社のしくみ 内容 講義概要と基礎知識 授業外指示 テキスト第 1 章～ P.8 ないし P.10 まで
- 第 2 回 項目 会社になくてはならないもの 内容 経営とは何をするのか 授業外指示 テキスト～ P.20 まで
- 第 3 回 項目 よい会社の見分け方 内容 上手なモノづくりの指標 授業外指示 テキスト第 2 章～ P.32 まで
- 第 4 回 項目 利益があがるしくみ 内容 利益率の計算 授業外指示 テキスト～ P.38 まで
- 第 5 回 項目 新製品の企画と開発 内容 新製品が世に出るまで 授業外指示 テキスト第 3 章～ P.45 まで
- 第 6 回 項目 アイデアさがし 内容 よいアイデアの選び方 授業外指示 テキスト～ P.57 まで
- 第 7 回 項目 試作品をつくる方法 内容 製品に魅力をつけるには 授業外指示 テキスト～ P.65 まで
- 第 8 回 項目 市場テスト 内容 生産の決定 授業外指示 テキスト～ P.70 まで
- 第 9 回 項目 生産計画の立て方 内容 長期計画を立てるには 授業外指示 テキスト第 4 章～ P.81 まで
- 第 10 回 項目 資材部の仕事 内容 バイヤーの役割 授業外指示 テキスト第 5 章 P.107 から P.115 まで
- 第 11 回 項目 資材購買の計画 内容 資材購買の手順 授業外指示 テキスト～ P.126 まで
- 第 12 回 項目 取引の仕方 内容 不正取引をさせない方法 授業外指示 テキスト～ P.134 まで
- 第 13 回 項目 人間らしい仕事 内容 働きがいのしくみ 授業外指示 テキスト第 6 章～ P.143 まで
- 第 14 回 項目 自己実現のための仕事 内容 会社か自分かどちらが大切 授業外指示 テキスト～ P.151
- 第 15 回 項目 (定期試験)

●**成績評価方法（総合）** 出席状況と定期試験で判断する（20％と80％の比率）。レポートや小テストはないが、よく話を聞いておくことが大切。出題ポイントは授業中に指摘するし、それが分かっていたら必ずと単位はとれる。

●**教科書・参考書** 教科書：森正紀著、「工業の経営学—製造業の経営原則—」、中央経済社刊、¥ 2,600。

開設科目	経営戦略論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	谷光太郎				

- 授業の概要** 戦略（戦術と対比しつつ）という言葉の概念を正しく理解する。其の上で、企業の経営戦略について、現代の先端産業である半導体産業のメーカー（国際的に日米韓台まで広げて）の実ケースを中心に考究してゆく。
- 授業の一般目標** （1）戦略・戦術という言葉の意味の理解 （2）企業における経営戦略の基本理解 （3）ケーススタディによる実際の経営戦略の理解 （4）日米韓台の企業戦略の相違の理解
- 授業の計画（全体）** （1）戦略・戦術という言葉の意味の理解。その他 （2）企業における経営戦略の基本理解 （3）ケーススタディによる実際の経営戦略の理解 （4）日米韓台の企業戦略の相違の理解
- 成績評価方法（総合）** 小テスト 20 %～ 40 %、宿題 20 %～ 40 %、出席 20 %～ 40 %
- 教科書・参考書** 教科書：日米韓台半導体産業比較、谷光太郎、白桃書房、2002 年
- 備考** 集中授業

開設科目	投資決定論 1	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	佐々木一郎				

●**授業の概要** 私たちが選択できる金融資産には、銀行預金や債券、株式、オプションなど、さまざまな種類があります。金融資産の選択をどのように行うかによって、自分の大切な貯蓄を投資リスクから守れるか、また、高いリターンを追及できるかが決まってきます。この授業では、個人投資家が資産選択をする上でのポイントについて学習します。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 証券と投資 内容 証券の役割
- 第 2 回 項目 現在価値と将来価値 内容 利子率の役割
- 第 3 回 項目 投資のリスクとリターン
- 第 4 回 項目 単一銘柄への集中投資 内容 集中投資の危険性
- 第 5 回 項目 複数銘柄への分散投資 内容 ポートフォリオのリスク軽減効果
- 第 6 回 項目 銀行預金選択のポイント：どの銀行にするか 内容 銀行経営の安定性と、預金利率の関係
- 第 7 回 項目 債券選択のポイント 内容 社債と格付け
- 第 8 回 項目 株式選択のポイント 内容 割安銘柄は存在するか
- 第 9 回 項目 金融派生商品 (1) 内容 先物・スワップ
- 第 10 回 項目 金融派生商品 (2) 内容 オプション
- 第 11 回 項目 投資戦略 (1) 内容 アクティブ運用
- 第 12 回 項目 投資戦略 (2) 内容 パッシブ運用
- 第 13 回 項目 自分にとって最適なポートフォリオを考える (1)
- 第 14 回 項目 自分にとって最適なポートフォリオを考える (2)
- 第 15 回 項目 全体のまとめ

●**成績評価方法（総合）** 出席状況や小レポートの提出などにより、総合的に評価します。小テスト・授業内レポート（40％）、宿題・授業外レポート（10％）、授業態度・授業への参加度（10％）、出席（40％）。

●**教科書・参考書** 教科書： 榎原茂樹・城下賢吾ほか著『入門証券論』有斐閣コンパクト（2000年）。

●**連絡先・オフィスアワー** Eメールアドレス： ic-sasa@hue.ac.jp



開設科目	投資決定論 3	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	城下賢吾				

- 授業の概要** テキストを通じた基礎理論の習得と株式ゲームによる資産価格ならびに証券市場の理解／**検索キーワード** 行動ファイナンス、資産価格、情報
- 授業の一般目標** 基礎理論の習得と基礎理論の実践への応用について学ぶ
- 授業の計画（全体）** 証券価格理論、行動ファイナンス、ポートフォリオ理論、デリバティブについて講義をします。そのさい、株式投資ゲームなどを通して実践への理解を深めていきます。
- 教科書・参考書** 教科書：市場のアノマリーと行動ファイナンス, 城下賢吾, 千倉書房, 2002 年
- メッセージ** 毎回ではありませんが、ノートパソコンを持っている人は持参してほしい。
- 連絡先・オフィスアワー** sirosita@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ライティング（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	正宗 聡				

- 授業の概要** 残念ながら、講師には受講生が書くさまざまな英文の解答例を添削することができない。したがって、本授業では、既にある英文をできるだけ記憶することにより、英作文の力をつけるという形で進めたい。
- 授業の一般目標** 基礎的な英文が書けるようになること。
- 授業の計画（全体）** 授業の前半：テキスト（英語で書かれた短編小説あるいはエッセイなど）を読むことを行いたい。授業の後半：テキストに出てきた、基本的な英文について講師が解説するとともに、全員で反復練習する。
- 成績評価方法（総合）** 期末試験が中心である。ただし、出席は評価の前提となる。
- 教科書・参考書** 教科書：プリントを配布する。／参考書：適宜紹介する。
- メッセージ** 英和辞典（電子版でも可能）を持参すること。予習を欠かさないこと。
- 連絡先・オフィスアワー** 未定

開設科目	TOEIC リーディング (730)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山根 和明				

●**授業の概要** 1, 2年で一流企業、大学院入試に TOEIC 600 は必須という時代になる。文系の就職が一層厳しくなる時代の自己アピールとして TOEIC は大切な武器である。キャリアアップに TOEIC 730 以上は大変有利となる。この授業では英会話上達も視点に入れ、楽しく、効率良い TOEIC 対策を行なう。諸君の現在の得点は問わない（この授業は既得点が 600 点より上でも下でも得るものは多々ある。大きい夢を持って日本、世界に羽ばたきたいと夢を描いている若者の受講を期待している。リスニングと併せて受講するのが理想。(5-6, 7-8 校時連続) 山大生としてのプライドを持とう。\*すべて手作りの教材で行なう。効率の良い TOEIC 指導は当然ながら、英会話の上達も目指す。またギターによる英語ポップスの弾き語り指導(発音矯正する)プログラムもこの講座の特色だ。\*学年の異なる学生達がゼミのように互いに親しく語り合え、競い合えるのもこのクラスの特色である。

●**授業の一般目標** 記載なし。

●**授業の計画(全体)** 毎回、英語の歌唱、英会話演習を行なったあと、TOEIC 対策授業を行なう。第1週から第2週: TOEIC part 1,2,3,4 攻略テクニック学習 第3週から第4週: TOEIC part5,6,7 演習、解説 第5週から第6週: TOEIC part5,6,7 からの達成度テスト 第7週から第8週: 各種既出問題からの part5,6,7 の実践演習と解説 第9週から第10週: 前週まで学んだものの復習 第11週から第12週、13週: 模擬テストとしてハーフテストを実施、解答、レベルチェック 内容・項目 1 TOEIC テスト part1,2,3,4 手作りプリント+テープによる指導 2 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープによる指導 3 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープ(応用)による指導 4 英語の歌のプリント(ビートルズ初期の作品中心など配布ギターによる発音矯正を念頭においた歌唱指導 5 初、中級レベルの会話のシュミレーション 6 TOEIC テストミニテスト(ハーフテスト) - 1 実施 7 TOEIC テストミニテスト(ハーフテスト) - 2 実施

●**教科書・参考書** 教科書: 手作りプリント主体 / 参考書: 基本文法力を短期間で身につけるためには拙著「TOEIC テストオールラウンド英文法」(文英堂刊)を利用すると効率よく文法が学べる。

●**メッセージ** 夢を持とう。そして夢の実現の第一歩に TOEIC テストを位置付けよう。「やる気になってやれないことなどおよそこの世にはない!」自分に勝つ! e-mail address: aki@yeswithyou.com TOEIC 600 を取っても話せる人となると皆無に等しいのが現状。そこでこのクラスを受講したら、日常会話がかなりこなせる!というレベルに持って行きたい。頑張ろう!「さすが経済の学生だね。英語しゃべれるんだね」と言わせたいね。

開設科目	TOEIC リスニング (600)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山根和明				

●**授業の概要** 1, 2年で一流企業、大学院入試に TOEIC 600 は必須という時代になる。文系の就職が一層厳しくなる時代の自己アピールとして TOEIC は大切な武器である。キャリアアップに TOEIC 730 以上は大変有利となる。この授業では英会話上達も視点に入れ、楽しく、効率良い TOEIC 対策を行なう。諸君の現在の得点は問わない（この授業は既得点が 600 点より上でも下でも得るものは多々ある。大きい夢を持って日本、世界に羽ばたきたいと夢を描いている若者の受講を期待している。リスニングと併せて受講するのが理想。(5-6, 7-8 校時連続) 山大生としてのプライドを持とう。\*すべて手作りの教材で行なう。効率の良い TOEIC 指導は当然ながら、英会話の上達も目指す。またギターによる英語ポップスの弾き語り指導(発音矯正する)プログラムもこの講座の特色だ。\*学年の異なる学生達がゼミのように互いに親しく語り合え、競い合えるのもこのクラスの特色である。

●**授業の一般目標** 記載なし。

●**授業の計画(全体)** 毎回、英語の歌唱、英会話演習を行なったあと、TOEIC 対策授業を行なう。第1週から第2週: TOEIC part 1,2,3,4 攻略テクニック学習 第3週から第4週: TOEIC part5,6,7 演習、解説 第5週から第6週: TOEIC part5,6,7 からの達成度テスト 第7週から第8週: 各種既出問題からの part5,6,7 の実践演習と解説 第9週から第10週: 前週まで学んだものの復習 第11週から第12週、13週: 模擬テストとしてハーフテストを実施、解答、レベルチェック 内容・項目 1 TOEIC テスト part1,2,3,4 手作りプリント+テープによる指導 2 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープによる指導 3 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープ(応用)による指導 4 英語の歌のプリント(ビートルズ初期の作品中心など配布ギターによる発音矯正を念頭においた歌唱指導 5 初、中級レベルの会話のシュミレーション 6 TOEIC テストミニテスト(ハーフテスト) - 1 実施 7 TOEIC テストミニテスト(ハーフテスト) - 2 実施

●**成績評価方法(総合)** 日常点重視。期末テスト(50%)

●**メッセージ** 夢を持とう。そして夢の実現の第一歩に TOEIC テストを位置づけよう。

開設科目	経営工学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	橋本 寛				

- 授業の概要** ネットワークで表現される計画問題などを取り上げ、それらの解法と応用について平易に解説する。
- 授業の一般目標** 基本的なネットワーク計画問題を理解するとともにそのアルゴリズムの考え方について学ぶ。
- 授業の計画（全体）** ネットワーク計画法の諸問題、ネットワークの基礎概念、木の定義と性質、最短経路問題、PERT、輸送問題、割り当て問題、多期間モデル、Warshall-Floyd 法、Bottle neck problem、最大流問題、最小流問題、最小費用流問題など
- 成績評価方法（総合）** 期末試験による。
- 教科書・参考書** 教科書： 使用しない。
- メッセージ** 出席して理解するのが能率的
- 連絡先・オフィスアワー** 経済学部 A227、オフィスアワーを設定する予定

開設科目	情報処理論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	成富敬				

- 授業の概要** 経営科学におけるいろいろな問題を取りあげ、数理的あるいはコンピュータを用いたアプローチ方法について学習する。／**検索キーワード** 経営科学, 情報処理
- 授業の一般目標** 経営科学におけるいろいろな問題に対する数理的あるいはコンピュータを用いた解決方法を習得する。
- 授業の計画 (全体)** 1. データの処理と分析 2. 最適化 3. 在庫管理 4. 需要予測 5. 意思決定 6. コンピュータによる問題解決
- 成績評価方法 (総合)** 試験 (75 %) と出席 (25 %) で評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：資料を配布する。
- メッセージ** 猛勉強しましょう。

開設科目	情報科学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	成富敬				

●**授業の概要** コンピュータやネットワークの概要あるいは情報技術の具体例をとおして、情報の収集・分析・加工・発信・活用がどのようになされているのかについて学習する。また、電子商取引やネットワーク犯罪などの最近のトピックについても取り上げる。／**検索キーワード** コンピュータ、プログラミング、データベース

●**授業の一般目標** 1. 情報の収集・分析・加工・発信・活用がどのようになされているのかについての知識や基礎的技術を習得する。 2. 電子商取引やネットワーク犯罪などの最近のトピックについての学習をとおして、デジタル技術の可能性と危険性について考える。

●**授業の計画（全体）** 授業内容は次のとおりである。ただし、順番は前後することもあります。 1. 情報とコンピュータ 2. コンピュータの概要（ハードウェア、ソフトウェア、オペレーティングシステム） 3. ネットワーク（インターネット、電子メール、分散処理） 4. プログラミング 5. データ構造とアルゴリズム 6. データベース 7. パターン認識とその応用（文字、画像、音声の自動認識、ヒューマンインタフェース） 8. トピック紹介（電子商取引、将来の電脳（コンピュータ）、ネットワーク犯罪、等々）

●**成績評価方法（総合）** 定期試験（中間・期末試験）および出席で判定する。試験は知識・理解の観点に特に重点を置いた問題を出題する。評価割合は試験 75 %，出席 25 %。

●**教科書・参考書** 教科書：資料を配布する。

●**メッセージ** 猛勉強しましょう。

開設科目	経営数学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	南正義				

●**授業の概要** 極値問題と最大最小問題を中心に数理計画法について学習する。／**検索キーワード** 数理計画法、極値問題、最大最小問題

●**授業の一般目標** 1. 極値理論のための数学について理解する。 2. 等式条件のもとでの極値条件と最大最小問題について理解する。 3. 不等式条件のもとでの極値条件と最大最小問題について理解する。 4. 凸計画問題について理解する。 5. 線形計画問題のシンプレックス法による解法について理解する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：数理計画法のための数学、極値問題と最大最小問題の数学的理論を理解する。**思考・判断の観点**：数学的思考能力を身につける。**関心・意欲の観点**：数学理論への関心をもつ。**態度の観点**：数学から逃げない態度を養う。**技能・表現の観点**：計算と数学的表現力を身につける。

●**授業の計画（全体）** 極値理論の数学、極値問題と最大最小問題を中心に数理計画法について学習する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 数理計画問題の例 (I) 授業外指示 教科書 p 1 - 2、教科書 p 6 授業記録 教科書
- 第 2 回 項目 行列 授業外指示 教科書 p 7 - 9 授業記録 教科書
- 第 3 回 項目 行列式 授業外指示 教科書 p 9 - 12 授業記録 教科書
- 第 4 回 項目 部分ベクトル空間の次元と基底 授業外指示 教科書 p 12 - 15 授業記録 教科書
- 第 5 回 項目 正則行列と逆行列 授業外指示 教科書 p 17 - 18 授業記録 教科書
- 第 6 回 項目 行列の階数 授業外指示 教科書 p 15 - 16 授業記録 教科書
- 第 7 回 項目 ベクトルの内積・ノルム・直交補空間 授業外指示 教科書 p 18 - 21 授業記録 教科書
- 第 8 回 項目 実数の連続性・数列の極限值・点列の収束 授業外指示 教科書 p 38 - 40 授業記録 教科書
- 第 9 回 項目 近傍・開集合・閉集合 授業外指示 教科書 p 41 - 43 授業記録 教科書
- 第 10 回 項目 1 変数関数の極限・2 変数関数の極限 授業外指示 教科書 p 43 授業記録 教科書
- 第 11 回 項目 連続関数の最大値・最小値 授業外指示 教科書 p 43 - 45 授業記録 教科書
- 第 12 回 項目 1 変数関数の微分・平均値の定理 授業外指示 教科書 p 48 - 50 授業記録 教科書
- 第 13 回 項目 多変数関数の偏微分 授業外指示 教科書 p 51 - 53 授業記録 教科書
- 第 14 回 項目 偏導関数の性質と合成関数の微分公式 授業外指示 教科書 p 52 - 56 授業記録 教科書
- 第 15 回 項目 記載量制約のため、第 15 回以降の授業内容は省略する。

●**成績評価方法（総合）** 中間試験と期末試験の 2 回の定期試験で主に評価し、それぞれ 20%、40% 合計 60% で評価し、出席点の評価を 30%、授業態度・授業への参加度の評価を 10% 合計 100% で評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：数理計画法入門、押川元重・南 正義、培風館・生、1990 年／参考書：授業中に指示する。

●**メッセージ** 「線形代数」と「微分法」の知識が望ましい。

●**連絡先・オフィスアワー** 金曜日昼休み：経済学部 A 棟 3 階 302 研究室



開設科目	システム科学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	南正義				
<p>●<b>授業の概要</b> 最短時間制御問題を中心に最適制御問題の数学理論について講義する。／<b>検索キーワード</b> 最適制御、最適制御問題、最大原理</p> <p>●<b>授業の一般目標</b> 1. 最適制御理論のための数学について理解する。 2. 例を中心に最適制御問題を理解する。 3. 最適制御問題の最大原理について理解する。</p> <p>●<b>授業の到達目標</b>／ <b>知識・理解の観点</b>：最適制御のための数学と最大原理について理解する。 <b>思考・判断の観点</b>：数学的思考能力を身につける。 <b>関心・意欲の観点</b>：最適制御数学への関心を身につける。 <b>態度の観点</b>：数学から逃げない態度を養う。 <b>技能・表現の観点</b>：計算と数学的表現力を身につける。</p> <p>●<b>授業の計画（全体）</b> 最適制御理論の数学、最適制御問題の例と最大原理について学習する。</p> <p>●<b>授業計画（授業単位）</b>／<b>内容・項目等</b>／<b>授業外学習の指示等</b></p> <p>第 1 回 <b>項目</b> ベクトルの内積・ノルム <b>授業外指示</b> 教科書 p 2 3 - 2 5、教科書 p 5 2 - 5 3 <b>授業記録</b> 教科書</p> <p>第 2 回 <b>項目</b> 数列の極限值・ベクトル列の収束 <b>授業外指示</b> 教科書 p 2 5 - 2 6 <b>授業記録</b> 教科書</p> <p>第 3 回 <b>項目</b> 開集合・閉集合 <b>授業外指示</b> 教科書 p 2 7 - 3 0 <b>授業記録</b> 教科書</p> <p>第 4 回 <b>項目</b> 1 変数関数の極限值・連続関数・区分的連続関数 <b>授業外指示</b> 教科書 p 3 0 - 3 2 <b>授業記録</b> 教科書</p> <p>第 5 回 <b>項目</b> 中間値の定理と最大値・最小値の存在定理 <b>授業外指示</b> 教科書 p 3 1 - 3 2、教科書 p 3 4 - 3 6 <b>授業記録</b> 教科書</p> <p>第 6 回 <b>項目</b> 1 変数関数の微分係数・導関数・平均値の定理 <b>授業外指示</b> 教科書 p 3 2 - 3 3 <b>授業記録</b> 教科書</p> <p>第 7 回 <b>項目</b> 多変数関数の偏微分係数・偏導関数と行列 <b>授業外指示</b> 教科書 p 3 6、教科書 p 4 5 - 4 6 <b>授業記録</b> 教科書</p> <p>第 8 回 <b>項目</b> 定積分・不定積分 <b>授業外指示</b> 教科書 p 3 4 <b>授業記録</b> 教科書</p> <p>第 9 回 <b>項目</b> 常微分方程式・連立常微分方程式 <b>授業外指示</b> 教科書 p 1 6 - 1 8 <b>授業記録</b> 教科書</p> <p>第 10 回 <b>項目</b> 中間試験</p> <p>第 11 回 <b>項目</b> 線形自律系の最短時間制御問題の定式化 <b>授業外指示</b> 教科書 p 5 - 6、教科書 p 7 - 1 0 <b>授業記録</b> 教科書</p> <p>第 12 回 <b>項目</b> 最短時間制御問題の例とその解法（その 1） <b>授業外指示</b> 教科書 p 1 0 - 1 3 <b>授業記録</b> 教科書</p> <p>第 13 回 <b>項目</b> 最短時間制御問題の例とその解法（その 2） <b>授業外指示</b> 教科書 p 1 3 - 1 6 <b>授業記録</b> 教科書</p> <p>第 14 回 <b>項目</b> 固定端点の場合の最適制御問題と最大原理 <b>授業外指示</b> 教科書 p 1 1 1 - 1 1 4、教科書 p 1 2 0 - 1 2 1、教科書 p 1 2 9 <b>授業記録</b> 教科書</p> <p>第 15 回 <b>項目</b> 期末試験</p> <p>●<b>成績評価方法（総合）</b> 中間試験と期末試験の 2 回の定期試験で主に評価し、それぞれ 2 0 %、4 0 % 合計 6 0 % で評価し、出席点の評価を 3 0 %、授業態度・授業への参加度の評価を 1 0 % 合計 1 0 0 % で評価する。</p> <p>●<b>教科書・参考書</b> 教科書：最適制御数学入門、押川元重・南 正義、培風館・生、1999 年／参考書：授業中に指示する。</p> <p>●<b>メッセージ</b> 「線形代数」と「微分法」・「積分法」の知識が望ましい。</p> <p>●<b>連絡先・オフィスアワー</b> 金曜日昼休み：経済学部 A 棟 3 階 3 0 2 研究室</p>					

開設科目	会計学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	松浦良行				

●**授業の概要** 今年の会計学は、通常の講義形式で行います。講義でカバーする範囲は、日商2級の商業簿記の領域と経営分析です。ただし、この講義を履修する人の多くは簿記検定を受検するわけではないでしょうから、財務会計のエッセンスを理解する手助けになるような講義を行います。進度は皆さんの理解や興味に応じて柔軟に変更していきますが、講義では次回の講義内容に関連するテキストの箇所を伝え、それを読んできていることを前提にお話ししていきます。また、必要に応じて問題演習を行います。  
／**検索キーワード** 財務会計、財務分析、商業簿記

●**授業の一般目標** 上でも述べたように、講義内容は主として日商簿記2級レベルの財務会計と財務指標です。簿記の学習によって、受講生の皆さんはすでにある程度仕訳を行うことができるようになっているはずですから、会計学ではそれらの仕訳の背後にはどのような企業活動があるのか、また一つ一つの勘定や仕訳にはどのような意味があるのかを理解してもらいます。また、正確に取引を集計したり、財務諸表が作れるようになったとしても、それをどう使うかを知らなければ宝の持ち腐れになってしまいます。したがって、財務分析の基礎を实践でき、企業の特徴を財務面から知ることができるようになってもらいたいと思います。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 株式会社の基本的な会計問題を指摘できる。2. 与えられた条件に沿って正確な会計測定を行うことができる。3. キャッシュフローと損益の関係を説明できる。4. 基本的な財務比率の計算方法とその意義を説明できる。**思考・判断の観点**：1. 代替的な会計処理法から、企業の置かれた状況に照らし合わせて最適のものを選択できる。2. 財務分析の結果を企業の経営戦略等と照らし合わせ、企業の現状分析・将来予測を行うことができる。

●**授業の計画（全体）** 下に示すテキストにしたがって、最初に企業活動と会計数値の対応関係について講義し、その後個別論点（棚卸資産会計、固定資産会計など）について説明していきます。その後、今年成熟企業と成長企業で財務数値がどのように異なるか、また異業種間で財務数値はどのように異なるかを、有価証券報告書を利用して検討していきます。皆さんには財務分析の際に、指示した企業のHPもしくはEDINETという有価証券報告書閲覧システムから有価証券報告書をダウンロードしてもらう必要があります。

●**成績評価方法（総合）** 評価は中間テストと期末テストの二回のテストの合計点で行います。また、中間テストの結果多くの方が苦手だと判断できる箇所があれば、それについてレポートを課し、評価に加える予定です。

●**教科書・参考書** 教科書：MBA 財務会計，金子智朗，日経BP社，2002年；少し高いですが（定価2400円）、一般的なビジネスマンが理解しておくべき会計知識をととても明快に説明しており、将来的にも持っておいて損にならないのでこの本をテキストにしました（生協で購入してください）。MBAと銘打っていますが、別に難しいテキストではありません。これと配付資料を用いて講義をしてきます。／参考書：会計諸則集，税務経理協会，税務経理協会，2003年；講義で常に基準を参照するわけではないですが、会計専門家を目指す人は是非購入してください。

●**メッセージ** この講義は、受講生の皆さんがすでに簿記Iを履修していることを前提とします。したがって、簿記を全く知らない人が受講するとつらいかもしれません。

●**連絡先・オフィスアワー** matu@yamaguchi-u.ac.jp 在室中はいつでもご質問にお答えします。

開設科目	国際会計論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉水佐知子				

- 授業の概要** 現在の会計はとにかく複雑で、いろいろな仮定や複雑な計算を必要としています。この講義では会計学の授業を補いたいと思います。いわゆる日商1級の会計学を扱います。
- 授業の一般目標** いわゆる会計学の発展領域の用語、考え方の基礎及び枠組みの習得を目標にしています。
- 授業の計画（全体）** 1. 現在割引価値計算 2. リース会計 3. 年金会計 4. 減損会計 5. ストックオプション会計 6. 外貨換算取引会計 7. その他
- 成績評価方法（総合）** 評価は試験が70%、出席が30%。
- 教科書・参考書** 教科書：教科書・参考書は後日知らせします。
- メッセージ** 少なくとも簿記1と会計学とは履修しておくこと。

開設科目	会計監査 1	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	吉水佐知子				

- 授業の概要** 会計の制度は会計監査を前提として機能しています。そのため、企業は、この会計監査を 理解し監査に協力する姿勢が必要です。この観点から講義を行います。最新の意見書とも 可能な限り取り込む予定です。
- 授業の一般目標** 会計監査の用語の習熟と、監査フレームワークの習得および監査の将来性の学習をしてほしいと思っております。
- 授業の計画（全体）** 1. 監査報告書 2. 監査手続き 3. 監査人 4. 監査制度
- 成績評価方法（総合）** 評価は試験が 70%、出席が 30%。
- 教科書・参考書** 教科書：教科書・参考書は後日にお知らせします。
- メッセージ** 簿記 1 か会計学は履修しておくこと。

開設科目	簿記 1	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野村弘				

●**授業の概要** 簿記は帳簿記入の略で、会社、個人商店など事業を行う全ての事業所が行うものであり、ビジネス全般に必要とされる知識です。この授業では簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記録の仕方、報告書の作成を身に付けるための講義と問題演習を行います。

●**授業の一般目標** 個人商店を前提とした複式簿記による仕訳、記帳方法、簿記一巡の流れを学習し、簿記検定 3 級に合格できる基礎知識の修得を目標とする。なお、個人商店を前提としているが、大学で簿記の基礎を学ぶ理由のひとつは、日本を代表する約 3000 社に関する有価証券報告書を読む基礎を築くことであり、単位を少なくとも百万円か、億円と読み替えること。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 簿記の目的・貸借対照表とは・損益計算書とは
- 第 2 回 項目 取引・仕訳・勘定口座への記入方法
- 第 3 回 項目 試算表・商品売買記帳方法取引運賃および発送費の記帳方法
- 第 4 回 項目 取引運賃および発送費の記帳方法、手付金
- 第 5 回 項目 現金および預金の記帳方法、手形の記帳方法
- 第 6 回 項目 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第 7 回 項目 その他の勘定の記帳方法、主要簿および補助簿
- 第 8 回 項目 主要簿および補助簿（売掛金元帳から）・伝票会計
- 第 9 回 項目 決算の流れ・決算整理仕訳（売上原価の計算）
- 第 10 回 項目 英米式決算法・精算表
- 第 11 回 項目 その他の決算整理（貸倒、減価償却）
- 第 12 回 項目 その他の決算整理（固定資産の売却、費用および収益の繰延・見越）
- 第 13 回 項目 その他の決算整理（費用および収益の繰延・見越、消耗品）
- 第 14 回 項目 その他の決算整理（現金過不足、有価証券、引出金）
- 第 15 回 項目 財務諸表 (P/L・B/S)
- 第 16 回 項目 補助日

●**成績評価方法（総合）** 試験 80%、出席 20%

●**教科書・参考書** 教科書：テキスト名：ALFA、筆者名：大原簿記学校 教材開発部

開設科目	簿記 1	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	櫻田 謙				

●**授業の概要** 税務会計・経営分析・管理会計・原価計算・監査・情報会計・会計学など、すべての会計科目の基礎にあるのがこの簿記です。会計学を勉強するならこの簿記を避けて通れません。簿記の知識は必要不可欠であり、経済学部 of 学徒である以上、簿記は習得しておかねばならない教養の一つとなります。さらに簿記という学習科目は計算手続きを学ぶ科目であるから、中間テスト・期末テストが間近に迫って、一夜漬けや朝漬けでは克服できない科目なのであり、暗記科目と対極をなす科目であることに注意して学習してください。このため講義を欠席することなく聴講することの重要性は言うに及ばず、自学自習にも心がけてください。／**検索キーワード** 期間配分 試算表 精算表 損益計算書 貸借対照表

●**授業の一般目標** 講義終了時点で、日商簿記検定試験 3 級相当の総合問題を解くことができる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 検定問題が解けることが、この講義で一番求められ、評価されることとなります。**思考・判断の観点**： 只ひたすら問題を解くとすると退屈になるので、問題の答えが、なぜ模範解答のようになるのか、考えてみましょう。**関心・意欲の観点**： 進級したいと思う方は、一生懸命がんばるはずですよ。**態度の観点**： →本ページ後段の「メッセージ」を参照してください。

●**授業の計画（全体）** 講義終了時点までに、基礎的な商業簿記の原理、記帳および決算等に関する初歩的な実務を理解することができる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第 1 回

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回 **項目** 中間テスト

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回 **項目** 中間テスト

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回 **項目** 中間テスト

●**成績評価方法（総合）** 本講義は原則として毎回確認テストがあります。さらに本講義開催中に行われる第 108 回日商簿記検定試験を受験し、当該検定試験 3 級以上を合格した受講者に対しては、当該成績を以て本講義の評価に換えることも可能とする。また本講義中に開催される中間テストで高得点を獲得した受講者に対しても、同様の措置を講ずる。またはレポートを課す場合があることを付言しておきます。さらに質問は講義中にしましょう。その方が自分&周りの皆さんのためになります。したがって質問した受講者には成績に加点致します。

●**教科書・参考書** 教科書： 講義開講前に学生用掲示板にて告知する。

●**メッセージ** サングラスを掛けて受講したり、講義中、みだりに立ち上がり退席してゆくという行儀の悪い学生さんがいますが、勉強中はカッコつけたり、気が散ったりせずに、しっかりとセルフコントロールしてください。お互いに気持ちのいい講義になればいいなあ、と思っています。

開設科目	簿記 1	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野村弘				

●**授業の概要** 簿記は帳簿記入の略で、会社、個人商店など事業を行う全ての事業所が行うものであり、ビジネス全般に必要とされる知識です。この授業では簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記録の仕方、報告書の作成を身に付けるための講義と問題演習を行います。

●**授業の一般目標** 個人商店を前提とした複式簿記による仕訳、記帳方法、簿記一巡の流れを学習し、簿記検定 3 級に合格できる基礎知識の修得を目標とする。なお、個人商店を前提としているが、大学で簿記の基礎を学ぶ理由のひとつは、日本を代表する約 3000 社に関する有価証券報告書を読む基礎を作ることであり、単位を少なくとも百万円か、億円と読み替えること。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 簿記の目的・貸借対照表とは・損益計算書とは
- 第 2 回 項目 取引・仕訳・勘定口座への記入方法
- 第 3 回 項目 試算表・商品売買記帳方法取引運賃および発送費の記帳方法
- 第 4 回 項目 取引運賃および発送費の記帳方法、手付金
- 第 5 回 項目 現金および預金の記帳方法、手形の記帳方法
- 第 6 回 項目 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第 7 回 項目 その他の勘定の記帳方法、主要簿および補助簿
- 第 8 回 項目 主要簿および補助簿（売掛金元帳から）・伝票会計
- 第 9 回 項目 決算の流れ・決算整理仕訳（売上原価の計算）
- 第 10 回 項目 英米式決算法・精算表
- 第 11 回 項目 その他の決算整理（貸倒、減価償却）
- 第 12 回 項目 その他の決算整理（固定資産の売却、費用および収益の繰延・見越）
- 第 13 回 項目 その他の決算整理（費用および収益の繰延・見越、消耗品）
- 第 14 回 項目 その他の決算整理（現金過不足、有価証券、引出金）
- 第 15 回 項目 財務諸表 (P/L・B/S)
- 第 16 回 項目 補助日

●**成績評価方法（総合）** 試験 80%、出席 20%

●**教科書・参考書** 教科書：テキスト名：ALFA、筆者名：大原簿記学校 教材開発部

開設科目	簿記 1	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野村弘				

●**授業の概要** 簿記は帳簿記入の略で、会社、個人商店など事業を行う全ての事業所が行うものであり、ビジネス全般に必要とされる知識です。この授業では簿記の仕組み、簿記独特の専門用語、記録の仕方、報告書の作成を身に付けるための講義と問題演習を行います。

●**授業の一般目標** 個人商店を前提とした複式簿記による仕訳、記帳方法、簿記一巡の流れを学習し、簿記検定 3 級に合格できる基礎知識の修得を目標とする。なお、個人商店を前提としているが、大学で簿記の基礎を学ぶ理由のひとつは、日本を代表する約 3000 社に関する有価証券報告書を読む基礎を築くことであり、単位を少なくとも百万円か、億円と読み替えること。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 簿記の目的・貸借対照表とは・損益計算書とは
- 第 2 回 項目 取引・仕訳・勘定口座への記入方法
- 第 3 回 項目 試算表・商品売買記帳方法取引運賃および発送費の記帳方法
- 第 4 回 項目 取引運賃および発送費の記帳方法、手付金
- 第 5 回 項目 現金および預金の記帳方法、手形の記帳方法
- 第 6 回 項目 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第 7 回 項目 その他の勘定の記帳方法、主要簿および補助簿
- 第 8 回 項目 主要簿および補助簿（売掛金元帳から）・伝票会計
- 第 9 回 項目 決算の流れ・決算整理仕訳（売上原価の計算）
- 第 10 回 項目 英米式決算法・精算表
- 第 11 回 項目 その他の決算整理（貸倒、減価償却）
- 第 12 回 項目 その他の決算整理（固定資産の売却、費用および収益の繰延・見越）
- 第 13 回 項目 その他の決算整理（費用および収益の繰延・見越、消耗品）
- 第 14 回 項目 その他の決算整理（現金過不足、有価証券、引出金）
- 第 15 回 項目 財務諸表 (P/L・B/S)
- 第 16 回 項目 補助日

●**成績評価方法（総合）** 試験 80%、出席 20%

●**教科書・参考書** 教科書：テキスト名：ALFA、筆者名：大原簿記学校 教材開発部



開設科目	簿記2	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	山下訓				

●**授業の概要** この授業は簿記1の続きです。簿記1の授業だけでは、有価証券報告書を読む基礎として不足している領域、特に株式会社会計を扱います。企業会計では、企業活動を「2面的に」捉えて情報を出すことはこの約400年間に渡る欧米経済上の慣習です。企業活動を2面的に捉えることは、企業会計の「癖」です。したがって、資産・負債・資本各項目について、その「癖」を詳細に勉強し、会計学を勉強する基礎を作ることを目的としています。／**検索キーワード** 株式会社会計、原価配分（減価償却も含む）、期間配分、試算表、精算表、損益計算書、貸借対照表

●**授業の一般目標** いわゆる日商2級の商業簿記を理解し、精算表を作成できるようになる。更に株式会社会計の基礎を理解し、財務諸表を作成できるようになる。

●**授業の計画（全体）** 主内容は、＜1＞手形・投資有価証券・特殊商品販売、＜2＞株式会社会計（繰延資産・未処分利益・社債・税金）である。更に、＜3＞決算で精算表を作成する。

●**成績評価方法（総合）** 精算表作成と株式会社会計の仕訳を試験できます。簿記1で学んだ日商3級程度の精算表が作成できることを前提として、授業を行う。受講者は絶えず日商3級の精算表作成を復習することが望まれる。その際、易しい問題を速く解けることが大事である。また、簿記2の期末試験でも精算表を問うが、それは簿記1（いわゆる日商3級）の精算表に、新しい事項が加わるだけで、基本形は全く変わらないので、結局は日商3級の精算表を完全に作成できることが結局は早道であり、重要でもある。原価配分（商品等の売上原価、設備資産等の減価償却）、期間配分（前払費用、未収収益、未払費用、前受収益）については、精算表を通じて修正を行い、損益計算書・貸借対照表を作成できるように復習しておくこと。

●**教科書・参考書** 教科書：『新検定 簿記講義2級 商業簿記』中央経済社／参考書：『複式簿記原理』山榎忠恕 千倉書房

●**メッセージ** a) 出席はとらないが、もちろん毎回出席が望ましい。広範囲であるため、授業では要点を説明していく。 b) ただ授業に出席しても合格点を超えないであろう。しかし、小テストを行う時間が無いので、宿題を絶えず出すので積極的に提出することが望まれる。宿題を好機に、財務諸表の作成を身につけなければならない。 c) 質問はメールでも研究室でも受けるので、気楽に来られたし。

●**連絡先・オフィスアワー** yamasita@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 内線5518 金曜昼休み

開設科目	工業簿記 1	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	中田範夫				

●**授業の概要** 日商簿記検定試験 2 級程度の授業を行う。

●**授業の一般目標** 日商簿記検定試験 2 級が合格できるレベルを目指す。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 工業簿記の基礎知識
- 第 2 回 項目 材料費の計算と記帳
- 第 3 回 項目 労務費の計算と記帳
- 第 4 回 項目 経費の計算と記帳製造間接費の計算と記帳
- 第 5 回 項目 部門別計算
- 第 6 回 項目 個別原価計算
- 第 7 回 項目 作業屑総合原価計算
- 第 8 回 項目 単純総合原価計算工程別総合原価計算
- 第 9 回 項目 組別総合原価計算等級別総合原価計算
- 第 10 回 項目 副産物の計算と記帳連産品
- 第 11 回 項目 減損と仕損の処理
- 第 12 回 項目 製品の受払と営業費製造原価報告書と財務諸表
- 第 13 回 項目 標準原価計算
- 第 14 回 項目 直接原価計算損益分岐点分析
- 第 15 回 項目 原価予測の方法本社工場会計

●**成績評価方法（総合）** 期末試験と出席を評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：教科書・2 級工業簿記、岩崎 勇、一橋出版、2002 年；2 級工業簿記、岩崎 勇著、一橋出版、2002

●**連絡先・オフィスアワー** 電話：933-5556（研究室） オフィスアワー：授業中に伝えます

開設科目	管理会計論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	板垣 忠				

●**授業の概要** すべての企業の経営者や管理者は、合理的な経営管理を行って、可能な限り業績を向上し、もって企業の存続・発展を計る責任を負っている。企業の経営者や管理者がこの責任を果たすためには、業績の向上に役立つ利益や原価に関する会計情報が不可欠である。この会計情報を計算し、それを経営者や管理者に提供する会計が管理会計である。この管理会計について講義する。／**検索キーワード** 損益分岐点、利益計画、予算、標準原価、事業部制

●**授業の一般目標** 管理会計の基礎理論と具体的な技法についての理解を深める。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：経営管理の局面ごとに管理会計技法を適用する。**思考・判断の観点**：管理会計技法を体系化する。**関心・意欲の観点**：管理会計の理論と実務の乖離を発見する。**態度の観点**：管理会計の理論と実務の乖離に対応する。

●**授業の計画（全体）** 【第1週】（項目）オリエンテーション（内容）教員の自己紹介、授業計画、成績評価の方法（授業外指示）シラバスをよく読んでおくこと【第2週】（項目）企業経営と会計（内容）現代企業の特性と会計情報の重要性について説明する（授業外指示）現実の企業を想定しておくこと【第3週】（項目）管理会計と財務会計（内容）管理会計情報と財務会計情報の違いについて説明する（授業外指示）貸借対照表と損益計算書を理解しておくこと【第4週】（項目）経営管理者の職能（内容）経営管理者の職能に対する管理会計情報の役割について説明する（授業外指示）資料を読んでおくこと【第5週】（項目）管理会計の体系（内容）管理会計がどんな会計から成り立っているかを説明する（授業外指示）参考書1のP.25-35を読んでおくこと【第6週】（項目）利益計画（内容）利益計画の設定手順を説明する（授業外指示）資料を読んでおくこと【第7週】（項目）CVP分析（内容）CVP分析の原理と具体例について説明する（授業外指示）参考書2のP.81-88を読んでおくこと【第8週】（項目）予算管理（1）（内容）予算管理の原則を説明する（授業外指示）参考書2のP.99-103を読んでおくこと【第9週】（項目）予算管理（2）（内容）予算管理の具体的手続きを説明する（授業外指示）参考書2のP.104-123を読んでおくこと【第10週】（項目）標準原価管理（1）（内容）標準原価管理の意義を説明する（授業外指示）参考書3を読むこと【第11週】（項目）標準原価管理（2）（内容）標準原価管理の具体的手続きを説明する（授業外指示）参考書3を読むこと【第12週】（項目）予算管理と標準原価管理（内容）管理会計の技法の体系化について説明する（授業外指示）参考書3のP.185-196を読んでおくこと【第13週】（項目）事業部業績管理会計（内容）事業部業績管理会計の構造を説明する（授業外指示）参考書4を読むこと【第14週】（項目）原価企画（内容）原価企画の考え方と手順を説明する【第15週】（項目）設備投資の経済計算（内容）設備投資の経済計算の諸方法を説明する

●**成績評価方法（総合）**（1）授業の中で小テストを1回行う。（2）期末に試験を行う。以上を、知識・理解、思考・判断、関心・意欲、態度の各観点で評価する。（3）評価割合は定期試験80%、小テスト20%。

●**教科書・参考書** 教科書：使用しない。適宜資料を配布する。／参考書：1. 溝口一雄：管理会計の基礎 2. 岡本清他：管理会計 3. 板垣忠：標準原価計算 4. 谷武幸：事業部業績の測定と管理

●**メッセージ** 学生の皆さんと一緒にいい授業をしたいと思っています。管理会計的センスを身につけるつもりで授業に参加してください。

●**連絡先・オフィスアワー** 毎回授業の終了後、非常勤講師室

開設科目	原価計算論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	藤田智丈				

●**授業の概要** 日商簿記検定試験 1 級原価計算程度の内容を講義する。

●**授業の一般目標** 原価計算には財務会計目的と管理会計目的との 2 つがあるが、前者の財務会計目的のための原価計算をテキストの内容に従いながら説明する。

●**授業の計画 (全体)** 1. 原価の概念と原価計算の目的 2. 制度的原価計算と特殊原価調査ならびに原価概念 3. 費目別原価計算 4. 部門別原価計算 5. 個別原価計算 6. 単純総合原価計算 7. 工程別原価計算 (累積法) 8. 工程別原価計算 (非累積法) 9. 組別総合原価計算 10. 等級別原価計算 11. 連産品の原価計算 12. 標準原価計算 (勘定記入の方法) 13. 標準原価計算 (差異分析一直接費) 14. 標準原価計算 (差異分析一間接費) 15. 直接原価計算 16. 活動基準原価計算 17. ライフサイクル・コストニング

●**成績評価方法 (総合)** 期末試験と出席により評価する。

●**教科書・参考書** 教科書: 最新原価計算講義, 溝口一雄著, 中央経済社, 2000 年; 使用するテキストは溝口一雄著「例解原価計算」の普及版である。なお、教科書は変更する場合があります。

●**メッセージ** 原価計算は君が思ってるほど難しくない。この際、一気に攻略しよう。

開設科目	流通論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	藤田健				

●**授業の概要** 生産と消費の懸隔を架橋する流通は、近年、大きな変革期を迎えている。コンビニエンス・ストアの台頭、大手スーパー・百貨店の不振や倒産、中小卸売業の淘汰、零細小売業の減少、メーカーの流通系列化の揺らぎ、流通の情報化など、流通は日々変化し続け複雑さを増している。そこで本講義では、近年激しく変化する流通現象への関心を高めるとともに、現実を理解するための理論的な考え方を学ぶ。／**検索キーワード** 流通, 商業, マーケティング

●**授業の一般目標** 1. 流通論を体系的に修得する。 2. 流通現象を理論的に理解できるようになる。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 流通論の個別理論と体系を理解する。 **関心・意欲の観点**： 流通現象への関心を高め、理論的な視点から理解する。

●**授業の計画（全体）** 1. 流通の実態 2. 流通の役割 3. 分析アプローチを学ぶ 4. 流通フローの分析 5. 流通の動態の理解

●**成績評価方法（総合）** 期末試験 (70%), レポート (20%), 出席 (10%)

●**教科書・参考書** 教科書： 現代流通, 矢作敏行, 有斐閣アルマ, 1996 年

●**メッセージ** 授業中の私語は厳禁です。

●**連絡先・オフィスアワー** A 棟 3 階 306 研究室

開設科目	マーケティング論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	米谷雅之				

●**授業の概要** 企業のマーケティング活動の全体像について学習するとともに、現代マーケティングの戦略的性格を、特に製品戦略の形成と展開を通して明らかにしていく。製品戦略こそ現代マーケティングのコア戦略であると考えからである。マーケティングはいまや、企業のみならず多くの組織の存続と成長にとって不可欠の活動となった。この講義は、複雑で広範な内容をもつ現代マーケティングを理解するための基礎を提供する。なお、この講義は、私の山口大学での最終の講義になる。／**検索キーワード** マーケティング、ブランド、新製品開発、市場と企業、現代経営、市場戦略

●**授業の一般目標** この授業は、マーケティングの意義ないし役割、現代市場とマーケティング、マーケティングと競争、マーケティングの戦略的展開、およびマーケティングの歴史的発展など、マーケティング問題についての基本的な知識の習得と問題の理解を得ることを目標とする。

●**授業の計画（全体）** マーケティングの基礎的理解を目指し、次のような内容を予定している。I. マーケティングの基礎 1. マーケティング問題の基本認識 2. マーケティングの視座（環境対応） 3. マーケティング・チャネル行動分析 4. 消費者行動分析 5. マーケティングにおける生産志向と消費志向 II. 現代マーケティングの展開 6. 製品ライフサイクルの戦略的意義 7. 製品差別化とブランド間競争 8. マーケット・セグメンテーション 9. 市場の成熟化とマーケティング：計画的陳腐化 10. 製品多様化の進展とマーケティング 11. 新製品マーケティングの展開 III. マーケティングのダイナミクス 12. ネットワーク化競争とマーケティング 13. 戦略的提携とマーケティングのダイナミクス

●**成績評価方法（総合）** 主に定期試験の結果によるが、出席状況やレポートないし小テストの成績などをも勘案して評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：資料等は適宜プリントして配布するが、下記の参考書に依拠しながら進める予定である。／参考書：米谷雅之著『現代製品戦略論』（千倉書房,2001年）

●**メッセージ** この講義は、山口大学での私の最終の講義になります。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail: kometani@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5537 質問等は授業終了後や随時（但し会議や所用時を除く）に受け付けます。

開設科目	商品学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	柳田卓爾				

●**授業の概要** 既存の諸々の議論において、商品がどのように捉えられているのかという点に注意しながら、話を進めたいと思います。1回の講義は、今日の小話、本論、まとめ、の3部構成を原則とする予定です。今日の小話では、可能な限り、新しく身近な話題を取り上げて、本論への導入にしたいと思っています。本論は、商品に関わる現象を理解するための理論並びに分析について勉強します。まとめは、復習のためのまとめです。

●**授業の一般目標** 商品を分析・理解するための基本的ツールを習得する。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：商品の分析・理解に必要な基礎的概念を、説明できる。 **思考・判断の観点**：商品の分析・理解に必要な基礎的概念の違いを、類別できる。 **関心・意欲の観点**：理論的に考察することが可能な、商品に関わる現象を、自分で見つけることができる。

●**授業の計画（全体）** 製品の分類、製品の核、製品の形態、製品の付随機能、プロダクト・ミックス、製品ポジショニング、新製品開発、製品ライフサイクル、商品評価、商品別分析、等々。

●**成績評価方法（総合）** 定期試験により、成績を評価します。

●**メッセージ** 主体的に、勉強に取り組むことを期待します。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室 C220

# 国際経済学科



開設科目	国際経済学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	豊 嘉哲				

●**授業の概要** 標準的な貿易理論を解説した後、国際金融論の基礎を講義する。／**検索キーワード** リカード・モデル, ヘクシャー＝オリーン・モデル

●**授業の一般目標** (1) 標準的な貿易理論を学習し、その理論を用いれば何を説明できるのかを理解する。(2) 貿易と国際金融について関心を持ち、主体的に考えることができる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：リカード・モデル, ヘクシャー＝オリーン・モデルを説明できる。  
**思考・判断の観点**：貿易や国際金融について、自分の意見を論理的に述べることができる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 リカード・モデル 1
- 第 3 回 項目 リカード・モデル 2
- 第 4 回 項目 特殊要素モデル 1
- 第 5 回 項目 特殊要素モデル 2
- 第 6 回 項目 ヘクシャー＝オリーン・モデル 1
- 第 7 回 項目 ヘクシャー＝オリーン・モデル 2
- 第 8 回 項目 独占的競争モデル 1
- 第 9 回 項目 独占的競争モデル 2
- 第 10 回 項目 貿易理論のまとめ
- 第 11 回 項目 国際収支表
- 第 12 回 項目 開放マクロの基礎
- 第 13 回 項目 為替レート 1
- 第 14 回 項目 為替レート 2
- 第 15 回 項目 マンデル＝フレミング・モデル

●**成績評価方法（総合）** 定期試験（70％）と授業中の小テスト（30％）の合計で判定する。

●**教科書・参考書** 教科書：クルグマン・オブズフェルド著『国際経済 理論と政策 第3版 I 国際貿易』新世社, 1996年。

開設科目	貿易論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田淵太一				

●**授業の概要** 「国際経済学」で学習した主流派貿易理論は、以下の点で現実の世界経済の特徴を把握するものになり得ていない。1. ミクロ・マクロの2分法に従い、ミクロ理論としての貿易理論では貨幣・為替レート・資本移動が無視される。2. 各国がおかれた歴史的・政治的制約が無視され、抽象的で対等な2国がつねにモデルの基礎におかれる。この授業では逆にこれらの要因を重視すればどのような貿易理論が展開できるかを考察する。

●**授業の一般目標** 現実の世界経済の動向や学説史を踏まえながら、前期に国際経済学で学んだ主流派の貿易理論にたいするアンチ・テーゼを提示します。

●**授業の計画（全体）** 1. 「リカード・モデル」とオリジナルのリカード理論の対比 2. W・A・ルイスの理論 3. 比較優位論は現実の世界経済の分析に有効か

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 リカード・モデルとオリジナルのリカード1
- 第 2 回 項目 リカード・モデルとオリジナルのリカード2
- 第 3 回 項目 リカード・モデルとオリジナルのリカード3
- 第 4 回 項目 リカード・モデルとオリジナルのリカード4
- 第 5 回 項目 ルイス・モデルと南北貿易1
- 第 6 回 項目 ルイス・モデルと南北貿易2
- 第 7 回 項目 ルイス・モデルと南北貿易3
- 第 8 回 項目 ルイス・モデルと南北貿易4
- 第 9 回 項目 貿易理論と為替レート1
- 第10回 項目 貿易理論と為替レート2
- 第11回 項目 貿易理論と為替レート3
- 第12回 項目 貿易理論と資本移動1
- 第13回 項目 貿易理論と資本移動2
- 第14回 項目 貿易理論と資本移動3
- 第15回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** おもに学期末試験により評価する。副次的に日常的な学習姿勢等の評価も加える。試験は論述式で、理解に力点を置いた問題を出題する。試験 90 %、授業態度・授業への参加度 10 %。

●**メッセージ** 既存の理論を頭から信じ込みトレーニングに明け暮れて丸暗記するだけが「勉強」ではありません。教室でともに考え、新鮮な驚きを味わって下さい。

●**連絡先・オフィスアワー** オフィスアワーは後期開始後に発表します。

開設科目	貿易政策論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	藤原貞雄				

●**授業の概要** WTO（世界貿易機構）は、1995年、先進国、開発途上国が自国の利害を絡ませながら産みの苦しみを経てつくり出した国際機関である。現代の国際通商のルールはWTOが定めている。講義は、基本的にそのルール（協定の条文）について解説する。／**検索キーワード** WTO、GATT、ガット、セーフガード

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ガイダンス：WTOの組織と運営
- 第 2 回 項目 DSB：紛争解決のための仕組みと組織
- 第 3 回 項目 関税の仕組み
- 第 4 回 項目 農業貿易と農業保護政策
- 第 5 回 項目 セーフガード措置
- 第 6 回 項目 日本の暫定セーフガード措置発動：ねぎ・しいたけ・畳表問題
- 第 7 回 項目 ダumpingと反Dumping措置
- 第 8 回 項目 補助金と相殺措置
- 第 9 回 項目 貿易に関連する投資措置
- 第 10 回 項目 貿易の技術的障害
- 第 11 回 項目 サービス貿易と GATS
- 第 12 回 項目 知的財産権と TRIPS
- 第 13 回 項目 中国のWTOと移行措置
- 第 14 回 項目 WTOの新ラウンド
- 第 15 回 項目 試験

●**教科書・参考書** 参考書：不公正貿易報告書（各年度版）、経済産業省、経済産業調査会、2002年

●**メッセージ** 条文の解説が多いので、退屈な講義になると思うが、関心のある学生にとっては、一層進んだ勉強にとって便利であろう。

開設科目	国際金融論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	豊 嘉哲				

●**授業の概要** 国際金融に関わる理論を説明すると同時に、通貨危機など、国際金融に関する重大事件を解説する。／**検索キーワード** 国際収支、為替レート、資本移動

●**授業の一般目標** (1) 国際金融に関する理論を理解する。(2)90年代に続発した通貨危機がなぜ生じたかを説明できる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：国際金融に関する理論を理解している。**思考・判断の観点**：授業で取り上げたトピックについて、自分の意見を論理的に述べるができる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 国際収支 1
- 第 3 回 項目 国際収支 2
- 第 4 回 項目 外国為替
- 第 5 回 項目 購買力平価モデル
- 第 6 回 項目 金利平価モデル
- 第 7 回 項目 マンデル＝フレミング・モデル
- 第 8 回 項目 ヨーロッパ通貨 統合 1
- 第 9 回 項目 ヨーロッパ通貨 統合 2
- 第 10 回 項目 戦後の国際通貨 体制 1
- 第 11 回 項目 戦後の国際通貨 体制 2
- 第 12 回 項目 戦後の国際通貨 体制 3
- 第 13 回 項目 発展途上国の通貨危機 1
- 第 14 回 項目 発展途上国の通貨危機 2
- 第 15 回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** 定期試験（70％）と授業中に行う小テスト（30％）で判断する。

●**教科書・参考書** 教科書：新版 国際金融論，尾上修悟 編，ミネルヴァ書房，2003 年

開設科目	外国為替論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	稲益米男				

●**授業の概要** 1. 初めて外国為替を学ぶ人の道案内役をする。2 年生レベルで解説する。2. 山口で振り込んだ資金がなぜニューヨークで受け取れるのだろうか。3. 貿易代金の受け取り支払いはどのような方法で行なわれるのであろうか。4. 日によって外貨両替の手取金が異なるのは為替相場の変動によるもので、変動による差益や差損は企業業績を左右する。ではリスクを回避するにはどのような方法があるのだろうか。このようなテーマについて時事問題を事例にし、実務に即応できる外国為替の基礎をマスターする。

●**授業の一般目標** 1 外国為替をマスターすることによって、経済・金融・貿易関連記事を面白く読めるようになり、学習と実務とのつながりを把握することによって自己研鑽を深める。2 実務直結型の学習を通じて企業が求めているものは何かを明確にし、それに応えられる人材を育成する。

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**： 海外送金・貿易代金決済を説明できる。 **思考・判断の観点**： 為替相場・為替リスク回避を理解できる。 **関心・意欲の観点**： 国際取引の関連記事を理解できる。

●**授業の計画（全体）** 1 為替の歴史は通貨の歴史でもある、為替制度の変遷から今日の為替制度を理解する。2 外国為替と内国為替を比較し、外国為替の特徴を学び概要を把握する。3 為替相場の体系から相場の種類を理解する。4 送金為替と取立為替の相違点を明らかにして、為替の流れを把握する。5 外国為替取引と信用状の仕組みから代金決済の実務を学ぶ。6 外国為替銀行の業務から国際取引の種類を理解する。7 直物為替と先物為替を利用して為替リスク回避方法を学ぶ。このような授業を通じて国際ビジネスに通用する知識を醸成し、事例を学ぶことによって実業界の今に接近し臨場感を体験する。

●**授業計画（授業単位）** / **内容・項目等** / **授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** オリエンテーション **内容** 授業の進め方など **授業外指示** シラバスを見ておくこと **授業記録** 資料配布
- 第 2 回 **項目** 外国為替制度の変遷 **内容** 固定相場から変動相場へ **授業外指示** 参考：ブレトンウッズ体制 **授業記録** 資料 1
- 第 3 回 **項目** 為替とは **内容** 現金を移動せずに送金できる
- 第 4 回 **項目** 内国為替の原理 **内容** 銀行と中央銀行の機能
- 第 5 回 **項目** 内国為替と外国為替 **内容** 共通点と相違点
- 第 6 回 **項目** 外国為替の特徴 **内容** 外為法の適用 外国為替銀行の介在 **授業記録** 資料 2・3
- 第 7 回 **項目** 外国為替の形態 **内容** 送金為替と取り立て為替
- 第 8 回 **項目** 貿易為替の流れ（取立為替） **内容** 信用状と為替手形による代金決済 **授業記録** 資料 4・5・5-2
- 第 9 回 **項目** 外国為替銀行の役割 **内容** 銀行業務を通じて国際業務を学ぶ
- 第 10 回 **項目** 外国為替市場 **内容** 対顧客市場と銀行間市場との関係
- 第 11 回 **項目** 外国為替相場 **内容** 相場の体系 **授業外指示** 新聞の外国為替相場欄を読む 為替銀行の揭示相場表を見る。
- 第 12 回 **項目** 直物為替と先物為替 **内容** 為替売買契約と現物受取の時点とが異なる
- 第 13 回 **項目** 為替リスクの回避 I **内容** 先物予約の実務などリスク回避方法を学ぶ **授業外指示** 実務上の重要な業務である、新聞の先物市場欄を読む
- 第 14 回 **項目** 為替リスクの回避 II **内容** 通貨オプションなど リスク回避方法を学ぶ **授業記録** 資料 9
- 第 15 回 **項目** テスト

●**成績評価方法（総合）** 期末テスト・小テスト・出席を総合して評価する。4 回以上欠席の場合は失格とする。

●**教科書・参考書** 教科書： 外国為替の仕組み 片山 立志著 1400 円 かんき出版 なおプリントで補充する。 / 参考書： 外国為替の実務用語辞典 岡垣憲尚 2200 円 金融図書コンサルタント社

●**メッセージ** 澁刺とした授業を予定しているので、活発な質問および意見を期待している。質問が理解を一層深めることになる。

●**連絡先・オフィスアワー** y-inamasu@d9.dion.ne.jp

開設科目	国際投資論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	藤原貞雄				

●**授業の概要** 国際投資は、直接投資と間接投資からなっている。本講義で対象とするのは直接投資であり、しかも日本の直接投資である。講義は、日本の直接投資を企業レベルと、産業レベルと国民経済レベルで取り上げて、焦点となっている諸問題について解説する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** ガイダンス：国際投資と国際直接投資
- 第 2 回 **項目** 国際経営戦略
- 第 3 回 **項目** 多国籍企業の組織と管理（1）
- 第 4 回 **項目** 多国籍企業の組織と管理（2）
- 第 5 回 **項目** 多国籍企業と国際マーケティング
- 第 6 回 **項目** 生産システムの海外移転
- 第 7 回 **項目** 国際経営と人事政策
- 第 8 回 **項目** 国際直接投資の理論
- 第 9 回 **項目** 日本の国際直接投資の現状（1） **内容** 2002 年度海外事業基本調査の概要－海外進出の現状
- 第 10 回 **項目** 日本の国際直接投資の現状（2） **内容** 2002 年度海外事業基本調査の概要－海外子会社の経営
- 第 11 回 **項目** 日本自動車産業とグローバルネットワーク（1） **内容** グローバルネットワークの解説
- 第 12 回 **項目** 日本自動車産業とグローバルネットワーク（2） **内容** ケーススタディ：中国自動車産業と日本企業
- 第 13 回 **項目** 国際直接投資と日本経済（1） **内容** 貿易効果と空洞化問題
- 第 14 回 **項目** 国際直接投資と日本経済（2） **内容** 反空洞化政策と経済活性化政策
- 第 15 回 **項目** 試験

開設科目	国際企業論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古賀武陽				

●**授業の概要** グローバリゼーション時代のスタープレイヤーである多国籍企業はどのようにして生まれ、進化してきたのか？そしてそれらの企業が直面している課題は何か？こうした疑問を基本に置きながら、外部環境の歴史を通して多国籍企業の実態をとらえたい。／**検索キーワード** 国際経営、グローバル経営、多国籍企業、経営戦略、海外直接投資

●**授業の一般目標** まず、わが国企業の現状を貿易と海外直接投資を巡る環境のなかで確認し、国際化の経緯を探る。次に、多国籍企業の定義、時系列的に見た国際ビジネスの変遷を俯瞰しながら、グローバル経営の経営課題、経営戦略を個別企業に例をとりながら理解していく。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：多国籍企業を中心に広く国際ビジネスの世界を把握することができる **思考・判断の観点**：一国中心主義に陥らず、グローバルな観点からビジネス環境を見れる。 **関心・意欲の観点**：将来、国際ビジネスに関わりたいという意欲を持つようになる。 **態度の観点**：異文化を理解し、他文化との共生を受容できる価値観を持つことができる。 **技能・表現の観点**：国際ビジネスで使用される語彙、用語の基礎知識を身につける。

●**授業の計画（全体）** 1 多国籍企業の定義と諸理論 2 国際ビジネスの進化 3 多国籍企業と天然資源、製造業、サービス産業 4 投資本国と受け入れ国 5 政府と多国籍企業 なお機会があれば期間中に企業見学を実現したい。

●**成績評価方法（総合）** 多国籍企業の行動をマクロ環境の中で理解するとともに、個々のビジネスについてたとえば為替相場と企業収益のようなミクロ的な実際知識を習得してほしい。

●**教科書・参考書** 教科書：国際ビジネスの進化 ジェフリー・ジョーンズ著 有斐閣 3,400 円／参考書：「ホンダ神話」（佐藤正明著、文春文庫）、「覇者の驕り 上・下 自動車・男たちの産業史」（ディビッド・ハルバースタム著 日本放送出版協会）「Made in Japan」（盛田昭夫著 朝日新聞社）、「ジャック・ウエルチ わが経営」（日本経済新聞社）

●**メッセージ** 多国籍企業を取り巻く環境は時とともに激しく変動している。新聞を読む習慣は大学時代から身につけたい。

●**連絡先・オフィスアワー** kogatake@c-able.ne.jp



開設科目	海運論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	澤 喜司郎				

●**授業の概要** わが国のように、原油などの燃料や石炭・鉄鉱石などの原材料、多くの食料品を海外からの輸入に依存している国にとって、国際海運はライフライン（生命線）と言われています。つまり、日本の国際海上輸送は私たち日本人の生命にかかわる問題なのです。そこで、本年度は国際海運をテーマに講義します。かつて、わが国は海運国と呼ばれ、世界の海で日本船が活躍していましたが、外航日本籍船は1970年の1,508隻から2000年には134隻に減少し、外航船員数も1985年の22,536人から1999年には3,703人に減少してしまいました。なぜ、日本船と外航船員は減少してしまったか、このような状態で本当に日本人の生命は守られるのか、という問題などについて講義します。なお、この講義では上に記された問題を考えることによって、同時に現代日本の政治・経済の主要な問題であり課題である構造改革問題やリストラ問題、安全保障問題を考えることとなります。

●**授業の一般目標** 国際海運の基礎知識を習得しつつ、国際海運をテーマにミクロ経済学及びマクロ経済学の基礎理論を復習し、同時に国際政治・経済やわが国の政治・経済を見る目を養う。

●**授業の計画（全体）** 講義の概要は以下の通りであるが、一部変更することもあることをお断りしておく。  
 1. 海と船（海運市場の概要） 2. 必要な船の量はどのようにして決まるのか（貿易量と海運需要量の関係） 3. 海運において先進国はなぜ途上国に負けたのか（海運保護政策と国家の利益） 4. 日本船はなぜなくなったのか（海の多国籍化としての便宜置籍） 5. 便宜置籍によって誰が得をするのか（海運資本輸出と国内分配） 6. 日本人船員は何処へいったのか（外国人船員の雇用と日本人船員の失業） 7. 若い頃に勉強した船員は高給取り（過剰船員の発生と出向） 8. 日本にとって、世界にとって何が最適化（自由化と日本の海運政策）、など

●**成績評価方法（総合）** 試験（中間と期末）70％、宿題10％、出席20％

●**教科書・参考書** 教科書：国際海運経済学、澤 喜司郎、海文堂出版、2001年

開設科目	物流論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	澤喜司郎				

●**授業の概要** 本年度は、物流において重要な役割を担うノードとしての港湾を取り上げます。「成熟化社会の下での港湾」は、港湾本来の生産的視点とは別の角度で港を位置づけることになり、そこには(1)港湾域及び港湾に隣接する臨海部を都市の活性化のために活用する、(2)港湾域を一般の市民に開かれた豊かで潤いのあるウォーターフロントに創造する、(3)地球環境を守る視点で港湾環境を保全・創造し、環境共存型港湾を建設するという課題があり、それが港湾行政の今日課題になっています。

●**授業の一般目標** 港湾と港湾物流に関する基礎知識を習得するとともに、今日の港湾をめぐる諸問題についての理解を深める。

●**授業の計画（全体）** 講義の概要は以下の通りであるが、一部変更することもあることをお断りしておく。  
 1. 港湾整備事業と評価制度 2. 港湾整備事業の変遷と財政政策 3. 港湾の管理運営制度に関する検討の方向 4. 港湾の整備計画と今後の役割 5. 戦後の日本の港と港湾労働 6. 港湾運送における産業連関と需要構造 7. 国際分業における港湾の物流拠点化 8. 輸入促進地域の現状と課題 9. 地域物流の現状と問題点 10. 都市観光の対象としてのウォーターフロント

●**成績評価方法（総合）** 試験 70 %、出席 30 %

●**教科書・参考書** 教科書：現代日本経済と港湾，小林照夫他編，成山堂書店，2001年

開設科目	運輸行政論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	中国運輸局				

●**授業の概要** 運輸は、人や物の移動を担う役割を果たし、国民生活を支える基盤である。また、運輸行政は、運輸サービスにおける安全や適切なサービスの提供を担保するための国による関与である。本講義では、国土交通省中国運輸局において実際に運輸行政の第一線に携わっている担当者により、中国地方における運輸サービスの現状や課題、運輸行政各分野の制度内容や施策展開など、基本的な説明から具体的な事例の紹介、最近のトピックにいたるまでを扱うこととする。／**検索キーワード** 運輸 交通 行政

●**授業の一般目標** 中国地方における運輸サービスの現状や課題、運輸行政各分野の制度内容や施策展開について理解を深め、問題意識をもってもらうことを目的とする。

●**授業の計画（全体）** 国土交通省中国運輸局 波々伯部信彦 ほか 12 名

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** ガイダンス 中国地方の公共交通と観光の現状 **内容** 企画振興部、企画課長 波々伯部信彦
- 第 2 回 **項目** バスは地域交通の主役になれるかー規制緩和後の新しいバスとは **内容** 自動車交通部 旅客第一課長 今井 良幸
- 第 3 回 **項目** 市民がつくる交通システムー山口市の試みを中心に **内容** 山口運輸支局 輸送課長 榎田繁
- 第 4 回 **項目** IT で地域交通をサポート～「ComPass」の開発などへの取り組み **内容** 交通環境部 情報調査官 坂田 俊平
- 第 5 回 **項目** 鉄道の時代は終わったか？～悩める地方鉄道と鉄道の未来 **内容** 鉄道部 計画課長 水岩田 博
- 第 6 回 **項目** みんなで育てよう 地域鉄道～山口線活性化への取り組み **内容** 山口運輸支局 総務企画課専門官 石指 淳
- 第 7 回 **項目** 人にやさしい交通を目指して～交通バリアフリーの取り組み **内容** 交通環境部 消費者行政課長 板垣良典
- 第 8 回 **項目** 進化する自動車の安全・環境技術～検査制度を通じて担保する安全と環境 **内容** 自動車技術安全部 技術課長 武田健二
- 第 9 回 **項目** 海の安全を守る～万景色峰号を検査している人たちの仕事 **内容** 海上安全環境部 次席外国船舶監督官 石黒節夫
- 第 10 回 **項目** どうする島の生命線～離島航路に未来はあるか **内容** 海事振興部 旅客課長 松村孝夫
- 第 11 回 **項目** 造船ニッポンの復活に向けて～瀬戸内海の造船・船用工業の活性化 **内容** 海事振興部 船舶産業課長 松尾幸紀
- 第 12 回 **項目** 経済と暮らしを支える物流～モーダルシフトって何？ **内容** 企画振興部 物流振興・施設課長 宇山秀人
- 第 13 回 **項目** 観光立国に向けて～地域の魅力の確立・情報発信・環境づくり **内容** 企画振興部 観光振興課長 田中明夫
- 第 14 回 **項目** 期末試験 **内容** 企画振興部 企画課長 波々伯部信彦
- 第 15 回

●**成績評価方法（総合）** 試験 60 から 80 %、出席 20 から 40 %

●**教科書・参考書** 教科書： 特にありません。講義の都度、参考資料を配布します。／ 参考書： 特にありません。講義の都度、参考資料を配布します。

●**メッセージ** 必ずしも基礎的な知識は要しないが、関心と意欲があり、ほぼ毎回の出席が可能な学生の受講を期待する。

●**連絡先・オフィスアワー**（記載なし）

開設科目	貿易実務	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	上羽博人				

●**授業の概要** 日本経済は深く貿易に依存しているが、そこには煩雑な貿易実務がある。現在、貿易実務は貿易体制の変化、交通手段の発達、経済のグローバル化にともない、簡素化、世界共通化の方向にある。本講義では、物品を国際間で円滑に取引、移動させるために必要な貿易実務の基礎知識、実務能力を習得する。／**検索キーワード** INCOTERMS 信用状 通関 船荷証券 海上保険

●**授業の一般目標** (1) 貿易実務に関する国際条約、国際ルールの理解 (2) 貿易手続（輸出・輸入）の理解 (3) 貿易書類（船積書類、通関関係書類）作成の能力習得

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：貿易手続の実態を理解し、貿易実務全体の流れが説明できる。  
**思考・判断の観点**：貨物の種類ごとに変わる貿易実務を適切に行なう能力を習得する。**関心・意欲の観点**：国際取引に興味を持つとともに、貿易実務に関する資格試験（貿易検定、通関士試験）に挑戦する。**態度の観点**：記載なし

●**授業の計画（全体）** 日本の貿易の実態、貿易実務の全体構造、それぞれの実務の内容を順番に説明し、最終的に各自が基本的な実務（船積書類、通関関係書類の作成）ができるように実習を行なう。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 貿易取引の概要 **内容** 日本の貿易、貿易管理、貿易実務の概要（輸出、輸入） **授業外指示** 最近の貿易関係の事故、事件の資料を読んでおく。
- 第 2 回 **項目** 1 売買交渉、契約 2 貿易条件（INCOTERMS など） **内容** 見積り、契約成立、個別取引条件、一般取引条件、国際取引法 など
- 第 3 回 **項目** 決済と外国為替（信用状統一規則） **内容** 荷為替手形決済（信用状、D / P、D / A）送金決済、為替リスクなど
- 第 4 回 **項目** 貿易管理と通関 **内容** 関税関係法令、他法令、輸出入通関手続きなど
- 第 5 回 **項目** 輸送手段の選択と船積手続き **内容** 輸送手段の特性・運賃、船積み書類、国際・国内運送関係法、総物流費用 など
- 第 6 回 **項目** 貿易のリスク・マネジメント **内容** 運送責任、貨物保険、貿易保険、貿易クレーム処理など
- 第 7 回 **項目** 貿易実務 **内容** 船積書類、通関関係書類の作成
- 第 8 回 **項目** 試験 **内容** 船積書類、通関関係書類の作成

●**成績評価方法（総合）** ・貿易実務の内容は幅広く複雑であるため、欠席すると分からなくなります。このため、授業態度や授業への参加度、出席も重視します。・成績は試験、授業態度や授業への参加度、出席など総合的に評価します。試験（講義の最後の日に行います）＝約60％ 授業態度や授業への参加度、出席＝約40％

●**教科書・参考書** 教科書：最新改訂版 貿易実務ハンドブック（第3版）、日本貿易実務検定協会（編）、中央書院、2003年／参考書：1 ひとりで学べる通関士試験、朝比奈高一、菊池文司、ナツメ社、2003年 2 入門の入門、貿易のしくみ、梶原昭次、日本実業出版社、2003年

●**メッセージ** ・将来、貿易、国際物流関係へ就職希望のある方、通関士試験、貿易検定を受験される予定の方には、役立つ講義になります。

●**連絡先・オフィスアワー** weber@yokohama-pc.ac.jp

●**備考** 集中授業

開設科目	リーディング (英語基礎強化)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	宮崎 充保				

●**授業の概要** 読んで、心や頭に残るもの（ひいては自己変革へつながるもの）でなければ、読むという行為は成立しません。もちろん楽しみのための読書もあります。しかし、それは自己再生のためだから同じことです。この授業では、そうした心に残る書物を読みます。読むからには、内容がしっかり把握できなければなりません。授業では内容把握に焦点を当てます。そのためには基本的な 5 W 1 H(“Who” did “What”, “When”, “Where”, “Why”, and “How”) を把握する練習をします。英語は和訳しなければ読んだ気にならない人は、英語で読むという目的からはずれています。初めは遠くからかすかに話が聞こえてくるくらいの理解から始まって構いません。しかし、それは和訳抜きです。どうしても和訳が必要なときは、説明をつけるのに一言、母語にしたほうが理解が速くて深いときです。和訳をしなかったからフラストレーションを覚えたなどと情けないことを言わないために、読むものの核心をつかむ練習をします。そして、それを人に伝えてもらうためにグループで発表をしてもらいます。／**検索キーワード** 英語を英語で読む

●**授業の一般目標** 1. 和訳にたよらずに、伝えようとする内容がぼんやりでいいので分かるようになる。 2. 読みながらたくさんの語彙を身に付ける。 3. 読みながら、文法の基礎がすんなりと分かるようになる。 4. それを踏まえて、自分の興味のある分野のものを英語だけで読みたいという意欲を持つように心がけるようになる。 5. 読んだ内容を人前で発表する。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1. 読んだ内容が、和訳を経由せずに、大筋として理解できて、自分の言葉（日本語）で説明できるようになる。 2. 使える語彙力を増大させる。 **思考・判断の観点**： 1. 使える有用な英語の表現を指摘する。 2. 内容に関する事柄を別のソースから拾ってきて、関連付けて話題に関する知識を広げる。 **関心・意欲の観点**： 1. 英語で英語を読む練習で、自前で英語を読む意欲を持つ。 **態度の観点**： 1. プレゼンテーションに対して議論できる。 **技能・表現の観点**： 1. プレゼンテーションのやり方を身に付ける。 2. プレゼンテーションを行うためにハンドアウトを準備できる。

●**授業の計画 (全体)** ・プレゼンテーションを中心にして進めるので、週単位の授業割りはできません。 ・プレゼンテーションは授業の参加者をグループに分けて、平均すると1つの話題につき、2週間かけて行います。 ・プレゼンテーションをもとに、担当者が読む英語の内容、発表の仕方などについてフィードバック、follow-up を行います。

●**成績評価方法 (総合)** ・毎回の小テストの累積 ・プレゼンテーションの評価 ・折々に求めるレポート ＊ただし、欠席は公欠（就職活動のための欠席なども）を含めて3回までとして、それ以上になったら評価の対象からはずす 以上の3つを点数化して総配点を定め、各自の総得点を総配点で割り、それに100を掛けたもので評価する。(以下の評価割合は一応の「目安」です。)

●**教科書・参考書** 教科書：Chicken Soup for the Soul: 101 Stories To Open The Heart And Rekindle The Spirit, Jack Canfield, Mark Victor Hansen, Health Communications, Inc., 2001 年

●**メッセージ** 本気で取り組んでください。読み物の世界に入れるだけの、頭と心を空けておいてください。和訳は忘れてください。英英辞典を授業でも自習でも使ってください。

●**連絡先・オフィスアワー** 経済 A323 e-mail: mmiy@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	リスニング（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	鴨川 啓信				

●**授業の概要** 映画素材を利用して、リスニングの訓練を行う。映画 "Music of the Heart" という、親しみやすい教材を用いて、リスニングの訓練を行うと同時に、継続的に訓練を行うための方法を学び、習慣を身に付けることを目的とする。また、リスニングに限らず言葉の習得に欠かせない語彙の増強も図る。  
／検索キーワード Music of the Heart

●**授業の一般目標** 英語リスニング能力の向上。リスニング訓練法の習得。リスニング習慣を獲得。

●**授業の計画（全体）** 教科書の章に合わせて（1本の映画を最後まで観ながら）、授業を進める。各回の授業では、受講者に作業をしてもらうことを通じて、リスニング訓練及びよく使う英語表現の習得を行う。また、習熟度を確認する意味で、小テストを実施する。

●**成績評価方法（総合）** 授業への参加度（2）、小テスト（4）、定期試験（4）に基づき成績評価を下す。尚、（）内の数字はおおよその割合を示している。

●**教科書・参考書** 教科書：『ミュージック・オブ・ハート-映画・音楽・リスニング-』, 沖野泰子 他編著, 英宝社, 2003 年

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室: 経済 A207 / e-mail: kamogawa@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	語彙（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	正宗 聡				

- 授業の概要** 英語の語彙を増やすための授業。語彙を増やすために作られたテキスト (Barron's 1100 Words You Need to Know) を用いて、できれば新しい単語として 60 語覚える。その正確な使い方、用例をみていく。／**検索キーワード** 語彙
- 授業の一般目標** 現在、覚えている単語に、60 語、上乘せする。決して、500 語とか 1000 語とかいった、壮大な目標は立てていない。むしろ、新たな 60 語について、うわべだけでなく、少しでも使える語彙として身につけたい。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 60 語の新しい語彙を学ぶ。
- 授業の計画（全体）** 使用テキスト（コピー配布）を、毎回 1 ページ（一日分）ないし 2 ページ進む。現時点ではお見せできないために話が抽象的なるが、この授業で使用するテキストは各ページ、1) 新しい単語 5 つを含んだ 10 行ほどの英語の読み物、そして、2) その新しい 5 つの単語を用いた別の例文（5 文）、そして 3) 単語の定義の確認問題から成っている。内容が簡単なときは、2 ページ分を前もって予習として与える。毎回 3 人の人に発表してもらう形式で進める。（読み物の内容のまとめをする人、例文について分析してくる人、ことばの定義をまとめる人、の 3 名である。）
- 成績評価方法（総合）** 出席は成績評価を受けるための前提として課す。具合が悪い等、欠席がやむを得ない場合は、後日でも申し出ること。成績評価の中心は期末テストである。
- 教科書・参考書** 教科書： 毎回コピーを配布する。／ 参考書： なし。
- メッセージ** 語彙を増やそう。
- 連絡先・オフィスアワー** 未定

開設科目	TOEIC リーディング (600)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山根和明				

●**授業の概要** 1, 2年で一流企業、大学院入試に TOEIC 600 は必須という時代になる。文系の就職が一層厳しくなる時代の自己アピールとして TOEIC は大切な武器である。キャリアアップに TOEIC 730 以上は大変有利となる。この授業では英会話上達も視点に入れ、楽しく、効率良い TOEIC 対策を行なう。諸君の現在の得点は問わない（この授業は既得点が 600 点より上でも下でも得るものは多々ある。大きい夢を持って日本、世界に羽ばたきたいと夢を描いている若者の受講を期待している。リスニングと併せて受講するのが理想。(5-6, 7-8 校時連続) 山大生としてのプライドを持とう。\*すべて手作りの教材で行なう。効率の良い TOEIC 指導は当然ながら、英会話の上達も目指す。またギターによる英語ポップスの弾き語り指導(発音矯正する)プログラムもこの講座の特色だ。\*学年の異なる学生達がゼミのように互いに親しく語り合え、競い合えるのもこのクラスの特徴である。/検索キーワード positive thinking 英語を大好きになる。

●**授業の一般目標** 記載なし。

●**授業の計画(全体)** 毎回、英語の歌唱、英会話演習を行なったあと、TOEIC 対策授業を行なう。第1週から第2週: TOEIC part 1,2,3,4 攻略テクニック学習 第3週から第4週: TOEIC part5,6,7 演習、解説 第5週から第6週: TOEIC part5,6,7 からの達成度テスト 第7週から第8週: 各種既出問題からの part5,6,7 の実践演習と解説 第9週から第10週: 前週まで学んだものの復習 第11週から第12週、13週: 模擬テストとしてハーフテストを実施、解答、レベルチェック 内容・項目 1 TOEIC テスト part1,2,3,4 手作りプリント+テープによる指導 2 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープによる指導 3 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープ(応用)による指導 4 英語の歌のプリント(ビートルズ初期の作品中心など配布ギターによる発音矯正を念頭においた歌唱指導 5 初、中級レベルの会話のシュミレーション 6 TOEIC テストミニテスト(ハーフテスト) - 1 実施 7 TOEIC テストミニテスト(ハーフテスト) - 2 実施

●**成績評価方法(総合)** 日常点重視。期末テスト(50%)

●**教科書・参考書** 教科書: 手作りプリント主体/参考書: 基本文法力を短期間で身につけるためには拙著「TOEIC テスト・オールラウンド英文法」(文英堂刊)を利用すると効率良く文法が学べる。

●**メッセージ** 夢。そして夢の実現の第一歩に TOEIC テストを位置づけよう。

●**連絡先・オフィスアワー** aki@yeswithyou.com



開設科目	TOEIC リスニング (730)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山根和明				

●**授業の概要** 1, 2年で一流企業、大学院入試に TOEIC 600 は必須という時代になる。文系の就職が一層厳しくなる時代の自己アピールとして TOEIC は大切な武器である。キャリアアップに TOEIC 730 以上は大変有利となる。この授業では英会話上達も視点に入れ、楽しく、効率良い TOEIC 対策を行なう。諸君の現在の得点は問わない（この授業は既得点が 600 点より上でも下でも得るものは多々ある。大きい夢を持って日本、世界に羽ばたきたいと夢を描いている若者の受講を期待している。リスニングと併せて受講するのが理想。(5-6, 7-8 校時連続) 山大生としてのプライドを持とう。\*すべて手作りの教材で行なう。効率の良い TOEIC 指導は当然ながら、英会話の上達も目指す。またギターによる英語ポップスの弾き語り指導(発音矯正する)プログラムもこの講座の特色だ。\*学年の異なる学生達がゼミのように互いに親しく語り合え、競い合えるのもこのクラスの特色である。

●**授業の一般目標** 記載なし。

●**授業の計画(全体)** 毎回、英語の歌唱、英会話演習を行なったあと、TOEIC 対策授業を行なう。第1週から第2週: TOEIC part 1,2,3,4 攻略テクニック学習 第3週から第4週: TOEIC part5,6,7 演習、解説 第5週から第6週: TOEIC part5,6,7 からの達成度テスト 第7週から第8週: 各種既出問題からの part5,6,7 の実践演習と解説 第9週から第10週: 前週まで学んだものの復習 第11週から第12週、13週: 模擬テストとしてハーフテストを実施、解答、レベルチェック 内容・項目 1 TOEIC テスト part1,2,3,4 手作りプリント+テープによる指導 2 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープによる指導 3 TOEIC テスト part5,6,7 手作りプリント+テープ(応用)による指導 4 英語の歌のプリント(ビートルズ初期の作品中心など配布ギターによる発音矯正を念頭においた歌唱指導 5 初、中級レベルの会話のシュミレーション 6 TOEIC テストミニテスト(ハーフテスト) - 1 実施 7 TOEIC テストミニテスト(ハーフテスト) - 2 実施

●**成績評価方法(総合)** 日常点重視。期末テスト(50%)

●**メッセージ** 夢を持とう。そして夢の実現の第1歩に TOEIC テストを位置づけよう。e-mail address: aki@yeswithyou.com TOEIC 600 を取っても話せる人となると皆無に等しいのが現状。そこでこのクラスを受講したら、日常会話がかなりこなせる!というレベルに持って行きたい。頑張ろう!「さすが経済の学生だね。英語しゃべれるんだね」と言わせたいね。

開設科目	ビジネス英語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古賀武陽				

- 授業の概要** 国際ビジネスの現場で使用される英語を、特に「読む」「書く」に重点を置いて学習する。／**検索キーワード** ビジネス英語、国際ビジネス、e-mail
- 授業の一般目標** 国際ビジネスの現場で使用される英語を、特に「読む」「書く」に重点を置いて学習する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： ビジネス文書を正しく理解し、書けるようになること。 **思考・判断の観点**： ビジネス文書の背後事情を正しく理解する。 **関心・意欲の観点**： 国際ビジネスへの関心を高める。 **態度の観点**： 国際理解力を高める。 **技能・表現の観点**： 英語発想に基づく英語の文書作成能力をつける。
- 授業の計画（全体）** 教科書のビジネスシーンの進行に沿って、特に「読む」「書く」スキルを重点的に学ぶ。また、適宜タイムリーな記事をプリントで読み最新のビジネス情報を学ぶ。
- 成績評価方法（総合）** 発想力および表現力の両面でスキルが着床しているかどうかの評価のポイントとなる。
- 教科書・参考書** 教科書：“Business as Usual” (成美堂)／参考書：Japan Times などの英字紙企業の英語版 Home page
- メッセージ** グローバル・マインドをもって世界を見よう！
- 連絡先・オフィスアワー** kogatake@c-able.ne.jp

開設科目	ビジネス・ライティング	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	Alan Christ				

●**授業の概要** Writing in English and other forms of English within a business context will be emphasized.

●**授業の一般目標** By placing themselves in hypothetical business situations, students will be able to write using E-mail in English appropriate to various office situations.

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： The forms and conventions of business correspondence, mainly by Email will be studied. **態度の観点**： The more that students are willing to stretch their knowledge of English and unburden themselves of the fear of making mistakes, the better their English will progress. **技能・表現の観点**： Personal expression in differing business situations will be maximized.

●**授業の計画（全体）** Weekly homework will be expected of each student. Each week a certain type of correspondence must be written and submitted by Email. Corrections will be returned to the students, also electronically. Writing in English and other English within a business context will be emphasized.

●**授業計画（授業単位）**／ **内容・項目等**／ **授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 Introducing business E-Mail 内容 (asking for information) 授業外指示 Class introduction  
授業記録 About yourself

第 2 回 項目 Letters of Application 内容 (describing jobs) 授業外指示 E-mail at Work: chapters 1 and 2  
授業記録 Cover Letter

第 3 回 項目 Requesting Information 内容 (conference talk) 授業外指示 E-mail at Work: chapter 3  
授業記録 Letter of Inquiry

第 4 回 項目 Requesting Information 内容 (facts and figures) 授業外指示 cont. 授業記録 Second Letter of Inquiry

第 5 回 項目 In house correspondences 内容 (personal profiles) 授業外指示 Email at Work: chapter 4  
授業記録 Short Memo

第 6 回 項目 In house correspondences 内容 (company overview) 授業外指示 cont. 授業記録 Long memo

第 7 回 項目 Negotiating 内容 (telephoning) 授業外指示 Email at Work: chapter 5 授業記録 Counter Offer

第 8 回 項目 Giving Information 内容 (product detail) 授業外指示 Email at Work: chapter 6 授業記録 Sales Letter

第 9 回 項目 Giving Information 内容 (organizing an event) 授業外指示 cont. 授業記録 Second Sales Letter

第 10 回 項目 Expressing dissatisfaction 内容 (checking progress) 授業外指示 Email at Work: chapter 7  
授業記録 Complaint Letter

第 11 回 項目 Dissatisfied Customers 内容 (dealing with complaints) 授業外指示 Email at Work chapter 8  
授業記録 Apology Letter

第 12 回 項目 Delinquent Accounts 内容 (solving a problem) 授業外指示 Email at Work: chapter 9  
授業記録 Collection Letter

第 13 回 項目 Sales letters and responses 内容 (making predictions) 授業外指示 Email at Work: chapter 10  
授業記録 Answering a Letter of Inquiry

第 14 回 項目 Written letter form 内容 (arrangements) 授業外指示 handout

第 15 回 項目 comprehensive review

●**成績評価方法（総合）** Grades will be based on the following: Weekly Homework 40 % Final Test 40 % Class Participation 20 %

●教科書・参考書 教科書 : Schneer, David; Email at Work Ogata and Ogani; Working with English

開設科目	現代日本社会事情	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	河野笙子				

●**授業の概要** 現代日本に特徴的な社会的・経済的重要問題を、新聞や雑誌等の記事を通して様々な角度から取り上げます。テーマ別に編集された切り抜き記事コピー集の読解を中心に授業を進め、他国、他地域との比較文化論的な観点からの掘り下げも行います。／**検索キーワード** 時事日本語、現代日本社会、現代日本経済

●**授業の一般目標** (1) 経済学部で学ぶ外国人留学生に必要な基礎的経済知識・社会常識を身に付ける。(2) 時事日本語に対する読解力を身に付ける。(3) 時事問題に対する分析力を養う。(4) 現代日本社会に対する理解と認識を深める。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 時事日本語の読解が出来る。 2. 取り上げられたテーマについての説明が出来る。**思考・判断の観点**： 1. 時事問題の背景や問題点について自分の意見が言える。**関心・意欲の観点**： 1. 現代社会で起きている様々な問題に関心を持つ。**態度の観点**： 1. 時事問題について問題意識をもって考えることが出来る。**技能・表現の観点**： 1. 時事問題についての論述が日本語で出来る。

●**授業の計画(全体)** 選ばれた15のテーマについて、主要記事の読解を中心に学んでいく。コピー集に主要記事と一緒に収められている関連記事も取り上げながら講義を進め、内容について質疑応答形式で基本的な理解が出来ているかどうかの確認をした後に意見発表や意見交換、話し合い等を行う。一方的な講義ではなく、受講者自身が自由に話す時間を出来るだけ多く設けたい。

●**授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 グローバル文化 社会とナショナリズム
- 第2回 項目 住民基本台帳ネットワークシステム
- 第3回 項目 ワークシェアリング
- 第4回 項目 サービス残業
- 第5回 項目 日本型雇用慣行と成果主義
- 第6回 項目 ペイオフ&地域通貨
- 第7回 項目 経済学と環境問題
- 第8回 項目 リサイクル
- 第9回 項目 コンビニ社会
- 第10回 項目 IT革命
- 第11回 項目 肖像権・著作権
- 第12回 項目 セーフガード
- 第13回 項目 民営化問題
- 第14回 項目 脱ダム現象～公共事業の行方～
- 第15回 項目 個人情報保護とメディア規制法

●**成績評価方法(総合)** 毎回、主要記事の内容理解チェックを質疑応答形式で行う。その後の話し合いや意見交換等への参加度や態度も重視される。出席率は勿論重要視される。特別な理由がない限り、出席率が7割未満の学生には単位を与えない。最後に、自分が最も関心の高かったテーマについて、1200字～1600字程度のレポートを作成し指定期日までに提出することとするが、レポートの提出がない場合も単位は与えられない。

●**教科書・参考書** 教科書：初回に手作りの切り抜き記事コピー集を配布します。

●**メッセージ** 留学生の皆さんの学生生活が順調に進み、有意義で実り多いものとなるよう、多方面から支えていきたいと思っています。個別の質問や相談にも最大限応じるつもりですから、気軽にC103(留学生指導室)に来てください。待っています。

●連絡先・オフィスアワー k-shoko@yamaguchi-u.ac.jp 電話：9 3 3 - 5 5 6 2 研究室：経済学部C 1 0  
3 オフィスアワー：木曜日 1 4 時 3 0 分～1 6 時

開設科目	国際情報処理論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	澤 喜司郎				

●**授業の概要** 本講義は、ベーシック (BASIC) のプログラミングについて学習し、コンピュータをほとんど触ったことのない学生を受講の対象としています。「今どき、ベーシックって時代遅れだろう」「表計算ソフトで十分だ」と思われるかもしれませんが、今だからこそベーシックなのです。それは、現在ではコンピュータの性能が非常に良くなり、かつてはベーシックでは時間がかかりすぎて出来なかった計算や処理も、今ではいとも簡単に出来るようになりました。また、表計算ソフトを利用する場合に入力する数式はベーシックとほとんど同じで、ベーシックをマスターすることによって表計算ソフトの利用が容易になるばかりか、表計算ソフトでは出来ないこともベーシックでは簡単に出来ます。さらに、ベーシックのプログラムを制作することによって、ものごとを体系だてて考える思考力が養われます。ここに、プログラミングを学習する大きな意義があります。本講義では、コンピュータ・グラフィクスを中心に学習し、コンピュータ・ゲームの制作を行います。

●**授業の一般目標** コンピュータ・グラフィクスのテクニックを中心に学習し、オリジナルのコンピュータ・ゲームの制作を行います。

●**授業の計画 (全体)** 1. 四角形や三角形の描画と着色 2. 繰り返し処理と図形の自動描画 3. 円と楕円の描画 4. 破線と曲線の描画 5. 色の合成 6. キー操作による図形の移動 7. 時計の利用、など

●**成績評価方法 (総合)** 作品 100 %

●**教科書・参考書** 教科書：BASIC プログラミング超入門, 澤 喜司郎, 成山堂書店, 1998 年

●**メッセージ** コンピュータは慣れることが最も大切です。講義時間外にも進んでコンピュータに接する時間を確保できる学生の受講を希望します。

開設科目	国際情報処理論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	澤 喜司郎				

●**授業の概要** 本講義は、ベーシック (BASIC) のプログラミングについて学習し、コンピュータをほとんど触ったことのない学生を受講の対象としています。「今どき、ベーシックって時代遅れだろう」「表計算ソフトで十分だ」と思われるかもしれませんが、今だからこそベーシックなのです。それは、現在ではコンピュータの性能が非常に良くなり、かつてはベーシックでは時間がかかりすぎて出来なかった計算や処理も、今ではいとも簡単に出来るようになりました。また、表計算ソフトを利用する場合に入力する数式はベーシックとほとんど同じで、ベーシックをマスターすることによって表計算ソフトの利用が容易になるばかりか、表計算ソフトでは出来ないこともベーシックでは簡単に出来ます。さらに、ベーシックのプログラムを作ることによって、ものごとを体系だてて考える思考力が養われます。ここに、プログラミングを学習する大きな意義があります。本講義では、コンピュータ・グラフィクスを中心に学習し、コンピュータ・ゲームの製作を行います。

●**授業の一般目標** コンピュータ・グラフィクスのテクニックを中心に学習し、オリジナルのコンピュータ・ゲームの製作を行います。

●**授業の計画 (全体)** 1. 四角形や三角形の描画と着色 2. 繰り返し処理と図形の自動描画 3. 円と楕円の描画 4. 破線と曲線の描画 5. 色の合成 6. キー操作による図形の移動 7. 時計の利用、など

●**成績評価方法 (総合)** 作品 100 %

●**教科書・参考書** 教科書：BASIC プログラミング超入門, 澤 喜司郎, 成山堂書店, 1998 年

●**メッセージ** コンピュータは慣れることが最も大切です。講義時間外にも進んでコンピュータに接する時間を確保できる学生の受講を希望します。



開設科目	国際関係論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	吉松秀孝				

●**授業の概要** 本授業では、国際社会に関する様々な事象・問題について概説する。国際政治関係の歴史的発展や現在の国際社会が直面する問題について理解を深めるために必要な基本的事項について説明する。

／**検索キーワード** 国際社会、国際政治、国際秩序

●**授業の一般目標** 国際社会に関する様々な事象・問題を認識するとともに、そうした問題などの原因・背景を推論するための基本的考え方を理解する。国際問題について関心を深め、主体的に考える姿勢を身につける。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 様々な国際問題の状況・背景について説明できる。 **思考・判断の観点**： 国際問題の相互関係やその解決策について自分の意見を述べるができる。 **関心・意欲の観点**： 日常生活の中で国際社会に関わる問題に関心を持つ。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 国際社会と国際 関係論
- 第 3 回 項目 国際関係の主体
- 第 4 回 項目 東西冷戦の歴史 と意義
- 第 5 回 項目 安全保障と核兵 器
- 第 6 回 項目 国際政治学の理 論
- 第 7 回 項目 国際政治学の理 論
- 第 8 回 項目 対外政策の決定
- 第 9 回 項目 国際経済体制の 発展と変容
- 第 10 回 項目 地域主義の発展 と問題
- 第 11 回 項目 南北問題と地球 環境問題
- 第 12 回 項目 アジアの中の日 本
- 第 13 回 項目 国際社会と日本
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験

●**備考** 集中授業

開設科目	国際メディア論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	マルク・レール				

●**授業の概要** 主要の従来のマスメディア（新聞、テレビ、ラジオ）とインターネットの歴史的発展、現在の 特徴と可能性について解説する。／**検索キーワード** マス・メディア、新聞、放送、インターネット

●**授業の一般目標** 受講者のメディア・リテラシー・レベルを高める。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：マス・メディアの仕組みを理解する。**思考・判断の観点**：それぞれのマスメディアの特徴と可能性について判断が出来る。**関心・意欲の観点**：もっと積極的にマス・メディアの「素顔」を調べる。**態度の観点**：日ごろ、マス・メディアの情報行動を疑問視する。

●**授業の計画（全体）** 理論的分析と実例に基づいて、新聞、放送、インターネットの歴史的発展や現在の 特徴と可能性 を明らかにする。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** コミュニケーション学入門 **内容** コミュニケーションの仕組みと「メディア」の関係。
- 第 2 回 **項目** メディア研究入門 **内容** メディア研究の分野とその特徴、研究テーマ、方法論。
- 第 3 回 **項目** 新聞の歴史的発展 － ドイツ **内容** ドイツの新聞の歴史的発展とそこに見るジャーナリズムの基本的発想の解説。
- 第 4 回 **項目** 新聞の歴史的発展 － 日本 **内容** 日本の新聞の歴史的発展とそこに見るジャーナリズムの基本的発想の解説。
- 第 5 回 **項目** 新聞市場の特徴 I **内容** 部数データを中心に現在の日本の新聞市場の特徴の解説。
- 第 6 回 **項目** 新聞市場の特徴 II **内容** 欧米と日本の新聞市場の比較。
- 第 7 回 **項目** 放送メディアの歴史的発展 － 米国 **内容** 米国の放送の歴史的発展とそこに見るメディア・ソフトの解説。
- 第 8 回 **項目** 放送メディアの歴史的発展 － 日本 **内容** 日本の放送の歴史的発展とそこに見るメディア・ソフトの解説。
- 第 9 回 **項目** 放送市場の特徴 I **内容** 放送ビジネスの現状の解説と国際比較。
- 第 10 回 **項目** 放送市場の特徴 II **内容** 他チャンネル化とソフトの関係の解説。
- 第 11 回 **項目** テレビ番組に見る社会変化 **内容** 主にアメリカの代表的なテレビ番組の分析。
- 第 12 回 **項目** マスメディアとしてのマルチメディア I **内容** マルチメディアの発展と現状に関する解説。
- 第 13 回 **項目** マスメディアとしてのマルチメディア II **内容** マスメディアとしてのインターネットの分析。
- 第 14 回 **項目** マスメディアの将来像 **内容** メディアは同変わっていくか、そしてどのメディアが生き残るかを検討。
- 第 15 回 **項目** 総括・試験 **内容** 授業で学んだことをどう生かせるかを考える。期末試験を実施。

●**成績評価方法（総合）** 小テストを講義期間中に 6 回実施（計 60 %）。期末試験を最後の授業内に実施（30 分程度、40 %）

●**メッセージ** e-learning を積極的に導入する予定である。

●**連絡先・オフィスアワー** loehr@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	欧米経済論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	河野眞治				

●**授業の概要** アメリカ経済と EU の歴史と現状について検討する。前半はアメリカの、特に 90 年代の「ニュー・エコノミー」とその終了、最近の景気上昇局面について講義をする。後半は EU の歴史、通貨統合、拡大などを説明する。／**検索キーワード** アメリカ経済、EU

●**授業の一般目標** アメリカ経済と EU の最近の動向の把握を目標とする。

●**授業の計画 (全体)** 1 90 年代のアメリカ経済 2 「ニュー・エコノミー論」 3 何故好況は終了したか 4 アメリカの国際競争力 5 対外貿易と直接投資 6 最近のアメリカ経済 7 EU の歴史 8 関税同盟 9 単一市場 10 通貨統合 11 共通政策 12 拡大と深化

●**成績評価方法 (総合)** 全体でレポートを 4 本提出してもらいます (1 回、A4 2 枚程度)。レポート 1 本 25 点  $\times$  4 = 100 点。期末試験はありません。

●**教科書・参考書** 教科書：なし／参考書：一回目の講義で示す。

開設科目	国際協力論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古賀 武陽				

- 授業の概要** 国際協力とは何か、誰が、誰に対して、なぜ、どのように行うのか・・・日々の時事問題に遭遇するたびにこのような疑問にとらわれることが多いだろう。わが国は経済大国として 1991 年以降、政府開発援助（ODA）の援助額は世界最大となっている。こうした事実を背景に、国際協力を巡る諸問題を学習する。／**検索キーワード** 国際開発、産業発展、人道支援
- 授業の一般目標** 戦後、賠償金の支払いからわが国の国際協力の足取りをたどりながら、国際協力の枠組みから、日本企業による海外直接投資の持つ国際協力的側面までを学習する。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：国際協力に関わる機関、国際協定、専門用語の理解を深める。**思考・判断の観点**：国際協力の背後にある貧困と紛争の構図に対する理解を深める。**関心・意欲の観点**：国際協力に携わる青年海外協力隊、NGO、NPO などの活動を理解しできるところから参画しようという意欲に結びつける。**態度の観点**：世界の貧困を歴史的に把握する。**技能・表現の観点**：自分の言葉で国際協力について話せるようになる。
- 授業の計画（全体）** 1. 時事問題における国際協力の種々相 2. 映画「BEYOND BORDERS」からのメッセージ 3. わが国の国際協力の変遷・・・国際協力事業団（JICA）の 25 年 4. 日本企業による海外直接投資の開発貢献 5. 日系企業の国際協力・・・技術協力と人材育成 6. わが国の国際協力と国際社会・・・ODA 大綱の基本理念
- 成績評価方法（総合）** 国際協力に関わる問題に対して総合的な理解を得ることを評価の基本とする。
- 教科書・参考書** 教科書：適宜プリントを配布する。／参考書：「国際開発学」（渡邊利夫編 東洋経済新報社）、「社会開発論」（佐藤誠編 有信堂）、「開発学を学ぶ人のために」（菊地京子編 世界思想社）
- メッセージ** イラク人道支援問題は改めて国際協力について考えさせる契機となった。現実問題を見つめることから学習を始めたい。
- 連絡先・オフィスアワー** e-mail: kogatake@c-able.ne.jp

開設科目	国際交流	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	小島良和				

●**授業の概要** 当授業は外国人と実際に交流する場ではなく、国際交流とは何か、どうすればよいか、などを学ぶ。それにはまず自ら（日本、日本人）を知り、又講師が総合商社で3 2年間携わってきた仕事の体験談をも参考に、多（他）文化理解・コミュニケーションなどについて考えていく。／**検索キーワード** 記載なし

●**授業の一般目標** 「交流とは何か」又その関連事項について自ら考え、視野を広め、理解を深める。コミュニケーションの重要性を知る。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 交流について説明ができる。日本人の発想・ものの考え方を知る。  
**思考・判断の観点**： 多角的に考え、視野を広くする。自ら判断できるように努める。 **関心・意欲の観点**： 身近な事から、交流に関わる問題に関心を持つ。 **態度の観点**： 積極的にコミュニケーションを取るようになる。

●**授業の計画（全体）** 講義項目： 1 日本語の特性を再認識し、日本人の視点を知る。 2 言語、非言語コミュニケーション、日本人の行動様式、内なる国際化、安全とは何か、など 3 講師の体験に基づく交流・理解について（アラブ諸国・東欧を中心に） 4 交際交流・問題など 講義方法：口述、受講者間での話し合い／討議・発表、資料配布、ビデオ鑑賞など 授業計画は開講時に配布する。

●**成績評価方法（総合）** 原則として期末試験は行なわない。出席状況、小テスト、レポート、その他から総合的に判断、評価するが、変更もありうる。詳しくは授業中に発表する。なお、下記の表、右端の評価割合（％）の数字は以下のとおり。入力の都合により、「評価を加えず」になっているが、そうではない。  
小テスト・授業内レポート 10 から 20 ％ 宿題・授業外レポート 40 から 60 ％ 授業態度・授業への参加度 10 から 20 ％ 出席 10 から 20 ％ 合計で 100 ％

●**教科書・参考書** 教科書： 使用しないが、適宜プリントを配布する。／ 参考書： 授業中は必要に応じて紹介する。

●**メッセージ** 授業中のマナー厳守。授業に積極的に参加する受講生を歓迎する。

●**連絡先・オフィスアワー** 記載なし

開設科目	ビジネス英語会話	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	古賀武陽				

- 授業の概要** グローバル化時代に活躍するビジネス・パーソンが、将来のビジネス・シーンにおいて求められるコミュニケーション能力を養成するために会話に主力を置いたトレーニングをおこなう。／**検索キーワード** コミュニケーション能力、国際ビジネス、プレゼンテーション
- 授業の一般目標** 日本企業の国際関連部門で働く、外資系企業を目指す、海外駐在をしたい、などといった将来の夢を実現するためには異文化理解力、コミュニケーション能力、国際マナー、グローバルな発想などが求められる。授業では、グループ毎に設立した仮想企業をベースにそれぞれの役職を決め、事業内容に応じたテレフォン・カンパセーション、プレゼンテーションなどをおこない、リアルな会話能力を取得することを目標とする。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： ビジネス社会で使用される語彙、会社の組織や基本的な行動に対して理解する。**思考・判断の観点**： 英語的な発話を日本語発想との違いについて理解できる。自己紹介ができる。**関心・意欲の観点**： 実際に使われる英語会話を学習することにより英語に対する関心を高め、興味を刺激する。**態度の観点**： 大きな声で明瞭に話すというトレーニングを通じて、コミュニケーション能力の高度化を目指す。日本人同士で英語を話すことに慣れるようになる。**技能・表現の観点**： 必要なことを臆せず英語にして話せる習慣を形成する。**その他の観点**： 日常的に英語に触れる習慣を身につける。
- 授業の計画（全体）** 授業では、毎回 chain practice により相互の会話をおこなうことからスタートする。次に5名のグループにより仮想企業を設立し、self-introduction, corporate presentation, product representation, telephone conversation, business negotiation などを行なう。
- 成績評価方法（総合）**（記載なし）
- 教科書・参考書** 教科書： 適宜 print を配布する。／ 参考書： Japan Times, Wall Street Journal などのビジネス関連記事をできるだけ読むように。
- メッセージ** 毎回の授業が成績評価の土俵であることを認識していただきたい。
- 連絡先・オフィスアワー** kogatake@c-able.ne.jp

開設科目	ビジネス英語会話	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古賀武陽				

- 授業の概要** グローバル化時代に活躍するビジネス・パーソンが、将来のビジネス・シーンにおいて求められるコミュニケーション能力を養成するために会話に主力を置いたトレーニングをおこなう。／**検索キーワード** コミュニケーション能力、国際ビジネス、プレゼンテーション
- 授業の一般目標** 日本企業の国際関連部門で働く、外資系企業を目指す、海外駐在をしたい、などといった将来の夢を実現するためには異文化理解力、コミュニケーション能力、国際マナー、グローバルな発想などが求められる。授業では、グループ毎に設立した仮想企業をベースにそれぞれの役職を決め、事業内容に応じたテレフォン・カンパセーション、プレゼンテーションなどをおこない、リアルな会話能力を取得することを目標とする。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： ビジネス社会で使用される語彙、会社の組織や基本的な行動に対して理解する。 **思考・判断の観点**： 英語的な発話を日本語発想との違いについて理解できる。自己紹介ができる。 **関心・意欲の観点**： 実際に使われる英語会話を学習することにより英語に対する関心を高め、興味を刺激する。 **態度の観点**： 大きな声で明瞭に話すというトレーニングを通じて、コミュニケーション能力の高度化を目指す。日本人同士で英語を話すことに慣れるようになる。 **技能・表現の観点**： 必要なことを臆せず英語にして話せる習慣を形成する。 **その他の観点**： 日常的に英語に触れる習慣を身につける。
- 授業の計画（全体）** 授業では、毎回 chain practice により相互の会話をおこなうことからスタートする。次に5名のグループにより仮想企業を設立し、self-introduction, corporate presentation, product representation, telephone conversation, business negotiation などを行なう。
- 教科書・参考書** 教科書： 適宜 print を配布する。／ 参考書： Japan Times, Wall Street Journal などのビジネス関連記事をできるだけ読むように。
- メッセージ** 毎回の授業が成績評価の土俵であることを認識していただきたい。
- 連絡先・オフィスアワー** kogatake@c-able.ne.jp

開設科目	会話（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	Alan Christ				

●**授業の概要** Basic TOEIC instruction will be emphasized geared toward those who have been as yet unable to attain a score of 400. This course is NOT designed for those who have already reached or surpassed that level. / **検索キーワード** 記載なし

●**授業の一般目標** To give students the practical abilities and the confidence to score above 400 on the TOEIC test.

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点** : Beginning and Pre-Intermediate students will be exposed to strategies for the TOEIC test as well as the vocabulary, grammar and listening skills that they will need to enhance their score.

●**授業の計画（全体）** 授業計画（全体） Homework will be assigned, but it 's purpose will be to improve the skills of the student. What is most expected of the student is that they apply themselves to improving their English both in and outside of the classroom.

●**授業計画（授業単位）** / **内容・項目等** / **授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 Introduction to TOEIC Sentences about photographs 内容 Basics of test taking Strategies for Section I

第 2 回 項目 continued 内容 cont.

第 3 回 項目 Questions and Responses 内容 Strategies for Section II

第 4 回 項目 continued 内容 cont.

第 5 回 項目 Short Conversations 内容 Strategies for Section III

第 6 回 項目 continued 内容 cont.

第 7 回 項目 Practical Test

第 8 回 項目 Short Talks 内容 Strategies for Section IV

第 9 回 項目 continued 内容 cont.

第 10 回 項目 Sentence Completion 内容 Strategies for Section V

第 11 回 項目 continued 内容 cont.

第 12 回 項目 Error Identification 内容 Strategies for Section VI

第 13 回 項目 continued 内容 cont.

第 14 回 項目 Short Reading 内容 Strategies for Section VII

第 15 回 項目 continued 内容 cont.

●**成績評価方法（総合）** A passing score will be given to those students who are able to score above 400 on the TOEIC test

●**教科書・参考書** 教科書 : Complete Guide to the TOEIC Test, Rogers, Bruce, / 参考書 : 記載なし。

●**メッセージ** 記載なし。

●**連絡先・オフィスアワー** 記載なし



開設科目	会話（英語基礎強化）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	武本ティモシー				

●**授業の概要** この授業の目的は、英語をコミュニケーションの道具として使う能力を身に付けることです。今までに皆は英語を知識・学問として勉強してきましたが、この授業は知識より英語で対話するスキルを重視しながら、身近な話題を表す単語や表現を学びます。授業中では、学校で頭の中に注ぎ込まれた英語の「知識」を「歩くこと」や「日本語で話すこと」のような技能に変えていきます。これは、相当の練習を必要とします。授業中90分間の多くを、学生はひたすら英語で対話します。頭を英語らしい考え方に組み替え、自分の恥ずかしさ を乗り越えるには、相当の苦勞を伴うこともあるでしょうが、本学・映画・アルバイト・山ロタウン情報など、できるだけ身近な話題を題材にします。授業中の活動を支援し英語能力の向上を保証するためには、授業外のインターネット予習と復習 を行ってもらいます。このようにして、TOEIC 得点アップや総合的な英語能力向上につながることをもう一つの目標とします。／**検索キーワード** 英語を話す、コミュニケーション、自己表現

●**授業の一般目標** (1) 身近なことがらについて流暢に話せる力を身につける。(2) WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1. WBT を利用した自習課題を通して、基本的な語彙・文法的知識を身につける。 **関心・意欲の観点**： 1. 授業内の活動やWBT課題（授業外の課題）に積極的に取り組む。 **態度の観点**： 1. 間違いを恐れず、積極的に英語を使って意思伝達を行おうとする態度を養う。 **技能・表現の観点**： 1. 身近なことがらについて流ちょうに話せる力を身につける。

●**授業の計画（全体）** まだ教科書が完成していないので、完成した時点で掲示なり第1回目の授業で、授業計画は発表されます。

●**成績評価方法（総合）** ・2回以上（欠席届による公欠を含ぶ）欠席した学生の成績は不可となる。・WBTによる自宅学習課題を期限内に提出すること。期限内に課題を提出しなかった場合は未提出1回につき、1回の欠席として扱われる（2回課題を提出しなかった場合は不可となる）。・以下の(A)と(B)の総合計により評価を行う。(A) 授業内の発言、コミュニケーション活動への参加度により、それに応じた評価ポイントを受け取る。(B) WBTを利用した自宅学習課題の成績に基づき評価する。

●**教科書・参考書** 参考書：武本ティモシー著、仮題『English Speaking 一山大生が自分を英語で表現するためのテキスト』という本の原稿を教材として配布します。入学者全員に配布される山口大学生協の『咲くさくら』雑誌や山ロタウン情報などに基づいて作成されます。

●**メッセージ** 英語はそう難しいものではありません。しかし、自分にとって無意味な音声を出し、日本語と比較すればあべこべな順序で、英語で文章を発することは知識というより勇気を必要とします。英語を話すのは、人前で発表することと高飛び込みを足したような頭を真っ白にするほどのことです。しかし渡しのない無意味の海を向こう側へ移動するには、飛び込むしかありません。教科書にある身近な表現をうまく使いこなしながら、ともかく話すことによって、その海の中に飛び込み次第に自由に泳ぎまわり、いつの間にか自分が語で話しているのを忘れた時の喜びは、大変大きなものです。そして、それが力となって、他の場面でも自分を表現できるようになります。間違いを恐れず、まず、英語を話し言葉で使いましょう。英語の知識があるからそれを眠らせておかず自分の可能性に挑戦してみてください。

●**連絡先・オフィスアワー** tim@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：経済4階玄関上 山口大学 HP の「ニュース」のメニューの中の「オンライン英語教育」HP <http://www.eigodaigaku.com> でのウェブカムを見てチャットルームも訪問してください。

開設科目	経済発展論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	松井範惇				

●**授業の概要** 経済発展に関する主要なトピックについて学びます。途上国の経済成長、開発、貧困、工業化、農業発展、国際的側面、援助などについて研究する。特に、貧困、飢餓、飢饉について、それらの関係・原因・対策などについて総合的に考え、理論的な考察を行う。また、この授業では、単なる講義形式はとらず、出席者（つまり受講者）全員が、読み、書き、考え、討論に参加し、小試験を受けることによって、自ら考え、学ぶ態度を身につける、ことを目指す。自分の考えを発表し、読んだことをまとめて書く作業・能力は、一生 極めて大事です。

●**授業の一般目標** 開発途上国の諸問題について、自分で考えられるよう、より一層興味を持てるようにします。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 (高 1) 貧困と 経済開発
- 第 2 回 項目 (高 2) 農業社会の経済分析： リスクインセンティブ
- 第 3 回 項目 (高 3) 農村社会の経済分析： 農村金融と相互 扶助
- 第 4 回 項目 (デ 1－3) 飢 饉とは何か、飢 饉理論 内容 (小試験 1)
- 第 5 回 項目 (デ 4－5) 気 候、人口
- 第 6 回 項目 (デ 6－7) エ ンタイトルメント、食糧市場
- 第 7 回 項目 (デ 8－9) 天 然資源、飢饉と 開発
- 第 8 回 項目 (デ 10－ 13) 政府の失 敗、国際関係 内容 (小試験 2)
- 第 9 回 項目 (高 4) 市場形 成と工業化
- 第 10 回 項目 (高 5) 農業と 工業
- 第 11 回 項目 (高 6) 債務危 機と効率性
- 第 12 回 項目 (高 7) 金融の 自由化・国際化 と通貨危機 内容 (小試験 3)
- 第 13 回 項目 (高 8) 経済社 会の安定と成 長・発展
- 第 14 回 項目 (高 9) 政府の 役割

●**成績評価方法（総合）** 出席：10%、小試験（3）：15%、15%、20% 期末試験（または、プロジェクト）40%

●**教科書・参考書** 教科書： 開発経済学の新展開，高木保興，有斐閣，2002 年； 飢饉の理論，デブロー，東洋経済新報社，1999 年

●**メッセージ** 発展途上国のことについて好奇心の旺盛な人、学ぶことを学びたい人、大歓迎 ですから、しっかりついてきて下さい。

開設科目	国際環境保全論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	陳 禮俊				

●**授業の概要** 18世紀の産業革命以来、ヨーロッパを中心とした工業先進国は技術革新によって、工業生産性の向上を可能にし、驚異的な経済発展をもたらした。この産業革命は伝統的な自給自足の農業社会を、財貨に対する需要拡大を引き起こした工業化社会へと変換させ、人々に多大な富と豊かな生活様式を可能にした。それゆえ、発展途上国にとって、工業化は経済発展を加速させ、生活水準を向上させるために、最も有効な手段の一つだと考えられている。しかしながら、多くの発展途上国では、工業化過程の離陸段階では、環境保全のための政策的努力はしばしば無視され、キャッチアップを優先する産業政策は、汚染集約型化学工業を優先して推進されるために、社会資本では産業基盤を優先して、生活基盤を軽視する傾向にある。環境への配慮を欠いたまま進められた急速な工業化や面的開発は、様々な公害・環境問題を引き起こした。一方、地球規模の環境問題の拡大に伴って、国際協力による緩和への道を探ることは人類共通の課題になりつつある。特に、地球温暖化問題に関する国際的取組みは、科学的知見の集積をふまえて、1980年代に国際政治問題化して以来、集約的に行なわれてきたが、発展途上国の義務に関しては、なかなか合意が得られない。しかしながら、今後、発展途上国、特にアジア地域が急速な経済発展に伴う二酸化炭素の排出量を急増させると予想されることから考えても、途上国も、「持続的な開発を損なわない範囲で、地球温暖化の抑制に向けて努力しなければならない。

●**授業の一般目標** 本授業は「気候変動」に関する国際環境保全の政策を中心に論ずることにしたい。そのねらいは、受講者における「国際公民」の意識と義務を認識させると共に、国際環境保全の重要性をアピールする。

●**授業の計画（全体）** 1 圧縮型工業化と爆発的都市化 2 加速するモータリゼーション 3 広がる環境汚染と健康被害 4 問われる生物多様性の保全と利用 5 地球規模の環境問題と地球サミット 6 気候変動枠組条約 7 国際環境保全の課題と展望

●**成績評価方法（総合）** 1 期末試験 2 レポート（レポートを重視する。）

開設科目	東南アジア経済論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	松井範惇				

●**授業の概要** タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピンを中心に、東南アジア各国の経済・政治・歴史を、特に1960年代以後に焦点を合わせ最近に至るまでの状況と、課題、特徴などを学習する。日本との関係の深い地域ですから、我々の日常生活にも密接に関連しています。意欲的に勉強しましょう。

●**授業の一般目標** 自分で興味を持ち、調べ、発表し、討論し合う授業にしていきます。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 アジア経済入門 内容 前半部分  
 第 2 回 項目 アジア経済入門 内容 後半部分  
 第 3 回 項目 鈴木 内容 I I - 1  
 第 4 回 項目 鈴木 内容 I I - 1  
 第 5 回 項目 鈴木 内容 I I - 1  
 第 6 回 項目 鈴木 内容 I I - 2  
 第 7 回 項目 鈴木 内容 I I - 2  
 第 8 回 項目 鈴木 内容 I I I - 1  
 第 9 回 項目 鈴木 内容 I I I - 1  
 第 10 回 項目 鈴木 内容 I I I - 2  
 第 11 回 項目 鈴木 内容 I - 1  
 第 12 回 項目 鈴木 内容 I - 2  
 第 13 回 項目 鈴木 内容 I - 2  
 第 14 回 内容 全体のまとめ  
 第 15 回

●**成績評価方法（総合）** 出席：15%、小試験（2）：2 x 20%、期末試験（または、プロジェクト）：45%

●**教科書・参考書** 教科書：日経 アジア経済入門，日本経済新聞社，日本経済新聞社；東南アジアの経済と歴史，鈴木 峻，日本経済評論社，2002年

●**連絡先・オフィスアワー** 経済学部 A308, 933-5530 npmatsui@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	開発とジェンダー	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	横田伸子				

●**授業の概要** 経済のグローバル化の進展とともに、開発途上国でも経済開発のために女性が労働市場へ引っぱり出されるようになった。しかし、女性は男性と同じ労働をするのではなく、ここでも男女の性別役割分業が成り立った。すなわち、女性は家事に加えて、家族の生活を維持するための無報酬労働や、男性の正規の労働に対して「補助的な」低賃金労働に従事することで、開発途上国の「開発」を支えてきたと言えよう。本講義では、このような「ジェンダー」の視角から、女性が「開発」にどのように動員されてきたかを見ることで、「開発と貧困」の問題をとらえ直したい。／**検索キーワード** 開発, ジェンダー, 性別役割分業, 女性の労働力化, グローバリゼーション

●**授業の一般目標** 「ジェンダー」の視角から、開発途上国において女性が「開発」にどのように動員されてきたかを見ることで、「開発と貧困」の問題をとらえ直すことを目標とする。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1.「ジェンダー」という概念を正しく理解する。 2.「開発」における女性の動員のされ方や役割について正しく理解する。 **思考・判断の観点**： 1.「ジェンダー」概念を用いて、「開発」における女性の動員のされ方や役割について論理的に説明できる。 **関心・意欲の観点**： 1. 日常生活や一般社会にひそむ「ジェンダー構造」について意識的に知ろうとする。 **態度の観点**： 1. 講義に対して質問や自分の意見を提示するなど講義に積極的に参加する。 **技能・表現の観点**： 1.「ジェンダー」概念を用いて、「開発」における女性の動員のされ方や役割について論理的に説明し、叙述できる。

●**授業の計画（全体）** 1.「ジェンダー」という概念の説明 2.「近代家族」の形成とグローバリゼーション 3. 国際連合の女性政策の展開過程－「開発」と女性 4. 開発体制と女性動員－韓国の農村開発を中心に－ 5. 日本における女性労働と社会政策

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 「ジェンダー」という概念(1) **内容** 「ジェンダー」という概念の新しさと意義について説明する
- 第 2 回 **項目** 「ジェンダー」という概念(2) **内容** 「ジェンダー」という概念の新しさと意義について説明する。
- 第 3 回 **項目** 「近代家族」の形成とグローバリゼーション(1) **内容** 産業革命以来の「近代」家族の形成と意味について論じる
- 第 4 回 **項目** 「近代家族」の形成とグローバリゼーション(2) **内容** 戦後フォーディズム体制の下での「近代家族」体制の強化と福祉国家について論じる。
- 第 5 回 **項目** 「近代家族」の崩壊とグローバリゼーション **内容** グローバリゼーションの進展の中で、「近代家族」体制＝男性稼ぎ主型家族がどのようにして崩れていっているのか、それとともに福祉国家体制がいかに後退しているのかについて論じる。
- 第 6 回 **項目** 国際連合の女性政策の展開過程－開発と女性-(1) **内容** 国際連合の女性政策がこれまでどのように展開されてきて、それに沿う形で開発途上国の女性が「開発」にいかに巻き込まれてきたのかを歴史的に見る。
- 第 7 回 **項目** 国際連合の女性政策の展開過程－開発と女性-(2) **内容** 国際連合の女性政策がこれまでどのように展開されてきて、それに沿う形で開発途上国の女性が「開発」にいかに巻き込まれてきたのかを歴史的に見る。
- 第 8 回 **項目** 国際連合の女性政策の展開過程－開発と女性-(3) **内容** 国際連合の女性政策がこれまでどのように展開されてきて、それに沿う形で開発途上国の女性が「開発」にいかに巻き込まれてきたのかを歴史的に見る。

- 第 9 回 **項目** 国際連合の女性政策の展開過程－開発と女性-(4) **内容** 国際連合の女性政策がこれまでどのように展開されてきて、それに沿う形で開発途上国の女性が「開発」にいかにかき込まれてきたのかを歴史的に見る。
- 第 10 回 **項目** 開発体制と女性動員－韓国の農村開発を中心に－ (1) **内容** 発展途上国の開発に女性がいかにかき込まれ、どのような役割を果たしてきたのかについて、韓国の農村開発を例にとりてに見てみる。
- 第 11 回 **項目** 開発体制と女性動員－韓国の農村開発を中心に－ (2) **内容** 発展途上国の開発に女性がいかにかき込まれ、どのような役割を果たしてきたのかについて、韓国の農村開発を例にとりてに見てみる。
- 第 12 回 **項目** 開発体制と女性動員－韓国の農村開発を中心に－ (3) **内容** 発展途上国の開発に女性がいかにかき込まれ、どのような役割を果たしてきたのかについて、韓国の農村開発を例にとりてに見てみる。
- 第 13 回 **項目** 日本における女性労働と社会政策 (1) **内容** 日本における女性の就業の特徴（パートタイム労働や M 字型曲線など）について論じる。
- 第 14 回 **項目** 日本における女性労働と社会政策 (2) **内容** 日本における女性の働き方を特徴づける社会政策、雇用政策についてみてみる。
- 第 15 回 **項目** 日本における女性労働と社会政策 (3) **内容** 日本において「男女共同参画社会」を実現するにはどうしたらよいかを考える。

●**成績評価方法 (総合)** 1. 試験とレポート、講義に対する質問や意見などを総合的に判断する。 2. 出席を重視する。 3. 試験 60%、授業への参加度 10%、レポート 10%、出席 20%。

●**教科書・参考書** 参考書：伊豫谷登士翁『経済のグローバリゼーションとジェンダー』明石書店,2001 年 大沢真理他編『開発とジェンダー』2002 年 大沢真理編『福祉国家とジェンダー』明石書店,2003 年 大沢真理『男女共同参画社会を作る』NHK ブックス,2002 年 村上薫編著『後発工業国における女性労働と社会政策』アジア経済研究所,2002 年

●**メッセージ** 近年さかんになっている「ジェンダー」研究は、性別を超えて人間としての生き方を根本から問い直す学問です。「自分らしく生きる」とはどういうことなのかをこの授業を通じて一緒に考えてみませんか。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail:ynobuko@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp, 電話 083-933-5559、研究室 A425、オフィスアワーはとくに設けませんが、質問等があるときは在否を確認の上訪ねてください。

開設科目	韓国経済論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	横田伸子				

●**授業の概要** 1. 第2次世界大戦後の世界資本主義体制の構造変化の中で、東アジア地域では、韓国、台湾が「東アジアの奇跡」とよばれる高度成長を遂げた。本講義では、1960年代後半以降の韓国経済の発展のメカニズムを、国内的条件、国際的条件の両側面から歴史的に見ていく。とくに、開発政策を通じて強力な国家が果たした役割と、その結果、韓国経済・社会の構造がいかに変わったかについて注目したい。2. 1997年の東アジア経済危機を契機に、韓国でも急速に経済構造改革が進められている。中でも、労働政策、金融改革、財閥改革などを具体的に取り上げて、韓国経済の構造がどのように変わったのかについて考えたい。3. 朝鮮半島における韓国と北朝鮮の関係について、国際政治、国際経済などの様々な側面から見ていく。／**検索キーワード** 韓国経済、経済構造改革、アジア経済危機、北朝鮮

●**授業の一般目標** 1. 韓国の経済発展メカニズムについて考える 2. 韓国の経済構造改革について考える。3. 韓国と北朝鮮の関係について、国際政治や国際経済などの様々な側面から見てみる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 韓国経済の発展のメカニズムについて論理的に理解する。2. 韓国の経済構造改革について体系だてて理解する。3. 朝鮮半島情勢について国際関係の脈絡の中で理解する。**思考・判断の観点**： 1. 韓国経済の発展のメカニズムについて論理的に説明できる。2. 韓国の経済構造改革について体系だてて説明できる。3. 朝鮮半島情勢について論理的に説明できる。**関心・意欲の観点**： 1. 経済だけでなく、日常的に韓国の政治、文化、歴史や社会について関心を持つ。**態度の観点**： 1. 本講義に対して質問や自分の意見を提示するなど、講義に積極的に参加する。**技能・表現の観点**： 1. 韓国経済の発展のメカニズムについて論理的に叙述できる。2. 韓国の経済構造改革について体系だてて叙述できる。3. 朝鮮半島情勢について論理的に叙述できる。

●**授業の計画（全体）** 1. 韓国経済を見る視角。2. 韓国経済の発展メカニズムについての分析。3. 韓国の経済構造改革と経済構造の変化。4. 国際関係の中での北朝鮮の情勢。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目** 韓国経済を見る視角 **内容** 韓国の経済発展を様々な立場の経済学者がどのように見てきたのか
- 第2回 **項目** 韓国の農地改革と農村開発 **内容** 韓国の経済開発の始発点で、韓国の農地改革が農村開発及び経済発展にどのような役割を果たしたかを見る。
- 第3回 **項目** 1950年代の韓国経済 **内容** 高度経済成長の前段階の1950年代に発展の前提条件がどのように形成されたかを見る。
- 第4回 **項目** 開発体制の成立と「組立型工業化」(1) **内容** 韓国における政府主導型の開発体制と発展戦略である「組立型工業化」の仕組みを詳しく見ていく。
- 第5回 **項目** 開発体制の成立と「組立型工業化」(2) **内容** 韓国における政府主導型の開発体制と発展戦略である「組立型工業化」の仕組みを詳しく見ていく。
- 第6回 **項目** 農村開発とセマウル運動(1) **内容** 1950年代から60年代にかけて形成された農村開発の発展条件を、セマウル運動という農村振興運動によって一気に開花させた。その展開過程を跡づける。
- 第7回 **項目** 農村開発とセマウル運動(2) **内容** 1950年代から60年代にかけて形成された農村開発の発展条件を、セマウル運動という農村振興運動によって一気に開花させた。その展開過程を跡づける。
- 第8回 **項目** 「韓国型」重化学工業化(1) **内容** 韓国においてなぜ、重化学工業化が可能であったのか？「韓国型」重化学工業化戦略を考察する。
- 第9回 **項目** 「韓国型」重化学工業化(2) **内容** 韓国においてなぜ、重化学工業化が可能であったのか？「韓国型」重化学工業化戦略を考察する。

- 第10回 **項目** 韓国の都市化と労働市場 **内容** 1970年代の韓国の経済発展の原動力となった「低賃金」労働者の実態を浮き彫りにする。
- 第11回 **項目** 労働者大闘争と労働市場の構造変化 **内容** 韓国の労働経済史上の画期となった1987年の「労働者大闘争」以前と以後の労働者のあり方を主に労働市場構造の分析を通じてみていく。
- 第12回 **項目** IMF経済危機と経済改革(1)-金融システムの改革 **内容** アジアの経済危機以降の経済構造改革の中の金融改革の実態を分析する。
- 第13回 **項目** IMF経済危機と経済改革(2)-財閥改革と市民運動 **内容** アジアの経済危機以降の経済構造改革の中の財閥改革の実態を考察する。同時に、これに大きな影響を与えた「参与連帯」をはじめとする市民運動の動きも見ていく。
- 第14回 **項目** IMF経済危機と経済改革(3)-労働市場の柔軟化政策 **内容** アジアの経済危機以降の労働市場の柔軟化政策の中で労働者の状態がどのように変わったのかについてみていきたい。
- 第15回 **項目** 北朝鮮の進路と韓国の選択 **内容** めまぐるしく変わる朝鮮半島情勢を、北朝鮮の動きに注目しつつ、国際関係の中でとらえる。

●**成績評価方法(総合)** 1. 試験とレポート、講義に対する質問や意見などを総合的に判断する。 2. 出席を重視する。 3. 試験60%、レポート10%、授業への参加度10%、出席20%。

●**教科書・参考書** 参考書： 隅谷三喜男『韓国の経済』岩波書店,1976年 服部民夫『韓国の工業化—発展の構図』アジア経済研究所,1987年 平川均『NIES—世界システムと開発—』同文館, 1992年 深川由紀子『韓国・先進国経済論』日本経済新聞社, 1997年 平川均他編著『反グローバリズムの開発経済学』日本評論社, 2003年

●**メッセージ** 最近、「韓流」とよばれる韓国ブームが日本だけでなく、東アジア全体に広がっていますが、そのパワーやダイナミクスの源を皆さんと一緒に探りたいと思います。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail ynobuko@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp. 電話番号083-933-5559, 研究室A425. オフィスアワーはとくに設けません。質問等があるときは、在否を確認の上、研究室を訪ねてください。



開設科目	華僑経済論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	陳 禮俊				

●**授業の概要** アジアを中心に居を構えている華人は、その居住国での総人口に占める割合は少ないにもかかわらず、経済面では圧倒的な支配力を持っている。華人企業の多くは様々な分野に跨るコングロマリットにまで成長している。特に近年、華人企業は対外投資や企業買収を活性化させるなどの方法で、その授業をグローバルに展開し、アジア経済、そして国際経済の発展にますます大きな役割を果たすようになってきている。このことは華人が既に無視できない経済勢力にまで成長し、華人経済抜きではアジア、そして国際経済を語れなくなったことを示唆しているが、経済の頂点にたつ華人社会は現在新たな事業を展開しながら、国際社会への更なる貢献を模索しているところである。

●**授業の一般目標** 本授業はアジアにおける華僑の経済活動を中心に分析しながら、アジアにおける開発途上国の環境問題を視野に取入れ、従来欧米先進諸国が主導してきた「東洋経済」、「環境保全」の限界と問題点を指摘し、東洋的、特に中国社会における「老荘思想」、そして日本の「和道」から出発し、東洋社会に適した経済発展のアプローチと環境意識を考案することにした。その目的は、「老荘思想」をもつ「華人ネットワーク」と「和道」を論ずる日本社会をリンクさせ、東洋独自のアプローチで、新たなアジア経済秩序作りと地球規模の環境問題解決に向けた提案を考案し、理論を構築することにした。

●**授業の計画（全体）** 1 華僑経済発展過程の考察 2 アジアにおける華僑経済活動の現状 3 アジアにおける工業化、都市化の現状及びそれに伴う環境・エネルギー問題の考察 4 華僑経済の位置付けおよびその展望 5 地球規模の環境問題解決における華人の役割、可能性及びその展望

●**成績評価方法（総合）** 1 期末試験 2 レポート（レポートを重視する。）

●**連絡先・オフィスアワー** 1 連絡の上、随時歓迎 2 気軽に授業に来てください。

開設科目	台湾経済論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	陳 禮俊				

●**授業の概要** 戦後台湾は目覚ましい経済発展を成し遂げている。特に 1980 年代の初頭から、台湾、韓国、香港、シンガポールなどの 4 カ国・地域はアジア NIE s の姿で、世界経済の舞台に登場して以来、それぞれの経済発展と政治の動きは世界の人々の注目を集めた。そしてアジア NIE s の内、台湾の工業化、都市化による経済成長のパターンは「発展途上国の模範」といわれているが、発展途上諸国の工業化における経済政策に大きな示唆を示している。しかし、18 世紀産業革命以降、欧米先進工業諸国は急激な技術革新及び工業化の成果を享受しながら、自然環境変化による莫大な被害を経験してきた。この背景に 1960 年代後半から、環境保全運動は盛んに行なわれているが、この時期はちょうどアジア NIE s 工業化の離陸期であり、欧米先進諸国から工業化による経済豊かさの情報のみを取り入れ、環境問題をほぼ無視した状態で工業化、都市化を進んできた。その影響はそれぞれの国・地域によって、多少時間のずれはあるが、1980 年代を中心にアジア諸国の環境問題は浮上しているが、台湾も例外ではない。

●**授業の一般目標** 本授業では戦前、戦後台湾経済発展の軌跡を辿りながら、台湾の工業化及び都市化が特徴を纏め、それに伴う環境・エネルギー問題を中心に分析し、従来の新古典派などの成長理論と異なる視点を用いて、新たな開発経済学の研究領域を模索する。そして授業のねらいは「環境に優しい経済発展」のモデルを考察することにした。

●**授業の計画（全体）** 1 戦前、戦後台湾の経済発展過程の考察 2 戦前、戦後台湾の工業化、都市化の考察 3 工業化、都市化の現状及びそれに伴う環境・エネルギー問題の考察 4 諸学派の「成長理論」および「台湾モデル」の考察

●**成績評価方法（総合）** 1 期末試験 2 レポート（レポートを重視する。）

●**メッセージ** 気軽に授業に来てください。

開設科目	東アジア社会	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	李海峰				

●**授業の概要** 中国は1980年から計画経済に市場経済システムを導入し、急速に経済の高度成長を遂げました。このような経済改革は壮大な社会的変革となった。この改革遂行は経済政策に直接関わる制度のみならず、国民生活、家族制度、価値観、政治、階級など社会全体が再編成されている。市場経済の発展に伴って、社会構造がどのように変化し、大衆消費社会がどのように形成しているのか、統計データ、社会調査などの資料を通して分析、考察する。／**検索キーワード** 中国経済と日本、東アジア社会経済、構造変化、

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 経済改革——計画経済から市場経済への移行
- 第2回 項目 欧米、日本など先進国から技術、市場システムの導入
- 第3回 項目 経済の発展と生活水準の上昇
- 第4回 項目 消費生活と商業環境の変化
- 第5回 項目 情報環境の発達と社会経済の変貌
- 第6回 項目 欧米、日本、中国の大衆消費社会の比較
- 第7回 項目 都市・農村間、地域間、階層間格差の拡大
- 第8回 項目 政策と人口動態
- 第9回 項目 農村の開発と郷鎮企業
- 第10回 項目 中国の社会主義市場経済と国有企業の改革
- 第11回 項目 経済発展とエネルギー、インフラ整備
- 第12回 項目 開発と環境汚染
- 第13回 項目 中国の社会経済発展とアジアの構造変化
- 第14回 項目 欧米、日本企業の中国への進出、競争
- 第15回 項目 世界市場環境と東アジア社会

●**メッセージ** 充実しておもしろい知的な道を探求しましょう、一寸光陰一寸金、寸金難買寸光陰、

開設科目	ビジネスハングル I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	桂 林春				

- 授業の概要** ハングルのビジネスレターを中心に、韓国経済の時事問題を取り入れながら韓国の文化にも触れていきます。そして今韓国で使われている '現代韓国語' を用いたビジネス会話を通時、正確な発音と文章の表現を学びます。
- 授業の一般目標** ハングルビジネスレターの理解と韓国語での商談能力を身につけることです。
- 授業の到達目標** / **知識・理解の観点** : ハングルビジネスレターが説明できる。ビジネス会話が理解できる。 **思考・判断の観点** : 日本語と異なる表現に触れ、物事に複眼的な考察ができる。 **関心・意欲の観点** : ハングルを通じ韓国への関心を抱く。 **態度の観点** : 隣国への興味が行動で実践することに寄与できる (旅行・語学研修など) **技能・表現の観点** : ハングルビジネスレターの簡単な文章が作れる。ハングルビジネス会話の意志表現ができる。
- 教科書・参考書** 教科書 : 資料配布 / 参考書 : 授業中紹介
- メッセージ** 記載なし

開設科目	ビジネスハングル II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	桂 林春				

- 授業の概要** ビジネスハングル I のシラバスを見てください。
- 授業の一般目標** ビジネスハングル I のシラバスを見てください。
- 授業の到達目標** / **知識・理解の観点**： ビジネスハングル I のシラバスを見てください。 **思考・判断の観点**： ビジネスハングル I のシラバスを見てください。 **関心・意欲の観点**： ビジネスハングル I のシラバスを見てください。 **態度の観点**： ビジネスハングル I のシラバスを見てください。 **技能・表現の観点**： ビジネスハングル I のシラバスを見てください。
- 教科書・参考書** 教科書： 資料配布。 / 参考書： 授業中紹介。
- メッセージ** 記載なし)

開設科目	中国経済論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	陳建平				

●**授業の概要** 1970年代末から20数年間にわたり、中国は改革開放路線を押し進める一方、経済成長を維持してきた。かつて同じ計画経済システムを採用した旧ソ連諸国や東欧諸国に比べて、中国の経済状況が比較的に良好なパフォーマンスを示し得たのは、ひとえに漸進的な改革路線と対外開放路線のおかげだと言っても過言ではない。しかし、改革開放までの約30年間わたる計画経済時代の投資蓄積がなければ、中国の経済成長がこれほどまでに長期に継続できたとも思えない。本講義では、新中国建国後の社会主義計画経済時代の経済発展を振り返り、ここ20年の中国の改革開放路線の展開を軸に、社会主義市場経済体制の確立に向けての歩みと、経済成長のダイナミズムを検証し、21世紀の中国の課題と展望について考える。／**検索キーワード** 中国、中国経済

●**授業の一般目標** 中国経済の歴史や現状についての知識を習得し、改革前の計画経済期と改革後の改革開放期の関係を理解し、国際経済における中国経済の位置付けや中国経済の今後の見通しについて、自分の意見が言える。

●**授業の計画（全体）** 1. 社会主義計画経済期の経済成果 計画経済体制の確立、第1次5カ年計画の成功、自力更生政策のもとでの経済成長 2. 社会主義計画経済期の挫折と模索 大躍進による経済後退、文化大革命期の停滞、分権的経済体制への模索 3. 改革開放路線の展開 農村改革—万元戸の誕生、経済特区の設置、外国資本の導入、社会主義商品経済の提唱 4. 改革期の経済成長 地域経済の隆盛、高速成長から安定成長へ、アジア経済危機の防波堤、世界の工場へ 5. 経済体制の根本的な転換 国有企業の改革、株式制の導入、財政税制金融制度の改革、社会主義市場経済への転換 6. 21世紀に向けて 成長はいつまで続く、西部大開発とWTO加盟、世界大国の夢と現実

●**成績評価方法（総合）** 定期試験（中間試験と期末試験）＝60％ 宿題／授業外レポート＝10％ 出席＝30％

●**メッセージ** よくノートをとって、必ず整理しておくように。また、メディア等における中国関係の情報にも関心を持つように。

開設科目	現代中国論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	大林洋五				

●**授業の概要** 授業のねらい及び概要 1. 世界一の消費財生産・輸出国となり、高度成長を続けている中国の大きな可能性と危険性を分析する。とくに隣国・日本にとっての中国の”重さ”を考える。2. 現代中国の特色を大国、発展途上国、”社会主義市場経済”の三つの特色に整理して考える。3. 先進工業国、グローバル経済への発展のための課題と障害を考える。／**検索キーワード** 中国、アジア、発展途上国、国際関係

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 世界の中の中国、日本にとっての中国 近代以降の「潜在敵国」アメリカ、ロシア、中国
- 第 2 回 項目 人口ー労働力、潜在市場 面積ー広い平地（長い輸送路） 資源ー豊かな埋蔵（開発費用）
- 第 3 回 項目 古い文明ー（近隣の尊敬と歴史的「大国主義」への警戒） 多様な生活（漢民族の中でも）、少数民族
- 第 4 回 項目 半封建社会・半植民地の近代、開発の遅れ
- 第 5 回 項目 社会主義化の成果とマイナス面（1949ー78）
- 第 6 回 項目 社会主義化の成果とマイナス面（続）
- 第 7 回 項目 ”改革・開放”の成果、”社会主義市場経済”の意味（1979以降）
- 第 8 回 項目 ”改革・開放”の成果、”社会主義市場経済”の意味（1979以降）（続）
- 第 9 回 項目 今後の課題ー経済成長それ自体から 外国資本・外国技術・外国市場（外国原料半製品）への依存エネルギー、交通などの制約
- 第 10 回 項目 今後の課題ー民主主義への軟着陸は可能か
- 第 11 回 項目 辺境と少数民族と周辺国家
- 第 12 回 項目 台湾問題、香港問題 結論ー民主主義の意味
- 第 13 回 項目 試験（7月21日）（小論文）
- 第 14 回
- 第 15 回

●**成績評価方法（総合）** 期末の筆記試験による

●**教科書・参考書** 教科書： 記入なし。,, ; 使用しない。／ 参考書： 記入なし。,, ; 中国の地図を用意してほしい。

●**メッセージ** 大きな隣人を理解しよう。

●**連絡先・オフィスアワー** 自宅 083-924-9638（FAXによる質問歓迎）

開設科目	中国工業論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	陳建平				

●**授業の概要** 中国において、近代的工業体系が形成され、発展を遂げたのは、新中国が成立した後になってからだといわれる。近代化の実現＝工業化の達成がかなり長期にわたって、中国の国家目標とされてきたといっても過言ではない。本講義では、中国の近代工業の発展の各段階を振り返り、通時的共時的比較を通して、今日の中国工業の到達点とその直面する諸問題について検討し、その将来を展望する。／**検索キーワード** 中国、中国経済

●**授業の一般目標** 工業化、社会主義工業化、重工業優先発展戦略などについて理解し、その成果と問題点についても説明できる。

●**授業の計画（全体）** （1）工業化の初期段階――社会主義中国成立前の中国工業 （2）重工業優先の工業化政策――計画経済期の中国工業 （3）改革開放後の工業発展――重工業優先発展戦略の転換 （4）モノづくり大国を目指して――21世紀中国工業の展望

●**成績評価方法（総合）** 定期試験を中心に成績判定をする。

●**メッセージ** 出席を怠らず、よくノートを整理しておくように。



開設科目	コミュニケーション中国語（口語 I）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田梅				

●**授業の概要** ・必要な語彙を拡張する。 ・構造的な文法知識を解説する。 ・本文のテーマについて対話を展開する。／**検索キーワード** 中国語会話、コミュニケーション

●**授業の一般目標** 本授業は発音・語彙・文法など共通教育で習得した項目の確認と整理、拡張を図りながら、口語練習により、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法や会話の技法、質問と答えの方法など正しい表現力を身につける。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：慣用語、文型を身につけて、コミュニケーションに表現形式を理解、運用できる。**思考・判断の観点**：自身のこと、感心することなど日常生活について会話することができる。**関心・意欲の観点**：中国人、中国の事情に理解、関心を持つ。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 第 1 課 「接新生」 内容 本文の朗読と解説、語彙・文法の説明
- 第 3 回 項目 「望子成龍」 内容 説明と会話練習
- 第 4 回 項目 第 2 課 「北方与南方」 内容 本文の朗読と解説、語彙・文法の説明
- 第 5 回 項目 「南甜北咸東辣 西酸」 内容 説明と会話練習
- 第 6 回 項目 第 3 課 「語言」 内容 本文の朗読と解説、語彙・文法の説明
- 第 7 回 項目 「外来語」 内容 説明と会話練習
- 第 8 回 項目 第 4 課 「少数民族」 内容 本文の朗読と解説、語彙・文法の説明
- 第 9 回 項目 「旗袍」 内容 説明と会話練習
- 第 10 回 項目 第 5 課 「春節」 内容 本文の朗読と解説、語彙・文法の説明
- 第 11 回 項目 「対聯」 内容 説明と会話練習
- 第 12 回 項目 第 6 課 「小皇帝」 内容 本文の朗読と解説、語彙・文法の説明
- 第 13 回 項目 「黒孩子」 内容 説明と会話練習
- 第 14 回 項目 第 7 課 「中国人の住宅」 内容 本文の朗読と解説、語彙・文法の説明
- 第 15 回 項目 前期期末試験

●**成績評価方法（総合）**（1）授業の中で小テスト、授業外の宿題を数回行う。（2）関心ある問題について会話文を作成し提出する。（3）試験を実施する。以上を下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

●**教科書・参考書** 教科書：中国語中級テキスト『China Today』, 村松恵子等著, 白帝社, 1997 年

●**メッセージ** 必ず予習、復習してください。出席 70 %未満の者に対して成績評価を与えません。再試験は実施しませんので、きちんと試験の準備をしてください。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究 1 号館（311）tian@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・水曜日 16:00-18:00

開設科目	コミュニケーション中国語（口語 II）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	田梅				

●**授業の概要** ・必要な語彙を拡張する。 ・構造的な文法知識を解説する。 ・本文のテーマについて対話を展開する。／**検索キーワード** 中国語会話、コミュニケーション

●**授業の一般目標** 本授業は発音・語彙・文法など共通教育で習得した項目の確認と整理、拡張を図りながら、口語練習により、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法や会話の技法、質問と答えの方法など正しい表現力を身につける。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 慣用語、文型を身につけて、コミュニケーションに表現形式を理解、運用できる **思考・判断の観点**： 自身のこと、感心することなど日常生活について会話することができる。 **関心・意欲の観点**： 中国人、中国の事情に理解、関心を持つ。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 第 8 課 「快餐店」 内容 本文の朗読と解説、語彙・文法の説明
- 第 2 回 項目 「闘鶏」 内容 説明と会話練習
- 第 3 回 項目 第 9 課 「農貿市場」 内容 本文の朗読と解説、語彙・文法の説明
- 第 4 回 項目 「討価還価」 内容 説明と会話練習
- 第 5 回 項目 第 10 課 「新三大件」 内容 本文の朗読と解説、語彙・文法の説明
- 第 6 回 項目 「牌兒」 内容 説明と会話練習
- 第 7 回 項目 第 11 課 「下海」 内容 本文の朗読と解説、語彙・文法の説明
- 第 8 回 項目 「大款」 内容 説明と会話練習
- 第 9 回 項目 第 12 課 「三資企業」 内容 本文の朗読と解説、語彙・文法の説明
- 第 10 回 項目 「跳槽」 内容 説明と会話練習
- 第 11 回 項目 第 13 課 「下崗」 内容 本文の朗読と解説、語彙・文法の説明
- 第 12 回 項目 「鉄飯碗」 内容 説明と会話練習
- 第 13 回 項目 第 15 課 「股票・股民・股市」 内容 本文の朗読と解説、語彙・文法の説明
- 第 14 回 項目 「炒股」 内容 説明と会話練習
- 第 15 回 項目 後期期末試験

●**成績評価方法（総合）**（1）授業の中で小テスト、授業外の宿題を数回行う。（2）関心ある問題について会話文を作成し提出する。（3）試験を実施する。以上を下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

●**教科書・参考書** 教科書：中国語中級テキスト『China Today』, 村松恵子等著, 白帝社, 1997 年

●**メッセージ** 必ず予習、復習してください。出席 70 %未満の者に対して成績評価を与えません。再試験は実施しませんので、きちんと試験の準備をしてください。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究 1 号館（3 1 1）tian@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・水曜日 16:00-18:00

開設科目	コミュニケーション中国語（閲読 I）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	齊藤匡史				

●**授業の概要** コミュニケーション中国語は、共通教育で習得した中国語能力を基礎に、中国語の総合的運用能力を養成することを目的とする。うち閲読科目は、中国語の文の構成、語法を再確認しながら、より複雑な表現、まとまった文章を読みこなし、内容を十分理解する能力を高めることを目的とする。あわせて現代中国事情、社会や文化についての理解も深めていく。

●**メッセージ** 中国語をマスターしたいという熱意のある学生を歓迎する。自分の能力がどの程度かを測る中国語コミュニケーション能力検定試験にぜひ挑戦して欲しい。

開設科目	コミュニケーション中国語（聴写 I）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	梁 蕾				

●**授業の概要** コミュニケーション中国語は、共通教育で習得した中国語を基礎に、聞き取る能力、話す能力、読む能力を高め、中国語の総合的な運用能力を養成する科目である。人とコミュニケーションをするとき、相手の話したことを聞き取れないと何を返事すればいいか全く見当もつけない。この聴写 I は、その大事な聞き取り能力を高めるトレーニングを中心に授業を進める。／**検索キーワード** 中国語、コミュニケーション、聴写

●**授業の一般目標** 共通教育で習得した発音、単語、会話文などを聞き分けできることを目標とする。

●**授業の計画（全体）** 初回授業で詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。ビデオなどを適当に使う。

●**成績評価方法（総合）** 定期テスト、小テスト、授業中の発表などによる総合評価

●**教科書・参考書** 教科書：一回目の授業ガイダンス時に指示。／参考書：記載なし。

●**メッセージ** 共通教育の中国語初級 1・2・a/b を修得したものに限る。コミュニケーション中国語 3 科目の I・II は、通年履修が望ましい。

開設科目	コミュニケーション中国語（聴写 II）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	梁 蕾				

●**授業の概要** コミュニケーション中国語は、共通教育で習得した中国語を基礎に、聞き取る能力、話す能力、読む能力を高め、中国語の総合的な運用能力を養成する科目である。前期に引き続き、より実用的な教材を使い、より高度な聞き分け能力を身につけるためのトレーニングを行う。言葉の文化的な背景についても適当説明する。

●**授業の一般目標** 共通教育で修得した発音、単語、会話文などを聞き分けできることを目標とする。

●**授業の計画（全体）** 初回授業で詳しく説明するので、受講希望者は必ず出席すること。ビデオなどを適当に使う。

●**成績評価方法（総合）** 定期テスト、小テスト、授業中の発表などによる総合評価

●**メッセージ** 共通教育の中国語初級 1・2・を修得したものに限る。コミュニケーション中国語 3 科目の I・II は通年、履修が望ましい。

開設科目	ビジネス中国語 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	陳 鳳展				

●**授業の概要** 引き合いからクレームまでの各商取引の段階で使われる商談について、輸出入の実務の仕組みや手続きを説明しながら解説していく。／**検索キーワード** 記載なし。

●**授業の一般目標** 1. 各商取引の段階で出てくる専門語を覚える。そして各商談の意味、内容を理解できるようにする。 2. 貿易実務の仕組みや手順を知る。

●**授業の計画（全体）** テキストの目次に従って、下記の通り授業を進める。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** オリエンテーション **内容** 授業の目標と進め方。成績評価の方法等。

第 2 回 **内容** 引き合いに関する商談。

第 3 回 **内容** 引き合いに関する商談。

第 4 回 **項目** 国際貿易の常用価格用語について。 **内容** F.O.B 価格 **授業記録** ノート講義（ノートの用意をしてくること）

第 5 回 **項目** 国際貿易の常用価格用語について。 **内容** CIF 価格、CSF 価格 **授業記録**（ノートの用意をしてくること）

第 6 回 **項目** 報価 **内容** offer に関する商談。

第 7 回 **項目** 報価 **内容** 同上

第 8 回 **項目** 価格争議 I **内容** 価格の交渉に関する商談

第 9 回 **項目** 同上 **内容** 同上

第 10 回 **項目** 価格争議 II **内容** 同上

第 11 回 **項目** 同上 **内容** 同上

第 12 回 **項目** 訂貨 **内容** 商品注文に関する商談

第 13 回 **項目** 同上 **内容** 同上

第 14 回 **項目** 折 **内容** 割引交渉に関する商談

第 15 回 **項目** 試験

●**成績評価方法（総合）** 1 期末試験の成績による。（評価割合 1 0 0 %） 2 全講義回数の四分の三以上出席しないと試験を受ける資格がない。

●**教科書・参考書** 教科書：ビジネス中国語 500, , ; ビジネス中国語 5 0 0（北京外交出版社）（最初の授業の日に教室で販売する）

●**メッセージ** 記載なし。

●**連絡先・オフィスアワー** 記載なし。

開設科目	ビジネス中国語 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	陳 鳳展				

●**授業の概要** 前期のビジネス中国語 I の続きの授業です。この授業は支払い方式から船積みに到るまでの各商取引の段階で使われる商談について、輸出入の実務の仕組みや手続を説明しながら解説していきます。

●**授業の一般目標** 1. 各商取引の段階で出てくる専門語を覚える。そして各商談の意味・内容を理解できるようにする。 2. 貿易実務の仕組みや手続を知る。

●**授業の計画（全体）** テキストの目次に従って、下記のとおり授業を進める。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 国際貿易における商品代金の決済方式について 内容 送金払いの方法 授業記録 ノート講義があるのでノートの用意をすること。

第 2 回 項目 同上 内容 取立て依頼の方法 授業記録 同上

第 3 回 項目 同上 内容 信用状決済 授業記録 同上

第 4 回 項目 款方式（一） 内容 支払いに関する商談

第 5 回 項目 同上 内容 同上

第 6 回 項目 同上 内容 同上

第 7 回 項目 款方式（二） 内容 同上

第 8 回 項目 同上 内容 同上

第 9 回 項目 同上 内容 同上

第 10 回 項目 交貨日期 内容 荷渡し期日に関する商談

第 11 回 項目 同上 内容 同上

第 12 回 項目 装運条件 内容 船積みに関する商談

第 13 回 項目 同上 内容 同上

第 14 回 項目 同上 内容 同上

第 15 回 項目 試験 内容 期末試験です。

●**成績評価方法（総合）** 1 期末試験の成績による。（評価割合 1 0 0 %） 2 全講義回数の四分の三以上出席しないと試験を受ける資格がない。

●**教科書・参考書** 教科書：ビジネス中国語 500, , 北京外交出版社；ビジネス中国語 5 0 0 （北京外交出版社）

●**メッセージ** 成績評価方法は期末試験による。語学の授業だから三分の二以上出席しないと失格する。

開設科目	中国語実用文	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	何曉毅				

- 授業の概要** 中国語を学ぶと、プライベートに、国際交流に、ビジネスに…活用したいのは人情である。中国語の手紙も書きたければ、中国人の友達と中国語でメールをやりとりしたい、あわよくばちょっとした中国語のビジネス文書も作成したい、などなど、この授業は諸君のこれらの要望に応える。
- 授業の一般目標** 簡単な中国語実用文を書けることを目標とする。
- 授業の計画（全体）** ○日記の書き方 ○手紙の書き方 ○パソコンで中国語 ○中国語でメールをやりとり  
○簡単なビジネス文書の作成 ○招待状 ○祝賀状 ○休暇願 ○紹介状
- 成績評価方法（総合）** 宿題や、作文の完成度、受講態度による総合評価
- 教科書・参考書** 教科書：プリント配布／参考書：授業中指示。
- メッセージ** 中国語検定を受けたい、中国へ留学に行きたい、中国茶に興味がある…何でも研究室に来てくれ。備考：受講者の修得度などを考慮し、シラバスの内容を変える場合がある。



開設科目	時事中国語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	齊藤匡史				

- 授業の概要** 改革開放政策の 20 余年で中国は劇的な変化を遂げた。特に中国経済、社会は昨年 WTO 加盟により、加速度的な変化、発展が見込まれ、今世紀中葉には世界第 2 位ないしは 3 位の GDP になるとも言われている。こうした中国の動きに眼を向け、情勢を読み解いていく基本的な中国語能力と中国認識を養成する。

# 経済法学科

開設科目	法学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	有田謙司				

- 授業の概要** この講義は、私法を除く法領域における（私法の領域についてはそれについては法学 II）、法学の基本的な考え方、概念等について、説明する。
- 授業の一般目標** 受講者が、私法を除く法領域における（私法の領域についてはそれについては法学 II）、法学の基本的な考え方、概念等について理解することを目標とする。
- 授業の計画（全体）** 法とは何か、近代法と現代法、法と裁判、裁判の基準と法の解釈、基本的人権、犯罪と刑罰、福祉国家と社会法
- 成績評価方法（総合）** 定期試験と小テストで評価する。3 回以上欠席した者には単位を与えない。
- 教科書・参考書** 教科書：開講時に指示する／参考書：授業時間中に適宜指示する
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室在室時。事前に電話（内線 5 5 5 1）またはメール（arita@yamaguchi-u.ac.jp）で事前に連絡してくることを。

開設科目	法学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柳澤旭				

●**授業の概要** 法学における重要かつ基本的な概念・原則などを理解するとともに、社会生活上生起している法律的問題につき、関心をもち、様々な意見・考え方を理解し、解決策を考える。

●**メッセージ** 当然のことであるが、授業に出席しない者ほど成績は悪い。

開設科目	法学 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	平中貫一				

- 授業の概要 基盤科目の一つとして、主に民法総則を扱う。／検索キーワード 民法
- 授業の一般目標 民法総則の基礎的知識の修得
- 授業の計画（全体） 1 はじめに 2 権利の主体 3 法律行為 4 時効 5 その他

開設科目	法学 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	三間地光宏				

●**授業の概要** (i) この講義は、「法学 I」と並ぶ経済法学科の基盤科目である。この講義と「法学 I」とを履修することにより、本学部の専門科目として開講されているさまざまな法律科目を履修するために必要な基礎知識を修得することになる。(ii) 具体的には民法総則の初歩を学習する。

●**授業の一般目標** 民法総則が扱う諸制度について理解すること。

●**授業の到達目標／知識・理解の観点**：民法総則が扱う諸制度・諸概念を理解すること。 **思考・判断の観点**：具体的事例に法を当てはめて結論を導き出せるようになること。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** ガイダンス **授業外指示** 授業の際に配布するプリントに次回までにやっておくべき課題を記載する。
- 第 2 回 **項目** 民法の位置づけ、法源、法の解釈、教科書を読む上での注意点 **授業外指示** 授業の際に配布するプリントに次回までにやっておくべき課題を記載する。
- 第 3 回 **項目** 民法の基本原則、私権行使についての原則 **授業外指示** 授業の際に配布するプリントに次回までにやっておくべき課題を記載する。
- 第 4 回 **項目** 権利能力、行為能力 (1) **授業外指示** 授業の際に配布するプリントに次回までにやっておくべき課題を記載する。
- 第 5 回 **項目** 行為能力 (2) **授業外指示** 授業の際に配布するプリントに次回までにやっておくべき課題を記載する。
- 第 6 回 **項目** 法人 **授業外指示** 授業の際に配布するプリントに次回までにやっておくべき課題を記載する。
- 第 7 回 **項目** 法律行為 (1) **授業外指示** 授業の際に配布するプリントに次回までにやっておくべき課題を記載する。
- 第 8 回 **項目** 法律行為 (2) **授業外指示** 授業の際に配布するプリントに次回までにやっておくべき課題を記載する。
- 第 9 回 **項目** 法律行為 (3)、無効と取消 **授業外指示** 授業の際に配布するプリントに次回までにやっておくべき課題を記載する。
- 第 10 回 **項目** 条件と期限、代理 (1) **授業外指示** 授業の際に配布するプリントに次回までにやっておくべき課題を記載する。
- 第 11 回 **項目** 代理 (2) **授業外指示** 授業の際に配布するプリントに次回までにやっておくべき課題を記載する。
- 第 12 回 **項目** 期間、時効 (1) **授業外指示** 授業の際に配布するプリントに次回までにやっておくべき課題を記載する。
- 第 13 回 **項目** 時効 (2)、物
- 第 14 回
- 第 15 回

●**成績評価方法（総合）** 期末試験による。なお、次の二点に注意されたい。(1) 4 回以上欠席した者には期末試験の受験資格を認めない(受験しても不合格となる)。(2) この授業では毎回課題を出す。が、課題をやって来てない場合には欠席扱いになる(課題について受講者に答えてもらいながら授業を行うため)。

●**教科書・参考書** 教科書：いまのところ永田＝松本＝松岡『民法入門・総則 [第 2 版]』(有斐閣、2000 年)を使用する予定であるが、品切等の理由で変更になることもありうる。正式にどの本を使用するかは第 1 回目の授業の際に説明する。／参考書：内田貴『民法 I 総則・物権総論 [第 2 版] 補訂版』(東京大学出版会、2000 年)

- メッセージ** 受講の際には必ず六法を持参すること。なお六法の選び方については第1回目の授業の際に説明する。
- 連絡先・オフィスアワー** メール・アドレスは講義の際に配布するプリントに記載する。オフィスアワーは現時点では未定。

開設科目	法哲学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	渡邊幹雄				

●**授業の概要** 法と正義の問題を多角的に考える。／**検索キーワード** 正義、自然法、実定法、権利、義務など。

●**授業の一般目標** さしあたり法実証主義についての詳細な説明に始まり、現代の自然法思想からの批判を踏まえた上で、法哲学の問題を網羅的に考えたい。また、法についての哲学的な思考をテーマとしているので、既存の法＝権利概念を疑う視点を養っていただきたい。単に規制の実定法を墨守するような態度は、哲学的には面白みがない。実定法の枠組みを離れて、自由に法を考えます。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：自然法論、法実証主義その他の概念をきちんと理解する。**思考・判断の観点**：法哲学的問題について、みずからの意見を持てる。

●**授業の計画（全体）** 法と正義の問題を多角的に考える。さしあたり法実証主義についての詳細な説明に始まり、現代の自然法思想からの批判を踏まえた上で、法哲学の問題を網羅的に考えたい。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** 法実証主義の詳説（1） **内容** H・ケルゼンの「純粹法学」に至るまで。

第 2 回 **項目** 同上（2）

第 3 回 **項目** 同上（3）

第 4 回 **項目** 法実証主義への批判と応答（1） **内容** H・L・A・ハートを中心に

第 5 回 **項目** 同上（2）

第 6 回 **項目** 同上（3）

第 7 回 **項目** 自然法的発想の復権（1） **内容** 法と正義、法と道徳

第 8 回 **項目** 同上（2）

第 9 回 **項目** 同上（3）

第 10 回 **項目** 正義論（1） **内容** J・ロールズ、R・ドゥオーキンを中心に

第 11 回 **項目** 同上（2）

第 12 回 **項目** 同上（3）

第 13 回 **項目** ポストモダン法学、批判的法学研究（1）

第 14 回 **項目** 同上（2）

第 15 回 **項目** 同上（3）

●**成績評価方法（総合）** 期末に行われる試験によって、さまざまな観点から総合的に判定する。

●**教科書・参考書** 教科書：とくに指定しない。／参考書：講義中に適宜指示する。

●**メッセージ** 自分自身の頭で考えることを心がけてください。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室：経済学部3階、オフィスアワー：授業終了後



開設科目	憲法総論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	柳井健一				

●**授業の概要** 近代憲法の一般理論を踏まえながら、日本国憲法をめぐるさまざまな論点についての理解を目的とした講義を行う。なお、本講義において中心的な対象となるのは憲法学のうち、憲法総論および人権総論の部分である。

●**授業の一般目標** 憲法学の起訴にかかわる事柄について全般的な理解をする

●**教科書・参考書** 教科書： 芦部信喜 高橋和之補訂 憲法〔第三版〕 岩波書店 2002年

開設科目	人権論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	立山紘毅				

●**授業の概要** 日本国憲法が規定する人権規定について、その原理原則と実態を学習する。

開設科目	統治機構論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	松井幸夫				

- 授業の概要** 日本国憲法の定める政治システムを、制度、その機能、現実の運用、問題点や課題を含めて検討する。
- 授業の一般目標** 日本国憲法の定める政治システムについての基本的な原理と概念とそれらの相互関連、及び政治運用におけるその意味を理解すること。また、諸概念の歴史的意味と比較憲法的意味を踏まえて、現代立憲主義の基本構成と、その意味と課題を理解すること。
- 授業の計画（全体）** 1. 立憲主義の憲法構造（教科書 pp.3－7、261-265 を読んでおくこと）、2. 国民主権の原理（pp.18-53）、3. 国民代表と選挙（pp.266-269、274-280）、4. 国会の地位と権能（pp.266-273、284-286）、5. 二院制の意味と機能（pp.273-274、286-292）、6. 内閣と行政権（pp.293-301）、7. 議院内閣制（pp.301-306）、8. 裁判所と司法権（pp.307-329）、9. 違憲審査制（pp.347-361）、10. 財政民主主義（pp.330-336）、11. 地方自治（pp.336-343）、12. 平和主義と安保・自衛隊（pp.54-70）、13. 平和主義と国際貢献（有事立法、アフガニスタンやイラクの特措法等最近の立法と平和主義の関係を検討する）、14. 憲法改正問題（pp.362-369）、15. 試験。
- 成績評価方法（総合）** 授業最後の試験を中心に、授業中に行う小テスト等を加味して評価する。出席についても点数に加味する。評価の基準は、授業内容の理解度を中心に、知識のみならず設問の憲法的意味を把握して回答できているかについても評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：憲法（第3版）、芦部信喜、岩波書店、2002年／参考書：新版現代憲法、元山健・倉持孝司編、敬文堂、2000年
- メッセージ** 基本をきっちり理解するとともに、その基本を歴史的・比較的な視野の中で捉えて、現実の問題を想起して対応する観点を忘れないようにしてください
- 備考** 集中授業

開設科目	契約法（民法 I）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	平中 貫一				

●**授業の概要** 私法学の基礎としての契約法を講義する。消費者契約法に象徴されるように、われわれの生活は膨大な契約のネットワークから成り立っており、その法的理解が重要である。／**検索キーワード** 契約法

●**授業の一般目標** 契約法の基礎的知識の修得

●**授業の計画（全体）** 1 契約とは何か 2 契約の環境 3 契約の不自由 4 契約の成立 5 契約の効力、その他

開設科目	土地法（民法 II）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	油納健一				

●**授業の概要** 物権法の基本を講義する。

●**授業の一般目標** 具体的な目標は、学生諸君が法律の基本的知識（条文・判例・通説）を身につけること、知識だけでなく法的に考える能力を身につけることの2点である。

●**授業の計画（全体）** 1. はじめに 2. 物権とは？ 3. 物権的請求権 4. 不動産登記制度 5. 物権変動  
 (1) 物権変動の時期など (2) 法律行為による物権変動 (3) 取消による物権変動 (4) 無効による物権変動・解除による物権変動 (5) 相続・遺産分割による物権変動 (6) 取得時効による物権変動 (7) 公売などによる物権変動 (8) 第三者の範囲 (9) 即時取得

●**成績評価方法（総合）** 定期試験（中間試験と期末試験）＝ 60～80％ 授業態度や授業への参加度＝ 20～40％ 出席＝ 欠格条件（遅刻は出席と認めない）定期試験について。試験は、事例論述式の問題を中心にし、講義に出席しない者には合格できない内容（友達から借りたノートを見て勉強しても合格できない内容）にする。試験の持込については、指定した教科書のみとする。また、試験の範囲は、講義の中で話したことすべて（雑談を除く）とする。受験資格について。3分の2以上出席しなければ、定期試験の受験を認めない。就職活動等で講義に出席できない者のみ、レポート提出によって受験資格を与える。ただし、レポートの量は2万字以上で質は上級レベルのものでないと受けつけない。詳細は、掲示する。平常点について。出席回数に応じて、平常点を与える（したがって、出席によって与えられるのは受験資格と平常点である）。また、私の講義では、講義中に受講生に対して質問することがある。答える義務はなく、答えられなくても減点等は考えていないが、よく答えられる学生や真面目に勉強している学生には平常点を与えることにしたい。また、出席人数が少なければ、よく答えられた学生にのみ出席カードを配布して、平常点を付けることも考えている。

●**教科書・参考書** 教科書：最初の講義で提示する。

●**メッセージ** 雑談・筆談する者など講義を妨害するものは、授業の出席を認めない（不合格とする）。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail yuno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	責任法（民法 IV）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	三間地				

- 授業の概要** この授業では主として民法のなかの損害賠償に関する部分（不法行為、債務不履行）を学習する。
- 授業の一般目標** 損害賠償に関する我が国の法制度を理解すること。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 損害賠償に関する我が国の法制度を理解すること。 **思考・判断の観点**： 具体的事例に法をあてはめて結論を導きだせること。
- 授業の計画（全体）** (1) 不法行為 (2) 債務不履行 (3) 事務管理 (4) 不当利得
- 成績評価方法（総合）** 期末試験による。なお出題形式は事例式論述問題である。
- 教科書・参考書** 教科書： 未定。開講時に指示する。
- メッセージ** (1) 毎回プリントを配布するが、プリントの末尾には次回の予定と課題が記載されている。課題は必ずやってくること。(2) 受講の際には必ず六法を持参すること。
- 連絡先・オフィスアワー** メールアドレスは授業の際に配布するプリントに記載する。オフィスアワーは未定。

開設科目	家族法（民法 V）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	藪本知二				

●**授業の概要** 市民社会の基礎法である民法の第 4 編親族・第 5 編相続および家事事件の紛争解決手続に関する基礎的なルールを概説する。講義では法解釈（判例の展開に充分留意する）が中心となるが、できる限り法社会学的観点と比較法的観点もとり入れる。また、法の抽象的・理論的な知識が具体的な問題解決にどのようにつながるかを理解するために、また法的思考様式になれしむために、随時、問題を提起し、それに対する解答を求める。

●**授業の一般目標** 親族法および相続法ならびに家事事件の紛争解決手続に関する基礎的な知識を習得するとともに、家事事件の解決への法的過程を理解する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 親族法序説 内容 家族法の基本構造と基本原則
- 第 2 回 項目 夫婦法 (1) 内容 婚姻の成立
- 第 3 回 項目 夫婦法 (2) 内容 婚姻の効力
- 第 4 回 項目 夫婦法 (3) 内容 配偶者間の財産関係
- 第 5 回 項目 夫婦法 (4) 内容 婚姻関係の取消・解消
- 第 6 回 項目 夫婦法 (5) 内容 離婚の効果
- 第 7 回 項目 親子法 (1) 内容 実親子関係
- 第 8 回 項目 親子法 (2) 内容 養子関係
- 第 9 回 項目 親子法 (3) 内容 親権と子どもの権利
- 第 10 回 項目 狭義の親族法 内容 後見および不要
- 第 11 回 項目 相続法序説 内容 相続法の基礎原則、基本構造
- 第 12 回 項目 法定相続法 (1) 内容 相続人、相続分
- 第 13 回 項目 法定相続法 (2) 内容 遺産分割、相続人の不存在
- 第 14 回 項目 遺言相続法 内容 遺言、遺留分
- 第 15 回 項目 試験

●**教科書・参考書** 参考書：家族法，二宮周平，新世社；内田貴，民法Ⅳ，東京大学出版会

●**メッセージ** 六法を持参して受講すること。

開設科目	刑法総論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	山本光英				

●**授業の概要** 刑法総論における重要かつ基本的な原則・概念・問題を理解するとともに、法的・論理的思考力を身につける。もっともオーソドックスな形態であるところの講義形式で行う。

●**授業の一般目標** 刑法総論の基本的知識を身につけ、刑法学的思考力を身に付ける。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：刑法学の基本的知識が身に付いているか。 **思考・判断の観点**：刑法学的な論理的思考力が身に付いているか。 **関心・意欲の観点**：授業に積極的に参加しているか。  
**態度の観点**：真摯な態度で授業に臨んでいるか。 **技能・表現の観点**：自己の主張を文章で適切に表現できるか。

●**授業の計画（全体）** 刑法学において必要とされる基本的知識を習得し、重要問題を検討しつつ、自己の考えを確立していく。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 犯罪とは何か
- 第 2 回 項目 刑法学派の争い 内容 主観主義刑法理論と客観的刑法理論
- 第 3 回 項目 罪刑法定主義 内容 罪刑法定主義とその派生原則
- 第 4 回 項目 行為 内容 作為と不作為、作為犯と不作為犯
- 第 5 回 項目 因果関係（1） 内容 条件関係
- 第 6 回 項目 因果関係（2） 内容 条件説と相当因果関係説、客観的帰属論
- 第 7 回 項目 違法性（1） 内容 違法性の本質
- 第 8 回 項目 違法性（2） 内容 違法性阻却事由（1）
- 第 9 回 項目 違法性（3） 内容 違法性阻却事由（2）
- 第 10 回 項目 違法性（4） 内容 超法規的違法性阻却事由
- 第 11 回 項目 違法性（5） 内容 結果無価値論と行為無価値論
- 第 12 回 項目 責任（1） 内容 責任の本質
- 第 13 回 項目 責任（2） 内容 責任能力、原因において自由な行為
- 第 14 回 項目 責任（3） 内容 期待可能性
- 第 15 回 項目 故意（1） 内容 故意の概念、故意の種類
- 第 16 回 項目 故意（2） 内容 事実の錯誤
- 第 17 回 項目 故意（3） 内容 法律の錯誤
- 第 18 回 項目 過失 内容 過失の概念、故意と過失の区別
- 第 19 回 項目 未遂（1） 内容 実行の着手時期
- 第 20 回 項目 未遂（2） 内容 不能犯
- 第 21 回 項目 未遂（3） 内容 中止犯
- 第 22 回 項目 共犯（1） 内容 共同正犯（実行共同正犯と共謀共同正犯）
- 第 23 回 項目 共犯（2） 内容 その他の共同正犯（承継的共同正犯など）
- 第 24 回 項目 共犯（3） 内容 教唆犯、従犯
- 第 25 回 項目 共犯（4） 内容 共犯と身分（真正身分犯と不真正身分犯）
- 第 26 回 項目 共犯（5） 内容 共犯からの離脱
- 第 27 回 項目 共犯（6） 内容 共犯と錯誤
- 第 28 回 項目 構成要件 内容 構成要件の概念と犯罪体系
- 第 29 回 項目 予備罪 内容 予備の従犯、予備罪の中止犯
- 第 30 回 項目 罪数論 内容 罪数論の基本概念

●**成績評価方法（総合）** 期末試験 80%、出席 20%。



●**教科書・参考書** 教科書：刑法総論, 立石二六, 成文堂, 1999年；別冊ジュリスト「刑法判例百選Ⅰ総論〔第5版〕」, 芝原・西田・山口編, 有斐閣, 2003年；適宜、資料を配布する。／参考書：ケースメソッド刑法総論, 船山・清水・中村編, 不磨書房, 2003年；特別講義刑法, 齊藤誠二, 法学書院, 1991年

●**メッセージ** 刑法は、とかく硬くて難解なイメージがあるが、実は面白いものであることを知って欲しいと思っている。

開設科目	刑法各論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	山本光英				

●**授業の概要** 刑法各論の中心課題は、刑法典上の各犯罪類型についての個別的検討を行うことにある。その際重要であるのは、当該犯罪の「保護法益」は何かということをおきつつ、その犯罪の類型的特点を把握して、個々の問題解決を心がけるということである。各論の犯罪類型の体系化に際しては、保護法益を分類基準として、個人的法益に対する罪、社会的法益に対する罪、国家的法益に対する罪の三者に区分されのが一般的である。本学のカリキュラムでは、刑法各論が「各論 I」と「各論 II」に二分されているので、講学上の便宜から、各論 I では個人的法益に関する罪、各論 II では社会的法益に関する罪と国家的法益に関する罪を学習する。／**検索キーワード** 保護法益

●**授業の一般目標** 各犯罪の類型的特点を理解する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：書く犯罪類型の基本的特徴と基本的概念を理解する。**思考・判断の観点**：刑法的思考力、条文の解釈力を身につける。**関心・意欲の観点**：社会に生起する犯罪に関心をもつ。**態度の観点**：授業に積極的に参加しているか。**技能・表現の観点**：自己の主張を適切に文章で表現できるか。

●**授業の計画（全体）** 刑法各論の学習の仕方を学び、各犯罪類型の特徴と基本的概念を学ぶ。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** オリエンテーション **内容** 刑法各論の課題と学び方
- 第 2 回 **項目** 生命に関する罪 **内容** 殺人・自殺関与
- 第 3 回 **項目** 身体に関する罪 **内容** 傷害、傷害致死、同時傷害、暴行
- 第 4 回 **項目** 堕胎に関する罪 **内容** 胎児傷害、自己堕胎、業務上堕胎など
- 第 5 回 **項目** 遺棄の罪 **内容** 単純遺棄、保護責任者遺棄、不保護、轆き逃げ
- 第 6 回 **項目** 自由に関する罪 **内容** 脅迫、逮捕・監禁、略取・誘拐
- 第 7 回 **項目** 性的自由に関する罪 **内容** 強姦、強制わいせつなど
- 第 8 回 **項目** 傷害の故意
- 第 9 回 **項目** 暴行の概念
- 第 10 回 **項目** 私生活の平穏に関する罪 **内容** 住居侵入、不退去
- 第 11 回 **項目** 名誉・信用に関する罪 **内容** 名誉毀損・信用毀損
- 第 12 回 **項目** 財産に関する罪（1） **内容** 窃盗、強盗
- 第 13 回 **項目** 財産に関する罪（2） **内容** 詐欺、横領
- 第 14 回 **項目** ひき逃げと保護責任者遺棄罪・殺人罪 **内容** 不真正不作為犯、単純遺棄、保護責任者遺棄、殺人
- 第 15 回 **項目** 定期試験

●**成績評価方法（総合）** 期末試験（80％）、出席点（20％）で評価する。授業態度の悪さは減点の対象とする。

●**教科書・参考書** 教科書：刑法概説各論〔第三版〕，大塚仁，有斐閣，1996 年／参考書：ジュリスト別冊「刑法判例百選 II 各論〔第 5 版〕」，芝原・西田・山口編，有斐閣，2003 年；「ケースメソッド刑法各論」，船山・清水・中村編，不磨書房，2003 年

●**メッセージ** 市販の六法を持参すること。厳格な履修条件はありませんが、各犯罪類型の法解釈にあたっては刑法総論上の知識が必要になるので、受講生は刑法総論を履修していることが望ましい。また、刑法各論 I と各論 I I を一体のものとして履修することを強く希望します。

開設科目	刑法各論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山本光英				

●**授業の概要** 刑法各論の中心課題は、刑法典上の各犯罪類型についての個別的検討を行うことにある。その際重要であるのは、当該犯罪の「保護法益」は何かということをおきつつ、その犯罪の類型の特徴を把握して、個々の問題解決を心がけるということである。各論の犯罪類型の体系化に際しては、保護法益を分類基準として、個人的法益に対する罪、社会的法益に対する罪、国家的法益に対する罪の三者に区分されのが一般的である。本講義では、刑法各則における社会的法益に関する罪、国家的法益に関する罪について学ぶことになる。

●**授業の一般目標** 刑法各側の学習の仕方を身につけるとともに、刑法各則における社会的法益に関する罪、および国家的法益に関する罪について、その各犯罪類型の特徴を学びつつ、刑法学的な論理的思考力を身につける。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：刑法各側の各犯罪類型の特徴を理解しているか。 **思考・判断の観点**：刑法学的な論理的思考力を身につけているか。 **関心・意欲の観点**：社会に生起する犯罪的事象に関心があるか。積極的に授業に参加しているか。 **態度の観点**：真摯な態度で授業に臨んでいるか。  
**技能・表現の観点**：自己の主張を文章で適切に表現できるか。

●**授業の計画（全体）** 社会的法益に関する罪、国家的法益に関する罪について、その重要な犯罪類型と基本概念について学ぶ。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 刑法各論の学び方 **内容** 刑法典の体裁、基本用語
- 第 2 回 **項目** 多衆犯 **内容** 騒乱、多衆不解散
- 第 3 回 **項目** 放火の罪 **内容** 放火、延焼、放火予備、公共の危険
- 第 4 回 **項目** 交通に関する罪 **内容** 往来妨害、往来危険
- 第 5 回 **項目** 通貨偽造 **内容** 通貨偽造・変造、偽造通貨行使
- 第 6 回 **項目** 文書偽造 (1) **内容** 公文書偽造・私文書偽造、有形偽造・無形偽装、虚偽文書行使
- 第 7 回 **項目** 文書偽造 (2) **内容** コピーの偽造
- 第 8 回 **項目** 風俗に関する罪 **内容** 強姦・猥褻、賭博、死体遺棄・損壊
- 第 9 回 **項目** 国家の存立に関する罪 **内容** 内乱、外患など
- 第 10 回 **項目** 国家の作用に関する罪 **内容** 公務執行妨害、職務強要
- 第 11 回 **項目** 逃走の罪 **内容** 単純逃走、加重逃走、逃走援助
- 第 12 回 **項目** 司法作用に関する罪 **内容** 犯人蔵匿・犯人隠避、証拠隠滅、証人威迫、偽証、誣告
- 第 13 回 **項目** 職権濫用の罪 **内容** 職権濫用、特別公務員職権濫用、特別公務員暴行凌虐
- 第 14 回 **項目** 賄賂の罪 **内容** 単純収賄・受託収賄、事前収賄・事後収賄、加重収賄、第三者供賄、斡旋収賄
- 第 15 回 **項目** 定期試験

●**成績評価方法（総合）** 定期試験（80％）、出席点（20％）で評価する。授業態度の悪い場合は減点の対象とする。

●**教科書・参考書** 教科書：「刑法概説各論〔第三版〕」、大塚仁、有斐閣、1996年／参考書：別冊ジュリスト「刑法判例百選 II 各論〔第五版〕」、芝原・西田・山口、有斐閣、2003年；「ケイスメソッド刑法各論」、船山・清水・中村編、不磨書房、2003年

●**メッセージ** 市販の六法を持参すること。厳格な履修条件はありませんが、各犯罪類型の法解釈にあたっては刑法総論上の知識が必要になるので、受講生は刑法総論を履修していることが望ましい。また、刑法各論 I と各論 II を一体のものとして履修することを強く希望します。

開設科目	刑事訴訟法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	山本光英				

●**授業の概要** 犯罪に対する捜査手続、裁判手続における被疑者・被告人の人権の保障と憲法・刑事訴訟法その他の関連法規との関連を理解する。刑事訴訟手続における原則・概念・問題点を理解する。講義形式で行う。なお、適宜、日常生活上生起する刑事事件の意味・問題点を指摘し、理解を深めるつもりである。／**検索キーワード** 人権の保障、適正手続

●**授業の一般目標** 犯罪の発生から捜査、公判、判決に至るまでの流れと、刑事訴訟の理念、基本的な概念、原則を理解しつつ法学的な論理的思考力を身につける。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：刑事訴訟の流れと、刑事訴訟の理念、基本的な概念・原則を理解しているか。**思考・判断の観点**：刑事訴訟の理念と現実とを一致させるにはどうすべきかを考えることができるか。論理的な思考力が身に付いているか。**関心・意欲の観点**：社会に生起する刑事事件に関心をもっているか。**態度の観点**：真摯な態度で授業に臨んでいるか。**技能・表現の観点**：自己の主張を文章で適切に表現できるか。

●**授業の計画（全体）** 犯罪の発生から、捜査、訴追、公判、判決に至るまでの流れを理解し、刑事訴訟の理念、基本的な概念・原則を理解する。刑事事件の処理の流れに沿って学習する。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 刑事訴訟法の学び方、刑事訴訟の流れ **内容** 刑事訴訟の全体の流れの概要
- 第 2 回 **項目** 訴追の方式 **内容** 糺問主義と弾劾主義。陪審制・参審制・裁判員制度など
- 第 3 回 **項目** 捜査の端緒 **内容** 告訴、告発、請求、自首など
- 第 4 回 **項目** 任意捜査と強制捜査 **内容** 強制処分法定主義など
- 第 5 回 **項目** 逮捕 **内容** 逮捕の種類と方式と意義
- 第 6 回 **項目** 勾留 **内容** 勾留の方式と意義
- 第 7 回 **項目** 逮捕・勾留と弁護権 **内容** 接見の意義と制限
- 第 8 回 **項目** 取調べ（1） **内容** 被疑者の取調べ
- 第 9 回 **項目** 取調べ（2） **内容** 参考人・被告人の取調べ
- 第 10 回 **項目** 取調べ（3） **内容** ポリグラフ・テスト、麻酔分析など
- 第 11 回 **項目** 捜索・押収（1） **内容** 令状による捜索・押収検証・鑑定処分
- 第 12 回 **項目** 捜索・押収（2） **内容** 無令状の捜索・押収・検証
- 第 13 回 **項目** 違法収集証拠排除法則 **内容** 自白法則との関連
- 第 14 回 **項目** 公訴権の濫用 **内容** 不当な起訴・不起訴の抑制
- 第 15 回 **項目** 証拠開示 **内容** 証拠開示の必要性和時期・範囲
- 第 16 回 **項目** 公判の基本原則 **内容** 弾劾主義、当事者主義など
- 第 17 回 **項目** 公判に関与する者、裁判所の管轄 **内容** 裁判官・検察官・弁護人の役割、場所的管轄・事物管轄
- 第 18 回 **項目** 公判の流れ **内容** 公訴の提起、公判期日の手続など
- 第 19 回 **項目** 公訴事実と訴因 **内容** 公訴事実・訴因の概念、訴因の変更
- 第 20 回 **項目** 推定と挙証責任 **内容** 無罪の推定、挙証責任の概念、立証の程度と範囲
- 第 21 回 **項目** 黙秘権 **内容** 黙秘権の意義と範囲、自己負罪拒否特権
- 第 22 回 **項目** 自白法則 **内容** 自白の意義、自白の任意性
- 第 23 回 **項目** 伝聞法則（1） **内容** 伝聞の概念、伝聞法則の意義
- 第 24 回 **項目** 伝聞法則（2） **内容** 伝聞法則の例外
- 第 25 回 **項目** 補強法則 **内容** 補強法則の意義、共犯者の自白と補強法則
- 第 26 回 **項目** 証拠法上の用語 **内容** 証拠の意義と種類、証拠能力、証明力、証人適格など
- 第 27 回 **項目** 裁判 **内容** 裁判の概念と種類、裁判の構成、裁判の種類裁判の確定など

第 28 回 項目 裁判の効力 内容 二重危険の禁止、一事不再理

第 29 回 項目 上訴 内容 上訴制度のあり方、不利益変更の禁止、控訴、上告

第 30 回 項目 定期試験

- 成績評価方法(総合) 定期試験(80%)と出席点(20%)で評価する。授業態度の悪い場合は減点の対象とする。
- 教科書・参考書 教科書:「刑事訴訟法〔新版〕」,渥美東洋,有斐閣,1990年;適宜、レジユメを配布する。/参考書:ジュリスト別冊「刑事訴訟法判例百選〔第七版〕」,平野・松尾ほか編,有斐閣,1998年
- メッセージ 犯罪が起こってから捜査・裁判・判決確定に至るまでの流れと、その時々の問題点をよく理解する。我々の身近な問題であることを理解し、関心をもつこと。交通事故など諸君の生活にも関係する法領域である。

開設科目	企業法総論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	中村 美紀子				

●**授業の概要** 本講では、現代における商法を企業法と捉えて、その基礎的な分野としての商法総則および商行為法、さらには絶対的商行為の一種である手形・小切手に関する行為についても平易に講述するつもりです。商法総則は、商法の歴史やその意義、商人概念、商業登記、名板貸、商業使用人を中心として解説し、商行為法は、絶対的商行為および営業的商行為を個別具体的に解説する予定です。また、手形・小切手法については、約束手形を中心にその振出、裏書、支払行為についての法律問題を取り上げたいと考えています。／**検索キーワード** 商法総則・商行為法・商取引法・企業法・企業組織法・企業取引法

●**授業の一般目標** 受講生が、企業法の主体となる会社、とりわけ株式会社の組織、また具体的な商行為としての企業活動の法的な仕組みを理解することです。

●**授業の計画（全体）** 詳細は講義初回のオリエンテーション時に連絡したいと思います。

●**成績評価方法（総合）** 毎回の小テスト30%、中間試験（2回）40%、期末試験30%

●**教科書・参考書** 教科書：商法総則・商行為法—基礎と展開—, 末永敏和, 中央経済社, 2004年；手形法・小切手法—基礎と展開—（第2刷）, 末永敏和, 中央経済社, 2003年／参考書：商法（総則・商行為）判例百選（第4版）, 江頭憲治郎, 山下友信編, 有斐閣, 2002年；手形小切手判例百選（第5版）, 鴻常夫 [他] 編, 有斐閣, 1997年

●**メッセージ** 六法必携。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室:経済学部C棟2F、オフィスアワー火曜日 10:20—11:50。

開設科目	会社法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	一ノ澤直人				

●**授業の概要** 企業組織形態を規制する法として、商法中の会社と有限会社、特に株式会社を中心に講義を進める。会社法への基本的理解を踏まえ、最新の判例動向、さらには会社法が抱える現代的な課題を扱う。とくに、会社法は近時の改正で大きくその内容を変えてきていることから、その点について改正の意義が理解できるような講義をめざす。

●**授業の一般目標** 講義のねらいとしては、会社法上の全体構造・機能、および個々の制度・規定の意味を基本的に理解し、個々人が会社法の諸問題に対し論理的な思考ができるようにすることにある。

●**授業の計画（全体）** まず、会社法の諸制度の基本的理解を目的とするため、基本的事項を会社法の全体構造から概観し、その中で各規定の趣旨を明確にしていきたい。その上で、会社法上重要な問題について、近時の判例、改正の動向にふれながら検討していきたい。さらに会社法の制度の変化について、検討していくためいくつかのテーマに絞って、会社法を横断的に探求していきたい。主な講義テーマとしては以下を予定している。それぞれについて数回に分けて講義する。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 会社法とは何だろうか？個人企業から共同企業へ
- 第 2 回 項目 会社法の果たすべき役割は？
- 第 3 回 項目 会社の意義（1）
- 第 4 回 項目 会社の意義（2）
- 第 5 回 項目 株式会社の規整形態・株式会社の設立（1）
- 第 6 回 項目 株式会社の設立（2）
- 第 7 回 項目 株式制度（1）
- 第 8 回 項目 株式制度（2）
- 第 9 回 項目 株式会社の機関（1）
- 第 10 回 項目 株式会社の機関（2）
- 第 11 回 項目 株式会社の機関（3）
- 第 12 回 項目 株式会社の機関（4）
- 第 13 回 項目 会社の計算
- 第 14 回 項目 会社の資金調達 どのようになされるか？（1）
- 第 15 回 項目 会社の資金調達 どのようになされるか？（2）
- 第 16 回 項目 企業結合と会社法

●**成績評価方法（総合）** 授業の目標の観点から、個々人が会社法上の全体構造、諸制度の機能の基本的な理解ができているか、会社法の諸問題に対し、理論的な思考ができるようになったかを基準に、試験によって判断する。なお、評価方法は最初の講義のガイダンスにて確認する。

開設科目	保険法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	野口夕子				

●**授業の概要** 現代社会に暮らすわたしたちを、常に様々なリスクが取り巻いています。こうしたリスクに対処するための一手段として、保険があります。そして、この保険に加入する、あるいはリスクに保険を付けることを目的に締結されるのが、保険契約です。つまり、「保険に加入する」＝「保険契約を締結する」ことなのです。本講で扱う保険法とは、この保険契約を規整するものです。その保険法の基礎知識の修得を目指す本講では、保険契約総論の十分な理解を要しますが、ここでは主要な判例をあわせて検討していくことで、その法的理解を促していきたいと考えています。その上で、各論部分にあたる各種保険契約へと講義を進めていく予定です。

●**授業の一般目標** 本講では、リスクに対処するための一手段である保険、それを規整している保険法に関する基礎知識の修得を目標とします。

●**授業の計画（全体）** 1. ガイダンス—受講にあたって—、2. 保険制度の目的と保険契約、3. 保険契約—その当事者と関係者—、4. 保険契約の成立—保険の加入する—、5. 保険契約の内容と効果、6. 保険契約の終了、7. 損害保険契約とは？、8. 保険金額と保険価額—重複保険を考える—、9. 保険代位—残存物代位と請求権代位—、10. 損害保険債権の処分、11. 保険担保、12. 生命保険契約とは？、13. 生命保険契約の成立と効果、14. 「他人のためにする生命保険契約」と「他人の生命の保険」、15. 生命保険債権の処分と差押え

●**成績評価方法（総合）** 講義中に実施する小テストおよびレポート等の課題への取り組み方、学年末試験によって総合的に評価します。試験 60%、小テスト 30%、出席 10%

●**教科書・参考書** 教科書：レクチャー保険法、今井薫他、法律文化社、1993年／参考書：保険法〔第三版〕、西島梅治、悠々社、1997年；商法（保険・海商）判例百選〔第二版〕、鴻＝竹内＝江頭編、有、2002年；上記文献を参考書として挙げておきますが、その他講義中に随時指示します。また、必要に応じて、レジュメ・資料等を配布します。

●**連絡先・オフィスアワー** yuko@jus.kindai.ac.jp



開設科目	独占禁止法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	平野充好				

●**授業の概要** 経済憲法といわれる独占禁止法の基本的な考え方や体系を学び、私的独占（他の企業を支配・排除する行為）・不当な取引制限（カルテル）規制、不公正な取引方法（再販売価格維持行為・不当廉売、優越的地位の濫用等）規制、合併規制等の個別諸問題を検討・分析する。／**検索キーワード** 私的独占、不当な取引制限、不公正な取引方法

●**授業の一般目標** 経済に関する法が民・商法が中心であった時代から、経済法・独禁法中心になってきた過程を学び、経済憲法といわれる独禁法の基本的な考え方、独禁法関連事例について検討する。独禁法の諸問題についての「ある解答」を覚えるのではなく、それらの問題を「自ら考え」検討・分析するとともに、現代社会における独禁法のあり方を考える。

●**授業の計画（全体）** 全体として、独占禁止法と民商法の関係の理解を大事にしたい。民商法における違法行為は、個別行為と全法秩序との関連で評価・違法判断されるのに対し、独禁法において排除される違法行為は、競争秩序との関連で評価・判断される。独禁法は、競争制限という弊害行為規制が中心であって、競争制限の状態規制はきわめて例外的であることを理解して貰う。1. 独禁法のイメージ（大競争時代、現代経済社会と競争規制）、2. 独禁法の目的・体系（独禁法と現代経済社会の関連）、3. 独禁法の理論的分析（独禁法は競争法か消費者保護法か）、4. 不当な取引制限の禁止（行為類型要件（競争制限行為、相互拘束、共同遂行））、5. カルテルの違法要件（カルテルはなぜいけないか、「一定の取引分野における競争の実質的制限」）、6. 石油カルテル事件を素材に独禁法体系を学ぶ（行政指導とのカルテル規制）、7. 入札談合規制（一般競争入札、指名競争入札、随意契約）、8. カルテルの当事者（共同ボイコットとの関連、再販売価格維持行為との関連）、9. 事業者団体規制（同業者の集まりで話し合ってはいけないこと）、10. 独禁法のエンフォースメント（審決取り消し、刑事罰、課徴金、民事救済）、11. 損害賠償による被害者救済（無過失損害賠償責任、民法709条との関係）、12. 私的独占の禁止（独占状態の禁止か独占行為の禁止か、私的独占行為とは何か）、13. 私的独占行為の諸類型（最近の違反事例を取り上げる）、14. 不公正な取引方法（競争の実質的制限と公正競争阻害性）、15. 共同の取引拒絶（共同ボイコット）、16. 不当な差別的取り扱い（差別対価、建値制とリベート）、17. 不当対価取引（原価割れ販売は違法か）、18. 不当な顧客誘因（欺瞞的行為、景品、不当表示規制）、19. 不当表示法（消費者の権利とジュース訴訟）、20. 拘束条件付き取引規制（特約店・専売店規制、再販売価格維持行為規制）、21. 優越的地位の濫用（三越事件、下請け取引規制、公正競争阻害性）、22. 経済力集中規制（企業結合規制、合併規制）、23. 独占的状态の規制（企業分割）、24. 持ち株会社規制（もう一つの9条問題）、25. 適用除外制度（知的財産権の行使行為消費生活協同組合の行為）、26. 域外適用（効果理論）、27. 国際独禁法（ボーダーレス時代における独禁法の意義）、28. 独禁法改正（課徴金強化等の改正問題）、29. まとめ（復習）、30. まとめ（復習）

●**成績評価方法（総合）** 定期試験、小テスト、課題レポートにより総合的に評価する。試験50%、小テスト30%、出席20%。

●**教科書・参考書** 教科書：独占禁止法，金井貴嗣，青林書院，2002年／参考書：独禁法審決・判例百選（別冊ジュリストNo.161），，有斐閣，2002年；別冊ジュリスト「独禁法審決・判例百選」，，有斐閣

●**メッセージ** 六法を必ず持参すること

開設科目	知的財産権法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	木村友久				

●**授業の概要** 本授業は、取引社会における知的財産権の重要性・全体像・個別知的財産権の解釈や取り扱い実務について概説する。知的財産権は、「思想または感情の創作物に関わるもの」「製品等の開発販売過程で創作されるもの」「営業上の信用が化体されているもの」の三類型に区分される。知的財産権法では、これら三類型を通して、全体像・保護客体・特許侵害訴訟における発明の同一性判断や意匠等の類否判断・法定通常実施権概念などについて、法解釈と実務対応能力形成の両側面に配慮した講義を行う。更に、職務発明の対価額算定などのタイムリーな話題も適宜講義で取り扱う。</ /検索キーワード 特許、プログラムの保護、特許要件、特許発明の技術範囲、均等論、用尽説、特許電子図書館

●**授業の一般目標** (1) 知的財産権の重要性を認識するとともに、その全体像を理解する。(2) 製品等の開発販売過程で創作される知的財産について、保護客体・侵害訴訟における同一性や類否判断・法定通常実施権概等の法解釈手法を理解するとともに、初歩的実務対応能力を修得する。(3) 営業上の信用が化体されている知的財産について、保護客体・侵害訴訟における類否判断・法定通常実施権概等の法解釈手法を理解するとともに、初歩的実務対応能力を修得する。(4) 思想または感情の創作物に関わる知的財産について、保護客体・侵害訴訟における同一性や類比判断・契約等の法解釈手法を理解するとともに、初歩的実務対応能力を修得する。(5) 職務発明の対価額算定など、知的財産権に関するタイムリーな情報を的確に取得すして理解する能力を修得する。

●**授業の計画 (全体)** 第 1 回 知的財産保護法制の全体概要説明、情報通信技術の進展と知的財産権制  
第 2 回 発明概念、新規性、新規性喪失の例外、進歩性、先願等 第 3 回 特許等データベースの全体像把握、パトリス、特許電子図書館 第 4 回 直接侵害、損害額の算定 第 5 回 特許発明の技術的範囲同一性判断と均等論第 6 回 国内用尽、真正商品の並行輸入 第 7 回 国内用尽、真正商品の並行輸入 第 8 回 特許権の制約、法定通常実施権、利用抵触関係 第 9 回 明細書の解釈およびソフトウェアの特許表現の実際 第 10 回 意匠登録要件、侵害訴訟の基本、意匠権、意匠の類否判断 第 11 回 商標登録の積極的要件と消極的要件、商標の類否判断 第 12 回 不正競争行為、営業秘密、パブリシティの権利 第 13 回 著作物の定義と種類及び著作権と著作者人格権 第 14 回 著作財産権概説、複製権、上演権・演奏権、上映権、公衆送信権等 第 15 回 著作隣接権概説、実演家の権利、放送事業者の権利

●**成績評価方法 (総合)** (1) 授業の中で、特許情報のレポート、商標実務系レポート、知的財産判例報告レポートの三種類のレポート提出を実施する。(2) 最後に定期試験を実施する。(3) レポート等の提出が一回でも未提出の者と、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

●**教科書・参考書** 教科書：工業所有権標準テキスト「特許編」, 特許庁編, 発明協会；工業所有権標準テキスト「流通編」, 特許庁編, 発明協会；工業所有権標準テキスト「意匠編」, 特許庁編, 発明協会；工業所有権標準テキスト「商標編」, 特許庁編, 発明協会；上記 4 冊は無償配布する。/ 参考書：特許の知識, 竹田和彦, ダイヤモンド社, 2001 年；商標法 50 講 (有斐閣双書), 紋谷暢男, 有斐閣；著作権判例百選 (別冊ジュリスト), 斉藤博・半田正夫編, 有斐閣；著作権法概説, 半田正夫, 一粒社；著作権法概説, 田村善之, 有斐閣

●**メッセージ** 特許侵害訴訟の理解を行うとともに特許情報の検索とデータベース化も行います。基本的は講義形式ですが数時間はパソコンを利用した実習を行います。

●**連絡先・オフィスアワー** t-kimura@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：医学部基礎研究棟 1 階 (メディア基盤センター小串センター) 知的財産法の全体像と基本理念

開設科目	国際取引法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	小林一子				

●**授業の概要** わが国の国際取引は、コンピュータ化、通信技術・輸送手段の著しい発達等により近年 急激に拡大している。一方政治・社会・文化・慣習・法律等の違いから取引上の摩擦が 発生し、増幅してきている。かかる状況にかんがみ、本授業では、(1) 各国の法制度の違いから生じる法の抵触問題 とその解決策、(2) 国際取引の法的仕組み、(3) 海外投資事業にかかわる法的検討事 項等を学ぶこととする。／**検索キーワード** 国際取引 国際売買契約 国際技術移転契約 海外投資 国際取引紛争 米国の裁判制度

●**授業の一般目標** 将来国際ビジネスマン・ビジネスウーマンとして世界に飛躍するための基礎作り、国際的なものの見方・考え方の探求、及び国際的リーガルマインドの養成を図ることを狙いとする。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 国際取引と国際取引法に関する基本的知識と理解能力を涵養し、社会に出て 通用する実践的基礎能力を養う。 **思考・判断の観点**： 国際的なものの見方・考え方を身に付け、グローバルな思考・判断能力を養う。 **関心・意欲の観点**： いずれ世界に飛躍しようという積極的な意欲が顔に現れてほしい。 **態度の観点**： 全出席して真剣に聴講すれば、あらゆる面で授業後及び将来必ず報われます。

●**授業の計画（全体）** 下記項目の詳細な授業概要プリントをあらかじめ配布して行う。 1. 国際取引と国際取引法 2. 国際取引契約総論 3. 国際売買契約 4. 国際技術移転契約 5. 国際企業活動形態 6. 海外投資 7. 国際取引紛争の解決 8. 米国の裁判制度とその特色

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- |        |    |             |    |  |
|--------|----|-------------|----|--|
| 第 1 回  | 項目 | オリエンテーション   | 内容 | 授業概要・授業 計画・成績評価 方法の説明、プリントの配布、参考書の紹介、履修上の注意等 の説明及び聴講 に当たっての心 構え。 |
| 第 2 回  | 項目 | 国際取引と国際 取引法 | 内容 | 国際取引、国際 取引法とは。 <b>授業外指示</b> プリント及び参 考書の予習                        |
| 第 3 回  | 項目 | 国際取引と国際 取引法 | 内容 | 国際取引法の法 源・範囲 <b>授業外指示</b> プリント及び参 考書の予習                          |
| 第 4 回  | 項目 | 国際取引契約総 論   | 内容 | 契約の当事者 <b>授業外指示</b> プリント及び参 考書の予習                                |
| 第 5 回  | 項目 | 国際取引契約総 論   | 内容 | 契約の当事者 <b>授業外指示</b> プリント及び参 考書の予習                                |
| 第 6 回  | 項目 | 国際取引契約総 論   | 内容 | 契約の成立 <b>授業外指示</b> プリント及び参 考書の予習                                 |
| 第 7 回  | 項目 | 国際取引契約総 論   | 内容 | 契約の成立 <b>授業外指示</b> プリント及び参 考書の予習                                 |
| 第 8 回  | 項目 | 国際取引契約総 論   | 内容 | 契約の成立 <b>授業外指示</b> プリント及び参 考書の予習                                 |
| 第 9 回  | 項目 | 国際売買契約      | 内容 | インコタームズ <b>授業外指示</b> プリント及び参 考書の予習                               |
| 第 10 回 | 項目 | 国際売買契約      | 内容 | インコタームズ <b>授業外指示</b> プリント及び参 考書の予習                               |
| 第 11 回 | 項目 | 国際売買契約      | 内容 | 売買契約の流れ <b>授業外指示</b> プリント及び参 考書の予習                               |
| 第 12 回 | 項目 | 国際売買契約      | 内容 | 代金決済 <b>授業外指示</b> プリント及び参 考書の予習                                  |
| 第 13 回 | 項目 | 国際売買契約      | 内容 | 国際物品運送 <b>授業外指示</b> プリント及び参 考書の予習                                |
| 第 14 回 | 項目 | 国際売買契約      | 内容 | 国際物品運送 <b>授業外指示</b> プリント及び参 考書の予習                                |
| 第 15 回 | 項目 | 国際売買契約      | 内容 | 国際貨物保険 <b>授業外指示</b> プリント及び参 考書の予習                                |
| 第 16 回 | 項目 | 国際売買契約      | 内容 | 製造物責任 <b>授業外指示</b> プリント及び参 考書の予習                                 |
| 第 17 回 | 項目 | 国際技術移転契 約   | 内容 | 知的財産権 <b>授業外指示</b> プリント及び参 考書の予習                                 |
| 第 18 回 | 項目 | 国際技術移転契 約   | 内容 | 技術援助契約 <b>授業外指示</b> プリント及び参 考書の予習                                |
| 第 19 回 | 項目 | 国際企業活動形 態   | 内容 | 同左 <b>授業外指示</b> プリント及び参 考書の予習                                    |
| 第 20 回 | 項目 | 国際企業活動形 態   | 内容 | 国際課税 <b>授業外指示</b> プリント及び参 考書の予習                                  |
| 第 21 回 | 項目 | 海外投資        | 内容 | 海外投資の法形 態 <b>授業外指示</b> プリント及び参 考書の予習                             |
| 第 22 回 | 項目 | 海外投資        | 内容 | 投資環境・事業 性調査 <b>授業外指示</b> プリント及び参 考書の予習                           |

- 第23回 **項目** 海外投資 **内容** 合弁契約 **授業外指示** プリント及び参考書の予習
- 第24回 **項目** 国際取引紛争の解決 **内容** 国際民事訴訟 **授業外指示** プリント及び参考書の予習
- 第25回 **項目** 国際取引紛争の解決 **内容** 国際民事訴訟 **授業外指示** プリント及び参考書の予習
- 第26回 **項目** 国際取引紛争の解決 **内容** 国際商事仲裁 **授業外指示** プリント及び参考書の予習
- 第27回 **項目** 米国の裁判制度とその特色 **内容** 米国の裁判組織と管轄権 **授業外指示** プリント及び参考書の予習
- 第28回 **項目** 米国の裁判制度とその特色 **内容** 証拠開示制度と陪審制 **授業外指示** プリント及び参考書の予習

●**成績評価方法(総合)** 期末試験100%。ただし積極的発言等授業態度はプラス評価する。なお出席はとらないが、今までの期末試験の結果を見ると、欠席が多い学生で単位を取れた例は一人もいないことは銘記しておくべきである。

●**教科書・参考書** 参考書：最もコンパクトで手軽な参考書は、「国際取引法(新版)」山田遼一・佐野寛 有斐閣 1998年

●**メッセージ** 国際取引法は、新しい法分野である。その範囲は広く、内容は複雑であるが、国際取引、海外投資事業等の実態に踏み込み、実務法律として役立つことを主眼として授業を行う。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室C 218

開設科目	雇用関係法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	有田謙司				

- 授業の概要** 日本型雇用慣行が変容しつつあるといわれるわが国においては、年功的処遇が崩れ、成績・成果主義の処遇が拡大しつつある。終身雇用慣行や、人事、福利厚生のある方も大きく変容しつつある。本講義は、そうしたわが国における雇用関係の変化を視野に入れながら、雇用関係を規律する法的ルールについて、受講者が一定の見識を持つことができるようにすることを目標とする。／**検索キーワード** 労働契約、労働基準法、非典型雇用、雇用保障、労働争訟
- 授業の一般目標** 本講義は、わが国における雇用関係に変化を視野に入れながら、雇用関係を規律する法的ルールについて、受講者が一定の見識を持つことができるようにすることを目標とする。
- 授業の計画（全体）** 労働法とは、労働契約、労働契約の締結と終了、就業規則、賃金・一時金・退職金、労働時間・休暇、人事異動、経営再編と労働契約の変動、就業規律と懲戒、雇用保障政策、安全衛生・災害補償、均等待遇・雇用における平等、非典型雇用、年少労働者・女性労働者、職業生活と家庭生活の両立、労働争訟・紛争処理
- 成績評価方法（総合）** 定期試験と授業時間内に行う小テストの成績による。小テストは2回行うが、いつ行うか分からないので、予習と復習をきちんとしておくこと。
- 教科書・参考書** 教科書：労働法エッセンシャル第3版, 清正寛・菊池高志編, 有斐閣, 2003年／参考書：授業中に適宜指示する。
- メッセージ** 教科書および六法を必ず持参すること。六法は、できるだけ労働法令の多く収録されたものにする。
- 連絡先・オフィスアワー** 講義内容に関する質問は、適宜受ける。ただし、事前に連絡してくる。arita@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	労使関係法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柳澤旭				

●**授業の概要** 労働法の中でも集团的労働関係法を中心に講義する。しかし、労働法の基礎の理解が前提であるので基礎的知識の理解と並行して講義を行なう。

●**教科書・参考書** 教科書：菊池・清正編, 労働法エッセンシャル第3版, 有斐閣, 2003年；菊池・清正編『労働法エッセンシャル（第3版）』有斐閣、2003

開設科目	社会保障法 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	柳澤旭				

●**授業の概要** 現代におけるわれわれの生活は、社会保障制度なしには考えられないものとなっている。本講義は、そのような社会保障制度を基礎づけている法について、その具体的内容とともに基本的な考え方を理解することを目的としている。／**検索キーワード** 社会保障、所得保障、医療保障。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 社会保障法とは
- 第 2 回 項目 所得保障の法 (1)-年金
- 第 3 回 項目 所得保障の法 (2)-年金
- 第 4 回 項目 所得保障の法 (3)-年金
- 第 5 回 項目 所得保障の法 (4)-社会手当
- 第 6 回 項目 所得保障の法 (5)-失業給付
- 第 7 回 項目 所得保障の法 (6)-生活保護
- 第 8 回 項目 所得保障の法 (7)-生活保護
- 第 9 回 項目 医療保障の法 (1)-医療の提供体制
- 第 10 回 項目 医療保障の法 (2)-医療保険
- 第 11 回 項目 医療保障の法 (3)-医療保険
- 第 12 回 項目 医療保障の法 (4)-医療保険
- 第 13 回 項目 医療保障の法 (5)-高齢者医療
- 第 14 回 項目 医療保障の法 (6)-その他の医療保障
- 第 15 回 項目 所得保障の法および医療保障の法の課題

●**メッセージ** 社会保障関係の法律は、よく改正されるので、関心を持って、新聞などでその動きをよく把握しておくこと。

開設科目	社会保障法 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	柳澤旭				

●**授業の概要** 現代におけるわれわれの生活は、社会保障制度なしには考えられないものとなっている。本講義は、そのような社会保障制度を基礎づけている法について、その具体的内容とともに基本的な考え方を理解することを目的としている。／**検索キーワード** 社会保障、社会福祉。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 社会福祉サービスの法 (1)-社会福祉法制の展開
- 第 2 回 項目 社会福祉サービスの法 (2)-給付方式とサービス利用の法律関係
- 第 3 回 項目 社会福祉サービスの法 (3)-社会福祉法
- 第 4 回 項目 社会福祉サービスの法 (4)-福祉サービスの実施運営体制
- 第 5 回 項目 社会福祉サービスの法 (5)-高齢者福祉
- 第 6 回 項目 社会福祉サービスの法 (6)-高齢者福祉
- 第 7 回 項目 社会福祉サービスの法 (7)-高齢者福祉
- 第 8 回 項目 社会福祉サービスの法 (8)-高齢者福祉
- 第 9 回 項目 社会福祉サービスの法 (9)-児童福祉
- 第 10 回 項目 社会福祉サービスの法 (10)-児童福祉
- 第 11 回 項目 社会福祉サービスの法 (11)-障害者福祉
- 第 12 回 項目 社会福祉サービスの法 (12)-障害者福祉
- 第 13 回 項目 社会福祉サービスの法 (13)-障害者福祉
- 第 14 回 項目 社会福祉サービスの法 (14)-母子福祉
- 第 15 回 項目 社会福祉サービスの法の課題

●**メッセージ** 社会保障関係の法律は、よく改正されるので、関心を持って、新聞などでその動きをよく把握しておくこと。



開設科目	民事訴訟法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	上田和義				

- 授業の概要** 民法・商法その他私法は、社会生活や事業を営む上での事実上の行為規範となっていますが、最終的には、裁判規範として民事裁判でその内容が実現されます。つまり、実体法が理解できていたとしても、裁判の手続きや仕組みが分かっていなければ、実体法も本当に理解できたことになりません。そこで、本講義では、民事訴訟法の全体的な構造と、社会的に多く利用される実体法の適用を中心に、実際の訴訟などで直面するであろう問題を取り上げていきます。
- 授業の一般目標** 一般社会生活や事業を営む上で必要な民事訴訟制度の全体構造と、訴訟提起時に直面するであろう問題点を理解することを目標とします。
- 授業の計画 (全体)** 本講義は週 1 回、通年で行います。 1 講義項目 民事訴訟の意義／裁判所・当事者／訴えの提起／訴訟要件／訴訟の審理／証拠調べ・証明／訴訟の終了／複数請求訴訟／多数当事者／上訴・再審 2 講義方法 テキスト・参考文献を参照しながら、口述により行います。また、実務的な資料をできるだけ配布します。
- 成績評価方法 (総合)** 出欠は毎回とります。全講義回数の 60%未滿を欠格とします。前期も試験を行う場合があります。
- 教科書・参考書** 教科書： 民事訴訟法入門, 林屋礼二ほか, 有斐閣双書, 1999 年； 六法は必ず携行して下さい。／ 参考書： ケーススタディ新民事訴訟法, 小林秀之, 日本評論社, 1998 年

開設科目	行政法 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	上杉信敬				

●**授業の概要** 現代社会における国民の生活、社会の運営において、重要な役割を果たしている行政について、その法的側面を中心に考察することが主要な内容である。その際、国民が主権者であること、複雑高度化する行政現象に対応した法理の概要、21世紀にいたった段階にふさわしい法理などを探ることを念頭においていきたい。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 行政と行政法
- 第 2 回 項目 行政法学、歴史と現状
- 第 3 回 項目 行政法の法源
- 第 4 回 項目 法治主義
- 第 5 回 項目 行政立法
- 第 6 回 項目 行政行為
- 第 7 回 項目 行政行為
- 第 8 回 項目 行政契約、行政指導
- 第 9 回 項目 行政計画
- 第 10 回 項目 行政上の義務履行確保
- 第 11 回 項目 行政上の義務履行確保、即時強制、行政調査
- 第 12 回 項目 行政手続
- 第 13 回 項目 行政公開

●**メッセージ** 疑問や問題意識をもって聴講してほしい。

開設科目	行政法 II (行政救済法)	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	石龍潭				

●**授業の概要** 現代福祉国家は、我々の日常生活のすみずみにまで行政が関係してくるが、そうした行政の働きの過程で我々の権利や利益が違法に侵害されたとしたら、どうするか。それが行政救済法の問題である。その意味で行政救済法は、行政法の総仕上げという意味をもつ。この講座では、まず、行政、行政法といった基礎概念を再確認した上で、具体例を素材にしながら行政救済の問題を考えていきたい。

●**授業の一般目標** 具体的な事例を行政法の立場から分析し、行政争訟および国家補償の問題となった場合にどのような解決が可能かを、説明できるようになることを目標とする。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 行政・行政法の意味
- 第 2 回 項目 行政救済法の体系
- 第 3 回 項目 行政争訟の種類・内容
- 第 4 回 項目 行政不服申し立て (1)
- 第 5 回 項目 行政不服申し立て (2)
- 第 6 回 項目 行政事件訴訟 (1)
- 第 7 回 項目 行政事件訴訟 (2)
- 第 8 回 項目 行政事件訴訟 (3)
- 第 9 回 項目 国家補償の種類・内容
- 第 10 回 項目 国家賠償訴訟 (1)
- 第 11 回 項目 国家賠償訴訟 (2)
- 第 12 回 項目 国家賠償訴訟 (3)
- 第 13 回 項目 損失補償
- 第 14 回 項目 その他の行政救済
- 第 15 回 項目 これからの行政救済のあり方

●**成績評価方法 (総合)** 論述試験 70%、小テスト 20%、出席 10%。

●**教科書・参考書** 教科書：テキスト、参考書は追って指示する。参考資料は必要に応じプリント形式で配布する。

●**メッセージ** 日頃から新聞の政治・行政欄や社会面に関心を寄せていることが望ましい。

開設科目	地方自治法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	鈴木眞澄				

●**授業の概要** 地方自治は“民主主義の学校”と言われるくらいに、民主主義社会に不可欠の要素をなし、とりわけ近時のわが国では、地方分権の潮流によって地方自治の重要性は高まるばかりである。しかし、この潮流は、いわゆる“受け皿”論としての市町村合併推進とワンセットにされ、広域行政推進論の下で権限と仕事量の委譲があっても財源の手当てに乏しいなど、多くの構造的な問題をかかえている。この講義では、こうした地方自治のありかたを、法の目を通して考えてみる。／**検索キーワード** 地方自治、地方分権、市町村合併、三割自治、民主主義

●**授業の一般目標** 地方自治制度の基本的な枠組みを理解し、具体的な問題に通りの説明、分析ができる能力を身につけさせる。

●**教科書・参考書** 教科書：開講時に指示する。

●**メッセージ** 「小テスト」は「出席チェック」の際に行うので、一セットと考えて欲しい。

開設科目	税法総論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	諸岡健一				

●**授業の概要** 講義では、実社会で仕事をしていくうえで必須とされる、税法に関する基本的なルール の理解と、法的判断能力の醸成を目的としています。そのため、税法全般をオールラウンドに取り扱っていきます。特に、国際租税法の授業内容は充実しております。税法は 守備範囲が非常に広い法律であるため、授業の進行は早く内容は濃密です。教科書のほかレジュメを多用します。この授業では、行政法と簿記の基本的な知識が必要です。両方の科目の履修後に、税法総論を履修されることを強くお勧めします。

●**授業の一般目標** 経済学部の学生だけでなく、理学部、工学部、医学部の学生であっても、社会に出れば誰一人、税法から逃げることはできません。税法を知らないで経済活動をすると、思わぬペナルティが待ち構えています。その意味で、税法は老若すべての人を対象に作られている法律です。ところが税法のもう一つ大きな目的は、公平な課税にあります。そこで、租税回避を狙う会計専門家からターゲットとされる抜け穴をふさぎ、法律解釈の余地を極限まで排除するため、税法は他の法律を寄せ付けない厳密・緻密さで作られています。さらに、経済の絶えざるグローバル化にあわせて、税法は国際的な整合性が常に求められています。例えば、日本の税法だけ理解できても、実際に納税する税金の計算はできません。また、その時々の方針目標を具現するため、税法は毎年、大きな改正が行われます。税法があらゆる法律の中で最も難解と言われているのは、こうした事情によります。授業を進めるに当たっては、皆さんが社会に出て実際に税法を使うとき、その人に必要とされる法令の全体像が漠然とでも理解できていることを期待して、税法の骨格部分に重点を置いていく予定です。

●**授業の計画（全体）** 日本の租税体系、税政の歴史、租税法体系、所得税法、法人税法、消費税法、国際租税法、税務調査、査察、国税徴収法、租税争訟法、税務行政、という順序で進みます。

●**成績評価方法（総合）** 出席状況と試験で成績評価を行います。特に出席を最も重視（35%）します。

●**教科書・参考書** 教科書：税法入門第4版、金子 宏ほか、有斐閣、2000年；やさしい国税通則法、川田剛、大蔵財務協会、2003年；やさしい法人税、福住 豊、大蔵財務協会、2003年

●**メッセージ** 後期に開設する「企業課税法」の受講を希望する学生は、必ずこの「税法総論」を受講してください。「企業課税法」の授業は、「税法総論」の受講を前提に行います。授業の進行は非常に早く内容は濃密で、1日授業を欠席するとその先が分からなくなります。このため、成績評価に当たって授業の出席状況を極めて重視しています。1年生の方へ……税法は、日本の法律の中で最も難しい法律と言われています。授業についていくには、民法や商法、行政法など基本的な法律に加えて、簿記の知識が必要になります。一年間しっかり基礎体力をつけて、来年度以降に受講してください。4年生の方へ……就職活動を理由の欠席は、一切認めません。昨年度の例によれば、4月始めに就職先が内定していない人が、この科目の単位を取得できる可能性はほとんどありませんでした。昨年度、この科目の単位を取得できなかった2・3年生は1割程度だったのに対して、4年生は8割以上が不可となりました。

●**連絡先・オフィスアワー** morooka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	企業課税法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	諸岡健一				

●**授業の概要** 講義では、企業が経済活動していくうえで、最も重要とされる法律の一つである法人税法を中心に、企業課税関係法規の基本的なルールを学んでいきます。重要なところは、裁判例など事例研究を交え授業を進めていきます。なお、担当教官は現職の国税庁幹部 職員です。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 同族会社 (1) 内容 同族会社とは、同族会社の判定
- 第 2 回 項目 同族会社 (2) 内容 税法における実 質主義
- 第 3 回 項目 同族会社 (3) 内容 役員又は使用人の給与及び退職 給与
- 第 4 回 項目 事例研究 (1) 内容 同族会社の判 定、実質課税
- 第 5 回 項目 事例研究 (2) 内容 役員報酬・賞 与・退職金
- 第 6 回 項目 新聞記事の読み 方
- 第 7 回 項目 資産の評価損益 (1)
- 第 8 回 項目 資産の評価損益 (2)
- 第 9 回 項目 貸倒損失 事例研究 (3) 内容 貸倒損失・不良 債権処理の税務
- 第 10 回 項目 事例研究 (3) (続 き) 内容 不良債権処理の 税務
- 第 11 回 項目 配当の税務 内容 受取配当・みな し配当・利益準 備金の取扱い
- 第 12 回 項目 欠損金の税務 内容 繰越欠損金・欠 損の繰戻し 連結納税制度と 企業組織再編成
- 第 13 回 項目 企業再編成税制 内容 商法における企 業組織再編成の 考え方 適格再編成・非 適格再編成 の税 務
- 第 14 回 項目 事例研究 (4) 内容 移転価格課税・ 独立企業原則の 考え方
- 第 15 回

●**成績評価方法（総合）** 出席状況、提出されたレポートの内容を総合して評価します。

●**教科書・参考書** 教科書：平成 1 6 年度版 法人税法（平成 1 6 年 7 月発行予定）、渡辺淑夫、中央経済社、2004 年

●**メッセージ** 授業は、初日から最終日までの、一つ一つの積み重ねで構成されます。そのため、いちど授業を休むと、後のリカバリーが非常に困難になります。租税 法の最高の参考書は、日本経済新聞の記事とインターネット上の情報です。毎日チェックすることが、税法を理解する早道です。「企業課税法」の履修は「税法総論」の履修を条件とします。「税法総論」を履修していない方は、授業の内容が全く理解できません。

●**連絡先・オフィスアワー** morooka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	政治学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	渡辺 幹雄				

●**授業の概要** 本講義では、政治学の基本的な問題について、さまざまな観点から考察する。物事の善悪を問う規範的な視点、事象に即してその分析を試みる実証的な視点を織り交ぜながら、政治学（国際関係を含む）のメイン・トピックスについて、複合的なアプローチを試みる。政治学は本来総合的な学問であるから、取り上げる問題に応じて、広く他の学問領域にも言及する。／**検索キーワード** 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。

●**授業の一般目標** 第一に、さまざまな出来事の中で、それをとくに「政治的」にしている要因は何なのか、すなわち、政治学とは何を扱う学問であるのかを明らかにし、そこに現れるいろいろな概念（キーワード）の意味を理解した上で、それを現実の政治現象に適用できる能力を養う。最終的には、さまざまな政治概念の由来、変容、意義をふまえて、みずからの政治的アイデンティティを問えるようにする。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：政治学の基本問題や概念を幅広く理解できる。**思考・判断の観点**：さまざまな概念の論理的な関係を述べることができる。**関心・意欲の観点**：政治現象についての関心を広げ、問題意識を高めることができる。**態度の観点**：規範的な視点から現実の政治現象について判断を下せる。

●**授業の計画（全体）** まず、政治学は何を対象とする学問なのかを明らかにした上で、古代から現代にいたるまで、その変遷をたどってゆく。中盤からは主として20世紀以降の政治理論に焦点を合わせ、受講者が現代の政治現象に広く応答できるように心がける。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第1回 **項目**【項目】オリエンテーション **内容**【内容】担当教員の紹介、政治とは何か、さまざまなアプローチについて **授業外指示** シラバスを読んでおくこと
- 第2回 **項目**【項目】政治とは何か（1） **内容**【内容】古代アテナイ、ローマにおける政治——政治的自由と共和主義——
- 第3回 **項目**【項目】政治とは何か（2） **内容**【内容】中世キリスト教世界における政治——「神の国」とキリスト教国家——
- 第4回 **項目**【項目】政治とは何か（3） **内容**【内容】近代政治学の誕生——ルネサンスと社会契約説——
- 第5回 **項目**【項目】政治とは何か（4） **内容**【内容】現代政治理論——リベラリズムと共和主義——
- 第6回 **項目**【項目】20世紀の政治学（1） **内容**【内容】政治科学の勃興——その時代・哲学的背景を含む——
- 第7回 **項目**【項目】20世紀の政治学（2） **内容**【内容】政治科学の発展——さまざまな理論展開の紹介——
- 第8回 **項目**【項目】20世紀の政治学（3） **内容**【内容】規範理論の再生——J・ロールズの正義論を中心に——
- 第9回 **項目**【項目】20世紀の政治学（4） **内容**【内容】今日の規範的政治学——ロールズ以降の展開を追う——
- 第10回 **項目**【項目】ポスト・リベラリズムの政治理論（1） **内容**【内容】さまざまなリベラリズム批判
- 第11回 **項目**【項目】ポスト・リベラリズムの政治理論（2） **内容**【内容】ポストモダンへの転回
- 第12回 **項目**【項目】国際関係論（1） **内容**【内容】国際政治の萌芽——政治史的な考察——
- 第13回 **項目**【項目】国際関係論（2） **内容**【内容】さまざまな思想と理論——その政策への影響——

第14回 項目【項目】政治学全般についての総括 内容【内容】これまでの講義内容のレビューとまとめ

第15回 項目【項目】前期末試験 内容【内容】論述筆記試験

- 成績評価方法(総合) 期末に行われる試験によって、さまざまな観点から総合的に判定する。
- 教科書・参考書 教科書：とくに指定しない。／参考書：講義中に適宜指示する。
- メッセージ 自分自身の頭で考えることを心がけてください。なお、本講義は4単位科目であるので、各回は各週に相当する。したがって、各回の授業項目・内容は、それぞれ各週2回にわたって講義する。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：経済学部3階、オフィスアワー：授業終了後



開設科目	情報法学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教官	立山紘毅				

●授業の概要 情報化社会を法的な観点から捉える。

# 演習 I

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	柳田卓爾				

●**授業の概要** 前期は、テキストを利用して、経営学科のゼミとしてこれだけは最低限、理解しておいて欲しい事例と理論を勉強する。適宜、クイズ等も実施する。後期は、マーケティング戦略の理論と、データ分析の基礎 (word excel 等を利用したもの) を学習、商品分析に必要な基礎的な力を習得することを目指す (予定)。上記の勉強は、次の点に注意しながら行っていく。(1) レジュメの書き方 文章を通じて、自分の考えや言いたいことを相手に伝えることを学ぶ。(2) 報告 (プレゼンテーション) および議論 口頭での対話を通じて、自分の考えや言いたいことを相手に伝えることを学ぶ。また、相手の考えや言いたいこと (文章、対話の両方を通じて) を正しく理解しようとするというスタンスを学ぶ。(3) 報告書作成 ゼミでの議論を通じて、学んだことと学べなかったこと (残された課題) とを明確にすることを学ぶ。報告担当者は、事前にレジュメを準備して (1)、ゼミで報告 (プレゼンテーション) する (2)。報告の次の週に、ゼミでの議論のまとめとして報告書を提出し (3)、復習を行う。前期は基礎、後期は応用と実践という位置付けで、ゼミを運営する。

●**授業の一般目標** 経営学科のゼミ生として必要な基本的ツールを習得する。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 第 1 章 企業を起こす スカイマークエアラインズ社の設立
- 第 2 回 項目 第 2 章 私企業の形態 わが国電気通信産業の曙に見る
- 第 3 回 項目 第 3 章 現代企業の発生 ロックフェラーとスタンダード・オイル
- 第 4 回 項目 第 4 章 環境・戦略・組織 フォードと GM
- 第 5 回 項目 第 5 章 新しい事業の創造 ヤマト運輸の宅配事業
- 第 6 回 項目 第 6 章 いかにかに競争するか マクドナルドとモスバーガー
- 第 7 回 項目 第 7 章 事業の再構成と資源配分 東芝の選択経営
- 第 8 回 項目 第 8 章 M & A と外部資源の利用 ソニーのコロンビア映画会社買収
- 第 9 回 項目 第 12 章 日本的経営とは何だったのか 高度成長期の日立製作所
- 第 10 回 項目 第 13 章 企業の知識体系 シャープの製品開発マネジメント
- 第 11 回 項目 第 14 章 市場に対応するネットワーク型組織 製販一体化をめざす花王の組織変革
- 第 12 回 項目 第 15 章 企業のカルチャーを変える アサヒビールの組織活性化
- 第 13 回 項目 第 16 章 会社は誰のものか ピケンズ対小糸製作所問題から
- 第 14 回 項目 第 17 章 ビジネスの倫理性 不正表示牛乳の代償
- 第 15 回 項目 まとめ

●**成績評価方法 (総合)** 前期に関しては、担当箇所のレジュメ、報告 (プレゼンテーション)、報告書、クイズによる。後期に関しては、担当箇所のレジュメ、報告 (プレゼンテーション)、報告書、クイズ等による。また、出席は、欠格条件である。

●**教科書・参考書** 教科書：前期：東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学』有斐閣ブックス、1998。後期：沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略』有斐閣、2000。データ分析に関するテキストは、別途指示する。

●**メッセージ** この演習 I は、2 年生を対象としています。募集人数は 12 名です。積極的にゼミ活動を盛り上げていってくれる人を希望します。3 年次以降に、ゼミ合宿を予定しています。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室 C220

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	田淵太一				

●**授業の概要** この10年間は、米国発グローバリズムが世界の政治経済を席卷し、これまで別の秩序のもとに運営されてきた各地域の社会に浸透した時代でした。今後、このグローバリズムが勢いを増し、世界経済はますます市場原理に一元化されるのか、あるいはグローバリズムに対抗する原理が現れるのかは、私たちの経済や生活を大きく左右する重要な問題です。このゼミナールでは、世界経済全体から各国・各地域、さらには身近な問題まで、グローバリズムとそれへの対抗という視点から考察してゆきます。

●**授業の一般目標** 2年次には、ディベート（討論）と読書能力・調査能力の養成に集中します。

●**授業の計画（全体）** 5月いっぱいをめどに教科書を読了します。その後、希望するテーマごとに3名ずつのグループを作ります。このゼミでは、グループで調査したり考えたりした内容を報告してもらい、それにもとづいて討論を行うことに主眼を置きます。

●**成績評価方法（総合）** 報告・討論等、ゼミナールにおける日常的な活動により評価します。授業への参加度50%、受講者の発表50%。

●**教科書・参考書** 教科書：グローバリゼーションと発展途上国、吾郷健二、コモンズ、2003年

●**メッセージ** 授業を聞いたり練習問題を解いたりするばかりが大学の勉強ではありません。このゼミでは、グループで調査したり考えたりした内容を報告してもらい、それにもとづいて討論を行うことに主眼を置きます。「勉強」のイメージを変えてください。2、3年次に、ゼミナール大会（学内・全国）に参加します。年に1～2回の合宿を行うことも考えています。ゼミを学生生活の中心にすえて積極参加して下さい。

●**連絡先・オフィスアワー** オフィスアワーは前期開始後に発表します。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	立山紘毅				

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	中田範夫				

- 授業の概要** 企業会計は財務会計と管理会計という2つの領域に区別できる。このうちこの演習では管理会計の領域を深く研究する。しかし、最初は広く会計の全体領域について学習していく予定である。
- 授業の一般目標** 3年間のゼミ活動の最初の1年目なので、基礎的な知識の習得に時間を使いたい。
- 授業の計画 (全体)** テキストを利用して会計についての基本的知識を獲得することを授業の内容とする。
- 成績評価方法 (総合)** 授業への出席と報告によって評価する。
- 教科書・参考書** 教科書：まなびの入門会計学, 中田信正、徐龍達、小林哲夫編著, 中央経済社, 2002年
- メッセージ** 教室の授業だけでなく、会社見学や運動も重視したい。
- 連絡先・オフィスアワー** 電話：933-5556 (研究室)

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	橋本寛				

- 授業の概要** 意思決定の基礎理論について考察を行う。
- 授業の一般目標** 意思決定の初歩的概念、手法、モデルなどについて学ぶ。
- 授業の計画 (全体)** 各人に下記のテキストを割り当てて読む。テキストの内容はグループウェア、各種問題解決法 (ブレインストーミング、KJ 法、ISM、DEMATEL など)、投票方式、投票のパラドックス、アロウの定理、混合戦略、非ゼロ和ゲーム、提携と配分、AHP など。
- 成績評価方法 (総合)** 出席、レポート、発表などによる。
- 教科書・参考書** 教科書：意思決定支援とグループウェア 宇井著、共立出版、定価 2400 円
- メッセージ** 出席を重視する。
- 連絡先・オフィスアワー** 経済学部 A227、オフィスアワーを設ける予定

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	武本ティモシー				

●**授業の概要** 文化が心理に対して及ぼす影響の大きさは、次第に理解されつつある。個人と集団の関係のあり方・自己主張の仕方・物の見方・世の中で何が最も恐ろしいものであるかなど、これらはどれも文化差がある事が最近の研究によって実証されている。文化心理学・異文化コミュニケーションという分野を紹介しながら、法律の基盤となる道徳的感情に注目し、文化心理的な差異から生じる法律観念の差異について考察する。ゼミ生には、学生を相手にした調査・実験を行ってもらう。／**検索キーワード** 文化心理学・英語能力・パソコン技術・自己主張能力

●**授業の一般目標** 1) 日本文化の特徴、特に法律の基盤となる「恥」「罪」という道徳的感情を文化心理学的な観点から考え、調査・実験によって実証的に調べること。 2) 自己表現と発表の能力向上 3) 英語とインターネットの技能を身に付けること

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1. 文化心理学の概要を理解すること。 2. 法律・道徳観念・社会的価値観の文化依存性についての理論を説明できること。 **思考・判断の観点**： 実証的研究の方法を取得すること。 **関心・意欲の観点**： 法律の基盤の文化依存性に関心を示すようになること。 **態度の観点**： 自己開示・自己表現・自他の批判・討論への抵抗を取り除き、日本語及び英語で英語でより積極的に言語的コミュニケーションの心を育つこと。 **技能・表現の観点**： 発表・議論・自己表現・英語コミュニケーションとしてインターネットによるコミュニケーションのスキルを高める。

●**授業の計画 (全体)** 1. 文化心理学の紹介と方法論 2. 自己と文化：相互依存的自己と独立的自己 3. 自己高揚の文化心理：自己卑下する日本人？ 4. 認知の文化心理：上の映像参照 5. 文化と論理的思考 6. 文化と感情：罪と恥 7. 文化と倫理 8. 信頼感の文化心理：人を信用しない日本人 9. 文化と自己のモダリティ：語られる自己と想像される自己 10. 精神療法と文化：精神分析と内観 11. 文化とジェンダー：「世界一男性的な文化日本」と日本の女性的ホラー 12. 文化と偏見：潜在的偏見の明確化

●**教科書・参考書** 参考書：参考書籍：山口勲 (編著) 1998 「社会心理学:アジア的視点から」 日本放送出版協会

●**メッセージ** それぞれの国において持たれる価値観は、意外なほど社会・文化依存性があることを皆に理解してもらえながら、文化心理学と法律との関連を見つけ出す勉強を一緒にしましょう。

●**連絡先・オフィスアワー** メール [tim@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:tim@yamaguchi-u.ac.jp) , 研究室：経済4階経済学部玄関上 ゼミホームページ <http://timtak.com>



開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	澤 喜司郎				

●**授業の概要** 観光と旅行をテーマに研究をします。観光・旅行の意義については、以下のように言えます。私たちは日常さまざまな機会に旅行に出かけ、生活の潤いを体験しています。日帰りレクリエーション、国内の宿泊観光旅行、海外旅行等は今や国民生活に欠かせないものとして定着し、その重要性も増加しています。このことは、今後の生活の中で特に重点を置きたい分野として「レジャー・余暇活動」をあげている国民が多いことから明らかです。また、観光は国民一人一人が充実した時間を過ごし、「ゆとり」と「潤い」を実感できる生活を実現する上で大きな役割を果たすとともに、自然・歴史・文化等に関してさまざまな体験や地域との交流がなされる過程で地域の文化、経済活動を活性化させ、地域振興に大きく寄与するといわれています。さらに、国際観光は国民レベルでの直接の見聞による国際交流を通して諸外国との相互理解を増進し、友好と信頼に基づく国際社会を実現する上で大きな意義を有しています。

●**授業の一般目標** 観光と旅行に関する基礎知識の習得と、観光と旅行の現状について理解します。

●**授業の計画 (全体)** 前期には下記の文献を輪読し、後期には各自の出身地に観光についてのネット調査(概要調査)、文献調査、現地調査を行い、報告し、討議する。

●**成績評価方法 (総合)** 調査報告 70 %、出席 30 %

●**教科書・参考書** 教科書：「観光白書」(平成 15 年版)を各自で準備しておく。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	河野眞治				

●**授業の概要** 多国籍企業に関する理論、行動、受入国とホーム・カンントリーへの影響等を勉強する。基本文献を読むとともに、個人による研究テーマを決め、文献を探し、調査し、レポートにまとめ、発表する一を重視する。また可能なら、国内外の企業訪問調査を実施する。／**検索キーワード** 多国籍企業

●**授業の一般目標** 直接投資に関する基礎理論を理解する。日本企業の多国籍化について、学生自身が調査し、実際の多国籍企業について学ぶ。

●**授業の計画 (全体)** 学生のレポート発表を中心に行う。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第 1 回	項目	ガイダンス	内容	ゼミの運営方法について説明
第 2 回	項目	学生レポート発表	内容	発表と討論
第 3 回	項目	学生レポート発表	内容	発表と討論
第 4 回	項目	学生レポート発表	内容	発表と討論
第 5 回	項目	学生レポート発表	内容	発表と討論
第 6 回	項目	学生レポート発表	内容	発表と討論
第 7 回	項目	学生レポート発表	内容	発表と討論
第 8 回	項目	学生レポート発表	内容	発表と討論
第 9 回	項目	学生レポート発表	内容	発表と討論
第 10 回	項目	学生レポート発表	内容	発表と討論
第 11 回	項目	学生レポート発表	内容	発表と討論
第 12 回	項目	学生レポート発表	内容	発表と討論
第 13 回	項目	学生レポート発表	内容	発表と討論
第 14 回	項目	学生レポート発表	内容	発表と討論
第 15 回	項目	学生レポート発表	内容	発表と討論

●**成績評価方法 (総合)** レポートと討論で評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：なし / 参考書：なし

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	古川澄明				

●**授業の概要** 研究内容・方法 (1) フグ・ビジネスの調査 現在、ゼミ2年、3年生の先輩が下関唐戸魚市場(株)や、萩、徳山の養殖業者のヒアリング調査に取り組んでいますが、そうした調査活動に取り組んでみたい方 (a) 中国沿海地域のふぐ養殖業の実態調査 (今、中国産フグが下関養殖フグ取扱高の3割) (b) フグ漁従事者の激減と業界の国際的構造変化ー輸入フグの増大化傾向 (c) フグ・ビジネスの国際化とアジアー香港、上海のフグ料理店 (d) 養殖フグの急増と産地間競争ー相場リーダーとしての下関の挑戦 (e) 韓国でのフグ・ビジネスの実態ーフグを食べているのか? (f) 食生活の変化とフグ・ビジネスー養殖魚で育った世代の味覚が示すものは、何か (2) 山口の酒蔵の調査 現在、ゼミ2年、3年生の先輩が県内の酒蔵メーカーの個別企業調査を行っていますが、まだまだ、残っています。日本人と酒と社会生活の変化について関心があり、調査活動に取り組んでみたい方。(a) 山口県内の酒蔵メーカーを訪ねる(現在、五橋、男山、和可娘の3社を調査中) (b) 山口の「杜氏」を訪ねて、歴史を聞くゼミ運営方法: 3年生までは、チームで調査研究。4年生で卒業論文を作成。論文は自費製本し、「1冊の本(作品)」にする。自主的に、私的に会社を訪問すること(fieldwork)を厭わない人。調査研究の成果は、報告集にまとめる。／**検索キーワード** 自分に投資し、自分の能力を開発し、自分を育てよう。

●**授業の一般目標** (1) 卒業論文作成に向けて、調査研究のテーマ設定、問題の分析の仕方、プレゼンテーションでの説得力などを身に付ける。(2) 企業調査を通じて、社会人としての自覚をもって、経営の現場やビジネスの動態を捉える独自の分析視角を開発する。(3) 大学卒業後に企業人、あるいは公務員として活躍することを意識して、ゼミ活動に取り組む。

●**成績評価方法(総合)** 総合的に評価する。

●**メッセージ** 古川ゼミは、人材育成の場と位置づけている。企画・立案能力、文書能力、報告書をまとめる能力、プレゼンテーション能力、コンピュータ活用能力などを養うことを目標として、2年生の段階から自分たちで自主的に共同研究テーマと取り組む。それらの能力は、大学卒業後に民間企業や公務員に就職すれば当然にも求められる能力である。企業研究では、これまでに習得した、あるいは習得しつつある経営学や会計学の知識を投入することになり、必要ならば自主的に経営学の知識を学ぶことが重要である。3年間を費やして、独創的な卒論をまとめ、ハードカバー

●**連絡先・オフィスアワー** 随時に、連絡・訪問可。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	石田成則				

●**授業の概要** 21 世紀の新時代に入り、わが国経済社会は大きな転換期を迎えている。長期にわたる不況と高齢社会への突入により、雇用不安や老後生活への不安感も醸成されている。こうした現況を打破するための構造改革そして財政再建のなかで、国家財政による社会保障は縮小または見直しの機運にある。また、企業経営においても、国際競争力の強化のために、財務のスリム化そして人員の削減が断行されており、退職給付による老後保障の役割は縮小傾向にある。そこで、自助努力による資金形成のための、保険、年金そして投資商品などについて幅広く勉強する。

●**授業の一般目標** 保険・社会保険の基本的仕組みと構造、そして役割を理解する。 1) 生活上のリスクとその管理の具体的手法を学ぶ。 2) 生活保障に果たす公私の役割分担を考える。 3) 保険商品や各種の社会保険制度を知って、それを旨く活用する。 4) 保険によるマクロ的機能、労働生産性効果と効率的資本形成を理解する。

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**： 保険・社会保険の仕組みの理解 **思考・判断の観点**： リスクの計量的・確率的な把握 **関心・意欲の観点**： 現実社会の保険現象に対する関心を高める

●**授業の計画 (全体)** 「金融リスク入門」と「企業金融入門」の輪読

●**成績評価方法 (総合)** 授業態度と授業内プレゼン

●**教科書・参考書** 教科書： 新世紀の保険, 庭田範秋, 慶応義塾出版会, 2002 年

●**メッセージ** 欠席する際には、必ず事前にその旨を連絡すること。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	山下訓				

●**授業の概要** この演習は企業会計及び会計学、特に財務会計の演習です。但し、企業会計及び会計学では財務会計と管理会計との垣根が低くなり、広い分野を学ばなければなりません。この演習では、先ず企業会計及び会計学の理論を、次に日本及び欧米における歴史を学び、更に日米の財務諸表の使い方を学び、それらを踏まえて企業会計の現状に対する分析を行います。演習 1 ではその基礎を学びます。会計学だけでなく、経済学でも法律学でも、どの分野でも大学の役割は、いわゆる読み書き 算盤をしっかり教えることだと思います。おそらく今の読み書きには英語もパソコンも加わるでしょう。

●**授業の一般目標** 会計学分野について、自分で調べ、発表し、議論を行えるようになる。

●**成績評価方法 (総合)** 会計学分野について、自分で調べ、発表し、議論を行えるか否か。

●**教科書・参考書** 教科書：『財務諸表論の考え方』（第 2 版もしくは最新版）田中弘 財務経理協会 『ゼミナール現代会計入門』（第 4 版もしくは最新版）伊藤邦雄 日本経済新聞社

●**メッセージ** 経済学部生としての当然求められる行動を求めます。

●**連絡先・オフィスアワー** yamasita@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 内線 5 5 1 8

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	陳建平				

- 授業の概要** 中国経済に関する研究／**検索キーワード** 中国、中国経済
- 授業の一般目標** 中国および中国経済に関する基本的知識を習得する。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 中国及び中国経済に関して基本的な事柄について一定の知識を有する。 **思考・判断の観点**： 学習した経済理論と現実の経済事象との間の関連性を見いだすことができる。 **関心・意欲の観点**： 中国及び中国経済に対して関心を持つ。
- 授業の計画 (全体)** 基本的分担して、それぞれ毎回テキストの内容を報告し、他の人と討論する形態をとる。報告の内容をめぐって、ゼミ内でディベートを行うこともある。また、各人が分担して新聞や雑誌などに出ている中国関連の記事のスクラップを作成し、ゼミの共同資料を作成する。
- 成績評価方法 (総合)** 宿題／授業外レポート = 30 % 未満 授業態度や授業への参加度 = 30 % 受講者の発表 (プレゼン) や授業内での製作作業 (作品) = 40 % 出席 = 欠格条件
- 教科書・参考書** 教科書： 中国経済入門 目覚めた巨龍はどこへ行く, 南亮進・牧野文夫編, 日本評論社, 2001年； 日本人のための中国経済再入門, 関 志雄, 東洋経済新報社, 2002年／ 参考書： 適宜指定
- メッセージ** 無断欠席 3 回に達すると、不合格になるので注意すること。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail chen@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 5520, 研究室 A222

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	兵藤隆				

●**授業の概要** 金融経済に関する基礎的な理論を学習しながら、デフレや不況からの脱却のために何を成すべきかを論理的に考察する。／**検索キーワード** 金融、ゼミ、演習、プレゼンテーション、ディベート

●**授業の一般目標** 金融システムの変貌とデフレ脱却のための手段について研究し、そのための情報収集やディベートの方法について学習する。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 教科書の指定も
- 第 2 回 項目 新聞記事の読み方
- 第 3 回 項目 教科書の読み方とまとめ方
- 第 4 回 項目 プレゼンテーションのやり方
- 第 5 回 項目 プレゼンテーションの技術向上のために
- 第 6 回 項目 情報処理機器 (PC) の使用について
- 第 7 回 項目 メールアドレスの取得
- 第 8 回 項目 ホームページの閲覧、情報収集のやり方
- 第 9 回 項目 ワープロ、表計算、プレゼンアプリケーションの使い方
- 第 10 回 項目 メーリングリストへの参加
- 第 11 回 項目 討論大会のためのテーマ設定
- 第 12 回 項目 討論大会のための論文作成準備
- 第 13 回 項目 討論大会のためのディベート訓練
- 第 14 回 項目 プロジェクト応募のための企画書づくり
- 第 15 回 項目 まとめ

●**成績評価方法 (総合)** 演習中のパフォーマンス、アピール、ディベート能力などを評価する。

●**メッセージ** ゼミに関する詳しい活動内容は当ゼミのホームページ (<http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/thyodo>) を参照のこと。できるだけ、受動的に「教わる」のではなく、自ら「学ぶ」意欲のある学生の参加を望む。

●**連絡先・オフィスアワー** thyodo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	寺地伸二				

●授業の概要 テキストの輪読



開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	木部和昭				

●**授業の概要** 近代日本経済史研究 ～明治・大正・昭和期の日本経済の分析～ 本演習では、明治以降、終戦までの日本経済史について、その基礎知識や、経済史研究の理論、実証分析の手法を習得する事を目指す。内容としては特に、各人の身近な地域や興味ある企業・産業・人物などを取り上げ、その歴史を自分たちの手で解明し分析してもらう。主な対象としては、山口県の地域経済を歴史的に分析する事を考えているが、各人の興味関心に応じて、必ずしもこれに限定するわけではない。最終的には、資料を用いて具体的な分析を行い、教科書に出てくる経済史とは異なった新たな歴史像を自ら発見してもらいたい。大学で勉強する歴史は高校までの日本史・世界史と異なり、単に知識を暗記するだけの学問ではない。自らが歴史を解明し、分析するという点に興味を持つ学生の受講を歓迎する。／**検索キーワード** 日本経済史、日本史、近代史

●**授業の一般目標** (1) 明治以降、終戦までの日本経済史について、その基礎知識や、経済史研究の理論、実証分析の手法を習得する事を目指す。(2) 身近な地域や興味ある企業・産業・人物などを取り上げ、その歴史を自分たちの手で解明し分析する能力を身につける。(3) 史資料を用いた歴史の実証が行えるようにする。

●**授業の計画 (全体)** (1) 前半は下記のテキストの輪読を通じて、近代日本経済史の基礎知識、論点を学習する。(2) 後半は、各人の興味関心に基づいた研究論文を読み、各人の研究課題設定の一助としたい。また、論文講読を通じて、経済史研究の手法、論文の書き方などについても学習する。(3) 日本経済史の実証的研究に必要な不可欠なものに、資料の調査・分析がある。本演習では、上記と平行して、戦前期の資料講読を行い、調査・分析の基本的手法を習得する。戦前の文献・法令・新聞などは、現在とは全く異なる文語・旧字体で書かれているが、慣れれば同じ日本語なのでそんなに難しくはない。また、興味のある学生がいれば、江戸～明治時代の古文書(筆で書かれた史料) 解読も行いたい。その際、なるべく多くの原史料に触れる機会を得るため、山口県文書館などの資料保存機関へ調査に出かける。(4) 夏休みには、卒業論文への前段階として、レポートを課す。これは、自分の研究課題についての模索の第一歩となる。後半には、このレポートをもとにした報告も行ってもらおう。※2年次には特に(1)(3)を重点的に学習する。

●**成績評価方法 (総合)** 順番に担当してもらった報告、夏休みレポートの内容によって評価する。報告者以外には、報告内容をまとめたノート提出させるが、これも評価の対象となる。報告 45 %、授業内小レポート 15 %、夏休みレポート 30 %、授業態度 10 % 欠席が多い者は不合格となる。

●**教科書・参考書** 教科書：『近代日本経済史要覧(第2版)』、安藤良雄 編、東京大学出版会、1979年；『概説近代日本経済史(第2版)』、三和良一、東京大学出版会、2002年／参考書：テキスト以外の参考文献は適宜紹介する。授業で使用する場合は、コピーを配布する。

●**メッセージ** ・3年後の卒業論文に向けて、自分なりの興味関心を養って欲しい。 ・きちんと出席しないと単位が出ないで注意。 ・自分の割り当てられた報告を放棄した場合は、別に数倍の課題を出させるので、一生懸命に取り組むこと。

●**連絡先・オフィスアワー** 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	平中 貫一				

●**授業の概要** 民法学の基礎として主に民法総則を学ぶ。／**検索キーワード** 民法

●**授業の一般目標** 民法学の基礎の修得

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	城下賢吾				

●**授業の概要** たとえば、なぜダイエー・そごうの経営が行き詰まり、イトーヨーカ堂・ジャスコが堅実に成長しているのでしょうか。また、それら企業の経営状況がどのように株価などの資産価格に影響を及ぼすのでしょうか。この演習では上記のことを考えるうえでの基礎理論の習得してもらい、その後個々の企業のケースを検証していきます。／**検索キーワード** ファイナンス、証券市場、企業

●**教科書・参考書** 教科書：入門証券論, 榊原・城下他, 有斐閣, 2000年

●**メッセージ** 将来、ファイナンス関連の仕事につきたい人、人的ネットワークを広げて将来も付き合える友達を作りたい人歓迎。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	松浦良行				

●**授業の概要** 演習 I では、2,3 人のグループに分かれ毎回私が設定したテーマに沿って残りのゼミ生にプレゼンテーションを行います。

●**授業の一般目標** 演習 I では、3 年次以降で本格的な分析をできるように、分析のための基本的なデータ処理能力の向上と、主として企業活動に関する知識（主として財務データの構造）の習得を目指します。また、将来社会人になったときに必要不可欠となる基本的な技能を身につけることを目的とします。具体的には、マイクロソフトオフィスのすべてのアプリケーション（ワード、エクセル、パワーポイントおよびアクセス）のすべてを使いこなせるようにするのが技能面での目標です。また、知識面に関しては、自らが問題を設定し、その問題を分析するために必要な経営学一般の知識と基本的な統計処理方法を習得することが目標です。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 経営や財務の分野でよく使われるキーワードを理解できるようになる。パソコンをビジネスレベルで使えるようになる。基本的な統計処理ができる。 **思考・判断の観点**： テキストに書かれている様々なトピックから、自分の興味との関連で分析に値するものを選び出せる。 **関心・意欲の観点**： 毎回ゼミに出席し、発表者に対して積極的なコメントをする。他人と発表のための共同作業をしていく上で、積極的に意見交換できる。

●**授業の計画 (全体)** 皆さんの興味や理解度に応じてフレキシブルに変更しています。

●**成績評価方法 (総合)** ゼミへの出席と報告をみて評価します。

●**教科書・参考書** 教科書：ゼミナール現代会計入門, 伊藤邦雄, 日本経済新聞社, 2003 年

●**連絡先・オフィスアワー** [matu@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:matu@yamaguchi-u.ac.jp) オフィスアワーは特にもうけていませんが、在室中であればいつでも対応します。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	長谷川光圀				

●**授業の概要** 演習 I の受講対象者は、2 年生で、経営学の基礎知識が不足している。

そこで、「やさしい経営学」のテキストを活用して、各自の分担報告と意見交換を義務付けたい。また、その意義は、体系的思考を養うことにある。／**検索キーワード** 経営学の基礎理論、体系的理解、個別事例を参照、最近のトピックスに注目

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 経営学の基礎知識を習得し、経営思考を身に付ける。 **関心・意欲の観点**： マスメディアの経営問題に、関心を示し、思考と判断をするようにする。 **態度の観点**： 演習では、積極的に意見をだし、議論になれる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 企業経営とは何か
- 第 2 回 **項目** 経営理論史と実践の展開
- 第 3 回 **項目** 環境変化の展望
- 第 4 回 **項目** 地球環境の保護
- 第 5 回 **項目** 企業成長と競争戦略
- 第 6 回 **項目** 企業成長と競争戦略
- 第 7 回 **項目** 中小企業の経営戦略
- 第 8 回 **項目** 組織とは何か
- 第 9 回 **項目** 組織論の発展
- 第 10 回 **項目** 組織文化の意義と革新
- 第 11 回 **項目** 動機付けとリーダーシップ
- 第 12 回 **項目** 参加とリーダーシップ
- 第 13 回 **項目** 経営計数管理
- 第 14 回 **項目** 企業診断
- 第 15 回 **項目** 企業ガバナンス

●**教科書・参考書** 教科書： やさしい経営学, , , 2000 年／ 参考書： その都度、紹介する。 , ,

●**メッセージ** 出席は、100 % であること、報告は、周到にすることである。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	有村貞則				

- 授業の概要** この演習では、企業経営の実態を把握する上で有益な経営分析、とくに財務分析手法を学習し、それをもとに代表的な日本企業や欧米のグローバル企業の経営状態を比較検討します。
- 授業の一般目標** 1. 財務諸表データを用いた経営分析手法の習得。 2. これらの手法を用いて実際の企業の業績を分析。 3. 分析結果、およびその他の情報をもとに企業間の優劣を判断。
- 授業の計画 (全体)** 指定テキストの各章ごとに進める。
- 成績評価方法 (総合)** 出席点と毎回の授業で行う復習小テスト。
- 教科書・参考書** 教科書：経営分析入門, 森田松太郎, 日本経済新聞社, 2002 年
- 連絡先・オフィスアワー** arimuras@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	渡邊幹雄				

- 授業の概要** 現代リベラリズムの再検討／**検索キーワード** 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。
- 授業の一般目標** リベラリズムについての総合的な理解。
- 授業の計画 (全体)** 主要なテキストを輪読しつつ、報告者にハンドアウトを作成してもらって議論する。
- 成績評価方法 (総合)** 授業への積極的な参加、プレゼンテーション、課題の達成度を考慮して、総合的に評価する。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室：経済学部 3 階、オフィスアワー：授業終了後

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	藤井大司郎				

- 授業の概要** この演習、3年次の演習 II、そして4年次の卒論指導までを連続した「長期演習」とみなして授業計画を立てている。その第一年度であるこの授業では、諸君らの経済学の基礎学力に合わせて、まず、財政学の理解に欠かせないミクロやマクロの経済理論を復習する時間を適宜確保する。このための教材等は改めてお知らせする。その後、このゼミの中心的勉強である現代の財政学理論を下記のテキストを用いて、輪番の報告と討論により学んでいく。この中心的勉強は3年次の演習 II、そして4年次の前半一杯までかかる予定である。また、3年間を通して、毎時間「前座」を行い、さらに「プレゼンテーション」を適宜実施する。「前座」とは、わがゼミ伝統の週間新聞経済記事報告のことで、わがゼミ生の現実認識の高さを誇れるのも、この「前座」のおかげである。「プレゼンテーション」は、個々人の調査・発表能力を鍛えるという主旨で、様々な経済問題などをテーマに選んで輪番で講師ををつとめることにより、選んだテーマに関して調べ、他者の前で解説、論評してもらうプログラムである。
- 授業の一般目標** 「財政学の理論と実証」 公共経済学に根ざす現代の財政の広範な理論を学ぶとともに、わが国の財政とこれを取りまく公共部門の諸問題を探求する。
- 成績評価方法 (総合)** 上記に述べた各種報告、討論に関して毎時間の授業における出席状況、各自の学習努力の程度と理解度、それに授業内容を高めるための貢献度とを評価して、総合的に判断する。
- 教科書・参考書** 教科書：「公共経済学」第2版 (上・下) , J. E. スティグリッツ (藪下史郎訳) , 東洋経済新報社, 2003 年
- メッセージ** (1) ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎をこの演習の1年間の終わりまでに確実に習得しておくよう求めたい。(2) 日本経済新聞程度の経済新聞を購読すること。(3) 少なくとも2年次、3年次においては「学内ゼミ大会」などに必ず参加すること。



開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	藤田健				

●**授業の概要** マーケティングの研究対象は、製品・広告・価格・流通と幅広い。これらのマーケティング活動に加えて、経営組織や戦略とも関連してくる。そのため、マーケティングに関する広範かつ体系的な知識と研究対象へのアプローチ方法の習得が必須となる。そこで本演習では、(1) 経営学とマーケティングの基礎知識を修得したうえで、(2) マーケティング・リサーチのプロジェクト演習をおこない、応用力を高める。／**検索キーワード** マーケティング, 経営学, 戦略的マーケティング, マーケティング・リサーチ

●**授業の一般目標** 1. 経営学, マーケティングの基礎知識を体系的に修得し、活用できるようになる。2. ケース・スタディを通して実践的なマーケティングの知識を身につける。3. マーケティング・リサーチを実施し、マーケティング戦略を立案できるようになる。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 経営学の基礎知識 (1)
- 第 3 回 項目 経営学の基礎知識 (2)
- 第 4 回 項目 経営学の基礎知識 (3)
- 第 5 回 項目 マーケティングの役割と課題
- 第 6 回 項目 マーケティングの領域拡大と発展
- 第 7 回 項目 戦略的マーケティングの基礎概念
- 第 8 回 項目 消費者市場の分析
- 第 9 回 項目 競争の分析
- 第 10 回 項目 取引の分析
- 第 11 回 項目 業界の発展の分析
- 第 12 回 項目 競争戦略と需要創造
- 第 13 回 項目 取引の戦略
- 第 14 回 項目 戦略の統合と戦略ドメイン

●**成績評価方法 (総合)** 前期は、発表時のレジュメ、プレゼンテーション、レポート、各回のディスカッションへの参加度および最終レポートで評価する (50%)。後期は、マーケティング・リサーチの経過レポート、グループ活動への貢献度、最終レポートで評価する (50%)。

●**教科書・参考書** 教科書：経営学入門 [上], 榊原清則, 日経文庫, 2002 年 ; 現代マーケティング [新版], 嶋口充輝・石井淳蔵, 有斐閣 S シリーズ, 1995 年

●**メッセージ** ゼミには必ず出席すること。無断欠席は厳禁である。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	塚田広人				

- 授業の概要** 経済政策の基本的問題、特に分配ルールのあり方の研究 現在私たちの住んでいるこの社会は市場経済を基本的仕組みとする社会です。とくにそこでの分配ルールのあり方、枠組みと問題点を考えます。問題：失業がなく、正しい賃金が支払われ、弱者にやさしい社会とは？／**検索キーワード** 効率性、公正性、慈恵性、福祉国家
- 授業の一般目標** 概要に同じ。経済政策の基本的問題、特に分配ルールのあり方の研究 現在私たちの住んでいるこの社会は市場経済を基本的仕組みとする社会です。とくにそこでの分配ルールのあり方、枠組みと問題点を考えます。問題：失業がなく、正しい賃金が支払われ、弱者にやさしい社会とは？
- 成績評価方法 (総合)** 出席点、レポートの内容・水準、の二つで評価します。(無断欠席は厳禁。)
- 教科書・参考書** 教科書：社会システムとしての市場経済, 塚田広人, 成文堂, 1998年；拙著『社会システムとしての市場経済』(成文堂、1998年、文栄堂で販売) 他の文献は適宜、紹介します。
- メッセージ** 「読み、考え、議論する」楽しいゼミにしましょう。
- 連絡先・オフィスアワー** オフィスアワー：水曜 1時30分～3時00分 ただし、会議等で、下の時間がふさがる場合があります。ほぼ毎日研究室にきていますので、質問等のある方は下記の時間以外でもいつでも来訪してください (A棟4階、424号室。) 電話：083－933-5558 E-mail：ht@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	仲間瑞樹				

●**授業の概要** 前期は格差問題に焦点をあてる。例えば教育格差、所得格差、階級といった格差が、日本社会、日本経済、人間の一生にどのような影響をもたらすのか？この点について発表、ディベートを繰り返す。後期は官と民の経済活動に焦点をあてる。特に公的年金のあり方、郵政問題などといった事柄を題材とする。／**検索キーワード** 格差、官と民、経済政策と市場経済、資料・文章作成、ディベート技術

●**授業の一般目標** 誰が聞いても、見てもわかりやすい発表、資料作成が出来るようにすること。社会的な問題、時事的な問題に対して、経済学の論理を適用できるようにすること。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1年次で履修したミクロ・マクロ経済学の考え方を、現実の経済問題に適用している点。社会問題への興味、十分な理解があること。**関心・意欲の観点**：わかりやすい、相手の立場に立った発表となっている点。**技能・表現の観点**：わかりやすい日本語論文・資料を書けること。

●**授業の計画 (全体)** 2人1組のグループに分け、テキストを利用した発表、質疑応答、ディベートを繰り返す。資料作成、発表技術を出来るだけ高められる指導する。また前後期末にショートペーパーを書いてもらう。後期のスケジュールは、前期末に資料を配布し、説明をする。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 グループ分け 中流崩壊・報告・質疑応答 内容 報告方法、ディベートのやり方、ディベート题目的の提示
- 第 2 回 項目 中流崩壊・報告・質疑応答
- 第 3 回 項目 ディベート
- 第 4 回 項目 中流崩壊・報告・質疑応答 内容 ディベート题目的の提示
- 第 5 回 項目 中流崩壊・報告・質疑応答
- 第 6 回 項目 ディベート
- 第 7 回 項目 日本の経済格差・報告・質疑応答 内容 ディベート题目的の提示
- 第 8 回 項目 日本の経済格差・報告・質疑応答
- 第 9 回 項目 ディベート
- 第 10 回 項目 日本の経済格差・報告・質疑応答 内容 ディベートの題目を提示
- 第 11 回 項目 日本の経済格差・報告・質疑応答
- 第 12 回 項目 ディベート
- 第 13 回 項目 日本の経済格差・報告・質疑応答 内容 ディベート题目的の提示
- 第 14 回 項目 ディベート
- 第 15 回 項目 予備日

●**成績評価方法 (総合)** 資料作成、発表技術、ディベートの参加具合、報告内容、ショートペーパーの出来具合を評価対象とする。資料、発表、ディベートの参加度合いを50%、ショートペーパーの出来具合を50%で評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：論争・中流崩壊、中央公論編集部、中央公論社、2001年；日本の経済格差、橋本俊詔、岩波書店、1998年；不平等社会日本、佐藤 俊樹、中央公論社

●**メッセージ** 今年度の演習1はかなりハードです。そのかわり1年後には、ある程度の発表、討論参加、経済学的な知識、文章、資料作成に対する自信がついているはずです。

●**連絡先・オフィスアワー** mnnakama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	松井範惇				

●**授業の概要** 1. 世界経済の中における「開発」に関する諸問題を学習する。ゼミ生の興味のあるトピックを幅広く丹念に調べ、発表し、討論する。貧困、不平等、食糧、飢餓・飢饉、貿易と金融、人間開発・社会開発、農業と工業化、経済成長、雇用と物価、労働移動と直接投資、などについて学ぶ。 2. 国際協力、経済協力について勉強する。 3. 日本経済について、その仕組み、特徴、問題点などについて討論する。

●**授業の一般目標** どしどし自分から毎回議論、質問、討論をしていきます。

●**教科書・参考書** 教科書：現代世界経済をとらえる, 松村・関下・藤原・田中編, 東洋経済新報社, 2003 年 ; 開発援助の経済学, 西垣・下村, 有斐閣, 2003 年

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	馬田哲次				

●**授業の概要** 毎週読書レポートを提出し、およそ1月に1回の割合で発表する。

●**授業の一般目標** 研究テーマは、個人の自由です。各自のテーマを深く追求するとともに、幅広い知識を持った T 型スペシャリストを目指します。具体的には、以下の能力を身につけることを目標とします。

1. 幅広い教養を身に付けること。
2. 問題解決能力、分析能力を高めること。
3. 企画力・創造力を高めること。
4. プレゼンテーション能力を高めること。
5. コミュニケーション能力を高めること。
6. データ処理能力、事務処理能力を高めること。
7. 判断力を高めること。

●**授業の計画 (全体)** パワーポイントを用いて、プレゼンテーションを行う。

●**連絡先・オフィスアワー** umada@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	濱島清史				

●**授業の概要** キャリア形成 (人材育成) ならびに社会政策論 (特に年金問題) を中心に進めていく。また それと関連するように、就職内定率が低迷する中、産業・企業・職能 (職業) 研究を進めていきたい。これは2年生から就職対策をするというよりも、キャリア形成論や産業・企業・職能 (職業) 研究は本格的にやろうとすれば数年は要し、そして就職活動においても、それ以上に社会に出てから有益だからである。学問研究と就職活動との相乗効果を狙う。／**検索キーワード** キャリア形成、社会政策論、産業・企業・職業研究、プレゼンテーション・ディスカッション・ディベート

●**授業の一般目標** 将来、社会に出てから有益な知識と思考力を養うことを一般的な目標とする。キャリア形成ならびに社会政策論の基礎知識を習得し、自ら主体的に関心のある産業・企業・職能 (職業) に関して調べて、論理的な文章展開能力をレポートによって涵養し、さらにプレゼンテーション、ディスカッション、ディベート能力を磨いていきたい。なお、社会政策論を履修すること。専門性を深めるためには、ゼミだけでは不十分で、関連する講義科目によって補強しなければならないからである。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： キャリア形成、社会政策論 (特に年金問題)、特定の産業・企業・職能 (職業) について、幅広く基礎的な知識を身につけ、認識を深めていく。 **思考・判断の観点**： とりわけレポートによる論理的思考能力の涵養、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションによるより実践的なコミュニケーション能力の醸成。 **関心・意欲の観点**： 自ら主体的に関心のある産業・企業・職能を調べ、その知識をゼミ生相互でシェアし合い、専門領域を確保しつつあらゆる産業に関心を抱いて互いに啓発し合えるようにしたい。 **態度の観点**： 人間の記憶力は曖昧である。単に聴いているのではなく、糧となると思われるところはメモを取ること。さらに、積極的に自己アピールをしてもらいたい。 **技能・表現の観点**： プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートでは、論理的展開能力、声の大きさ、身振り手振り、アイコンタクト、表情の豊かさなどに磨きをかけてもらいたい。 **その他の観点**： リーダーシップを発揮すること。

●**授業の計画 (全体)** キャリア形成ならびに社会政策論 (特に年金問題) に関して、テキストを輪読形式で進めていく。レポートは春休み明け、夏休み明け、冬休み明けにそれぞれ提出してもらうが、各自の関心のある産業・企業・職能 (職業) に関して節に分けてまとめる形式としたい。秋のゼミナール大会全国大会は一つの山場なので必ず出席してもらう。

●**成績評価方法 (総合)** 主にレポートとレジュメ・発表による。プレゼン、討論能力も期待するが、成績評価よりも各自の努力に委ねるべきだろう。講義形式とゼミとは自ずと異なる。無断欠席や発表やレポート提出を怠った場合は、落第もありうる。

●**教科書・参考書** 教科書： 大卒ホワイトカラーの人材開発, 小池和男編, 東洋経済新報社, 1991年; 日本の官僚人事システム, 稲継裕昭, 東洋経済新報社, 1996年 / 参考書: マテリアル人事労務管理, 佐藤博樹+藤村博之+八代充史, 有斐閣, 2000年; 日本企業 理論と現実, 上井喜彦・野村正實, ミネルヴァ書房, 2000年; 上記以外は適宜指示する。

●**メッセージ** 現場第一主義 何はともあれ、明るく楽しくやってみましょう。

●**連絡先・オフィスアワー** tel: 083 - 933 - 5521. Eメール・アドレス: hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	野村淳一				

●**授業の概要** 演習の最終目的は、各自が自分の研究テーマを決め、卒業論文を完成させることです。卒業論文は経済理論と統計学（計量経済学）を用いることを必要とします。演習 I ではブランチャールの教科書を中心にマクロ経済学を勉強します。同時に教科書で修得した経済モデルを現実のマクロ経済データを用いて検証します。また、平行して各自の興味のある社会・経済問題について調査し、報告をしてもらいます。そうした作業を通して、2 年次終了までに自分の研究するテーマを選びます。

●**授業の一般目標** ・現実の社会・経済問題について、モデルを構築し、検証・考察ができるようになる。 ・実際のデータのもつ特徴・問題点を理解し、計量分析を適切に利用できるようになる。

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：標準的なマクロ経済理論を理解できている。基本的な統計学の手法を修得している。 **思考・判断の観点**：現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。 **関心・意欲の観点**：現実の経済・社会問題に関心を持ち、その背景を統計資料に基づいて整理できる。 **態度の観点**：事前の準備を十分に行い、他者の発表に対しても真摯に議論できる。 **技能・表現の観点**：発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。

●**授業の計画（全体）** 演習 I ではブランチャールの教科書を中心にマクロ経済学を勉強します。同時に教科書で修得した経済モデルを現実のマクロ経済データを用いて検証します。また、平行して各自の興味のある社会・経済問題について調査し、報告をしてもらいます。そうした作業を通して、2 年次終了までに自分の研究するテーマを選びます。将来の進路を念頭に選んでいくのが適切かと思います。このような研究の性格上、パソコンの知識も必須です。各自でパソコンを購入することを強く推奨します。卒業論文作成前に、経済数学 I、ミクロ経済学 I、II とマクロ経済学 I、II、経済統計学、計量経済学 I、II の単位を取得することを期待します。一見非常に多くを学習するようですが、これらは互いに関連しており、ステップを省略しなければ、基本的な範囲の内容については、無理なく修得することが可能です。希望者ために、サブゼミとして経済数学とミクロ経済学の輪読をする予定です。初歩から積み上げていきますので、気軽な気持ちで臨んで下さい。

●**成績評価方法（総合）** 授業における態度（発表、質問等）と参加意欲により判定する（評価割合 100 %）。

●**教科書・参考書** 教科書：マクロ経済学（上）（下）、ブランチャール、東洋経済、1999 年 / 参考書：ミクロ経済学、武隈慎一、新世社、1999 年

●**メッセージ** 私が指導できる範囲で考えると、経済学部を卒業した学生の武器は、数学を用いて論理的に社会事象を考察することができることだと思います。数学が苦手でもこの機会に少しでも自分のモノにしておこうという意欲を持った学生を希望します。私自身も数学が得意とは言えませんが、初歩の初歩から指導しますので、恐れず立ち向かって下さい。

●**連絡先・オフィスアワー** nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 2 回、1 時間 30 分程度設ける（講義中に指示）

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	李海峰				

●**授業の概要** 中国経済と日本および他のアジア諸国経済との関連を中心に分析し、将来を展望する。／**検索キーワード** 中国社会経済と日本、東アジア社会経済、国際化、

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 計画経済から市場経済への転換
- 第 2 回 項目 中国経済の発展と東アジアの社会経済
- 第 3 回 項目 中国と ASEAN
- 第 4 回 項目 中国と香港・台湾
- 第 5 回 項目 中国の情報技術産業の育成
- 第 6 回 項目 中国の自動車産業
- 第 7 回 項目 社会主義市場経済と国有企業の改革
- 第 8 回 項目 中国の金融システムの変革と現状
- 第 9 回 項目 中国の株式市場
- 第 10 回 項目 世界市場環境と中国
- 第 11 回 項目 欧米、日本企業の中国への進出、競争
- 第 12 回 項目 消費生活から見た中国の社会経済変化
- 第 13 回 項目 地域的、階層的格差の拡大
- 第 14 回 項目 開発と環境汚染
- 第 15 回 項目 社会経済についての調査を考える

●**メッセージ** 充実しておもしろい知的な道を探求しましょう、



開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	中村 美紀子				

- 授業の概要** 本演習は、商法とくに会社法および手形法・小切手法を扱います。それらの基礎的知識を理解し、演習終了時には自らのテーマをもってもらいたいと考えます。その際履修生の自主性を尊重します。
- 授業の一般目標** 会社法および手形法・小切手法の論点、関連する判例、時事的な問題を題材に、報告者の報告および出席者全員での議論をとおして、プレゼンテーションやディベートの素養を身に付けてもらいたいと思います。ゼミはゼミ生によって作り上げるものと捉えてもらいたいと思います。
- 授業の計画 (全体)** 演習開始時に履修生と相談して決めたいと思います。
- 成績評価方法 (総合)** ゼミ生一人一人が自主性をもって積極的にゼミの運営に関わっていけば、個々人が成長するだけでなくゼミ全体の向上に貢献することになると考えます。したがって、本演習では個々のゼミ生のゼミへの貢献度を重視し、(1) 毎回のゼミへの参加度、(2) 教官による発表に対する評価、(3) 出席 (8割以上出席が単位認定要件)、(4) ゼミ生による発表に対する評価、(5) ゼミ生によるゼミ全体に対する評価、の5項目をそれぞれ20%の評価割合で最終評価とします。
- 教科書・参考書** 教科書： 演習開始時に履修生と相談して決めたいと思います。／ 参考書： 演習開始時に履修生と相談して決めたいと思います。
- メッセージ** 演習において欠席が避けられない場合は事前に連絡することをルールとします。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室:経済学部C棟2 F、オフィスアワー前期火曜日 10:20—11:50、後期火曜日 12:50—14:20。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	諸岡健一				

- 授業の概要** メインの分野は法人課税ですが、どのような授業の進め方をするか、どのような分野の勉強をしていくかは、学生の意欲と能力しだいです。このため、単に授業に出て、教えてもらうことを期待している方には、不向きで苦痛な演習となります。授業では、できるだけ最新の素材とデータ、裁判例などを使用しますので、自宅やアパートが ADSL の環境にあることが必要です。また、日商簿記 2 級以上の能力が、いずれ求められます。
- 授業の一般目標** 企業人として必要とされる、日本の法人課税システム全般に対する理解と、実践的な法的判断能力、実行力の醸成を目標とします。
- 授業の計画 (全体)** 前期は、「税法総論」の補完的授業を中心に行い、税法の概論的な理解に勤めます。後期は、法人税法を中心に授業を進めます。判例や国税不服審判所の裁決例を多用して、法人税法の根幹となる部分について、具体的で踏み込んだ授業を行います。
- 成績評価方法 (総合)** ゼミへの参加状況、プレゼンテーション能力やレポートの内容等を総合的に評価します。
- 教科書・参考書** 教科書：平成 16 年度版法人税法（平成 16 年 7 月出版予定）、渡辺淑夫、中央経済社、2004 年；下記の教科書は後期の授業で使用します。前期の授業で使う教科書は、「税法総論」と同じです。／参考書：国税庁や政府税制調査会のホームページからの資料を多用します。
- メッセージ** このゼミは、実践的で先進的な税法や税の実務の姿を教えるため、税務行政や立法などの分野で指導的立場にある、国税庁の課長クラスの幹部職員が、2～3 年交代で山口大学経済学部に出向し、授業を行っていくものです。受講生は、前期に「税法総論」も、あわせて受講していただきます。演習 I の前半は、この授業の補完的な内容になります。事前に、行政法や会計学の一定水準の理解が必要となります。後期は、担当教官が交代する予定です。
- 連絡先・オフィスアワー** morooka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	山田正雄				

●**授業の概要** 経済理論に関する研究

●**授業の一般目標** ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的な分析方法を学ぶ。

●**授業の計画 (全体)** 基本的文献の輪読を通して経済学の分析方法を学び、その後各自が興味あるテーマを選択し、それに関して経済学的分析を行う。

●**教科書・参考書** 教科書：ゼミ生と相談の上で決める。

●**メッセージ** ゼミは学生の主導で進めていくものだと思っているので、積極的に参加できる学生を望みます。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	植村高久				

- 授業の概要** テーマ：現代日本の経済と社会 ゼミの目標は、この現代の日本の社会経済の特質を学び、多面的な関心を持てるようにすることである。1) 大学生活に主体的に取り組んでゆける「テーマ」(何でも良い)を各自が見つけ、それに全力投入できるようにして、アクティブな大学生活を送るよう支援する。2) 学習の面では、関心のあるテーマを自分で選び、継続して観察しつづけるようになることが重要である。／**検索キーワード** 日本経済、不況、グローバル化
- 授業の一般目標** 日本経済だけでなく、現在の日本で生起している諸問題に対し、積極的に関心を持ち、問題を理解し、解決策を模索することができる。
- 授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：(知識・理解の水準)日本経済新聞を読める。経済・社会の様々な問題について一般的な了解ができる。**思考・判断の観点**：経済学的な思考法、社会科学の思考法を駆使できる。**関心・意欲の観点**：様々な事件や問題を自ら積極的に理解・解明しようとする。一つのテーマを継続的に追跡できる。**態度の観点**：自力で考える習慣が身に付く。
- 授業の計画 (全体)** 1) 1年間を通して1) テキストによる基礎知識の習得に努める。2) 前期は「テーマプレゼンテーション」を中心とする。も行う。3) 後期は、グループ分けを行い、テーマを割り振って、グループ学習と報告を行ってもらう。
- 教科書・参考書** 教科書：別途指示する。
- メッセージ** 1) モットーは「能力は求めないが、努力は求める」である。最初は難しいが、そのうち面白みが分かってくる。そこまで「努力」できる人を求める。2) 自分でテーマを持って大学時代を過ごしたい人(まだテーマが見つからない人も含めて)向けである。3) 相談等には出来る限り応じるから、気軽に研究室に来て欲しい。
- 連絡先・オフィスアワー** Phone:083-933-5593 e-mail;uemura@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワーは掲示してあるが、常時来室可。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	柏木芳美				

●**授業の概要** パソコンと数式処理システム Mathematica を用いて経済学の基礎であるマイクロ経済学, マクロ経済学を勉強する。本来マイクロ経済学, マクロ経済学では数式がかなり出てくる。その数式を取り扱うのに数式処理システム Mathematica を使い, グラフなどを書かせて目で見て理解の助けとする。学部の講義とは異なった趣のマイクロ経済学, マクロ経済学の勉強の仕方である。また, LaTeX という数式が多い原稿を書くのに適したソフトウェアを身につけてもらい, 各学期の最後にその学期のまとめを LaTeX を用いて作成してもらおう。最終的には卒論を LaTeX で作成する。ゼミは, テキストの内容をレポーターが説明し, プログラムを全員で実行するするという形式ですすめる。メディア基盤センターのパソコンを使うのでパソコンを持っていない人でも受講には問題はない。

●**授業の一般目標** 数式処理システム Mathematica の助けを借りて経済現象を理解すること。また, 自分で理解し, その内容を人に話す (プレゼンテーション) の訓練も重要な目標である。

●**授業の計画 (全体)** 通常の授業とは異なり, 各人が順番でレポーターとなって話が進む。レポーターのときは, まず前回の復習をし, その日の全体的な話の概略を説明し, 次にテキストの個々の内容の説明をしながら全員でパソコンへの入力を行なう。テキストにはない自分で試したもの (テキストの例を少し変えたものなど) があると非常によい。全員がうまく入力できているかよく確認すること。発表の最後にまとめを行い質問または評価を受ける。レポーターでない人は, レポーターの指示に従い作業をし, 最後に質問またはレポーターの評価をする。

●**成績評価方法 (総合)** 態度 20 %未満, 発表 60 ~ 80 %, 出席 20 ~ 40 %

●**教科書・参考書** 教科書: はじめよう経済学のための Mathematica, 浅利一郎他, 日本評論社, 1997 年; 教科書は品切れなのでこちらで対応する。

●**メッセージ** 遅刻欠席をしないように心懸けること。無断欠席には厳しく対処する。楽しくやりましょう。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail:kashi@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp, 電話:933-5595, 研究室:C213。オフィスアワーは授業開始時点に伝える。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	柳澤旭				

●**授業の概要** 日々の新聞記事の法律関係記事をみてその内容が理解できるようにする。

●**授業の一般目標** 新聞記事の法律関係記事がどのような法律に関わり、どのような問題があるのか理解する。

●**授業の計画 (全体)** 新聞記事の法律関係に記事を見て、法律的出来事を六法に照らして理解できるようにする。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** 法律記事の見方 **内容** 実際の法律関係記事が理解できること **授業外指示** 新聞記事を読みスクラップする

第 2 回 **項目** 憲法関係 **内容** 以下、同様 **授業外指示** 以下、同様

第 3 回 **項目** 憲法関係

第 4 回 **項目** 民法関係

第 5 回 **項目** 民法関係

第 6 回 **項目** 民法関係

第 7 回 **項目** 刑法関係

第 8 回 **項目** 刑法関係

第 9 回 **項目** 労働法関係

第 10 回 **項目** 労働法関係

第 11 回 **項目** 社会保障法関係

第 12 回 **項目** 社会保障法関係

第 13 回 **項目** 行政法関係

第 14 回 **項目** 訴訟法関係

第 15 回 **項目** まとめ

●**成績評価方法 (総合)** 日頃の学習における報告、討論をなによりも重視し、レポート等の表現力をみる。

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	有田謙司				

●**授業の概要** 前期は、テキストに基づきながら、毎回、報告者がレポートを行い、その内容について議論をし、理解を深める。後期は、前期で修得した基礎的知識を深めるために、具体的な裁判例や実務の動きについて、報告者がレポートを行い、その内容について議論する。また、前期、後期いずれにおいても、何回かは、労働法や社会保障法に関連する本（新書くらいのもの）を読んでもらって、全員にレポートしてもらい、議論することも行う。／**検索キーワード** 労働法、社会保障法。

●**授業の一般目標** 労働法および社会保障法の基本的な知識と考え方の習得。

●**教科書・参考書** 教科書：開講時に指示する。／参考書：開講時に指示する。

●**メッセージ** 3年生になる頃には、労働法あるいは社会保障法の中でこれは自分のテーマだというものが見つかるようになってもらいたい。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室に在室時に随時。メールか電話で事前に連絡すること。内線番号 5 5 5  
1 arita@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	中尾訓生				

●**授業の概要** 大学での勉強を集大成するものとしてゼミを位置づける。したがって参加者の自由意志を尊重し、彼らの興味あるところを勉強してもらう。ゼミのテーマは生態系破壊の問題と広告である。前者では市場経済と関連づけて勉強する。後者では 販売戦略の一環として、あるいは文化論、記号論、として勉強する。ゼミのモットーは坂本龍馬を評した大きく打てば大きく響き、小さく打てば小さく響く、である。

●**授業の一般目標** 現実問題に密着した授業に心がける。

●**教科書・参考書** 教科書：地球環境 2002-03, 佐藤太英, エネルギーフォーラム, 2002 年 / 参考書：雑誌・宣伝会議・月刊, ; 広告白書平成 14 年版, 日経広告研究所, 日本経済新聞社, 2002 年 ; 雑誌・宣伝会議, ,



## 演習 II

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	成富敬				

- 授業の概要** 演習 I に引き続き、各自が興味を持つテーマについて、基礎的な知識を習得するとともに、関連する文献の紹介や研究内容の発表をおこなってまいります。
- 授業の一般目標** 各自が興味を持つテーマについて聞き手にわかるように説明できる。他の人の話を理解し、適切な質問ができる。
- 成績評価方法 (総合)** 発表 (70 %) と出席 (30 %) で評価する。
- メッセージ** いろいろなことを知っている“頭のいい人”よりは、粘り強く考えられる“頭の強い人”を目指し、じっくり考えてください。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	田淵太一				

- 授業の概要** 2年次で身につけたディベート（討論）能力・読書能力・調査能力をもとに、今年度は中国元に焦点を絞り、さらなる専門的知識・能力の養成を行います。
- 授業の一般目標** 専門的知識の習得とならんで、ディベート（討論）と読書能力・調査能力の養成に集中します。
- 授業の計画（全体）** 5月いっぱいをめどに教科書を読了し、以後は中国元にかんする調査を3名ずつのグループに分かれて行います。このゼミでは、グループで調査したり考えたりした内容を報告してもらい、それにもとづいて討論を行うことに主眼を置きます。12月には京都大学との討論会を予定しています。
- 成績評価方法（総合）** 報告・討論等、ゼミナールにおける日常的な活動により評価します。授業への参加度50％、受講者の発表50％。
- 教科書・参考書** 教科書：グローバリゼーションと発展途上国、吾郷健二、コモンズ、2003年
- メッセージ** 3年生は、ゼミ活動の中心学年です。悔いの残らないように完全燃焼しましょう！
- 連絡先・オフィスアワー** オフィスアワーは前期開始後発表します。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	松浦良行				

- 授業の概要** 昨年度習得した技能をベースとして、財務分析を実際に行います。また、就職活動に向けて実践的な能力の獲得にも注力します。
- 授業の一般目標** 第一に、企業活動を見る目を養い、自分なりに理想的な企業活動を頭に描けることです。第二に、持っている能力を余すところなく他人に披露できる自信を獲得することです。
- 授業の計画 (全体)** 今年は、最初の3ヶ月間財務分析を行い、その後インターンシップのエントリーシート作成などを行います。後半に関しては、プレゼン能力と度胸をつけるトレーニングをして、就職活動時期にあわてないようにしましょう。
- 成績評価方法 (総合)** 出席と発表で評価します。
- 教科書・参考書** 教科書：後日指示します。
- メッセージ** 昨年通りがんばりましょう。
- 連絡先・オフィスアワー** matu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	立山紘毅				

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	吉村弘				

- 授業の概要** 昨年度設定したグループ (A, B) とテーマ (A : 中心商店街の活性化と地域経済―――山口市 を中止に―――, B : 公共交通機関と地域経済―――山口市を中心に―――) に基づいて、昨年度同様に調査・報告を行う。最終的に卒論テーマとして設定するとともに、地域に対して提言を行うことを目指す。また、進路について、今まで同様、一緒に考えましょう。／**検索キーワード** 地域経済、中心商店街、公共交通
- 授業の一般目標** それぞれのテーマについて、実証的に調査学習し、それぞれ報告を行い、互いにディスカッションすることを通じて、地域経済を見る目を養い、地域経済について自分の見解をもつように成長することとともに、併せてゼミ生間の親睦を深めて学生生活を豊かなものとする。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点** : 山口市を中心とする地域経済について、一定の見解をもつことができるように学習する。 **思考・判断の観点** : 提案されている諸方策について、自分の判断によって、評価を行うことができる。 **関心・意欲の観点** : 常に新聞を切り抜き、それを通じて、不断に社会問題を問う姿勢をもつ。 **技能・表現の観点** : インターネット、ワープロ、作表作図の技能を磨いて、液晶プロジェクターを用いて、効果的に説明できる。 **その他の観点** : 一緒に活動することによって、互いの理解を深める。
- 授業の計画 (全体)** 前期は、昨年度の続きとして、報告を繰り返し、9 月末までに、中間報告をまとめる。後期は、中間報告をもとにして、報告書を完成させ、学内ゼミ及び中国四国学生ゼミナール大会において報告する。最終的には、卒論のテーマを設定する。
- 成績評価方法 (総合)** 毎回のゼミ活動によって判断する。特に試験や面接などは行わない。
- メッセージ** ゼミはゼミ生が創り上げていくもの。昨年度と同様に、よくに調査学習して、活発にディスカッションすることを望む。卒業後もつきあえる友達をつくること、また、自分の進路について考えることも大事です。
- 連絡先・オフィスアワー** e-mail : yosimura@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜日 1 : 20 - 11 : 50

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	米谷雅之				

●**授業の概要** 昨年度の演習 I に引き続いて、学習・研究を深めていく。演習 I における基礎的理解 の修得を基礎に、本演習では専門性を一層強め、次年度の卒論研究への橋渡しにしたい。そのために、適切なテキストの輪読とともに、特に後期からは個別研究にも力点を おいて進めていく予定である。後半期の早いうちに個別研究のテーマを決めて、各自で 進めてもらい、卒論研究につないでいく。

●**教科書・参考書** 教科書： 入門証券論, 榊原・城下他, 有斐閣, 2000 年

●**連絡先・オフィスアワー** sirosita@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	河野眞治				

●**授業の概要** 多国籍企業の理論と現実について学ぶ。／**検索キーワード** 多国籍企業

●**授業の一般目標** 最近の直接投資の新しい理論について学び、日本企業の海外子会社について調査する。

●**授業の計画 (全体)** 学生のレポート発表を中心に行う。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** ガイダンス **内容** ゼミの運営方法について説明する。

第 2 回 **項目** 学生レポート発表 **内容** 発表と討論

第 3 回 **項目** 学生レポート発表 **内容** 発表と討論

第 4 回 **項目** 学生レポート発表 **内容** 発表と討論

第 5 回 **項目** 学生レポート発表 **内容** 発表と討論

第 6 回 **項目** 学生レポート発表 **内容** 発表と討論

第 7 回 **項目** 学生レポート発表 **内容** 発表と討論

第 8 回 **項目** 学生レポート発表 **内容** 発表と討論

第 9 回 **項目** 学生レポート発表 **内容** 発表と討論

第 10 回 **項目** 学生レポート発表 **内容** 発表と討論

第 11 回 **項目** 学生レポート発表 **内容** 発表と討論

第 12 回 **項目** 学生レポート発表 **内容** 発表と討論

第 13 回 **項目** 学生レポート発表 **内容** 発表と討論

第 14 回 **項目** 学生レポート発表 **内容** 発表と討論

第 15 回 **項目** 学生レポート発表 **内容** 発表と討論

●**成績評価方法 (総合)** レポートと討論内容で評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：なし／参考書：なし



開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	橋本寛				

- 授業の概要** 演習 I に引き続き、意思決定の基礎理論について論理的観点から考察を行う。
- 授業の一般目標** 意思決定に関する基礎知識を学ぶ。
- 授業の計画 (全体)** 意思決定の論理的基礎について以下のテキストを読みながら検討を行っていく。
- 成績評価方法 (総合)** 出席、報告、レポートによる。
- 教科書・参考書** 教科書：「きめ方」の論理、佐伯著、東大出版会、1980 年
- 連絡先・オフィスアワー** 経済学部 A227、オフィスアワーを設ける予定

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	野村淳一				

●**授業の概要** 演習の最終目的は、各自が自分の研究テーマを決め、卒業論文を完成させることです。卒業論文は経済理論と統計学（計量経済学）を用いることを必要とします。演習 II では、引き続きブランシャールの教科書を中心にマクロ経済学を勉強します。同時に演習 I の終わりに選んだテーマについて、(1) 先行研究のサーベイ、(2) 関連データの収集、(3) 分析手法（理論、統計、ソフトウェア）の修得、を行い、適宜進行状況について報告をしてもらいます。そうした作業を通して、3 年次終了までに卒業論文に必要な準備を全て終えます。

●**授業の一般目標** ・現実の社会・経済問題について、モデルを構築し、検証・考察ができるようになる。 ・実際のデータのもつ特徴・問題点を理解し、計量分析を適切に利用できるようになる。

●**授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：標準的なマクロ経済理論を理解できている。基本的な統計学の手法を修得している。自分のテーマに関する先行研究、統計データ、分析手法を理解できている。 **思考・判断の観点**：現実の経済現象を理論的に考察し、政策や外的ショックの効果を判断できる。 **関心・意欲の観点**：現実の経済・社会問題に関心を持ち、その背景を統計資料に基づいて整理できる。 **態度の観点**：事前の準備を十分に行い、他者の発表に対しても真摯に議論できる。 **技能・表現の観点**：発表資料を効果的に作成し、明快な発表ができる。統計データを正しく処理し、形式的にも十分に整った報告書・論文が作成できる。

●**授業の計画（全体）** 演習 II では、引き続きブランシャールの教科書を中心にマクロ経済学を勉強する。教科書の下巻からは、より複雑で包括的なモデルが展開されており、経済学の思考方法修得のための良い訓練となると考えられる。また、こうしたモデルを用いることによって、現実の経済問題への理解がより深まり、その解決策について考察することが可能となる。演習 II では、知識として得られた経済モデルを現実の経済問題へ適用し、その解決策について議論を深める。その際、出来るだけ現実の経済データに基づいた客観的で定量的な分析を心がける。また、演習 I の終わりに選んだテーマについて、(1) 先行研究のサーベイ、(2) 関連データの収集、(3) 分析手法（理論、統計、ソフトウェア）の修得、を行い、適宜進行状況について報告をしてもらい、3 年次終了までに卒業論文に必要な準備を全て終える。

●**成績評価方法（総合）** 授業における態度（発表、質問等）と参加意欲により判定する（評価割合 100 %）。

●**教科書・参考書** 教科書：マクロ経済学（上）（下）、ブランシャール、東洋経済、1999 年

●**メッセージ** 数学を用いた厳密な論理構成は慣れないうちはかえって分かり難いという印象を持つと思いますが、前提条件や仮定を明示し、分析の限界を明らかにしながら論理を展開するという技能は、あらゆる分野で有効なものだと思います。自分の関心のあるテーマの先行研究を参考に、まずは慣れることから始めましょう。

●**連絡先・オフィスアワー** nomuraj1@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワーは週 2 回、1 時間 30 分程度設ける（講義中に指示）

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	藤原貞雄				

- 授業の概要** メインテーマは、前期は世界経済、後期は日本経済であるが、サブテーマは、自動車産業、WTO、中国、その他に分けて、つっこんだ学習を行う。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	澤 喜司郎				

- 授業の概要** 文献調査と現地調査等を精力的に行い、データの収集と分析に基づいて、その成果を報告する。
- 授業の一般目標** データの分析能力を高め、同時に成果の報告に際してはパワーポイント等を使用して、プレゼンテーション能力の向上を図る。
- 授業の計画 (全体)** 各自が設定したテーマについての研究成果の報告と討議を行う。
- 成績評価方法 (総合)** 研究報告 70 %、出席 30 %

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	中田範夫				

●**授業の概要** 演習 II の受講対象者、3 年生で、経営学の基礎知識を理解している。そこで、個別問題について、発展的に学習し、各自の分担報告と意見交換を重視し、個別問題についての深い理解を目指したい。

授業の目標

演習 II は、専門教育の中間レベルと上級レベルの学習を目標にしている。／**検索キーワード** 最近の個別経営問題について、関心を持つこと

●**授業の一般目標** 演習 II の前期は、国際経営の理論を取上げる。演習 II の後期では、社内分社制、ナレッジ管理、組織ネットワークを取り上げる。

基本資料を用意し、各自に報告を義務付け、意見交換を求める。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：個別問題について、基本的理解と論点をプレゼンテーションできる。**思考・判断の観点**：個別問題について、アイデアを提案できる。**態度の観点**：演習 II は、全出席を前提とし、意見を表明できる。

●**授業の計画 (全体)** 経営学の個別問題を取上げ、問題の正当な理解の仕方と議論の展開を身に付けるように、指導する。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第 1 回	項目	国際経営の展開	内容	バーノン基礎理論の理解
第 2 回	項目	国際経営の問題	内容	バーノン基礎理論の理解
第 3 回	項目	国際経営の展開	内容	ダニング基礎理論の理解
第 4 回	項目	国際経営の問題	内容	ダニング基礎理論の理解
第 5 回	項目	国際経営の展開	内容	ポーター基礎理論の理解
第 6 回	項目	国際経営の展開	内容	ポーター基礎理論の理解
第 7 回	項目	国際経営の展開	内容	ポーター基礎理論の理解
第 8 回	項目	国際経営の問題	内容	ポーター基礎理論の理解
第 9 回	項目	日本の国際経営の展開	内容	生産活動について
第 10 回	項目	日本の国際経営の展開	内容	人事活動について
第 11 回	項目	日本の国際経営の問題	内容	販売活動について
第 12 回	項目	日本の国内経営の展開	内容	社内分社制について
第 13 回	項目	日本の国内経営の展開	内容	社内分社制について
第 14 回	項目	日本の国内経営の展開	内容	ナレッジ管理について
第 15 回	項目	日本の国内経営の問題	内容	ナレッジ管理について

●**成績評価方法 (総合)** 演習 II は、個別問題についての、知識・理解、思考・判断、態度の 3 点を重視し、評価をする。

●**教科書・参考書** 教科書：企業の競争優位 (高価なので非購入) , , / 参考書：その都度、紹介する。 , ,

●**メッセージ** 出席は、100 パーセントであること。

●**連絡先・オフィスアワー** 電話 5542、研究室長谷川、オフィスアワー水曜日

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	仲間 瑞樹				

●**授業の概要** 卒論作成に向けた発表、質疑応答を繰り返し、卒論の骨格を作成すること。／**検索キーワード** 資料作成・表現技法

●**授業の一般目標** わかりやすい発表、説明、質疑応答をおこなうこと。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：経済学に対する十分な知識の有無。経済、社会問題を自身の問題として把握していること。**技能・表現の観点**：わかりやすい発表、説明であること。

●**授業の計画 (全体)** 1回の講義内で2人の人から、各自の関心あるテーマを発表してもらう(以下ではこの発表を卒論発表と呼ぶ)。その後で質疑応答を行う。後期のスケジュールも含め、詳細は演習 II で説明する。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 2年の後期でやり残した発表。

第 2 回 項目 卒論発表・質疑応答

第 3 回 項目 卒論発表・質疑応答

第 4 回 項目 卒論発表・質疑応答

第 5 回 項目 文章・資料の添削・指導

第 6 回 項目 卒論発表・質疑応答

第 7 回 項目 卒論発表・質疑応答

第 8 回 項目 卒論発表・質疑応答

第 9 回 項目 文章・資料の添削・指導

第 10 回 項目 卒論発表・質疑応答

第 11 回 項目 卒論発表・質疑応答

第 12 回 項目 文章添削・指導

第 13 回 項目 文章添削・指導

第 14 回 項目 卒論発表・質疑応答

第 15 回 項目 予備日

●**成績評価方法 (総合)** 文章・資料作成、質疑応答の度合い、前期末と後期末の2回のショートペーパーから評価。今年度は単に参加しているだけでは、「優」評価を出しませんので、注意して下さい。つまりアウトプットの出来具合によって、評価はばらばらです。文章、資料作成、質疑応答などを50%、ショートペーパーの出来具合を50%で評価します。

●**メッセージ** 演習 2 はかなりハードです。自身の興味ある問題を早く見つけ、それを他者に伝える技術を身につけて下さい。社会人として必要なスキルを身につけられるよう、私もしっかり指導します。やる気と根気が重要です。

●**連絡先・オフィスアワー** 文章やテーマ設定などでお困りの場合、メールを下さい。時間を調整し、個別に指導します。mnnakama@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	古川澄明				

●**授業の概要** 授業の概要 研究内容・方法 (1) フグ・ビジネスの調査 現在、ゼミ2年、3年生の先輩が下関唐戸魚市場(株)や、萩、徳山の養殖業者のヒアリング調査に取り組んでいますが、そうした調査活動に取り組んでみたい方 (a) 中国沿海地域のふぐ養殖業の実態調査 (今、中国産フグが下関養殖フグ取扱高の3割) (b) フグ漁従事者の激減と業界の国際的構造変化 — 輸入フグの増大化傾向 (c) フグ・ビジネスの国際化とアジア — 香港、上海のフグ料理店 (d) 養殖フグの急増と産地間競争 — 相場リーダーとしての下関の挑戦 (e) 韓国でのフグ・ビジネスの実態 — フグを食べているのか? (f) 食生活の変化とフグ・ビジネス — 養殖魚で育った世代の味覚が示すものは、何か (2) 山口の酒蔵の調査 現在、ゼミ2年、3年生の先輩が県内の酒蔵メーカーの個別企業調査を行っていますが、まだまだ、残っています。日本人と酒と社会生活の変化について関心があり、調査活動に取り組んでみたい方。(a) 山口県内の酒蔵メーカーを訪ねる (現在、五橋、男山、和可娘の3社を調査中) (b) 山口の「杜氏」を訪ねて、歴史を聞く ゼミ運営方法: 3年生までは、チームで調査研究。4年生で卒業論文を作成。論文は自費製本し、「1冊の本(作品)」にする。自主的に、私的に会社を訪問すること(fieldwork)を厭わない人。調査研究の成果は、報告集にまとめる。授業の目標 演習テーマ: 経済のグローバル化とローカル・ビジネスの挑戦 演習の目標: ローカルビジネスの調査研究と取り組むことで、調査研究に必要な経済学や経営学の知識を自主的に積極的に学び、また同時に、そうした知識を調査研究に応用する。そうした調査研究活動を通じて、実践的に、経営学の知識を身に付けることにある。／**検索キーワード** 自分に投資し、自分の能力を開発し、自分を育てよう。

●**授業の一般目標** (1) 卒業論文作成に向けて、調査研究のテーマ設定、問題の分析の仕方、プレゼンテーションでの説得力などを身に付ける。(2) 企業調査を通じて、社会人としての自覚をもって、経営の現場やビジネスの動態を捉える独自の分析視角を開発する。(3) 大学卒業後に企業人、あるいは公務員として活躍することを意識して、ゼミ活動に取り組む。

●**授業の計画(全体)** 前期: 上記テーマに関する業界について、広く基礎知識を得る。同時に、業界を捉える経営学の基礎知識を学ぶ。後期: 現実のビジネスの世界に足を運び、インタビューを実施し、業界の方々から実際の経営の実状を学び、それを経営学の知識習得にフィードバックさせる。積極的に経営学的知識を身に付けるために、報告書を作成する。

●**成績評価方法(総合)** ゼミテーマへの取り組み、積極性、協調性、議論への積極的参加などを総合的に判断して、評価する。

●**メッセージ** ゼミ活動を通じて、積極性、協調性、組織統率能力、報告書作成能力、自己管理能力、プレゼンテーション能力を養おう。

●**連絡先・オフィスアワー** 各自、随時に連絡・相談可。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	柏木芳美				

●**授業の概要** 演習 I に引き続き、数式処理システム Mathematica を使いマイクロ経済学、マクロ経済学を理解し、LaTeX を用いて各学期のまとめを作成する。

●**授業の一般目標** 数式処理システム Mathematica の助けを借りて経済現象を理解すること。また、自分で理解し、その内容を人に話す (プレゼンテーション) の訓練も重要な目標である。

●**授業の計画 (全体)** 通常の授業とは異なり、各人が順番でレポーターとなって話が進む。レポーターのときは、まず前回の復習をし、全体的な話の概略を説明し、次にテキストの個々の内容の説明をしながら全員でパソコンへの入力を行なう。テキストにはない自分で試したもの (テキストの例を少し変えたものなど) があると非常によい。全員がうまく入力できているかよく確認すること。発表の最後にまとめを行い質問または評価を受ける。レポーターでない人は、レポーターの指示に従い作業をし、最後に質問またはレポーターの評価をする。

●**教科書・参考書** 教科書：はじめよう経済学のための Mathematica, 浅利一郎他, 日本評論社, 1997 年

●**メッセージ** 遅刻欠席をしないように。また、後輩に恥ずかしくないように心懸けること。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail:kashi@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp, 電話:933-5595, 研究室:C213。オフィスアワーは授業開始時点に伝える。



開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	石田成則				

- 授業の概要 演習 1 に同じ
- 授業の一般目標 演習 1 に同じ
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 演習 1 に同じ 思考・判断の観点： 演習 1 に同じ 関心・意欲の観点： 演習 1 に同じ
- 授業の計画 (全体) 演習 1 に同じ
- 成績評価方法 (総合) 演習 1 に同じ
- メッセージ 欠席する際には、必ず事前にその旨を連絡すること。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	陳建平				

- 授業の概要** 中国の社会主義市場経済をめぐる諸問題についての検討／**検索キーワード** 中国、中国経済
- 授業の一般目標** 中国経済に関する知識を深め、それぞれ卒論につながるテーマを見つける。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 中国及び中国経済の歴史や現状についてより深く理解し、正しく説明することができる。 **思考・判断の観点**： より広い視野で中国及び中国経済を捉えることができる  
**関心・意欲の観点**： 卒論に発展できるような、関心のあるテーマを見つけ、関連する資料を収集することができる。
- 授業の計画 (全体)** 上記テーマに関連して、テキストを輪読し、中国経済のさまざまな側面に関する知識を習得する。その上で、各自それぞれ関心のあるサブテーマを一つ選び、それについての識見を深め、卒論につなげるようにする。報告とディベートを通じて、柔軟な思考法と対応力を習得できるよう努める。
- 成績評価方法 (総合)** 宿題／授業外レポート = 30 % 未満 授業態度や授業への参加度 = 3 % 受講者の発表 (プレゼン) や授業内での製作作業 (作品) = 40 % 出席 = 欠格条件
- 教科書・参考書** 教科書： 中国経済発展論, 中兼和津次, 有斐閣, 1999 年
- メッセージ** 無断欠席 3 回に達すると、不合格になるので注意すること。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	マルク・レール				

●**授業の概要** 1. 演習 I に引き続き、ドキュメンタリー・ビデオのを製作する。 2. 研究発表／検索キーワード マスメディア、ビデオ

●**授業の一般目標** 1. メディアの送り手側を分析する。 2. 研究発表によって、研究分野に関する理解度を明らかにする。

●**授業の到達目標／知識・理解の観点**： 1. メディアの送り手の作業を理解する。 2. 研究発表の方法を理解する。 **思考・判断の観点**： 1. メディアの送り手として、作品に関する判断力を深める。 2. 自分の研究を深めることについて判断する。 **関心・意欲の観点**： メディアに対する関心を深めて、日ごろ、もっと積極的にその実態を探る。 **態度の観点**： メディアをもっと効率的に利用する。

●**授業の計画 (全体)** 毎回、ビデオ制作の打ち合わせと研究発表が行われる。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 研究計画と研究発表について
- 第 2 回 項目 1. ビデオ制作 2. 研究発表
- 第 3 回 項目 1. ビデオ制作 2. 研究発表
- 第 4 回 項目 1. ビデオ制作 2. 研究発表
- 第 5 回 項目 1. ビデオ制作 2. 研究発表
- 第 6 回 項目 1. ビデオ制作 2. 研究発表
- 第 7 回 項目 1. ビデオ制作 2. 研究発表
- 第 8 回 項目 1. ビデオ制作 2. 研究発表
- 第 9 回 項目 1. ビデオ制作 2. 研究発表
- 第 10 回 項目 1. ビデオ制作 2. 研究発表
- 第 11 回 項目 1. ビデオ制作 2. 研究発表
- 第 12 回 項目 1. ビデオ制作 2. 研究発表
- 第 13 回 項目 1. ビデオ制作 2. 研究発表
- 第 14 回 項目 1. ビデオ制作 2. 研究発表
- 第 15 回 項目 総括

●**成績評価方法 (総合)** 授業参加 (50 %) と期末レポート (50 %)

●**メッセージ** 今年度は e-learning を積極的に導入する予定である。

●**連絡先・オフィスアワー** loehr@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	兵藤隆				

●**授業の概要** わが国の金融システムの今後について／**検索キーワード** 金融、ゼミ、演習、プレゼンテーション、ディベート

●**授業の一般目標** 演習の総仕上げとして、より一層のプレゼンテーション能力、およびディベート能力を高めることを目標とする。また、経済事象について、より理論的な考察ができるようにする。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 金融システムの現状把握
- 第 3 回 項目 わが国の金融システムの問題点を探る
- 第 4 回 項目 変わり行く金融システムの将来展望
- 第 5 回 項目 基礎金融理論の理解
- 第 6 回 項目 基礎貨幣理論の理解
- 第 7 回 項目 グローバルな視点からみた金融システム
- 第 8 回 項目 世界各国の金融システムの特徴
- 第 9 回 項目 討論大会参加のためのテーマ設定
- 第 10 回 項目 討論大会参加のための論文作成
- 第 11 回 項目 論文作成のための資料収集方法の取得
- 第 12 回 項目 論文作成のための意見の集約
- 第 13 回 項目 ディベートの訓練
- 第 14 回 項目 ディベートの実践
- 第 15 回 項目 その他

●**メッセージ** ゼミに関する詳しい活動内容は当ゼミのホームページ (<http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~thyodo>) を参照のこと。できるだけ、受動的に「教わる」のではなく、自ら「学ぶ」意欲のある学生の参加を望む。

●**連絡先・オフィスアワー** thyodo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	寺地伸二				

- 授業の概要 テキストの発表と研究発表
- 授業の一般目標 上手に研究発表ができるようになる。
- 授業の計画 (全体) グループでの発表を中心にしながら進めていく。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	木部和昭				

●**授業の概要** 演習 I に引き続き、近代日本経済史を学ぶ。具体的には「企業・人物から見た日本経済史」、  
「地域経済の歴史」を中心に扱う。また、演習 I では不十分であった当時の一次史料の分析も並行して進める。こうした取り組みの中から、次年度の卒業論文作成に向けて、自分なりの課題を見出していく。／**検索キーワード** 日本経済史、日本史、近代史

●**授業の一般目標** (1) 明治以降、終戦までの日本経済史について、その基礎知識や、経済史研究の理論、実証分析の手法を習得する事を目指す。(2) 身近な地域や興味ある企業・産業・人物などを取り上げ、その歴史を自分たちの手で解明し分析する能力を身につける。(3) 史資料を用いた歴史の実証が行えるようになる。(4) 卒業論文に向けた自分なりの課題を見出す。

●**授業の計画 (全体)** (1) 前期は、昨年度に引き続き「企業・人物から見た日本経済史」の報告を中心に進める。(2) 『防長新聞』や山口県関係の近代行政文書を中心に、史料講読を行う。(3) 今年も夏休みには課題を出す。テーマは「地域経済の歴史」で、各自の身近な地域を取り上げ、その経済・産業などの歴史を掘り起こしてもらおう。(4) 後期は、「地域経済の歴史」に関する各自のレポート報告を中心に進める。(5) 4年生に向けて自分の取り組むべき課題を模索する。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 「企業・人物から見た日本経済史」の報告 (前期)
- 第 2 回 項目 『防長新聞』や山口県関係の近代行政文書を中心とした史料講読 (前期)
- 第 3 回 項目 夏休みの課題 (夏期休業中) 内容 テーマ「地域経済の歴史」
- 第 4 回 項目 「地域経済の歴史」に関するレポート報告 (後期)
- 第 5 回 項目 卒業論文テーマの絞り込み (後期)
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

●**成績評価方法 (総合)** 順番に担当してもらった報告、夏休みレポートの内容によって評価する。報告者以外には、報告内容をまとめたノートを提出させるが、これも評価の対象となる。報告 45 %、授業内小レポート 15 %、夏休みレポート 30 %、授業態度 10 % 欠席が多い者は不合格となる。

●**教科書・参考書** 教科書：演習 I で使用したテキストを今後も使用する。それ以外は適宜プリントで配布する。／参考書：テキスト以外の参考文献は適宜紹介する。授業で使用する場合は、コピーを配布する。

●**メッセージ** ・3年の終わりには、就職活動等が忙しくなる。その前に、卒業論文に向けて、自分なりの興味関心を養って欲しい。・きちんと出席しないと単位が出ないで注意。・自分の割り当てられた報告を放棄した場合は、別に数倍の課題を出させるので、一生懸命に取り組むこと。

●**連絡先・オフィスアワー** 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	三間地光宏				

- 授業の概要** 前期は担保物権の基礎を学習する。後期は判例演習（範囲は民法全体）。
- 授業の一般目標** 民法についての理解を深めること。
- 授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：民法についての理解を深めること。 **思考・判断の観点**：判例を読み分析する能力を身につけること。 **関心・意欲の観点**：報告を担当する場合には十分な準備をしておくこと。 **態度の観点**：積極的に発言すること。
- 授業の計画（全体）** 前期は担保物権法の基礎を学習する。後期は判例演習を行う（範囲は民法全体）。
- 教科書・参考書** 教科書：受講者にメールで通知する。 / 参考書：適宜指示する。
- 連絡先・オフィスアワー** メールアドレスは通知済み。オフィスアワーは未定。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	横田伸子				

●**授業の概要** 東アジア経済という枠組みの中で、韓国経済の発展を見ていきます。具体的には次のテーマに絞られます。1. 東アジアの生産ネットワークと韓国経済 2. 韓国における経済発展と所得格差の拡大 3. 韓国における経済構造改革と他の東アジアとの比較／**検索キーワード** 韓国経済、東アジア、生産ネットワーク、所得格差、経済構造改革

●**授業の一般目標** 1. 上のテーマに沿って、多くの学術論文を読み、その内容を正確に理解すること。2. 資料やデータを自分で探し、それを的確に分析すること。3. 自ら分析・考察した結果を、論理的に自己表現する力を身につけること。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 韓国社会経済、東アジア社会経済についての文献を読んで理解することができる。2. 韓国社会経済、東アジア社会経済についての資料を探し、それを実証的に分析できる。**思考・判断の観点**：1. 与えられた課題について論理的に報告できる。2. 他人の報告や・意見を的確に理解し、それに対し自分の意見を論理的に述べる ことができる。**関心・意欲の観点**：1. 授業外においても日常的に韓国社会経済・東アジア社会経済について関心を持ち、資料収集、読書などを心がける。2. 討論に積極的に参加する。**態度の観点**：1. 討論に積極的に参加し、協調的、建設的な議論が行える。2. 授業に毎回かかさず出席する。**技能・表現の観点**：1. 他人にわかりやすく、自分の言葉で論理的に報告・発表ができる。2. 他人にわかりやすく、論理的に自分の意見を述べる ことができる。

●**授業の計画 (全体)** 各人の選択したテーマに沿って読むべきテキストを指示し、課題を与える。毎回その課題に対する報告発表を中心に討論を行う。

●**成績評価方法 (総合)** 1. 各人の課題に沿って報告を行い、その内容の論理的構成力、実証性、表現力、創造性などを総合的に評価する。2. 討論に積極的に参加し、論理的に議論を展開しているかを見る。3. 学期末に4000字程度のレポート提出する。4. 年間を通じて6回以上欠席した場合には単位を与えない。5. 内容別評価方法は、レポート30%、授業への参加度30%、発表40%、出席欠格条件。

●**教科書・参考書** 教科書：野口真・平川均・佐野誠『反グローバリズムの開発経済学』日本評論社、2003年 一橋大学経済研究所経済制度研究センター『アジアのソーシャル・セーフティネット』勁草書房、2003年／参考書：服部民夫編『韓国の工業化 発展の構図』アジア経済研究所、1987年 深川由紀子『韓国・先進国経済論』日本経済新聞社、1997年 座間紘一・藤原貞雄『東アジアの生産ネットワークー自動車・電子機器を中心としてー』ミネルヴァ書房、2003年

●**メッセージ** 本ゼミでは、物事を批判的に見る視角、学生の主体性・自主性を重要視します。演習では、事前の予習と活発な討論を期待します。また、教員と学生の関係はもとより、学生同士の結びつきや刺激のしあいを大切に考えています。授業だけでなく、コンパやソフトボール大会、合宿、インゼミ、ゼミ旅行などに積極的に取り組む意欲のある人を歓迎します。

●**連絡先・オフィスアワー** ゼミナールの学生についてはとくにオフィスアワーは設けません。電話・メール等で連絡を取って、訪ねてきてください。



開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	有村貞則				

●**授業の概要** 日本に進出した外資系企業の戦略、組織、人事制度、業績などについて調べ、日本企業の国際化との比較を通して、その特徴や問題点について検討します。

●**授業の一般目標** 1. 経営の国際化の理論や研究について学習。 2. これらをもとに外資系企業の実態調査。

●**授業の計画 (全体)** 最初に担当する産業・業界を決め (グループで担当)、以降は、各グループで調べた内容や評価を発表していただきます。

●**成績評価方法 (総合)** 出席とグループ発表

●**教科書・参考書** 参考書： 参考資料や論文を適時配布します

●**連絡先・オフィスアワー** arimuras@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	渡邊幹雄				

- 授業の概要** 現代リベラリズムの再検討／**検索キーワード** 政治、権力、自由、平等、平和、参加、自治など。
- 授業の一般目標** リベラリズムについての総合的な理解。
- 授業の計画 (全体)** 主要なテキストを輪読しつつ、報告者にハンドアウトを作成してもらって議論する。
- 成績評価方法 (総合)** 授業への積極的な参加、プレゼンテーション、課題の達成度を考慮して、総合的に評価する。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室：経済学部3階、オフィスアワー：授業終了後

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	鈴木眞澄				

- 授業の概要** 演習 I での学習を基礎として、発展させ、自らが関心を持つテーマを選び出し、当該テーマをめぐる社会状況、法制度、判例、外国との比較等について考察を深める。そこで選び出し、掘り下げて学習したテーマが卒業論文を作成する際の基礎となるように授業を進める。
- 授業の一般目標** テーマの選択方法、文献等の追究方法、発表方法、論文形式の作成方法等について、卒業論文の作成に有効なひとりの技法を身につける。
- 授業の計画 (全体)** 毎週 1 人ずつ、発表形式のプレゼンテーションを行い、出席者全員で討論、検討する。
- 成績評価方法 (総合)** 平常点を原則とする。それには、発表、質問、討論の態度が含まれる。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	油納健一				

●**授業の概要** \*最高裁判決を素材に民法実務を学習する。

●**授業の一般目標** \*最高裁判決を素材に民法実務を学習する。具体的には、つぎの能力を養成することを目的とする。(1) 民法の基礎知識と、法的に考える能力を身につける。(2) 民法学習を通して、問題発見能力・問題分析能力・私見創造能力・プレゼンテーション能力・ディベート能力など、社会人として必要な能力を身につける。以上の(1)・(2)で説明した能力は、司法試験・司法書士試験・公務員試験受験を志す者はもちろんのこと、民間企業を志す者にとっても必要不可欠な能力であることはいうまでもない。

●**授業の計画 (全体)** ゼミで民法の基礎理論のみを学習しても、現実社会ではあまり役に立たないであろう。そこで、当ゼミでは実務重視の視点から民法を学習し、「目標」で述べた当ゼミの目的を達成しようと思う。ただし、全く理論を無視する訳ではない。基礎理論(基礎)を理解することができて初めて、現実問題(応用)に対応することが可能となるからである。具体的には、つぎのような方法でゼミを進める。(1) まず、実際に問題となった事件(最高裁で扱われた事件)を選ぶ。(2) つぎに、その事件で争点となった問題を把握し、この問題を解決するために必要な民法基礎理論を、一般的な教科書等を参照しながら学習する。(3) 最後に、当該事件の事実関係を正確に理解し分析をくわえた上で、当該事件をいかに法的に解決しうるかを、最高裁判決やその判例評釈を検討しながら考える。以上の(2)・(3)の中では、ゼミ生間での議論を要求する。教官からの質問もある。なお、以下の「履修上の注意事項」は必ず参照すること。

●**成績評価方法 (総合)** 宿題/授業外レポート = 20%未満 授業態度や授業への参加度 = 20~40% 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 20~40% 出席 = 欠格条件

●**教科書・参考書** 教科書: 適宜指示する。/ 参考書: 適宜指示する。

●**メッセージ** 出欠や遅刻早退の有無・報告内容・発言内容・関心態度などを総合的に判断して、評価する。3回以上無断で欠席した者には、単位を認定しない。また、学習意欲のない者・他のゼミ生に迷惑をかける者・教官の指示に従わない者にも、単位を認定しない。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail yuno@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	山本光英				

- 授業の概要** 刑法総論および刑法各論の重要問題について、演習 I で学んだことを基礎として、一層深く学習する。日常生活上・社会に生起する事件・事象に関心をもたなければならない。／**検索キーワード** 刑法的知識。論理的思考力。
- 授業の一般目標** 日常生活上・社会に生起する事件・事象を法学的、とくに刑法学的観点から観察し、思考する能力を身につける。論理的思考力を身につける。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 刑法の基礎知識が身に付いているか。 **思考・判断の観点**： 法学的、とくに刑法学的思考力がみにつけているか。 **関心・意欲の観点**： 社会に生起する事件・事象に関心をもっているか。 **態度の観点**： 資料収集・発現など、授業に意欲的に取り組んでいるか。 **技能・表現の観点**： 報告や質疑応答が十分に行なえるか。
- 授業の計画（全体）** 刑法の重要問題を幾つか取り上げ、班ごとにテーマを選び、研究報告し、質疑応答して、理解を深めていく。
- 成績評価方法（総合）** 授業に積極的に・意欲的に参加し、自己の思考内容を表現できるか否か。与えられた課題を責任を持って成就することができるか否か。
- 教科書・参考書** 教科書： ケイスメソッド刑法総論, 船山・清水・中村編, 不磨書房, 2003 年； ケイスメソッド刑法各論, 船山・清水・中村編, 不磨書房, 2003 年； 資料は適宜配布する。／ 参考書： 授業の際、適宜指摘する。
- メッセージ** 積極的に議論に参加し、自分の意見を明確に述べるようにすること。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	諸岡健一				

- 授業の概要** 演習 I では、法人税法をはじめ、日本の租税法全般について重要な事項をテーマとしましたが、後期は演習 I の知識を基礎に、租税争訟法の根幹となる部分を学んでいきます。なお、後期は、担当教官が交代になります。追って指示を待ってください。
- 授業の一般目標** 行政法体系の中の租税法の理解を、具体的に深めていくことを目標とします。前期は租税争訟法について学びます。
- 授業の計画 (全体)** 教科書をベースに、戦後日本の代表的裁判例とその影響などの勉強を行っていきます。
- 成績評価方法 (総合)** ゼミへの出席状況、受講態度、ゼミにおけるプレゼンテーションなどを重視して、総合的に評価します。
- 教科書・参考書** 教科書： 新版租税争訟法, 松沢 智, 中央経済社, 2001 年
- メッセージ** 成績評価は、授業への出席を最も重視します。担当教官が、後期から交代します。
- 連絡先・オフィスアワー** morooka@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	藤田健				

- 授業の概要** マーケティング・流通分野での個人研究を行う。前期は研究方法と研究動向を学びながら、個人の研究テーマ・問いを設定する。後期は個人研究を進める。／**検索キーワード** マーケティング, 流通, 戦略的マーケティング, マーケティング・リサーチ
- 授業の一般目標** 1. マーケティング・流通研究の方法を修得する。2. 卒業論文の作成に向けて研究テーマ・問いを設定し、研究を進める。
- 授業の計画 (全体)** 前期は研究方法論の修得と個別研究のテーマと問いを模索する。後期は前期に設定したテーマに基づいて個別研究を進め、その成果をゼミで報告する。
- 成績評価方法 (総合)** 前期は輪読の報告, 研究関心領域に関する報告およびディスカッションへの参加度で評価する (50%)。後期は個別研究の報告、最終レポートで評価する (50%)。
- 教科書・参考書** 教科書: 『知的複眼思考法』, 荻谷剛彦, 講談社 α 文庫, 2002 年

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	濱島清史				

●**授業の概要** キャリア形成 (人材育成) ならびに社会政策論 (特に年金問題) を中心に進めていく。また それと関連するように、就職内定率が低迷する中、産業・企業・職能 (職業) 研究を進めていきたい。これは3年生から就職対策をするというよりも、キャリア形成論や産業・企業・職能 (職業) 研究は本格的にやろうとすれば数年は要し、そして就職活動においても、それ以上に社会に出てから有益だからである。学問研究と就職活動との相乗効果を狙う。なお、社会政策論を履修すること。専門性を深めるためには、ゼミだけでは不十分で、関連する講義科目によって補強しなければならないからである。／**検索キーワード** キャリア形成、人材育成、社会政策論、年金、産業・企業・職業研究

●**授業の一般目標** 将来、社会に出てから有益な知識と思考力を養うことを一般的な目標とする。キャリア形成ならびに社会政策論の基礎知識を習得し、自ら主体的に関心のある産業・企業・職能 (職業) に関して調べて、論理的な文章展開能力をレポートによって涵養し、さらにプレゼンテーション、ディスカッション、ディベート能力を磨いていきたい。昨年、レポートはある程度のレベルに達しているの、今年はとりわけディベート能力等を鍛えられたい。授業の到達目標 レポートにおいては、はじめに (導入部) 一3節ほどの構成一おわりに (結語部) と (主観的な感想文でなく) 客観的な分析に基づいて論理展開ができ、さらに数値入力に基づくグラフ作成 (エクセル) と脚注と参考文献を入れられることが目標である。昨年の段階ではほぼクリアできている学生もいるので、さらにグレードアップして、秋を通して冬休み明けに3年生ゼミとして論文集を作成したい。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：昨年、ある程度の基礎知識は既に身につけている筈なので、今年さらに関連文献を読破していき、専門知識を培っていくこと。**思考・判断の観点**：レポートによる論理的思考能力をさらに向上させ、とりわけプレゼンテーション、ディベート、ディスカッションによるより実践的なコミュニケーション能力の醸成を重視したい。**関心・意欲の観点**：自ら主体的に関心のある産業・企業・職能を調べ、その知識をゼミ生相互でシェアし合い、専門領域を確保しつつあらゆる産業に関心を抱いて互いに啓発し合えるようにしたい。ある程度できてきているが、さらに飛躍的に発展していかなければならない。そのためには格段の努力に向けた意識改革が必要であろう。**態度の観点**：昨年、聴講態度は極めて真剣で、よくメモも取っていた。今年さら積極的に発言をしてもらいたい。発言でプレゼンを。**技能・表現の観点**：プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートでは、論理的展開能力、声の大きさ、身振り手振り、アイコンタクト、表情の豊かさなどに磨きをかけてもらいたい。**その他の観点**：リーダーシップも発揮すること。

●**授業の計画 (全体)** 昨年は民間企業と公務員のキャリア形成ならびに人事システムについて、必読文献を3冊ほどこなしてきた。今年はその成果を踏まえて、まず前期は労働経済論の基本的なテキストをこなして、ミクロ・マクロの基礎を学び、さらに社会政策関連のテキストを輪読していきたい。秋のゼミナール大会全国大会を前半のヤマとし、それ以降は各自の関心に沿って論文集に編集することを目標とする。

●**成績評価方法 (総合)** 主にレポートとレジュメ・発表による。プレゼン、討論能力も期待するが、成績評価よりも各自の努力に委ねるべきだろう。成績評価方法 (観点別) 講義形式とゼミとは自ずと異なる。無断欠席や発表やレポート提出を怠った場合は、落第もありうる。

●**教科書・参考書** 教科書：働くことの経済学, 古郡鞆子, 有斐閣ブックス, 1998年; 「福祉政府」への提言, 神野直彦・金子勝, 岩波書店, 1999年 / 参考書：日本企業理論と現実, 上井喜彦・野村正實, ミネルヴァ書房, 2001年; 適宜指示する。

●**メッセージ** 現場第一主義 昨年、ちょっと静かで硬すぎたので、もっと明るく皆仲良く楽しくやってみましょう。リラ～ックス!

●**連絡先・オフィスアワー** tel : 083 - 933 - 5521. Eメール・アドレス : hamakiyo @ yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	庄村長				

- 授業の概要** 「ソニーとホンダの企業経営と 21 世紀の日本的企業経営モデルの探究」というテーマの下に、本演習では、21 世紀の日本の企業モデル、経営モデル（企業のあり方、経営のあり方）とはどのようなものであるのか、ということ、ソニーとホンダの企業経営についての研究を通して考えていきたい。
- 授業の一般目標** 上記演習テーマの下で、学生各自の研究テーマをまず固めつつ、研究テーマについての調査・資料収集を行なうこと、及び、収集された資料・データを整理・分析するための方法等の基礎勉強を進めること、を基本目標としたい。
- 授業の計画（全体）** 上記演習テーマの下に、戦後小さな町工場から出発し、今日日本を代表する世界的な大企業にまで成長したソニーとホンダという会社の、企業経営面での（他の日本企業には見られない）ユニークさというものがあるとすれば、それは一体どういうところに具体的に見出されるのかという点に基本的な焦点を合わせて、色々な文献・資料にあたりながら、各自のテーマについての研究を進めると共に、21 世紀の日本企業のあり方を皆で議論し考えていきたい。演習の具体的な進め方については、基本的には学生と相談しながら決めていきたいと考えているが、大まかな方向としては、前半では、学生各自が自分の研究テーマを固めるため、各自でソニーとホンダについての一次資料的な文献を選び・個別報告を重ねながら、研究テーマについての調査・資料収集を進めることに主眼を置きたい。後半は、収集された資料・データを学問的に整理・分析するための基本的な方法やツールについても皆で勉強し・理解を深めると共に、各自、資料・データの整理・分析を具体的に進め、その成果を「研究ノート（II）」という形のペーパーにまとめていきたい。
- 成績評価方法（総合）** 研究報告と討議 50%、まとめの研究ノート 50%、出席 欠格条件
- メッセージ** 昨年の演習 I でやり残した課題もあり、本年度の演習 II は少しハードです。
- 連絡先・オフィスアワー** 電話（研究室）933-5582、研究室 C223、オフィスアワーは最初の授業時間に示します。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	植村高久				

- 授業の概要** I. テーマ 現代日本経済の歴史的考察 1.1980 年から平成不況までの日本経済の現状を経済、産業、消費生活の面から分担して研究し、実状を把握することに努める。2. 各自が興味を持つ個別テーマを決めて、意識的に研究を進めていくことを中心にする。／**検索キーワード** 現代日本経済論、不況、グローバル化
- 授業の一般目標** 現在の日本経済の状況について、概略説明できる。日本経済の問題点とその原因について、説明できる。
- 授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：日本経済の現状とさまざまな問題・解決法を簡潔に述べることができる。 **思考・判断の観点**：様々な社会的選択肢の結果と意味を理解し、自己責任で選択肢を選ぶことができる。 **関心・意欲の観点**：日本経済の特定の焦点的課題や特徴のうち1つまたは複数について、様々な主張や論点を積極的に理解しようとする。 **態度の観点**：様々な問題を自力で理解し、自分の言葉で説明しようとする積極性を身につけること。
- 授業の計画（全体）** 1. 日経新聞を継続的に購読し、その中から継続的に1テーマを追跡して報告する「日経新聞を読む」を1年間行う。2. 前期は大きなテーマを扱うグループ学習を行い、輪番で報告してもらう。3. 後期は就職準備期にあたるので、進路等に関して各人の考えを述べてもらう「3分間スピーチ」を行い、意見を交換する。
- 教科書・参考書** 教科書：授業内で指示する。
- メッセージ** テーマを持って大学生活を送ることが、中心的な課題です。それに向けて、精一杯頑張ること。
- 連絡先・オフィスアワー** Phone:083-933-5593 e-mail:uemura@yamaguchi-u.ac.jp 随時来室可です。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	柳澤旭				

- 授業の概要** 社会保障法と労働法の関連を研究する。
- 授業の一般目標** 社会保障法と労働法は共に社会法として共通するものはなにか具体的問題領域ごとに研究する。
- 教科書・参考書** 教科書：エッセンシャル労働法第4版, 菊池・清正編, 有斐閣, 2003年；ジュリスト労働判例百選7版, , 有斐閣, 2003年
- メッセージ** ゼミの場はしゃべることなので沈黙は欠席していると同様に扱います。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	有田謙司				

●**授業の概要** 前期は、テキストに基づきながら、毎回、報告者がレポートを行い、その内容について議論をし、理解を深める。後期は、前期で修得し深めた知識をもとに、具体的な裁判例や実務の動きについて、報告者がレポートを行い、その内容について議論する。また、前期、後期いずれにおいても、何回かは、労働法や社会保障法に関連する本（新書くらいのもの）を読んでもらって、全員にレポートしてもらい、議論することも行う。／**検索キーワード** 労働法、社会保障法。

●**授業の一般目標** 労働法および社会保障法の基礎知識の上に応用力を身につける

●**教科書・参考書** 教科書：開講時に指示する。／参考書：開講時に指示する。

●**メッセージ** 冬休みが終わる頃までには、卒論のテーマが決まるようにして欲しい。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室在室中に随時。ただし、事前に電話かメールで連絡すること。内線番号 5 5 5 1 arita@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	中尾訓生				

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	山下 訓				

●**授業の概要** この演習は企業会計及び会計学、特に財務会計の演習です。但し、企業会計及び会計学では財務会計と管理会計との垣根が低くなり、広い分野を学ばなければなりません。この演習では、先ず企業会計及び会計学の理論を、次に日本及び欧米における歴史を学び、更に日米の財務諸表の使い方を学び、それらを踏まえて企業会計の現状に対する分析を行います。演習 2 では演習 1 に引き続いて、その基礎を学びます。会計学だけでなく、経済学でも法律学でも、どの分野でも大学の役割は、いわゆる読み書き 算盤をしっかりと教えることだと思います。おそらく今の読み書きには英語もパソコンも加わるでしょう。

●**授業の一般目標** 演習 1 に続いて、会計学の分野を自分で調べ、発表し、議論できるようになる。

●**教科書・参考書** 教科書：後日知らせます。

●**メッセージ** 経済学部生として当然求められる行動を求めます。

●**連絡先・オフィスアワー** yamasita@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 内線 5 5 1 8

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	上杉信敬				

●**授業の概要** 現代の生活に不可欠な行政をめぐる法的諸問題について考察する。すでに1年間進んだ内容を引き継ぎ、その継続をまず行う。その次に何を行うかについてはその後に協議して決める。事例検討、領域研究を深める、特定のテーマについて集中するなどいろいろ考えられるが、みな意見も聞いて決め、行う。

●**メッセージ** 積極的な参加を期待する。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	山下 訓				

●**授業の概要** この演習は企業会計及び会計学、特に財務会計の演習です。但し、企業会計及び会計学では財務会計と管理会計との垣根が低くなり、広い分野を学ばなければなりません。この演習では、先ず企業会計及び会計学の理論を、次に日本及び欧米における歴史を学び、更に日米の財務諸表の使い方を学び、それらを踏まえて企業会計の現状に対する分析を行います。演習 2 では演習 1 に引き続いて、その基礎を学びます。会計学だけでなく、経済学でも法律学でも、どの分野でも大学の役割は、いわゆる読み書き 算盤をしっかりと教えることだと思います。おそらく今の読み書きには英語もパソコンも加わるでしょう。

●**授業の一般目標** 会計学分野に関して、自分で調べ、発表し、議論できるようになる。

●**教科書・参考書** 教科書：後日、知らせる。

●**メッセージ** 経済学部生として当然求められる行動を求めます。

●**連絡先・オフィスアワー** yamasita@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 内線 5 5 1 8



開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	李 海峰				

●**授業の概要** 日本、アジア、国際経済がどのように変わっていくのでしょうか、社会経済理論と実証 研究を通して、検討します、／**検索キーワード** アジア社会経済、国際経済

●**メッセージ** 一寸光陰一寸金、寸金難買寸光陰、

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	松井範惇				

- 授業の概要** 開発と国際協力に関して勉強し、各自のテーマをそれぞれ掘り下げて調査・研究してゆく。
- 授業の一般目標** 読み、書く力を付けることを最大の目標とします。
- 教科書・参考書** 教科書：現代世界経済をとらえる, 松村・関下・藤原・田中編, 東洋経済新報社, 2003 年 ;  
開発援助の経済学, 西垣・下村, 有斐閣, 2003 年

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	柳井健一				

●**授業の概要** 憲法学についての全般的な理解

●**授業の一般目標** 憲法の領域における基礎的な概念や制度等全般について検討する。具体的に取り扱うテーマについては、受講者の希望を聞いたうえで決定する。

●**教科書・参考書** 教科書：授業の開始時に指示する。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	坂手恭介				

- 授業の概要** 各自、卒業論文のテーマ決定、参考文献選定、最近の議論の動向、論点整理を経て論文作成に至る過程を報告し、全員で討議する。
- 授業の一般目標** 日頃から問題意識をもって生活を送ることによって、単なる知識の習得でなく、自らの問題意識をベースに卒業論文のテーマを選定できるようにする。
- 連絡先・オフィスアワー** 後日指示する。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	山田正雄				

●**授業の概要** 経済理論に関する研究

●**授業の一般目標** ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的な分析方法を学ぶ。

●**授業の計画 (全体)** 基本的文献の輪読を通して経済学の分析方法を学び、その後各自が興味あるテーマを選択し、それに関して経済学的分析を行う。

●**教科書・参考書** 教科書：ゼミ生と相談の上で決める。

開設科目	演習 II	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	馬田哲次				

●**授業の概要** 毎週読書レポートを提出し、英語でディスカッションを行う。

●**授業の一般目標** 研究テーマは、個人の自由です。各自のテーマを深く追求するとともに、幅広い知識を持った T 型スペシャリストを目指します。具体的には、以下の能力を身につけることを目標とします。

1. 幅広い教養を身に付けること。
2. 問題解決能力、分析能力を高めること。
3. 企画力・創造力を高めること。
4. プレゼンテーション能力を高めること。
5. コミュニケーション能力（英語を含む）を高めること。
6. データ処理能力、事務処理能力を高めること。
7. 判断力を高める。

●**連絡先・オフィスアワー** umada@yamaguchi-u.ac.jp

# 卒業論文

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	吉 村 弘				

●**授業の概要** 卒業論文作成のための報告および指導。昨年度提出した卒論テーマを再考し、各自のテーマを決定する。そのテーマについて、毎回報告し、ディスカッションする。また、進路について、今まで同様、一緒に考えましょう。／**検索キーワード** 卒業論文、進路

●**授業の一般目標** 経済学部の学生として恥ずかしくない立派な卒論を作る。自分の進路を開拓する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：卒論テーマについて、自分の見解を述べることができる。**思考・判断の観点**：卒論テーマについて、他人の見解を評価することができる。**関心・意欲の観点**：新聞を切り抜いて、社会問題の所在を問う姿勢をもつ。**技能・表現の観点**：パソコンによって、ワープロ・作表・作図を行い、液晶プロジェクターによって、自分の卒論を報告する。**その他の観点**：ゼミ生と一緒にゼミを楽しむことができる。

●**授業の計画 (全体)** 前期は卒論テーマを決定し、作成の準備を整え、資料を集め、調査・学習・報告する。後期は、報告を重ねて、卒論まとめる。

●**成績評価方法 (総合)** 授業中の態度、活動などを中心に評価する。

●**メッセージ** 楽しいゼミにしたい。活発なゼミにしたい。各自の進路決定に重点をおき、その相談に乗りたい。

●**連絡先・オフィスアワー** e-mail : yosimura@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー : 月曜 10 : 20 - 11 : 50



開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	石田成則				

●**授業の概要** 卒業論文の報告会およびその指導

●**授業の一般目標** 論文の構成力と現実社会への洞察力を高める

●**授業の計画 (全体)** 卒業論文の指導

●**成績評価方法 (総合)** 卒業論文の構成力と現実社会への洞察力の涵養

●**メッセージ** 3年間のゼミナール活動の集大成となる卒業論文です。自信を持って、これだけはやった！と言えるような完成度の高いものになることを期待しています。しっかりやっていきましょう。

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	柳澤旭				

●**授業の概要** テーマを決め、資料を収集し論文を作成する過程で、一定程度、纏まったところで各自報告し討論する。そのような過程を経て完成させていく。

●**メッセージ** 1回の演習時間で、作成過程で纏まった部分について、常に2人は報告できるよう準備しておく。

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	米谷雅之				

- 授業の概要** 各自で決めた研究テーマに沿って、資料の収集、調査、研究を行い、卒業論文を作成していく。この過程で、個別指導を頻繁に行うとともに、何度か合同の報告会を開催し、進捗度のチェックと論文の質的水準の維持を図っていく。
- 授業の一般目標** 満足いく卒業論文を仕上げる。
- 授業の計画 (全体)** 演習 II における個人研究やグループ研究を基礎にして、早いうちに研究テーマを確定し、文献調査、資料収集を経て論文の骨格を提出してもらい、そしてそれに沿って各自で研究を進めてもらい、後期に入って中間報告会を実施する。中間報告での議論やコメントを経て、論文の本格的な仕上げに入る。
- 成績評価方法 (総合)** 卒業論文の内容と完成度によるが、どの程度真摯に卒論の作成に取り組んできたかをも考慮する。

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	瀧口治				

●**授業の概要** 演習 I および II における金融ならびに国際金融に関する基礎学習を土台とした卒業論文作成のための報告と指導を行う。

●**授業の一般目標** 卒業論文を作成すること。

●**授業の計画 (全体)** 前期夏休み前までに卒論テーマの設定とそれに基づいた報告を行う。後期からは卒論の章別報告を 1 回当たり 4 人程度を目途に行い全員で議論する。卒論提出後卒論報告会を設け発表する。

●**成績評価方法 (総合)** 報告 30%、発表 20%、宿題 (報告に対する指示された課題を含む) 30%、出席 20%

●**メッセージ** 卒論作成を大学生生活の集大成として取り組みましょう。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail : osamu@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 電話:5501 または 5541、研究室 A403、オフィス・アワー開講後決定

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	一ノ澤直人				

- 授業の概要** 要 各自の卒業論文をまとめるにあつての検討 「成績評価方法 (総合)」 各自の問題意識に従ってテーマを設定し、四年間の学習によって身につけた法的思考方法をいかし、テーマを検討できるかによって判断する。
- 授業の一般目標** ゼミ生各自が、4年間の学習成果の集大成としてまとめる卒業論文について、各自の問題意識が、法的思考として論理的に展開 できるようにする。
- 授業の計画 (全体)** 各自の卒業論文の進捗状況に合わせて、検討を行う。また、全員の卒業論文の構成が明らかになった段階で、検討会をもうけ互いに検討できるようにしたい。
- 成績評価方法 (総合)** 授業態度や授業への参加度 = 50 % 受講者の発表 (プレゼン) や授業内での製作作業 (作品) = 50 %
- 教科書・参考書** 参考書: 各自のテーマにあわせ、適宜連絡する。
- メッセージ** 履修上の注意 自分で計画を立て、問題意識をもってテーマをあたり、卒業論文の作成につなげてください。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail:ichino@yamaguchi-u.ac.jp E-mail:n.ichinosawa@sheffield.ac.uk

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	橋本寛				

- 授業の概要** 演習 I 及び II における意思決定や選択の基礎についての考察をもとにして卒業論文の作成に着手する。
- 授業の一般目標** 卒業研究を行うとともに卒業論文の完成をめざす。
- 授業の計画 (全体)** 演習 II のときのテキストの残りを読むとともに、卒業論文作成のための準備をして順次作成作業を進める。
- 成績評価方法 (総合)** 卒業論文、出席などによる。
- 教科書・参考書** 教科書： 選択の数理 中村、富山著、朝倉書店、1998 年
- 連絡先・オフィスアワー** 経済学部 A227、オフィスアワーを設ける予定

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	藤井大司郎				

●**授業の概要** 1. 卒論作成について 最初の授業までに、各自卒論テーマを決めておき、前期の半ばころから毎回「プレゼンテーション」の時間を使って、選んだテーマのねらいや各自の卒論勉強の取り組み状況を報告してもらおう。後期からは、いよいよ本格的に卒論作成に重点をおき、毎回数人ずつの報告とこれらに対する全員での討論を積み重ねてゆく。 2. 「公共経済学」 前期いっぱい演習 II に引き続いて進め、少なくとも租税に関する部分を終える予定である。テーマにもよるが、卒論をアカデミックに深めるため、大いに活用できるはずである。経済

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 前座、プレゼン、公共経済学

第 2 回 項目 前座、プレゼン、公共経済学

第 3 回 項目 前座、プレゼン、公共経済学

第 4 回 項目 前座、プレゼン、公共経済学

第 5 回 項目 前座、プレゼン、公共経済学

第 6 回 項目 前座、プレゼン、公共経済学

第 7 回 項目 前座、プレゼン、公共経済学

第 8 回 項目 前座、プレゼン、公共経済学

第 9 回 項目 前座、プレゼン、公共経済学

第 10 回 項目 前座、プレゼン、公共経済学

第 11 回 項目 前座、プレゼン、公共経済学

第 12 回 項目 前座、卒論のねらいと取り組み、公共経済学 内容 卒論のねらいと取り組みは 2 名ずつ

第 13 回 項目 前座、卒論のねらいと取り組み、公共経済学 内容 卒論のねらいと取り組みは 2 名ずつ

第 14 回 項目 前座、卒論のねらいと取り組み、公共経済学 内容 卒論のねらいと取り組みは 2 名ずつ

第 15 回 項目 前座、卒論のねらいと取り組み、公共経済学 内容 卒論のねらいと取り組みは 2 名ずつ

●**メッセージ** 4 年生の授業は諸君らの主体性を一層重んじて進める。これまで以上に自己の内実を高めていく自覚をもって臨んでほしい。

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	澤 喜司郎				

- 授業の概要** 卒業論文の完成を目指して、研究成果を報告する。
- 授業の一般目標** 卒業論文を完成させる。
- 授業の計画 (全体)** 各自が設定したテーマについて、章立てにしたがって研究成果を報告し、討議する。
- 成績評価方法 (総合)** 論文 70 %、出席 30 %



開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	田淵 太一				

- 授業の概要** 卒業論文の中間発表を継続して行う。
- 授業の一般目標** 学生時代の集大成となる卒業論文を書くこと
- 授業の計画 (全体)** 卒業論文の中間発表を継続して行う。
- 成績評価方法 (総合)** 卒業論文の内容により評価する (100%)。
- メッセージ** 論文を書くときに幸せを感じよう。
- 連絡先・オフィスアワー** オフィスアワーは前期開始後発表します。

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	中田範夫				

- 授業の概要** 学生個々の卒業論文のテーマにしたがって、卒業論文の作成指導を行う。
- 授業の一般目標** 社会的な関心を深めることが卒業論文の作成にモチベーションを与えます。したがって、社会的関心を高めることに目標を置きたいと思います。
- 授業の計画 (全体)** 卒業論文の作成経過を報告という形で提示してもらいます。
- 教科書・参考書** 教科書：教科書は使用しない。

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	塚田広人				

●**授業の概要** 各自、卒業論文の研究をする。2年生の終わりに設定したテーマに沿って行う。3年生時に行った成果を発展させる。

●**授業の一般目標** 大学入学までと、それ以降現在まで身につけた多様な知識を使いこなし、自分の設定した問題をできるだけ深く考察する。

●**メッセージ** 思い切り自分の疑問を追及できた、と言えるようにがんばってください。研究室のHP：  
<http://www.cc.yamaguchi-u.ac.jp/ht/mypage2.htm>

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail [ht@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:ht@yamaguchi-u.ac.jp), 電話 083-933-5558, 研究室 A424, オフィスアワー 水：1時半-3時。ほかの時間でも在室時はいつでも可。

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	古川澄明				

●**授業の概要** 授業の概要 I. テーマ グローバル視点で、中・四国、九州地域のビジネスを捉えよう：「フグ・ビジネス」と山口の酒造り II. 研究内容・方法 ゼミでは、自分でテーマを決め、自主的に研究活動を行う。目標は、誰も書かなかったテーマで卒論を書くこと。つまり、「手作りの卒論」をまとめ、4年生になって大学生活を総決算する。卒論は製本され、世界で1冊しかない「自分の本」を作る。だから、テーマに興味があり、自分の足で調べるのが楽しくなければならない。楽しいことが大切である。ゼミ参加者は、フグと酒の研究チームに分かれて共同研究を行ってきた。いまや、研究をじっくりと熟成させ、最終的に「卒業論文」にまとめる時期にきている。授業の目標 大学生活の総決算として、自分に満足のいく卒業論文を書き上げる。それは、一生、大切にできるものでなければならない。すべては、ゼミ生の個々人の熱意と努力にかかっている。ゼミでは、自分でテーマを決め、自主的に研究活動を行う。目標は、誰も書かなかったテーマで卒論を書くこと。つまり、「手作りの卒論」をまとめ、4年生になって大学生活を総決算する。卒論は製本され、世界で1冊しかない「自分の本」を作る。だから、テーマに興味があり、自分の足で調べるのが楽しくなければならない。楽しいことが大切である。ゼミ参加者は、フグと酒の研究チームに分かれて共／**検索キーワード** 自分に投資し、自分の能力を開発し、自分を育てよう。

●**授業の計画 (全体)** ゼミ活動を通じて、積極性、協調性、組織統率能力、報告書作成能力、自己管理能力、プレゼンテーション能力を養おう。履修上の注意 古川ゼミは、人材育成の場と位置づけている。企画・立案能力、文書能力、報告書をまとめる能力、プレゼンテーション能力、コンピュータ活用能力などを養うことを目標として、2年生の段階から自分たちで自主的に共同研究テーマと取り組む。それらの能力は、大学卒業後に民間企業や公務員に就職すれば当然にも求められる能力である。企業研究では、これまでに習得した、あるいは習得しつつある経営学や会計学の知識を投入することになり、必要ならば自主的に経営学の知識を学ぶことが重要である。3年間を費やして、独創的な卒論をまとめ、ハードカバー製本して、「手作りの自分の本」を作ることを目標としている。自主的にフィールドに出て、社長インタビューをしたり、工場や養殖場を視察したり、図書館巡りや、官公庁を訪問して、資料集めに歩くことになる。古川ゼミ第11期生として、自分が満足できるゼミ活動と卒業論文を作成していただきたい。これまでゼミの先輩達は、卒業論文を「自分の作品」として手にして卒業し、広く社会で活躍している。ゼミの伝統として、自主性を尊重するので、自分に命令できる人、他人にサービスを提供できる人、行動力ある人材に自覚的に自分を高めていただきたい。

●**成績評価方法 (総合)** 総合的に評価する。

●**メッセージ** ゼミ活動を通じて、積極性、協調性、組織統率能力、報告書作成能力、自己管理能力、プレゼンテーション能力を養おう。

●**連絡先・オフィスアワー** 随時、連絡・訪問可。

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	馬田哲次				

●**授業の概要** 各自の卒業論文のテーマに沿って卒論の指導をする。

●**授業の一般目標** 1. 問題の設定が出来る。 2. 必要な文献を調べることが出来る。 3. 論理的な文章が書ける。 4. 自分の考えを自分の言葉で表現することができる。 5. 論文の形式的な書き方を身につける。

●**授業の計画 (全体)** 卒論作成の指導を行う。

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	陳建平				

- 授業の概要** 卒業論文の作成とそれに関連する学習
- 授業の一般目標** 卒業論文の完成
- 授業の計画 (全体)** 卒業論文の完成を目標に研究や報告、討論を行う。
- 成績評価方法 (総合)** 授業態度や授業への参加度 = 40 % 受講者の発表 (プレゼン) や授業内での製作作業 (作品) = 60 %
- 教科書・参考書** 教科書： 必要に応じて使用する。

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	マルク・レール				

●**授業の概要** 卒業論文執筆のための指導である。／**検索キーワード** 卒論

●**授業の一般目標** 1. 卒論執筆のための研究計画を立てる。 2. 研究発表と卒論執筆。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 自分の卒論テーマに必要な知識を取得する。 2. 論文の構造を理解する。 **思考・判断の観点**： 論文構成や内容について判断する。 **関心・意欲の観点**： 幅広く自分の研究テーマに関して調べる意欲を持つ。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** 卒論執筆入門
- 第 2 回 **項目** 引用の仕方
- 第 3 回 **項目** 研究発表
- 第 4 回 **項目** 研究発表
- 第 5 回 **項目** 研究発表
- 第 6 回 **項目** 研究発表
- 第 7 回 **項目** 研究発表
- 第 8 回 **項目** 研究発表
- 第 9 回 **項目** 研究発表
- 第 10 回 **項目** 研究発表
- 第 11 回 **項目** 研究発表
- 第 12 回 **項目** 研究発表
- 第 13 回 **項目** 研究発表
- 第 14 回 **項目** 研究発表
- 第 15 回 **項目** 研究発表

●**メッセージ** 今年度 e-learning を積極的に導入する予定である。

●**連絡先・オフィスアワー** loehr@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	上杉信敬				



開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	庄村長				

●**授業の概要** 演習 I・演習 II での研究を基礎に、学生各自が、自分の研究テーマにそくして卒業論文作成のための研究と報告を重ね、最終的に卒業論文にまとめていく。

●**授業の一般目標** しっかりした卒業論文を仕上げること

●**授業の計画 (全体)** 卒業論文作成のための研究と報告及び卒業論文執筆の具体的な進め方については基本的には学生と相談しながら決めていきたいと考えているが、「しっかりした卒業論文を仕上げる」という基本目標の達成が実際に可能となるような進め方にしていきたいと考えている。

●**成績評価方法 (総合)** 研究報告及び卒業論文 100%、出席 欠格条件

●**連絡先・オフィスアワー** 電話 (研究室) 933-5582、研究室 C223、オフィスアワーは最初の授業時間に示します。

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	兵藤隆				

- 授業の概要** 大学生生活 4 年間の集大成として、慎重にテーマを設定し、資料収集、データ解析などもてる技術を駆使しながら、卒業論文を仕上げることを目的とする。／**検索キーワード** 卒業論文
- 授業の一般目標** 大学生生活の集大成として自分で納得のいくクオリティの論文を完成させる。
- メッセージ** 手を抜かず、あきらめず、最後まできちんとやり遂げてもらいたい。
- 連絡先・オフィスアワー** thyodo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	寺地伸二				

- 授業の概要 卒業論文の作成。
- 授業の一般目標 卒業論文の作成。
- 成績評価方法 (総合) 卒業論文。

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	木部和昭				

●**授業の概要** 近代日本経済史に関わる卒業論文作成のための指導を行う。最終的には各人の設定した 課題にしたがって卒業論文をまとめる。／**検索キーワード** 日本経済史、日本史、近代史

●**授業の一般目標** (1) 卒業論文作成のための課題を設定する (論文題目の決定)。 (2) 課題に関して史資料を収集・分析する。 (3) 自ら立てたテーマに従って卒業論文を完成させる。

●**授業の計画 (全体)** (1) 「地域経済の歴史」分析の手法を学ぶ。 (2) 各自の卒業論文に関する構想報告を行い、論文題目・テーマ等を決定する。 (3) 卒業論文に関連する論文等を講読する。 (4) 各人の設定した課題に基づいて、卒業論文作成に向けた個別指導を行う。 (5) 卒業論文提出後、口頭試問を行う。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 「地域経済の歴史」分析の手法 (前期)
- 第 2 回 項目 卒業論文に関する構想報告、論文題目・テーマ等の決定 (前期)
- 第 3 回 項目 関係論文講読 (前期)
- 第 4 回 項目 卒業論文作成個別指導 (後期)
- 第 5 回 項目 卒業論文提出 (2005 年 1 月)
- 第 6 回 項目 卒業論文口頭試問 (後期の最後の授業)
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

●**成績評価方法 (総合)** 提出された卒業論文の内容で評価を行う。この他、担当報告の内容、および報告概要 (ノート) も評価に加える。卒業論文 70 %、報告 20 %、授業態度 10 % 欠席が多い者は不合格となる。就職活動等で欠席する場合は、事前に必ず連絡が必要。

●**教科書・参考書** 教科書：特に指定しない。必要な文献・史料等はプリントを配布する。／参考書：各人の卒業論文のテーマにより、参考文献は多岐にわたる。これに関しては各自に適宜紹介する。

●**メッセージ** ・就職試験等で忙しくなると思われるため、早めに卒業論文に取り組んで欲しい。・不十分な卒業論文については書き直しを要求する事がある。・就職試験等で休む場合は、事前連絡を忘れないこと。

●**連絡先・オフィスアワー** 経済学部 C207 研究室 内線 5566 E-mail ; kibe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	坂手恭介				

- 授業の概要** 学生個々の卒業論文のテーマにしたがって、卒業論文の作成指導を行う。中田範夫教授との合同演習の形を採用する。

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	成富敬				

- 授業の概要** 卒業論文作成の指導をおこないます。
- 授業の一般目標** 自分の言葉で卒業論文を記述する。
- 成績評価方法 (総合)** 発表・卒業論文 (70 %) と出席 (30 %) で評価する。
- メッセージ** 卒業論文のテーマと関係する文献を収集し, じっくり読んで, 深く考察してください。

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	柳田卓爾				

- 授業の概要** 演習 II で作成したレポートを基礎に、卒業論文を作成する。中間報告が中心になる。
- 授業の一般目標** 卒業論文を完成する。
- 授業の計画 (全体)** 卒業論文作成の中間報告ならびに指導が中心になります。
- 成績評価方法 (総合)** 卒業論文による。プレゼンテーション等は、欠格条件である。
- メッセージ** 3年間のゼミナール活動の集大成となる卒業論文です。自信をもって、これだけはやった！と言えるような完成度の高いものになることを期待しています。しっかりやってみましょう。
- 連絡先・オフィスアワー** 研究室 C220

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	櫻田 譲				

●**授業の概要** 「授業の一般目標」を参照のこと。／**検索キーワード** 会計 経営分析 法人税 税務会計

●**授業の一般目標** 卒論は思い立って、やっつけ仕事で書いて、それで分量さえあれば良いというものではありません。皆さんが普段、講義で課されるレポートとは違います。卒論を、レポートのただ分量が増えたもの…と思っはけません。私は皆さんの卒論原稿を読んで、多くの疑問が生ずると思います。学生さんにご自身の調べた資料を私にきっちり見せ、そして論理的な思考ができているのか、問題点の指摘が妥当であるのか示し、私の疑問に答えてください。卒論を作成するときに注意すべきことといえば、こまめに進捗状況を私に報告することでしょう。皆さんの自主的な学習姿勢に期待します。また卒業論文の作成過程においては私の研究分野から助言があると思いますが、私が助言をしたからと言って、それで学生さん達の書こうとする論文の内容が歪曲されてゆくわけではありません。勉強のできる学生さんで自尊心が強い方であれば、しばしばこの助言を受け入れることができない人がいますが、そのような学生さんにはこのゼミは不向きです。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：卒論作成で、web 検索によって得た資料を、単にコピー&ペーストするだけでは十分とは言えません。**思考・判断の観点**：卒論作成では論文構成において、明確な起承転結を意識しましょう。**関心・意欲の観点**：「メッセージ」を参照のこと。**態度の観点**：就職活動で忙しいことと思います。ゼミを休むときは予め連絡ください。**技能・表現の観点**：日本語としておかしな文章が無いように心がけましょう。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 卒論作成に関する 進捗状況の発表
- 第 2 回 項目 卒論作成に関する 進捗状況の発表
- 第 3 回 項目 卒論作成に関する 進捗状況の発表
- 第 4 回 項目 卒論作成に関する 進捗状況の発表
- 第 5 回 項目 卒論作成に関する 進捗状況の発表
- 第 6 回 項目 卒論作成に関する 進捗状況の発表
- 第 7 回 項目 卒論作成に関する 進捗状況の発表
- 第 8 回 項目 卒論作成に関する 進捗状況の発表
- 第 9 回 項目 卒論作成に関する 進捗状況の発表
- 第 10 回 項目 卒論作成に関する 進捗状況の発表
- 第 11 回 項目 卒論作成に関する 進捗状況の発表
- 第 12 回 項目 卒論作成に関する 進捗状況の発表
- 第 13 回 項目 卒論作成に関する 進捗状況の発表
- 第 14 回 項目 卒論作成に関する 進捗状況の発表
- 第 15 回 項目 卒論発表

●**成績評価方法 (総合)** 卒論作成時の姿勢重視 (卒論構想から完成まで論理展開が説得的であるか・独創的な観点の有無・統計的分析手法の有無・進捗状況報告の有無・無断欠席の有無・思考力・参考文献の記載)。また各自のプレゼン発表時間は計測され、発表機会均等の目安とします。今までゼミやゼミ外で学習した知識が卒論で活用されているのか否かも評価される基準となります。この授業の評価では、卒論の作成過程が最も重要視されますので、指導教官に相談してください。

●**教科書・参考書** 教科書：特にありません。

●**メッセージ** サングラスをかけで受講したり、講義中、みだりに立ち上がり退席してゆくという行儀の悪い学生さんがいますが、勉強中はカッコつけたり、気が散ったりせずに、しっかりとセルフコントロールしてください。お互いに気持ちのいい講義になればいいなあ、と思っています。



開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	有村貞則				

- 授業の概要** 各自で設定した卒論のテーマについて調べ、成果を発表してもらいます。
- 授業の一般目標** 1. 分析に値する研究テーマの設定 2. 上記研究テーマについての分析と評価
- 授業の計画 (全体)** 最初の数回はテーマの設定について指導を行い、皆で意見交換します。テーマ設定後は、各自の発表に割り当て、ディスカッションおよびコメントを行います。
- 成績評価方法 (総合)** ゼミなので出席を重視します。また完成した卒論の良し悪しも成績評価に加えます。
- 教科書・参考書** 参考書：各自のテーマに関連した資料の入手方法について指導します。
- 連絡先・オフィスアワー** arimuras@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	小林 一干				
<p>●<b>授業の概要</b> 1. 授業は、まず演習 2「国際取引とリスクマネジメント」の持越しを完了させ、そのあと「国際取引紛争」に進む。 2. 卒論は、前期授業終了時まで担当教官と打ち合わせの上テーマを決定、夏休み中に章立てと詳細構想をまとめ、後期第 2 週迄に章毎の概要展開につき教官と合意形成。12 月授業終了時まで最終原稿完成。なお上記 1. 授業と卒論検討及び 3 分間スピーチは併行して進める。／<b>検索キーワード</b> 国際取引 リスクマネジメント 国際契約 国際取引紛争</p> <p>●<b>授業の一般目標</b> 将来国際ビジネスマン、ビジネスウーマンとして世界に飛躍するための基礎知力を身につけさせ、国際的なものの見方・考え方を探求するとともに、国際的リーガルマインドを養成することを目標とする。</p> <p>●<b>授業の到達目標</b>／<b>知識・理解の観点</b>： 国際取引のリスクマネジメント及び国際取引紛争解決策に関する基本的かつ実践的知識を涵養する。<b>思考・判断の観点</b>： 国際的なものの見方・考え方を養成する。<b>関心・意欲の観点</b>： 何よりもキラキラとしたゼミ参加意欲が顔に現れてほしい。<b>態度の観点</b>： 全出席は当然。事前に入念に勉強し、レジメを準備するとともに、積極的な発表を行い、全員参加のディベートを盛り上げることが肝要。<b>技能・表現の観点</b>： レジメの作成を工夫するとともに、活発な意見交換を盛り上げるプレゼンテーションを行うこと。</p> <p>●<b>授業の計画 (全体)</b> 上記「授業の概要」に記載済み。</p> <p>●<b>授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</b></p> <p>第 1 回 <b>項目</b> 国際取引とリスクマネジメント <b>内容</b> 航空機ファイナンス <b>授業外指示</b> テキスト及び参考書の講読 レジメの準備</p> <p>第 2 回 <b>項目</b> 国際取引とリスクマネジメント <b>内容</b> 国際倒産における債権回収策 <b>授業外指示</b> テキスト及び参考書の講読 レジメの準備</p> <p>第 3 回 <b>項目</b> 国際取引紛争 <b>内容</b> 国際取引紛争とは <b>授業外指示</b> テキスト及び参考書の講読 レジメの準備</p> <p>第 4 回 <b>項目</b> 国際取引紛争 <b>内容</b> 国際取引紛争の実際 1 <b>授業外指示</b> テキスト及び参考書の講読 レジメの準備</p> <p>第 5 回 <b>項目</b> 国際取引紛争 <b>内容</b> 国際取引紛争の実際 2 <b>授業外指示</b> テキスト及び参考書の講読 レジメの準備</p> <p>第 6 回 <b>項目</b> 国際取引紛争 <b>内容</b> 国際取引紛争の実際 3 <b>授業外指示</b> テキスト及び参考書の講読 レジメの準備</p> <p>第 7 回 <b>項目</b> 国際取引紛争 <b>内容</b> 国際取引紛争の法的諸問題 1 <b>授業外指示</b> テキスト及び参考書の講読 レジメの準備</p> <p>第 8 回 <b>項目</b> 国際取引紛争 <b>内容</b> 国際取引紛争の法的諸問題 2 <b>授業外指示</b> テキスト及び参考書の講読 レジメの準備</p> <p>第 9 回 <b>項目</b> 国際取引紛争 <b>内容</b> 国際取引紛争の法的諸問題 3 <b>授業外指示</b> テキスト及び参考書の講読 レジメの準備</p> <p>第 10 回 <b>項目</b> 国際取引紛争 <b>内容</b> 国際取引紛争の法的諸問題 4 <b>授業外指示</b> テキスト及び参考書の講読 レジメの準備</p> <p>第 11 回 <b>項目</b> 国際取引紛争 <b>内容</b> 国際取引紛争の法的諸問題 5 <b>授業外指示</b> テキスト及び参考書の講読 レジメの準備</p> <p>第 12 回 <b>項目</b> 国際取引紛争 <b>内容</b> 国際裁判管轄 <b>授業外指示</b> テキスト及び参考書の講読 レジメの準備</p> <p>第 13 回 <b>項目</b> 国際取引紛争 <b>内容</b> 国際裁判管轄 <b>授業外指示</b> テキスト及び参考書の講読 レジメの準備</p> <p>第 14 回 <b>項目</b> 卒論 <b>内容</b> 卒論検討</p> <p>第 15 回 <b>項目</b> 卒論 <b>内容</b> 卒論検討</p>					

- 第16回 **項目** 国際取引紛争 **内容** 外国人の当事者 **授業外指示** テキスト及び参考書の講読 レジメの準備
- 第17回 **項目** 国際取引紛争 **内容** 外国人の当事者 **授業外指示** テキスト及び参考書の講読 レジメの準備
- 第18回 **項目** 国際取引紛争 **内容** 国際司法共助 **授業外指示** テキスト及び参考書の講読 レジメの準備
- 第19回 **項目** 国際取引紛争 **内容** 国際司法共助 **授業外指示** テキスト及び参考書の講読 レジメの準備
- 第20回 **項目** 国際取引紛争 **内容** 外国判決の承認・執行 **授業外指示** テキスト及び参考書の講読 レジメの準備
- 第21回 **項目** 国際取引紛争 **内容** 外国判決の承認・執行 **授業外指示** テキスト及び参考書の講読 レジメの準備
- 第22回 **項目** 国際取引紛争 **内容** 国際仲裁 **授業外指示** テキスト及び参考書の講読 レジメの準備
- 第23回 **項目** 国際取引紛争 **内容** 国際仲裁 **授業外指示** テキスト及び参考書の講読 レジメの準備
- 第24回 **項目** 国際取引紛争 **内容** 国際倒産 **授業外指示** テキスト及び参考書の講読 レジメの準備
- 第25回 **項目** 卒論 **内容** 卒論検討
- 第26回 **項目** 卒論 **内容** 卒論検討
- 第27回 **項目** 国際取引紛争 **内容** 国際倒産 **授業外指示** テキスト及び参考書の講読 レジメの準備
- 第28回 **項目** 国際取引紛争 **内容** 総まとめ 自由ディスカッション

●**成績評価方法(総合)** 授業は、事前準備・勉強 発表能力とその内容 40% 積極的発言・授業参加態度 20% 出席 10% レポート作成能力 30%等の総合評価。卒論は、卒論の内容評価 100%。

●**教科書・参考書** 教科書：「国際取引とリスクマネジメント」「国際取引紛争」

●**メッセージ** 広く、深く、真剣に何でも自由に意見交換して視野を広げよう。

●**連絡先・オフィスアワー** 研究室:C 218. TEL: 5575. メール: [kkob@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:kkob@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	三間地光宏				

- 授業の概要** 卒業論文を作成する
- 授業の一般目標** 卒業論文を作成する
- 授業の到達目標**／ **その他の観点**： 法学士の称号を与えられるに相応しい卒論をまとめること。
- 授業の計画 (全体)** 前期にテーマを選定し、後期は途中経過の報告を行う。
- 成績評価方法 (総合)** 提出された卒論で評価する。

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	山本光英				

- 授業の概要** 演習 I、演習 II で学んだことの総決算として、卒業論文を作成する。
- 授業の一般目標** 卒業論文の作成。
- 授業の到達目標** / **知識・理解の観点**： 刑法学の基本的知識が身に付いているか。 **思考・判断の観点**： 刑法学的な論理的思考力が身に付いているか。 **関心・意欲の観点**： 関心を持ったテーマに意欲的に取り組んでいるか。 **態度の観点**： 授業に積極的に参加しているか。資料や情報の収集に積極的に取り組んでいるか。 **技能・表現の観点**： 自己の知識、主張を適切に表現できるか。
- 授業の計画 (全体)** 論文の書き方の概要を学び、各自が関心をもったテーマを卒業論文として完成させるまでの過程・なすべき事柄を説明しつつ、詳細については、適宜、受講生と相談しつつ指導する。
- 成績評価方法 (総合)** 卒業論文の評価。出席。授業に対する意欲。
- 教科書・参考書** 教科書： ケイスメソッド刑法総論, 船山・清水・中村編, 不磨書房, 2003 年； ケイスメソッド刑法各論, 船山・清水・中村編, 不磨書房, 2003 年； その他、授業の際、適宜指摘する。 / 参考書： 授業の際、適宜指摘する。
- メッセージ** 法学徒としての大学生活の集大成として、記念にすべき卒業論文を作成すること。内容とともに努力・熱意が重要である。

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	植村高久				

- 授業の概要** 卒業論文は学生生活の締めくくりであり、かなり苦しむが苦しみよりも大きな知的発展が期待できる。この点を踏まえて、時間を掛け納得がゆく卒論が作成できるよう、時期を区切った指導を行う。
- 授業の一般目標** 卒業論文の作成を通じて、基本的な論文作法を学ぶとともに、自力で思考し、長文を論理的に組み立てることができる論理的思考力を培う。
- 授業の到達目標** / **知識・理解の観点**：かなりの文献を読破し、テーマに関して自分の言葉で一通りの説明ができる。 **思考・判断の観点**：様々な文献や資料をとりまとめる過程で、長文を一貫性を持って組み立てることができる能力を獲得する。 **関心・意欲の観点**：テーマに関して、様々な文献を継続的に読んで行こうとする意欲を持つこと。 **態度の観点**：様々な文献・資料を論理的に把握し、整理しようとする習慣を獲得する。
- 授業の計画 (全体)** 1) 4月に「仮テーマ」を提出してもらおう。 2) 7月には「テーマ決め」を行い、参照すべき文献や資料等を指示する。 3)10月以後は、継続して草稿の報告を行う。 4)12月～締め切り：適宜個別指導を行い、完成度を高める。 5)2月初：卒論発表会を行う。
- メッセージ** 充実した卒論を作成することは、大学生活の集大成であり、そのためにあらかじめ時間的な余裕を見て、卒論作成に着手すること。
- 連絡先・オフィスアワー** Phone:083-933-5593 e-mail:uemura@yamaguchi-u.ac.jp 随時来室して下さい。在室の時は、(多忙でない限り) 対応します。

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	浜島清史				

●**授業の概要** 3年次冬休み明けに出したレポートに基づいて、さらに各自の関心分野に基づいて、卒論を仕上げしておく。卒論の基本も、これまでのレポートと同様に、各自の関心のある産業・企業・職能について、はじめに(導入)―3節ほどの構成―おわりに(結語)と論理展開すること。／**検索キーワード** キャリア形成、産業・企業・職能研究、自己実現。

●**授業の一般目標** 卒論に関して、十分なレベルの論文をものにする。授業の到達目標 卒論に関して、参考文献を最低50本くらいは読むこと。テーマに関連する統計データから数値を入力して、数十枚のグラフを作成し、ファクト・ファインディングを行なえること。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：教養を広め、専門知識を深めること。新聞やテレビ・ドキュメンタリーなども日常的にみる。 **思考・判断の観点**：論理的思考能力を養うこと。変化に応じて、的確に判断を下せるようになること。総じて、課題・問題を発見し、原因を分析し、改善できるようにすること。 **関心・意欲の観点**：主体的に自己の専門を深めながら、あらゆる分野に関心を持つこと。 **態度の観点**：主体性、自己啓発、生涯学習。生涯学習は単に一般教養でなく、自分の仕事、専門に関連することを中軸に据えること。 **技能・表現の観点**：プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートでは、論理的展開能力、声の大きさ、身振り手振り、アイコンタクト、表情の豊かさなどに磨きをかけてもらいたい。 **その他の観点**：リーダーシップも発揮すること。

●**授業の計画(全体)** 卒論の指導を適宜行なっていく。基本的に、就職活動がなければ、週に一回はゼミに集って、情報交換や団欒をしてもらいたい。

●**成績評価方法(総合)** 主に卒論による。成績評価方法(観点別) 課題と方法、先行研究サーベイの量と質、論理展開、統計データ分析、何が見出されたのか、オリジナリティ、今後の課題は何か？

●**教科書・参考書** 教科書：適宜指示する。／参考書：適宜指示する。

●**メッセージ** みんな卒業・就職できますように。なりたい自分になれますように。自己実現。

●**連絡先・オフィスアワー** tel : 083 - 933 - 5521。Eメール・アドレス : hamakiyo@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	有田謙司				

●**授業の概要** 卒業論文の作成へ向けて、各自がその準備として、論文のテーマに関する報告を行う。／**検索キーワード** 卒業論文。

●**授業の一般目標** 卒業論文の完成

●**教科書・参考書** 教科書：開講時に指示する。／参考書：開講時に指示する。

●**メッセージ** 卒論の完成に向けてしっかりと準備を進めること。

●**連絡先・オフィスアワー** arita@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	中尾訓生				

- 授業の概要** 2,3 年期の個人報告を整理する。論文の書き方を指導する。主張の要点を明白にさせる。広告論班はチラシ広告を作成してそれに各人が意見を述べていく。生態系論は自治体の取り組みのデータ集め、聞き取り調査もおこなってもらう。企業の環境保護の取り組みを調査する。

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	柳井健一				

●**授業の概要** 1. 学生一人一人が自分で重要であるとする現実の憲法問題 (テーマ) を見つける。 2. 自分自身のテーマについて、どのような捉え方・考え方・接近方法がなされているかを調べる。 3. 大学 4 年間で学んだ憲法上の知識を用いて、その問題について自分自身で考えてみる。 4. 前述の 2 と 3 を自分自身の言葉でまとめ、卒論を作成する。／**検索キーワード** 卒業論文

●**メッセージ** 2 万字を超えるような長くまとまった「レポート」あるいは「文章」を書くのは、多くの人にとって卒業論文が最初で最後のチャンスだと思います。後で読み返してみた時、「良く頑張ったな」と思えるようなものを作成して下さい。

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	横田伸子				

●**授業の概要** 卒業論文作成のための研究発表と指導。／**検索キーワード** 卒業論文

●**授業の一般目標** 卒業論文の作成

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**： 1. 卒業論文作成に必要な文献・資料を探することができる。 2. 卒業論文作成に必要な文献・資料を読んで理解することができる。**思考・判断の観点**： 1. 卒業論文のテーマに沿った実証的分析をすることができる。**関心・意欲の観点**： 1. 卒業論文作のために必要な文献・資料を主体的・自主的に探そうという意欲がある。**態度の観点**： 1. 卒業論文指導に毎回欠かさず出席する。 2. 卒業論文作成のための討論に積極的に参加する。**技能・表現の観点**： 1. 卒業論文を正確な日本語で、論理的に叙述できる。

●**授業の計画 (全体)** 1. 前期中に卒業論文の第1回構成を提出し、概要報告を行う。 2. 秋合宿で卒業論文の第2回報告を行う。 3. 12月中旬までに卒業論文の初校提出 4. 1月完成→提出 5. 2月末までに最終修正を行い、様式を整え卒業論文集として製本。

●**成績評価方法 (総合)** 1. 主に卒業論文の内容によって評価を行う。 2. 年間を通じて6回以上欠席した場合には単位を与えない。 3. 卒業論文 70 %、授業への参加度 10 %、発表 20 %、出席欠格条件

●**メッセージ** 4年間の勉強の成果を余すところなく卒業論文に結実させてほしい。

●**連絡先・オフィスアワー** ゼミナールの学生についてはとくにオフィスアワーは設けません。電話やメールなどで連絡を取って訪ねてきてください。

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	尹春志				

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	河野眞治				

●**授業の概要** 卒業論文の中間発表を行う。／**検索キーワード** 卒業論文

●**授業の一般目標** 内容と形式を備えた卒業論文を書く。

●**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第 1 回 **項目** ガイダンス **内容** 論文の書き方

第 2 回 **項目** 中間発表 **内容** 発表と討論

第 3 回 **項目** 中間発表 **内容** 発表と討論

第 4 回 **項目** 中間発表 **内容** 発表と討論

第 5 回 **項目** 中間発表 **内容** 発表と討論

第 6 回 **項目** 中間発表 **内容** 発表と討論

第 7 回 **項目** 中間発表 **内容** 発表と討論

第 8 回 **項目** 中間発表 **内容** 発表と討論

第 9 回 **項目** 中間発表 **内容** 発表と討論

第 10 回 **項目** 中間発表 **内容** 発表と討論

第 11 回 **項目** 中間発表 **内容** 発表と討論

第 12 回 **項目** 中間発表 **内容** 発表と討論

第 13 回 **項目** 中間発表 **内容** 発表と討論

第 14 回 **項目** 中間発表 **内容** 発表と討論

第 15 回

●**成績評価方法 (総合)** 卒業論文で評価する。

●**教科書・参考書** 教科書： なし / 参考書： なし

開設科目	卒業論文	区分	その他	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	立山紘毅				

## 教職に関する科目等

開設科目	教職概論	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	滝沢 潤				

●**授業の概要** 教員免許状の取得を希望する者に対して、教師をとりまく状況、教職の意義、魅力、教員の役割、職務内容、組織としての学校、教職観の変遷等について講義する。／**検索キーワード** 教師、教育職員、学校教育、教員免許状

●**授業の一般目標** (1) 教師をとりまく状況、教職の意義、魅力について理解し、教員の役割、職務内容等についての基礎的な知識を習得する。(2) 自己の教師としての適性を考えさせるとともに、教職への意欲や一体感の形成を促す。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：教師をとりまく状況、教職の意義、魅力について理解する。教員の役割、職務内容を説明できる。**思考・判断の観点**：教師をとりまく状況、教職の役割等について検討することができる。**関心・意欲の観点**：教職について関心をもち、その意義と役割を主体的に考えることができる。様々な観点から自己の教師としての適正を考えることができる。**態度の観点**：教師を巡る諸問題について、論理的、協調的な議論ができる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** イントロダクション **内容** 授業の目的・概要の説明、教師とは誰か？ **授業外指示** シラバスを読んでおくこと。
- 第 2 回 **項目** 教師をとりまく状況 (1) **内容** 教師と教育問題の変遷 **授業外指示** 教師をとりまく社会状況、教育改革の動向について、新聞、雑誌、インターネットなどで情報収集しておくことが望ましい。
- 第 3 回 **項目** 教師をとりまく状況 (2) **内容** 教師と教育問題の変遷、家庭・地域との関係 **授業外指示** 同上
- 第 4 回 **項目** 教師をとりまく状況 (3) **内容** 現代の教育改革 **授業外指示** 同上
- 第 5 回 **項目** 教師をとりまく状況 (4) **内容** 現代の教育改革 **授業外指示** 同上
- 第 6 回 **項目** 教師の仕事 **内容** 教科、特別活動、生徒指導 **授業外指示** 教師の仕事、任用、研修等について新聞、雑誌、インターネットなどで情報収集しておくことが望ましい。
- 第 7 回 **項目** 教員の任用とサービス **授業外指示** 同上
- 第 8 回 **項目** 教師の資質向上と研修 **授業外指示** 同上
- 第 9 回 **項目** リーダーとしての教師
- 第 10 回 **項目** <小テスト>、組織としての学校 **授業外指示** 小テストを実施するので、前回までの内容を復習しておくこと。
- 第 11 回 **項目** 学校・教室という空間 **内容** かくれたカリキュラム、権力構造など
- 第 12 回 **項目** 学校の歴史と教師観の変遷
- 第 13 回 **項目** 教員養成の歴史と現行制度
- 第 14 回 **項目** 教職への進路選択と教員採用試験 **授業外指示** 期末試験の論述問題のテーマを提示するので、必ず出席すること。
- 第 15 回 **項目** 期末試験

●**成績評価方法（総合）** (1) 授業の中で小テストを行う。(2) 期末試験の論述問題をあらかじめ提示し、解答案を作成させる。(3) 最終回に期末試験を行う。

●**教科書・参考書** 教科書：使用しない。／参考書：適宜指示する。



開設科目	教育原論	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	滝沢 潤				

開設科目	教育心理学	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	田崎 権一				

●**授業の概要** 「教育の目標は倫理学で、方法は心理学で体系づけられる」としたヘルバルトの考えにあるように、教育実践効率化に向けて、受講者が、将来、教育現場で活躍する際に役立つように、心理学の実証的知見や具体例を挙げて説明する。授業外レポートとして、当日指名された受講者は、その時間のテーマについて、ノートをまとめ、考察した内容（ノートレポート）を提出することになる。／**検索キーワード** 教育, 心理学, 発達, 学習, 人格, 評価, 学級経営

●**授業の一般目標** (1) 受講者が、教職を目指す者として教育心理学的問題への関心や理解を深めることを目指す。(2) 身近な問題として理解するだけでなく、専門としての立場から具体的に考える契機、文書表現の契機となることを目指す。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 教育心理学各領域の基礎知識を説明できる。**思考・判断の観点**：1. 教師の立場から判断でき、生徒の立場を把握できる。**関心・意欲の観点**：1. 問題意識を高めることができる。**態度の観点**：1. 日常生活の中で主体的に考えることができる。**技能・表現の観点**：1. 身近な問題を文書表現できる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 教育心理学の定義 授業外指示 ノートレポートの書き方
- 第 2 回 項目 心理学研究法
- 第 3 回 項目 被教育者について 内容 発達段階 ほか
- 第 4 回 項目 家庭教育 内容 親子関係 ほか
- 第 5 回 項目 学習 内容 学習の原理
- 第 6 回 項目 学習 内容 VTR (学習の原理)
- 第 7 回 項目 学習 内容 授業理論
- 第 8 回 項目 人格 内容 生徒指導と人格理論
- 第 9 回 項目 人格 内容 適応と防衛機制
- 第 10 回 項目 人格 内容 VTR (スクールカウンセラー)
- 第 11 回 項目 学級経営 内容 集団の理解
- 第 12 回 項目 学級経営 内容 リーダーシップ
- 第 13 回 項目 教育評価 内容 評価の意味と種類
- 第 14 回 項目 教育評価 内容 指導要録
- 第 15 回 項目 討論

●**成績評価方法（総合）** (1) 所定以上の出席状況（欠格条件）、(2) レポート課題（電子メールによる提出も可）、(3) 授業最後に実施するテスト結果。これらを資料として評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：心理学からみた教育の世界, 藤土圭三 (監) 堂野佐俊 他編, 北大路書房

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail: tasaki@frontier-u.jp

●**備考** 集中授業

開設科目	教育法規	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	滝沢 潤				

●**授業の概要** 日本の教育制度を規定する法令・規則について講義する。日本の教育・学習体系の基礎となっている生涯学習の概念と、学校教育制度について概観したあと、教育を受ける権利、教育課程、児童生徒の在学管理と懲戒、教育職員、教育行政、社会教育に関する法規について説明する。／**検索キーワード** 教育法規、生涯学習、教育制度、学校教育

●**授業の一般目標** (1) 日本の教育制度を規定する法規について基本的な知識を修得し、教育の各領域における法的な課題を理解する。(2) 教育に関わる諸問題について法的な観点から主体的に考えることができる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：生涯学習、学校制度の要点を説明できる。教育制度を規定する様々な法令・規則について説明できる。**思考・判断の観点**：教育問題について法的な観点から検討することができる。**関心・意欲の観点**：教育問題について関心をもち、法的な観点から主体的に考えることができる。**態度の観点**：教育問題について法的な観点から、論理的、協調的な議論ができる。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** イントロダクション **内容** 教育と法律 **授業外指示** シラバスを読んでおくこと。
- 第 2 回 **項目** 生涯学習の概念と意義 **授業外指示** 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 3 回 **項目** 日本の学校教育制度 **授業外指示** 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 4 回 **項目** 教育を受ける権利の保障と法体系 (1) **授業外指示** 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 5 回 **項目** 教育を受ける権利の保障と法体系 (2) **授業外指示** 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 6 回 **項目** 教育課程の編成と法規 (1) **授業外指示** 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 7 回 **項目** 教育課程の編成と法規 (2) **授業外指示** 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 8 回 **項目** 児童・生徒の在学管理と懲戒に関する法規 (1) **授業外指示** 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 9 回 **項目** 児童・生徒の在学管理と懲戒に関する法規 (2) **授業外指示** 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 10 回 **項目** <小テスト> 教育職員の職務と法規 (1) **授業外指示** 小テストを実施するので、前回までの内容を復習しておくこと。教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 11 回 **項目** 教育職員の職務と法規 (2) **授業外指示** 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 12 回 **項目** 教育行政の推進と法規 (1) **授業外指示** 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 13 回 **項目** 教育行政の推進と法規 (2) **授業外指示** 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 14 回 **項目** 社会教育の推進と法規 **授業外指示** 教科書の該当章を読んでおくこと。
- 第 15 回 **項目** 期末試験

●**成績評価方法（総合）** (1) 授業の中で小テストを行う。(2) 授業内容についてのレポートを提出する。(3) 最終回に期末試験を行う。

●**教科書・参考書** 教科書：生涯学習時代の教育と法規、田代直人、ミネルヴァ書房、2003 年／参考書：適宜指示する。

●**メッセージ** 教科書を必ず購入すること。

開設科目	教育方法学（教育課程、情報機器及び教材を含む。）	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	岸 光城				

●**授業の概要** 高等学校・中学校における「各教科」、「総合的な学習の時間」の授業実践を視野にいて、その教育作用の全体構造を概観しつつ、授業における教育方法を具体的に説明する。／**検索キーワード** 教育方法, 授業, 教育課程

●**授業の一般目標** (1) 学校における「授業」の意義・役割を理解する。(2) 授業における指導方法の基本を具体例を通して学ぶ。(3) 現代教育方法理論を理解する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：各指導方法がイメージできる。**思考・判断の観点**：本授業内容を自己の過去の授業体験と結びつけて考えることができる。**関心・意欲の観点**：学校の授業に対する問題意識と興味関心を高めることができる。**態度の観点**：将来の授業実践を意識して大学生活・学習への取り組み姿勢を高めることができる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 「教育」とはなにか 内容 林竹二「授業巡礼」の視聴
- 第 2 回 項目 学校教育作用の構造 内容 「教授」と「教育」のバランスと協同
- 第 3 回 項目 高等学校教育課程の基本
- 第 4 回 項目 授業設計の方法 内容 「学習指導案」の基本と実例
- 第 5 回 項目 授業形態と指導方法 I 内容 一斉授業
- 第 6 回 項目 授業形態と指導方法 II 内容 小集団指導
- 第 7 回 項目 授業形態と指導方法 III 内容 個別指導
- 第 8 回 項目 授業形態と指導方法 IV 内容 録画授業の視聴
- 第 9 回 項目 「総合的な学習の時間」の意義、実践事例
- 第 10 回 項目 教育機器の活用
- 第 11 回 項目 現代教育方法理論 I 内容 デューイの問題 解決思考論
- 第 12 回 項目 現代教育方法理論 II 内容 デューイの教育方法論
- 第 13 回 項目 現代教育方法理論 III 内容 ブルーナーの教育方法論
- 第 14 回 項目 現代教育方法理論 IV 内容 ブルーナーの教育課程論、学習意欲論
- 第 15 回 項目 試験

●**成績評価方法（総合）** 1. 毎回の出欠確認 2. 授業内レポート（数回） 3. 録画授業感想文 4. 最終定期試験

●**教科書・参考書** 教科書：なし／参考書：随時紹介する

●**メッセージ** 少なくとも受講中は、間もなく高等学校（中学校）の教師として授業するのだという姿勢で、聞き考えて欲しい。

●**連絡先・オフィスアワー** Tel. 090-1189-8047（携帯）

開設科目	中等公民教育論 I	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	外山英昭				

●**授業の概要** イラク戦争をとりあげ、9. 1 1以降の公民教育・平和教育の課題を、生徒の世界認識、平和認識と関わらせて探る。／**検索キーワード** 平和教育 国際平和 イラク戦争

●**授業の一般目標** 1. 9. 1 1以降の公民教育・平和教育の課題について意見を持ち、討論することができる。 2. 独自の立場から、「イラク戦争」を取り上げ、国際平和に関する授業構想を提案できる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：イラク戦争について、意見を持ち討論できる。 **思考・判断の観点**：イラク戦争について独自の授業構想を提案できる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 イラク戦争をどう捉えるか 1
- 第 3 回 項目 イラク戦争をどう捉えるか 2
- 第 4 回 項目 イラク戦争に対する生徒の意識
- 第 5 回 項目 教材研究レポート課題の設定
- 第 6 回 項目 平和教育実践の課題 県立高校教諭
- 第 7 回 項目 平和教育実践の課題 県立高校教諭
- 第 8 回 項目 アメリカをどう観るか 1
- 第 9 回 項目 アメリカをどう観るか 2
- 第 10 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 1
- 第 11 回 項目 教材研究レポートの発表と検討 2
- 第 12 回 項目 授業提案 1
- 第 13 回 項目 授業提案 2
- 第 14 回 項目 授業提案 3
- 第 15 回 項目 まとめ

●**成績評価方法（総合）** 授業態度や授業への参加度 = 20 ~ 40 % 受講者の発表（プレゼンテーション）や授業内での制作作業（作品） = 40 ~ 60 %

●**教科書・参考書** 教科書：なし 適宜プリント配布する。／参考書：当面なし

●**連絡先・オフィスアワー** 外山英昭：E-mail htoyama@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 933-5323, 研究室 社会科学教育, オフィスアワー 木 5 6

開設科目	商業科教育法	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	古堤一三				

●**授業の概要** 「商業科教育法」という言葉の中の「商業科」の「科」は「教科」を意味する言葉です。学校教育の中で「教科」とは何か、教科「商業」はどのような分野を対象とし、またそれはどのような内容を含むのか。教科「商業」の各分野について、主として、明治期以降の我が国の社会性や歴史性をも考慮の上に、高等学校における教科「商業」教育の専門性の意味するところを踏まえながら、その内容とあわせて教師に求められる指導のあり方を学習する。／**検索キーワード** 教科、科目、学科、教科「商業」、教科「商業」の各分野及び専門性

●**授業の一般目標** 1. 学校教育改善の動きの中で、その目指すところを的確に把握し、教育の現場にも幅広く対応できるよう配慮しながら、教科教育のあり方についての認識を深め、あわせて人格の向上への意欲を涵養する。2. 平成11年3月告示の「高等学校学習指導要領」は、教科「商業」の目標について、前年7月の教育課程審議会によって示された「経済の国際化やサービス化の進展に対応する観点から、ビジネス教育の視点を明確にする」とした「商業の改善の基本方針」を踏まえ、「商業教育のねらいを、継続教育を視野に置いた専門性の基礎・基本の教育に重点を移す」とした大幅な改定を見たが、生涯学習の視点を踏まえた「将来のスペシャリストとして必要な専門性の基礎・基本」の理解とあわせて教職の使命と特殊性についての自覚を促す。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 適切な判断を導く上で必要な基礎・基本の知識を身に付けている。**思考・判断の観点**：1. 異なる社会や時代の与件のもとでの適切な推論ができる。**関心・意欲の観点**：1. 新たな未経験・未知の分野の学習に対し積極的な取り組みの姿勢がある。**態度の観点**：1. 不十分な分野を自覚し、姿勢を変えようとする柔軟性を持つ。**技能・表現の観点**：1. 課題のまとめに際して、適切・有効な図表などの作成・挿入ができる。

●**授業の計画（全体）** 主として、1. 学校教育と教科 2. 教科「商業」の目標の変遷に見る内容の捉え方に対する視点やその表現方法の変化と、商業科目の変遷及びその背景 3. 教科教育と教育法 4. 学習計画と教育実践及び評価 5. 教員の使命と教職の特殊性・専門性などの内容を取り上げて授業を進めるが、この他に宿題・授業外レポートとして「ビジネス基礎」、「簿記」、「情報処理」の学習指導案を作成し、提出する。教科書の内容について理解に不安がある場合には申し出てください。

●**成績評価方法（総合）** 1. 学期末試験・提出物で評価する（定期試験：100 x 2/3, 宿題・授業外レポート：100 x 1/3）。授業への参加度は出席率を加味して、一定の基準により約3%以内での加減調整を行う。

●**教科書・参考書** 教科書：特定のテキストは使用しないが、講義への手引きを配布する。／参考書：吉野 弘一著『商業科教育法』2003年、高等学校学習指導要領、同解説、検定教科書

●**メッセージ** 教職を志す者として、行動に責任を持ち、学問に対する誠実な取り組みの姿勢を示して欲しい。履修については、2年次以降がのぞましい。

開設科目	特別活動	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	杉山 直子				

●**授業の概要** 本授業では、学校教育で教科外活動に位置する特別活動について、その意義と実践のあり方について考察する。意義を考える中で、教育・子どもに関する現代的問題、子どもの発達と教育の関係について理解を深める。さらに、特別活動の実践のあり方についての理論を学び、方法を考察する。／**検索キーワード** 訓育, 教科外活動, 学校行事, 生徒会活動, 学級活動

●**授業の一般目標** (1) 人間の発達における教育の必要性、目的、方法を理解する。(2) 教育の機能と領域について理解する。(3) 学校教育における特別活動の意義、方法を理解し、望ましい指導のあり方について考察する。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 教育、その機能、目的、方法と特別活動について説明できる。  
**思考・判断の観点**：1. 自己の教育体験を客観化できる。 2. 理論をもとに思考・判断できる。 **関心・意欲の観点**：1. 講義をもとに教育に関心を持ち、問題意識を持つことができる。 **態度の観点**：1. 講義に集中し思考する態度がとれる。 2. 集団活動に参加できる。 **技能・表現の観点**：1. 集団活動で、他者と自分、集団と自分を意識し行動できる。

●**授業計画（授業単位）**／**内容・項目等**／**授業外学習の指示等**

- 第 1 回 **項目** はじめに **内容** 本授業の概要と注意事項
- 第 2 回 **項目** 現代の子どもたちの傾向 **内容** 昨今の教育問題や子どもたちの問題 **授業外指示** 身のまわりにいる子どもや、本・ニュースなどで子どもについて情報を得る。
- 第 3 回 **項目** 子どもを取り巻く環境の変化 **内容** 様々な環境の変化と子ども
- 第 4 回 **項目** 現代の子どもたちの発達 **内容** 環境と子どもたちの発達の問題
- 第 5 回 **項目** 「話し合い」活動 **内容** 現代の子どもたちについて気づくことを話し合う。
- 第 6 回 **項目** 教育の必要性 **内容** ヒトから人間への教育 **授業外指示** 子どもの発達と教育について、関係性を考える機会を持つ。
- 第 7 回 **項目** 人間の発達 **内容** 人間の発達の原動力
- 第 8 回 **項目** 人間の発達と教育 **内容** 発達を促す教育のあり方
- 第 9 回 **項目** 教育の目的と方法 **内容** 個としての発達と社会性の発達
- 第 10 回 **項目** 学校教育とは **内容** 学校教育について思考し、討議する。
- 第 11 回 **項目** 訓育と教科外活動 **内容** 学校教育における訓育の意義
- 第 12 回 **項目** 特別活動の目的 **内容** 学習指導要領の解説 **授業外指示** 中学校学習指導要領に目を通す。
- 第 13 回 **項目** 特別活動の内容 **内容** 学習指導要領の解説
- 第 14 回 **項目** 特別活動の方法 **内容** 特別活動の方法原理の解釈
- 第 15 回 **項目** 集団活動の体験 **内容** 個と集団の発達に向けての集団活動

●**成績評価方法（総合）** (1) 授業の中で、授業内レポートを数回行う。(2) 最後に試験を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

●**教科書・参考書** 教科書：特になし／参考書：印刷物を資料として使用する。その他参考文献は、授業中に指示。

●**メッセージ** 子どもに関する情報に関心を持って欲しい。

開設科目	生徒指導概論	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	三船直子				

●**授業の概要** 今日、学校の児童生徒をめぐる現状は日々大きく変化している。今日の教育現場の問題点を明らかにしつつ、受講者が自らの問題として「生徒指導」を捉えていく目を養うことを目標とし、生徒指導という教育活動の基本理念、実践的活動を紹介し、考察する。 1. 小、中、高等学校の現状 2. 生徒指導の基本理念／**検索キーワード** 生徒指導, 子ども, 教師,

●**授業の一般目標** 1. 自らの「生徒指導」体験について考える。生徒の立場、教師の立場 2. 生徒とのコミュニケーション実践－ロールプレイを通して 3. 子どもとともに育つ「生徒指導」とは何かをともに考えていく。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**：生徒指導の基本理念の理解。 **思考・判断の観点**：自らの言葉で「生徒指導」について論述できる。 **関心・意欲の観点**：授業中に様々な課題を積極的に行う。 **態度の観点**：生きた生徒指導を自ら考える。

●**授業の計画（全体）** 1. 今日の学校の現状 (1)「生徒指導」で連想すること、その体験。(2)現代の小学校の現状 その課題 (3)現代の中学校の現状とその課題 (4)現代の高等学校の現状とその課題 2. 思春期のこころとからだ、かつて思春期だった教師のこころとからだ 3. 生徒指導の苦悩－現場からの声 4. 生徒指導の基本理念の理解とその問い直し 5. 生徒指導の実際－子どもと話す、子どもの声を聞く 6. 学校教育相談－スクールカウンセリングから見えてくるもの

●**成績評価方法（総合）** 講義中に課題を課し、提出する。最終回に論述式試験

●**教科書・参考書** 教科書：なし。適宜プリントを配布する。

●**備考** 集中授業



開設科目	教育相談・進路指導	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田邊敏明				

●**授業の概要** 現在の学校が直面している、いじめ、不登校、非行など、さまざまな問題において、それらの問題を抱える子どもたちにどのように寄り添っていけば、心が育っていくかを考え、さらに障害児を含めた子どもたちの望ましい進路選択のあり方をさぐっていく。

●**授業の一般目標** 学校にうまく適応できず、どのような進路を選択すればよいか迷っている子どもたちに対して、教師としてどのようなサポートをしていけばよいか、自分なりのアイデアの湧くような講義にしたい。子どもがもっている問題や背景は、一人ひとり違うので、個別に対応できるような教育相談のセンスと資質を養いたい。

●**授業の計画（全体）** 担当者は在外研究のため5月末日まで不在である。講義は6月より開講となるので留意すること。不足分は集中講義などにより補う予定である。

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 教育相談と進路指導ガイダンス
- 第2回 項目 現代の子どもたちの特徴 ー問題となっていることー
- 第3回 項目 適応障害の見方と査定
- 第4回 項目 学校教育相談の方法 ー生徒指導と教育相談ー
- 第5回 項目 教育相談における父性と母性 ー抱えるということー
- 第6回 項目 スクールカウンセリングのあり方 ー小学校編ー
- 第7回 項目 スクールカウンセリングのあり方 ー中学校・高等学校編ー
- 第8回 項目 学校における相談事例1 ー不登校ー
- 第9回 項目 学校における相談事例2 ー非行ー
- 第10回 項目 学校における相談事例3 ー軽度発達障害ー
- 第11回 項目 教育相談における心理検査1 ー検査とは教育相談における心理検査1 ー検査とはー
- 第12回 項目 教育相談における心理検査2 ー検査の使い方ー
- 第13回 項目 学校における教育相談の難しさ ー心理的立場と守秘義務についてー
- 第14回 項目 日本文化の中の教育問題 ーいじめ問題を中心にしてー
- 第15回 項目 自己実現と進路相談

●**成績評価方法（総合）** 定期試験（中間試験と期末試験）＝40～60％ 宿題／授業外レポート＝20～40％ 出席＝20～40％

●**教科書・参考書** 参考書：生徒指導の知と心、山下一夫、日本評論社、1999年；教室で生かすカウンセリングマインド ー教師の立場でできるカウンセリングとは、桑原知子、日本評論社、1999年

●**メッセージ** 担当者は在外研究のため5月末日まで不在である。講義は6月より開講する。不足分は、集中講義などにより補う予定であるので留意すること。オリジナルに作成したプリントを、毎時間配布するか、あるいはそれらをまとめた小冊子を作成する予定です。

●**連絡先・オフィスアワー** E-mail ttanabe@inf.educ.yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 372, オフィスアワー 木曜日 18:00～19:00

開設科目	総合演習	区分	演習	学年	その他
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	澤喜司郎, 河野眞治				

●**授業の概要** 現代世界とアメリカをテーマに取り上げ、講義(問題提起)と参加者によるディスカッションを中心に授業を進めます。また、講義(問題提起)は政治、経済、文化、宗教、歴史など多方面から行われます。

●**授業の一般目標** 現代世界とアメリカの現実についての多面的かつ多角的な知識の習得とディスカッションの能力の向上を目標とします。

●**授業の計画(全体)** 講義の概要(授業計画)は以下のとおりですが、場合により、一部変更されることがあることをお断りしておきます。また、講義の順序も都合により変更されることがあります。

●**授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

第 1 回 項目 ガイダンス

第 2 回 項目 文明の衝突は何を意味するのか(河野)

第 3 回 項目 9・11 米同時多発テロがアメリカに及ぼした影響とは(澤)

第 4 回 項目 アメリカのビッグ・ビジネスの現実とは(河野)

第 5 回 項目 世界の紛争にアメリカはどう関わってきたのか(澤)

第 6 回 項目 アメリカの戦争ビジネスとは(河野)

第 7 回 項目 国連平和維持軍とは(澤)

第 8 回 項目 ブッシュとクリントンの違いとは(河野)

第 9 回 項目 国際連合は機能しているのか(澤)

第 10 回 項目 アメリカと EU の将来は(河野)

第 11 回 項目 日本とアメリカの経済関係(貿易摩擦等)とは(澤)

第 12 回 項目 大量破壊兵器とパワーゲームの現実とは(河野)

第 13 回 項目 日米安全保障条約の本での日本の防衛とは何か(澤)

第 14 回 項目 グローバリゼーションが世界経済に及ぼす影響とは(河野)

第 15 回

●**成績評価方法(総合)** 期末レポート 40%、課外レポート 2 本(宿題)20%、出席 20%、討論 20%

●**教科書・参考書** 教科書：教科書は使用しません。 / 参考書：課外レポートのための課題書(参考文献)は毎時間提示します。

開設科目	事前・事後指導	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	その他
担当教官					

●**授業の概要** 高等学校での教育実習について、教育実習の目標の達成を確かなものとするため、教育実習前、教育実習後に行う指導である。主な内容は、次の通り。事前指導：教育実習の意義・概要・指導方法等についての講義、レポート 事後指導：教育実習に関する発表やレポート、発表・レポートについての討議

●**授業の一般目標** 1. 教育実習を行うにあたって必要な基本的事項、教育実習にあたる心構えを身につける。(事前指導) 2. 教育実習を総括して、指導力の向上を図る。大学での学習と教育実習で得られた経験とを有機的に結合させ、新しい視点や課題を得る。(事後指導)

●**授業の計画(全体)** 事前指導として、教育実習の意義・概要・指導方法等についての講義が行われる。事後指導は、教育実習後に、各教室、教育実践総合センターで行う。

●**成績評価方法(総合)** 出席状況及びレポート等によって評価を行う。

●**備考** 集中授業

開設科目	教育実習（高）	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	その他
担当教官					

- 授業の概要** 高等学校教諭免許（公民）に必要な教育実習を、高等学校において行う。
- 授業の一般目標** 1. 教育の理論と実践との一体化をはかる。 2. 教育活動全般にわたる認識を深める。 3. 生徒に対する理解を深める。 4. 教育技術を修得する。
- 授業の計画（全体）** 出身校等、高等学校において実地授業を行う。実習校の先生による講義、実習生の授業についての検討会等を通して、高等教育に対する理解を深めていく。
- 成績評価方法（総合）** 教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。
- 備考** 集中授業

開設科目	事前・事後指導	区分	実験・実習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	1 単位	開設期	その他
担当教官	小堤 一三				

●**授業の概要** 実習校に出向き学校教育を実際に体験する教育実習に備えるために本学の各学部で合同で実施する事前指導の後を受けて、特に教科「商業」免許状取得希望者を対象に日を改めて実施する事前、事後の指導です。／**検索キーワード** 教育職員免許法, 教育職員免許法施行規則

●**授業の一般目標** 教育実習は、教職志望者が実際の現場に出向いて、教員の職務の一部を実際に担当することを通じて教育活動を体験することですが、この実習を通して下に示すようなねらいを認識するとともに、教員の使命及び教職の特殊性・専門性に対する自覚を深め、「教師自身が彼らと共に善さを求めて成長する存在でなくてはならない」ことに目を開かせ、真摯な気持ちで実習に取り組む姿勢を涵養する。  
1. 教育理論を実証的に研究し、その深化をはかる。 2. 教員として必要な知識や技術、技能の習得とあわせて具体的な指導方法を習得し、指導力を身につけていく中で、実習生自身が生徒と共に成長する存在であることを認識する。 3. 教育の社会的役割を認識し、公教育に従事する者としての姿勢や態度、心がまえを身につけさせる。

●**授業の到達目標**／**知識・理解の観点**：1. 教育実習の意義を理解し、実習生自身が行動の主体者であることを自覚する。**思考・判断の観点**：1. 公教育に従事する者としての自覚の上に適切な判断ができる。  
**関心・意欲の観点**：1. 新たな未経験・未知の分野に対する積極的な取り組みの姿勢がある。**態度の観点**：1. 研究心を持ち、生徒と共に成長を目指そうとする前向きな態度がある。**技能・表現の観点**：1. 教材を分かりやすく、系統立てて提示することができる。

●**授業の計画（全体）** 公教育に従事する者としての責任を自覚し、絶えざる努力の中で実践力を身につけることにより、実習生自身が生徒と共に成長する存在であることを自覚できるよう真剣に取り組む姿勢や態度の涵養に資することをねらいとして、1. 事前指導では主として、(1) 教育実習の意義 (2) 教員の使命と教職の特殊性・専門性 (3) 教育実習における留意事項 (4) 学習指導案の作成 (5) 教育実習における評価の観点 などを取り上げる。2. 事後指導では主として、実習生全員による (1) 教育実習の態様 (2) 反省及び考えたこと (3) 将来に向けての抱負 などについての体験発表を行う。

●**成績評価方法（総合）** 事前・事後指導についてのレポート、実習校における教育実習の評価などを中心におくが、他に、実習に関する諸提出物等をも参考にして総合的に評価する。

●**教科書・参考書** 教科書：特定のテキストは使用しないが、講義への手引きを配布する。／参考書：教育実習を考える, 岩本・浪本編著, 2003年；教育実習の研究, 教師養成研究会編著, 2001年；教育実習は度ブック, 教育技術研究会編, 1993年；教育学入門, 村井実, 1976年

●**メッセージ** 教職を志す者として、行動に責任を持ち、学問に対する誠実な取り組みの姿勢を示してほしい。

●**備考** 集中授業

開設科目	教育実習	区分	実験・実習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	その他
担当教官					

- 授業の概要** 高等学校教諭免許(商業)に必要な教育実習を、高等学校において行う。
- 授業の一般目標** 1. 教育の理論と実践との一体化をはかる。 2. 教育活動全般にわたる認識を深める。 3. 生徒に対する理解を深める。 4. 教育技術を修得する。
- 授業の計画(全体)** 出身校等、高等学校において実地授業を行う。実習校の先生による講義、実習生の授業についての検討会等を通して、高等教育に対する理解を深めていく。
- 成績評価方法(総合)** 教育実習中の学習指導、学級指導、勤務態度等を総合して実習校から出された成績に基づいて評価を行う。
- 備考** 集中授業

開設科目	商業教育論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	古堤一三				

●**授業の概要** 我が国における近代的商業教育は、我が国が近代国家の一員としてたつことを決意した 明治期に導入され、その拡充・発展をみたものです。それはまた、経済発展の原動力となった科学的思考方法とともに「知」の教育を推進するために体系化され組織された学校 制度とも大きな関わりを持っています。ここでは、まず、我が国の歴史的・社会的背景を 考慮の上に我が国の商業教育についてみていきます。次に、産業の発展著しい現代社会では、人のビジネスに関わる活動範囲の拡大とあわせて、その専門性への要求が高まる中で「知」の学習だけでは十分でないところが沢山あります。知とあわせて情・意の教養が、 また行動力と決断力が強く求められることがあった我が国の近代以前の教育を概観する中に、商業教育における人格の陶冶の問題を考えていきます。／**検索キーワード** 学制、教育令、商業学校通則、実業学校令、専門学校令、教育基本法

●**授業の一般目標** 我が国の教育の特質を、各時代が求めた人間像の中に概観するとともに、我が国に商業教育が出現し、それが置かれてきた位置とあわせて、その背景を認識し把握するとともに、その内容・視点・方策などの中に新しい商業教育の方向を探る。とりわけ明治期以降 の我が国の近代学校制度の確立過程の中で、世界及び我が国の政治経済社会の変容と大きく関わりあいながら発展し、位置づけられてきた我が国の教育制度の特色と、この間に生 じたひずみを取り除く上での新しい視点や方策について、また、専門性を発揮する上での 基盤を形作っている人格の陶冶の問題について考えます。

●**授業の到達目標**／ **知識・理解の観点**： 1. 適切な判断に導く上で必要な基礎・基本の知識を身につけている。 **思考・判断の観点**： 1. 異なる社会や時代の与件のもとでの適切な推論ができる。 **関心・意欲の観点**： 1. 教育と職業生活との関わりに強い関心を抱き、現状での克服策に取り組む。 **態度の観点**： 1. 不十分な分野を自覚し、姿勢を変えようとする柔軟性を持つ。

●**授業の計画（全体）** 主として、1. 教育の社会性、歴史性と商業教育 2. 近代以前の我が国の教育 3. 近代の我が国の教育と商業教育 4. 現代の我が国の教育と商業教育 5. 経済社会の変 容と商業教育 6. 商業教育と倫理 7. 商業教育の目指すところ などの内容を取り上げて授業を進めるが、機械的な暗記ではなく、より長期的な視野に立った、広く高い立場 からの思索の上に結論に導いていく態度を身につけるよう頭の切り替えを望みます。

●**成績評価方法（総合）** 1. 学期末試験を中心に評価する。授業への参加度は出席率を加味して、一定の基準により約 3 %以内での加減調整を行う。

●**教科書・参考書** 教科書： 特定のテキストは使用しないが、講義への手引きを配布する。／ 参考書： 河合・雲英・岡田・山田編著『新商業教育論』1994 年

●**メッセージ** 教職を志す者として、行動に責任を持ち、学問に対する誠実な取り組みの姿勢 を示して欲しい。履修については、2 年次以降にするのが望ましい。

開設科目	職業指導	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教官	永田萬亨				

●**授業の概要** 「労働」あるいは「職業」について意識化させていく活動をともなう職業指導の発展と、技術・職業教育の充実、整備の問題は密接不可分に結びついている重要な課題である。これまでの職業指導は、職業適性検査や個性の発見とかもっぱら心理学的な側面からのみ行われてきたきらいがあるが、それだけでは不十分と思われる。経済社会の発展・成長について職業生活はどうなるのか、技術革新の進展に伴って労働は、どのようにへんびうするのか、さらに職業や雇用はどのようになるのか等々、社会経済的側面も合わせて認識する必要がある。そのことを通し／**検索キーワード** 学校から職業への移行、職業教育、生涯教育

●**授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 教育と貧困
- 第 2 回 項目 文部省の進路指導調査
- 第 3 回 項目 経済政策と進路指導
- 第 4 回 項目 職業指導運動の始まり
- 第 5 回 項目 日本の職業指導運動の体質
- 第 6 回 項目 労働時間
- 第 7 回 項目 賃金
- 第 8 回 項目 企業社会における能力主義管理
- 第 9 回 項目 職業高校
- 第 10 回 項目 各種・専修学校
- 第 11 回 項目 公共職業訓練
- 第 12 回 項目 企業内教育と熟練形成
- 第 13 回 項目 デマケーション
- 第 14 回 項目 職業教育と生涯学習
- 第 15 回 項目 まとめと試験

●**メッセージ** 講義では、ビデオなど視聴覚教材を多用したいと考えているが、受講生は各種ルポタージュを読んでおくことが望ましい。教師側からの一方的な講義にならないように、受講生の主体的参加を希望している。

●**備考** 集中授業